## 上大利北土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調查報告書XI

## 牛頸梅頭遺跡群Ⅱ

~第2次調查~

大野城市文化財調查報告書 第84集

2008

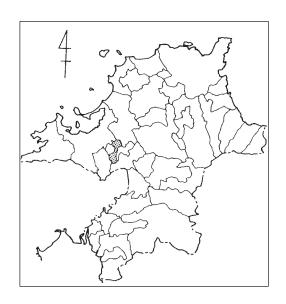
大野城市教育委員会

## 上大利北土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調查報告書XI

# 牛頸梅頭遺跡群Ⅱ

~第2次調查~

大野城市文化財調查報告書 第84集



2008

大野城市教育委員会



SX07 出土遺物

今回報告する牛頸梅頭遺跡第2次調査地は、春日大野城リサイクルプラザに隣接する丘陵斜面にありました。現在、調査地は大野城市障害者共同作業所や住宅などが建ち並ぶ街へと変貌しています。調査地からは、丘陵斜面に須恵器窯跡と竪穴式住居跡・土坑などが確認され、たくさんの遺物が出土しました。窯跡からは、銅製の耳環や鉄鏃が出土しており、梅頭遺跡1次1号窯跡と同様に窯を墳墓に転用した可能性があります。また、竪穴住居跡からはカマドの跡が見つかっており、須恵器工人の集落と考えられます。こうした成果は、これまでの牛頸窯跡群の調査成果に新たな知見を加え、窯跡・集落・墳墓からみた須恵器生産工人の在り方に対し重要な資料を加えることができました。今後さらに調査を進める事で、今まで知られていなかった地域の実態を明らかにしていき、その成果を研究者だけではなく広く市民に知らせる事で地域の歴史の素晴らしさを再確認し、地域愛護につないでいきたいと思います。

土地には時代を問わずそこで起こった様々な出来事が遺跡・遺構・遺物といった形で記録されています。大野城市では、この残された埋蔵文化財に関して、慎重に発掘調査を進め、人々の生活を記録し保存しています。本書が学術研究はもとより文化財への理解と認識を深める一助となり広く活用され、文化財愛護の精神が高揚することを心から願うとともに、今後とも文化財行政に対し、尚一層ご理解とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、上大利北土地区画整理組合をはじめ㈱大成建設、 工事関係者及び地元の方々にご理解とご協力をいただきましたことに対 し厚く御礼申し上げます。

平成20年 9 月30日

大野城市教育委員会 教育長 古賀 宮太

#### 例 言

- 1. 本書は、大野城市教育委員会が上大利北土地区画整理事業に伴って発掘調査を実施した、大野城市大字上大利所在の梅頭遺跡第2次調査の報告書である。なお上大利地区は牛頸窯跡群の範囲に含まれており、こうした歴史事象を踏まえたことから本書の表題を『牛頸梅頭遺跡群』とした。
- 2. 発掘調査は、大野城市上大利北土地区画整理組合の委託を受け大野城市教育委員会が実施した。
- 3. 遺構写真は、石木秀啓・島田拓(現兵庫県上郡町教育委員会)・岸見康宏(現愛媛県松山市教育委員会)・上田恵(現小郡市教育委員会)が撮影した。
- 4. 遺物写真は、㈱埋蔵文化財サポートシステム(松尾直子・毛利恒彦)が撮影した。
- 5. 遺構平面実測図・地形測量図は、㈱埋蔵文化財サポートシステムに委託し、個別遺構実測図は石木・ 島田・岸見・上田が作成した。なお、地形測量図のコンターは25cm間隔である。
- 6. 遺構実測図中の方位は磁北を表し、図上の座標は国土座標(第Ⅱ系)を示す。
- 7. 遺物実測図・拓本・観察表・製図は、㈱埋蔵文化財サポートシステム(中島朋子・福田京子・本山千絵・伊勢戸文・中尾陽介・本川美穂子・嶋田聡・種浦加代子・多々良正人・村上久美子・古賀栄子)が作成した。
- 8. 本書に掲載した遺跡分布図は、国土地理院発行の1/25,000地形図『福岡南部』『太宰府』を使用したものである。
- 9. 遺物の名称の内、須恵器蓋杯については平城宮分類による呼称を用いる。
- 10. 本書の遺物・実測図・写真はすべて大野城市教育委員会が管理・保管している。
- 11. 本書に使用する土色名は、『新版標準土色帖』農林水産省農林水産技術会議事務局監修を使用した。
- 12. 本書の執筆は、I・II-1・II-2(1) 窯跡の遺構説明・IIIを石木が担当し、他を㈱埋蔵文化財サポートシステム(平島義孝)が担当した。編集は石木の指導の下㈱埋蔵文化財サポートシステム(毛利)が行った。

## 本 文 目 次

I. は	じめに	
1.	調査にいたる経過	1
2.	調査体制	1 • 2
Ⅱ. 調	査の結果	
1.	調査概要	8
2. 3	遺構と遺物	
(1)	窯跡·····	8~26
(2)	竪穴住居跡	26 • 27
(3)	土坑	28~104
(4)	掘立柱建物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	104 • 105
(5)	溝·····	105~108
(6)	谷部	108 • 109
(7)	その他の出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	109~118
ź	観察表	119
Ⅲ. ま	とめ	
1. 3	遺構の時期・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	148 • 149
2.	1号窯跡出土耳環・鉄鏃について	149
3.	初期瓦の焼成について	149~152
	図 版 目 次	
図版 1	(1) 1区全景 (北から)	
	(2) 2区全景 (南から)	
図版 2	(1) 2・3区全景(南西から)	
	(2) 3区1号窯跡全景(西から)	
図版 3	(1) 1号窯跡全景 (西から)	
	(2) 1号窯跡検出状況(西から)	
	(3) 1号窯跡窯尻〜煙道部検出状況(北東から)	
図版4	1号窯跡天井部残存状況(西から)	
図版 5	1号窯跡当初床面検出状況(西から)	
図版 6	(1) 1号窯跡両側壁検出状況(西から)	
	(2) 1号窯跡焚口部舟底状ピット検出状況 (西から)	
図版 7	(1) 1号窯跡焚口部左側壁被熱状況(南から)	
	(2) 1号窯跡焚口部右側壁被熱状況(北から)	
図版 8	(1) 1号窯跡排煙部抑焔柱検出状況(南西から)	

- (2) 1号窯跡窯尻中央抑焔柱(北西から)
- 図版9 (1) 1号窯跡排煙部右側抑焔柱(北西から)
  - (2) 1号窯跡排煙部左側抑焔柱(西から)
- 図版10(1)1号窯跡作業路全景(北東から)
  - (2) 1号窯跡作業路窯壁集積状況(南から)
- 図版11(1)1号窯跡焼成部耳環出土状況①(北西から)
  - (2) 1号窯跡焼成部耳環出土状況②
  - (3) 1号窯跡焼成部耳環出土状況③
  - (4) 1号窯跡耳環出土地点の傾斜(北西から)
- 図版12(1)1号窯跡焚口部最終操業灰層(南から)
  - (2) 1号窯跡焚口部横断面土層(西から)
- 図版13(1)1号窯跡焚口部縦断面土層(南から)
  - (2) 1号窯跡焼成部縦断面土層(南西から)
- 図版14(1)1号窯跡窯尻 f f '面横断面土層(北西から)
  - (2) 1号窯跡窯尻部縦断面土層(南から)
- 図版15(1)1号窯跡焼成部i-i,面横断面土層(西から)
  - (2) 1号窯跡窯尻部横断面土層(西から)
- 図版16(1)1号窯跡焚口部貼床断割縦断面(南西から)
  - (2) 1号窯跡焼成部貼床断割縦断面(南西から)
  - (3) 1号窯跡窯尻部貼床断割縦断面(南から)
- 図版17(1)1号窯跡作業路1-1'面土層(南西から)
  - (2) 1号窯跡作業路全景(南西から)
  - (3) 1号窯跡作業路完掘状況(南西から)
- 図版18(1) SC01全景(南西から)
  - (2) SC01カマド検出状況(南西から)
  - (3) SC01カマドd-d'面土層(西から)
- 図版19(1) SC01土層(南東から)
  - (2) SX01全景(東から)
  - (3) SX01土層 (西から)
- 図版20(1)SX02全景(南東から)
  - (2) SX03全景(南東から)
  - (3) SX03土層・遺物出土状況(東から)
- 図版21(1)SX04全景(西から)
  - (2) SX05全景(西から)
  - (3) SX05土層 (東から)
- 図版22(1)SX06全景(北西から)

- (2) SX07全景(西から)
- (3) SX07 c c ' 面土層 (東から)
- 図版23(1)SX07紡錘車出土状況(西から)
  - (2) SX08全景(南西から)
  - (3) SX08 h h ' 面土層 (南東から)
- 図版24(1)SX08遺物出土状況(南東から)
  - (2) SX08遺物出土状況(南西から)
  - (3) SX09土層(南東から)
- 図版25(1)SX09焼土層(西から)
  - (2) SX10全景(南東から)
  - (3) SX10土層(南東から)
- 図版26(1) SX11全景(南東から)
  - (2) SX11土層 (東から)
  - (3) SX12全景(南東から)
- 図版27(1) SX12土層(南東から)
  - (2) SX13全景(南西から)
  - (3) SX13遺物出土状況(南西から)
- 図版28(1)SX13遺物出土状況(南東から)
  - (2) SX14全景(南東から)
  - (3) SX14土層 (東から)
- 図版29(1)SX15全景(北西から)
  - (2) SX15土層 (南東から)
  - (3) SX16遺物出土状況(南東から)
- 図版30(1)SX16土層(南西から)
  - (2) SX16カマド痕跡(南西から)
  - (3) SX17遺物出土状況(南西から)
- 図版31(1) SX17c-c'面土層(西から)
  - (2) SX17遺物出土状況(南東から)
  - (3) SX18遺物出土状況(南西から)
- 図版32(1) SX18土層(北東から)
  - (2) SX19焼土検出状況(東から)
  - (3) SX19下層焼土検出状況(南から)
- 図版33(1) SX19縦断面2層 (東から)
  - (2) SX20土層 (東から)
  - (3) SX21他 全景 (東から)
- 図版34(1)SX21全景(北東から)

- (2) SX21遺物出土状況(南から)
- (3) SX21-2 遺物出土状況 (南東から)
- 図版35(1)SX21-3 遺物出土状況(南東から)
  - (2) SX21-4 遺物出土状況(南西から)
  - (3) SX21-6・7 遺物出土状況(南西から)
- 図版36(1) SX21-3内 焼土断割(西から)
  - (2) SX21 a a '面土層 (南西から)
  - (3) SX21 d d ' 面土層 (南西から)
- 図版37(1) SX21 f f ' 面土層 (南西から)
  - (2) SX21 i i ' 面土層 (南西から)
  - (3) SX211-1'面土層(南西から)
- 図版38(1) SX21 p p ' 面土層 (南西から)
  - (2) SX21 s s ' 面土層 (南西から)
  - (3) SX22土層(南東から)
- 図版39(1) SX23全景(南東から)
  - (2) SX24土層(北東から)
  - (3) SX25十層(北東から)
- 図版40(1)SX25遺物出土状況(南西から)
  - (2) SX26土層(北東から)
  - (3) SX27 a a '面土層 (南西から)
- 図版41(1)SX27-2鉄鎌出土状況(南東から)
  - (2) SX28遺物出土状況(南東から)
  - (3) SX28 a a ' 面土層 (南東から)
- 図版42(1) SX29全景(南東から)
  - (2) SX29土層 (西から)
  - (3) SX31全景(南から)
- 図版43(1)SX31土層(南西から)
  - (2) SX32土層(南西から)
  - (3) SX33全景(南東から)
- 図版44(1) SX33土層(南西から)
  - (2) SB01·02全景(北から)
- 図版45(1) SB01 (SP01) 柱痕検出状況(北から)
  - (2) SD01全景(南西から)
- 図版46(1)SD02土層(南西から)
  - (2) 2・3区間谷部包含層検出状況(南西から)
  - (3) 調査風景 (SX21付近) (南から)
- 図版47~90 出土遺物①~④

## 挿 図 目 次

第1図	梅頭遺跡第2次調査地および梅頭遺跡第1・3次調査地位置図(1/5,000) 3
第2図	上大利土地区画整理地周辺旧地形測量図(1948年米軍撮影)(1/5,000) … 4
第3図	周辺遺跡分布図(1/50,000) 5~6
第4図	上大利土地区画整理事業地內計画平面図 … 7
第5図	梅頭2次調査地全体図(1/400) 9~10
第6図	1号窯跡焼成部・最終床面出土遺物実測図 (1/2) 12
第7図	1号窯跡最終操業面実測図及び貼床断割図( $1/60$ ) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
第8図	1号窯跡当初操業面検出状況実測図(1 $/$ 60) · · · · · · · 15 $\sim$ 16
第9図	1号窯跡窯体内・作業路土層実測図(1/60) · · · · · · · · 17~18
第10図	1号窯跡耳環出土状況実測図(1/20) 19
第11図	1号窯跡窯体内最終床面上出土遺物実測図(5~12は1/3、13~15は1/6) 21
第12図	1号窯跡貼床内出土遺物実測図(26は1/6、他は1/3)
第13図	1号窯跡窯体内出土遺物実測図①(1/3)23
第14図	1号窯跡窯体内出土遺物実測図②(45・46・48は1/6、1/3)24
第15図	1号窯跡灰原・作業路出土遺物実測図(1/3)
第16図	SC01実測図(1/60)
第17図	SC01出土遺物実測図① (1/3)
第18図	SC01出土遺物実測図②(1/3)
第19図	SX01 • 02実測図(1/60) ····· 29
第20図	SX02出土遺物実測図(1/2) 30
第21図	SX03実測図(1/40) ····· 30
第22図	SX03出土遺物実測図① (79は1/6、他は1/3) 32
第23図	SX03出土遺物実測図②(1/3) · · · · 33
第24図	SX04~06実測図(SX04・05は1/60、SX06は1/40) ······ 34
第25図	SX07実測図(1/60) ····· 35~36
第26図	SX04~06出土遺物実測図(1/3) · · · · · 37
第27~	32図 SX07出土遺物実測図①~⑥ 38~43
第33図	SX08実測図(1/80) ······ 45~46
第34図	SX08出土遺物実測図①(1/3) 47
第35図	SX08出土遺物実測図②(178~183は1/6、他は1/3) 48
第36図	SX08出土遺物実測図③(196・197は1/5、他は1/3) 49
第37図	SX09・11実測図(1/80) 51
第38図	SX09・11出土遺物実測図(210は1/6、他は1/3) 52
第39図	SX10・12・13実測図(SX10・12は1/40、SX13は1/60) 53

第40・4	41図 SX13出土遺物実測図①・② 55・5	56
第42図	SX14・15実測図(1/60)	58
第43図	SX16実測図 (焼土範囲実測図は1/40、1/60) 5	59
第44図	SX14・16出土遺物実測図 (1/3) 6	60
第45図	SX16出土遺物実測図 (279は1/2、他は1/3) ····································	61
第46図	SX17実測図(1/60) ····································	62
第47図	SX17出土遺物実測図(1/3)	63
第48図	SX18・19実測図 (SX18は1/60、SX19は1/40) 6	64
第49図	SX18出土遺物実測図 (300・301は1/6、他は1/3) (	65
第50図	SX20·22実測図(1/40) ····································	66
第51図	SX21実測図 (1/80) ····· 69~7	70
第52図	SX21土層断面実測図(1/80) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	71
第53~6	68図 SX21出土遺物実測図①~⑯ 73~8	88
第69図	SX23·24実測図(1/60)	90
第70図	SX25・26実測図 (SX25は1/60、SX26は1/40)	91
第71図	SX22・23・25出土遺物実測図(606~608は1/5、他は1/3)	92
第72図	SX27実測図(1/80) ····································	93
第73・7	74図 SX27出土遺物実測図①・② 94・9	96
第75図	SX28実測図(1/40)	97
第76図	SX28・29出土遺物実測図 (638・639は1/6、他は1/3)	98
第77図	SX29·31実測図(1/60) ····································	99
第78図	SX32·33実測図(1/40) ····· 10	00
第79図	SX34・35実測図(1/40) ······ 10	01
第80図	SX31・33・34・37・38出土遺物実測図 (647は1/6、他は1/3) 10	02
第81図	SB01・02実測図(1/60) · · · · · · 10	03
第82図	SD02土層断面実測図(平面実測図は1/200、土層断面実測図は1/40) ·········· 10	04
第83図	SB・SD出土遺物実測図 (654・656・658は1/2、他は1/3) 10	05
第84~8	$86$ 図 $2 \cdot 3$ 区間谷部褐色土出土遺物実測図 $\mathbb{O} \sim \mathbb{S}$ $106 \sim 10$	08
第87~9	94図 表土剥ぎおよび表採遺物実測図 $\mathbb{Q}\sim \mathbb{S}$	18
第95図	野添4次2号窯跡実測図(1/100)	50
第96図	初期瓦の重ね焼き状況写真 15	51
	表目次	
主1 - 00	<b>32 ロ ひ</b> 9 梅頭遺跡第2次調査出土遺物観察表①~盥····································	16
15 1 ~ Z	3 1世界思则另2仏剛且山上思彻既宗衣(エグーンム)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 110~14	±υ

#### I. はじめに

#### 1. 調査にいたる経過(第1~4図)

上大利北土地区画整理事業地内における埋蔵文化財の調査経緯については、『牛頸梅頭遺跡群 I』 (大野城市文化財調査報告書第60集)に詳述している。また、年度ごとの調査経過については『牛 頸本堂遺跡群IV』(75集)、『牛頸本堂遺跡群 V』(76集)、『牛頸本堂遺跡群VI』(80集)、『牛頸本 堂遺跡群VII』(81集)、『牛頸梅頭遺跡群IV』(86集)で詳述しているため、以下では梅頭遺跡 2次 調査の調査にいたる経過について記述する。

梅頭遺跡 2 次調査地は、大野城市大字上大利593番地外にあたり、調査対象面積は約9,000㎡である。当地は三兼池北側の丘陵部にあたり、池本体の大きな谷から入りこんだ丘陵斜面にあたる。 伐採前は樹木が鬱蒼と茂り踏査は困難であったが、伐採後現地を歩くと須恵器が散布しているのが明らかになった。また、東側に隣接する梅頭遺跡 1 次調査 2 地点で同一丘陵斜面に遺構の存在が確認されていたため、15次試掘調査として丘陵斜面全体を表土剥ぎすることとなった。

試掘調査に入ったところ、南西に突き出す丘陵上に須恵器窯跡1基を確認した。また、西側の斜面には多量の遺物の散布が認められたため、ここを20次試掘調査として丘陵斜面全体を表土剥ぎした。その結果、調査地西側の丘陵上半はテニスコートの造成により削平されていたが、現況で確認された谷部よりさらに西側へのびる谷部が埋没していることが明らかになった。遺構は丘陵斜面に位置しており、表土剥ぎ中から須恵器をはじめたくさんの遺物が出土した。

試掘調査は、15・20次を合わせて平成14年3月6日~6月3日まで実施した。また、発掘調査は平成14年6月3日~平成15年2月28日の間実施した。調査は岸見泰弘(現松山市教育委員会)が担当した。調査中には、窯体内から耳環・鉄鏃が出土したことから、前年度に調査した梅頭遺跡1次調査と合わせ、窯を墳墓に転用したものと考え、平成14年11月26日に記者発表をおこない、12月2日~平成15年1月10日の間に大野城市役所において『梅頭遺跡が語るもの』として速報展を実施した。

#### 2. 調査体制

平成14~20年度における発掘調査ならびに整理作業における調査体制は以下のとおりである。なお、 現地作業は大野城市教育委員会が実施したが、整理作業は遺物の点検・実測遺物取り上げ・実測図 の検査等を本市がおこない、㈱埋蔵文化財サポートシステムに委託して報告書作成をおこなった。

「大野城市教育委員会]

教 育 長 堀内貞夫(~15年6月) 古賀宮太(15年6月~)

教育部長 鬼塚春光(14年3月~17年3月) 小嶋 健(17年4月~20年3月)

森岡 勉 (20年4月~)

社会教育課長 秋吉正一(14年4月~17年3月) 水野邦夫(17年4月~18年3月)

ふるさと文化財課長 舟山良一(18年4月~)

文化財担当係長 舟山良一(~18年3月) 中山 宏(18年4月~)

主 查 徳本洋一 石木秀啓 緒方一幹(16年4月~18年3月) 丸尾博恵

主任主事 大道和貴(~16年3月)

主任技師 林 潤也 早瀬 賢 (16年4月~)

技 師 上田龍児(平成19年4月~)

嘱 託

平島義孝( $\sim$ 16年3月)上田 恵(14年4月 $\sim$ 15年4月)島田 拓(14年4月 $\sim$ 15年6月)岸見泰宏(14年4月 $\sim$ 16年3月)一瀬 智(15年11月 $\sim$ 17年7月)西堂将夫(15年4月 $\sim$ 18年3月)井上愛子(16年4月 $\sim$ 20年3月)北川貴洋(16年4月 $\sim$ 19年3月)城門義廣(19年4月 $\sim$ 19年8月)

岡田裕之(18年5月~19年3月)田尻義了(19年4月~6月)遠藤 茜(19年4月~)石川 健(19年7月~)大里弥生(19年10月~)甲斐康大(20年4月~)中島 圭(20年4月~)粟津剛史(16年4月~18年6月) 能塚由紀(18年8月~20年8月)

#### 整理作業員

松岡信子 町井裕子 鬼塚穂子 白井典子 村山律子 井上理香 渡部美香 城真奈美橋本悦子 渡辺直美 仲村美幸

#### 発掘作業員

原田敬子 大海雅子 高木幸子 満富スエコ 吉嗣波津子 岩切ふえ 前田チエ子 西田幸子 那波幸子 高木冴子 藤田和子 三原ひろみ 吉田香織 岡本妙子 馬場孝子 田中照子 寺垣みゆき 中垣 親 松山洋子 日野律子 小林敏子 坂本泰子 渡辺久美子 小林久美子 西村清子 貞包由起子 広渡隆子 穴井和子 立石律子 船越桃子 樋之口浩一 深野人美 大薗英美 仲前冨美子 井口るみ子 倉富倫子 釣屋種利 飯田三治 溝口忍 金澤好子 田浦秀子 小川ケイ子 三善公子 山下隆子 團野ハマ子 篠崎繁美 東島真弓 安里由利子 中山文子 牧野和美 川村真樹子 村岡真由美 槙坂陽子 原口美奈子山口文代 大島五津子 大浦旗江 清成健悟 高木由佳 木村奈津子 織田徹 松田和美 戸渡京子野崎美智子 倉住孝枝 稲富久子 山田賢治 松尾純子 末永勝 安達はるみ 西本福雄 田中悦子田野和代 吉村秀子 宮原ゆかり 尾ノロ英晴 碓井ふき子 木室友希 川岸昌子

#### [上大利北土地区画整理組合]

理事長 伊藤雅都

副理事長 樋口敬記 林 尚司

事務局長 平川松丸

技 術 職 吉次俊二(~19年3月) 林 圭一(~18年3月) 山下 健(16年4月~20

年6月) 濱本泰司(18年4月~20年3月)

事務職 伊藤衆子

[ ㈱埋蔵文化財サポートシステム 福岡支店]

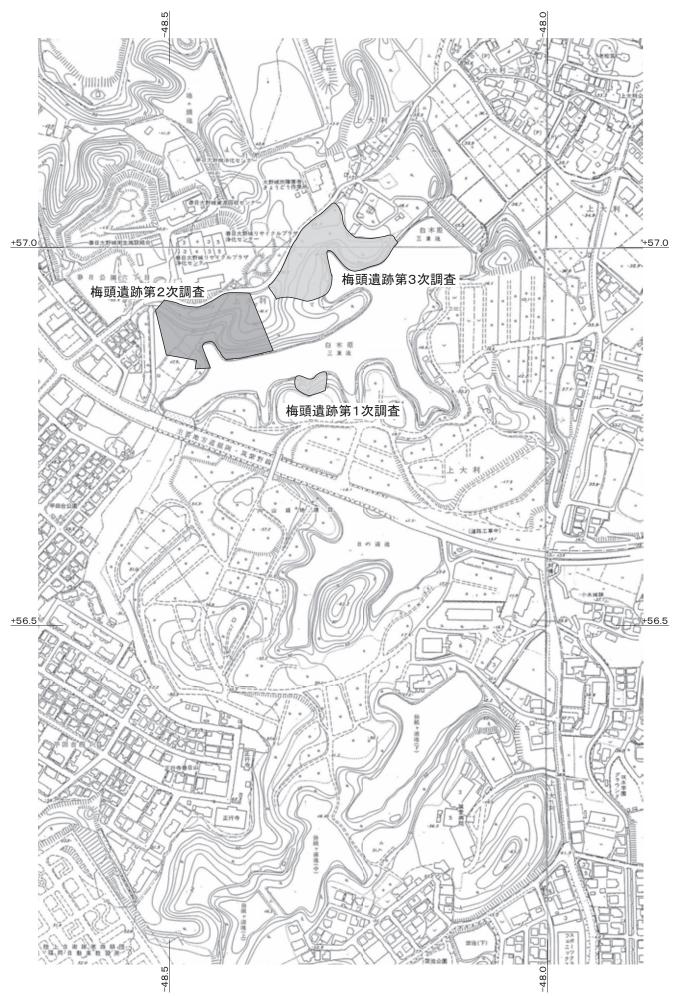
支 店 長 松尾直子

係 長 古閑健一

主 任 中尾陽介

技 師 毛利恒彦 本川美穂子 平島義孝 嶋田 聡

整理作業員 藤井文子 上田光子 木村美子 山内由美 長沼貞子



第1図 梅頭遺跡第2次調査地および梅頭遺跡第1・3次調査地位置図(1/5,000)



第2図 上大利土地区画整理地周辺旧地形測量図(1948年米軍撮影)(1/5,000)



第3図 周辺遺跡分布図(1/50,000)



第4図 上大利土地区画整理事業地内計画平面図

#### II. 調査の結果

#### 1. 調査概要 (第5図、図版1・2)

第2次調査地は、三兼池北側の丘陵部にあたる。大野城市大字上大利593番地外にあたり、調査面積は9,000㎡である。調査前は樹木が鬱蒼と生い茂り踏査は困難であったが、斜面上に遺物の散布が認められ、全面表土剥ぎを実施した。その結果、西側へのびる谷部の存在が明らかにされた。掘り下げは谷底部全体を目標としたが、地盤が軟弱であるため完全に掘り下げをおこなうことはできなかった。このため、遺構が確認できるレベルまで全体に掘り下げ、それ以下に関してはトレンチにより遺構の有無の確認をおこない、結果トレンチ内で遺構は確認できなかった。

発掘調査は平成14年6月3日~平成15年2月28日の間に実施し、斜面上からは窯跡をはじめ多くの竪穴住居跡・掘立柱建物・土坑・溝などが確認された。調査は、丘陵のまとまりごとに1~3区に区割りをおこない、順次検出・調査をおこなった。窯跡以外の遺構については、斜面部の比高差が極めて大きく、全面遺構検出をおこなうと土の搬出が容易ではなかったことから検出に手間取った。また、埋土も地山と類似しており、掘方も特に斜面上方のプランは不整形なものが多く、掘り下げは困難であった。特に埋土中で確認された焼土はカマドの火床にあたる可能性が高いが、袖の確認はほとんどできなかった。一方、遺構内からは須恵器を中心としてたくさんの遺物が出土したことから、可能な限り出土状況の図化をおこなっている。

窯跡は、池の浸食により灰原がすでに失われており、さらに池内の土壌改良により灰原が所在した辺りは攪拌・硬化され、焚口下方の灰原を調査することはできなかった。窯体は割合と良好な残存状態であり、焼成部中位辺りからは耳環が出土した。このため、窯体内の埋土をふるいにかけて遺物の取り上げに努めたところ、鉄鏃の出土があった。耳環・鉄鏃は必ずしも有機的な出土状況は示していないが、これらは通常窯跡内から出土する遺物ではないことと、すでに平成14年度に調査を実施した梅頭遺跡1次調査の結果と合わせて窯を墳墓に転用したものと考え、記者発表をおこなった。

調査の結果、窯跡・竪穴住居跡・掘立柱建物・土坑が確認された。出土遺物は、須恵器が非常に 多いが、土師器煮炊具も斜面上の遺構から出土している。また、7世紀前半代の瓦もまとまった出 土が見られたが、竪穴住居跡の屋根全面を葺くような状況は考えにくい。その他ガラス丸玉・鉄鎌 も出土しており、生活遺構が斜面上に展開していたことを示している。

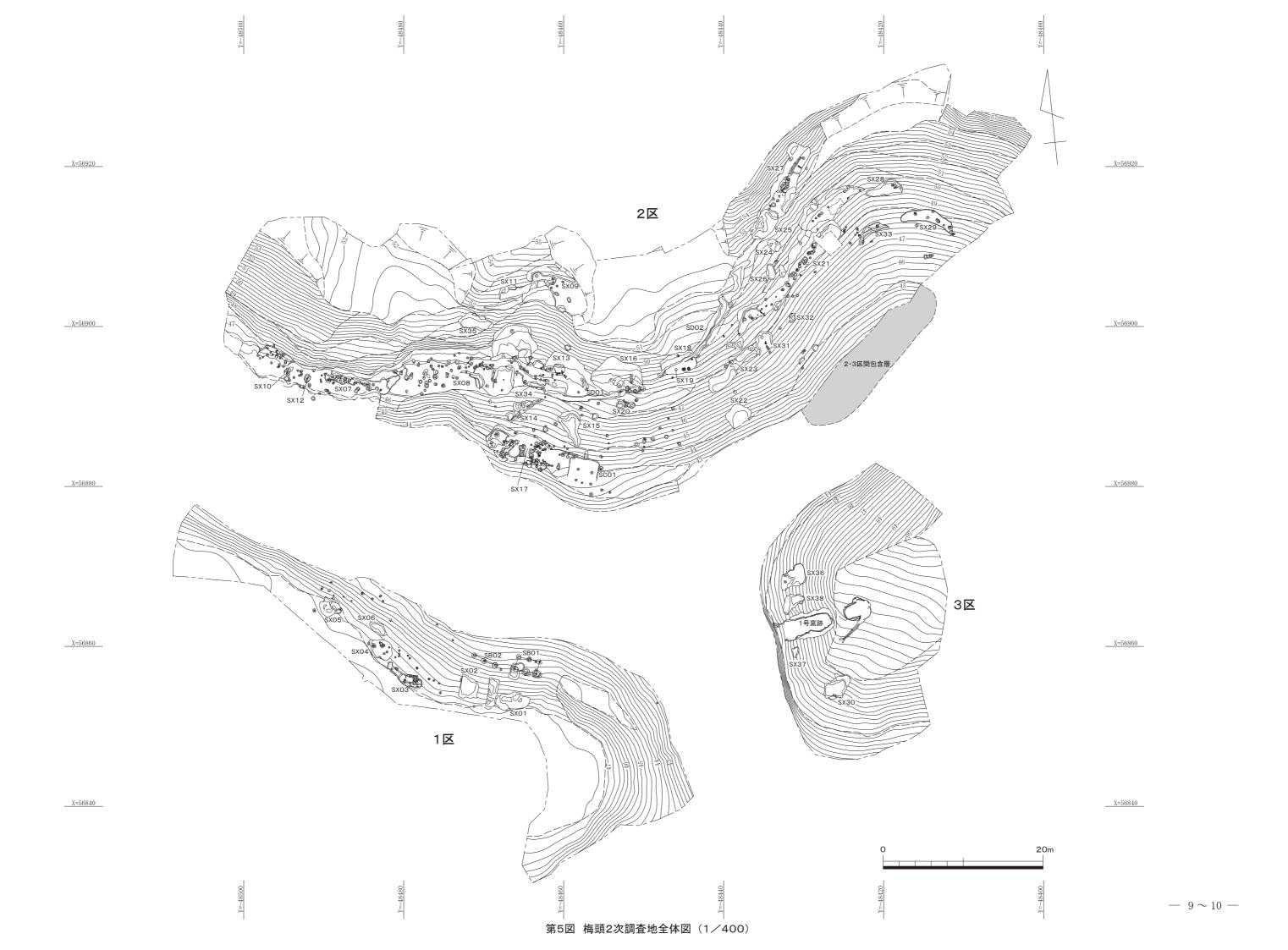
#### 2. 遺構と遺物

#### (1) 窯跡

#### **1号窯跡**(第7~10図、図版2~17)

窯跡は3区に位置し、南西方向へのびる丘陵の先端にあたる西側斜面に位置する。主軸は $N-78^{\circ}-E$ 、大略東西方向にとり、焚口は西側にむける。窯の形態から、牛頸窯跡群特有の多孔式煙道窯にあたる。

検出段階では、灰原の一部が丘陵下に検出され、丘陵上では埋没した窯跡のプランが確認できた。窯体の焼成部上半は天井部が一部残存しており、ほぼ全形を確認することができるが、灰原は



池の浸食および池内の土壌改良により完全に失われていた。この際、前庭部も削平されており、この部分の構造は分からない。

窯体の全長は主軸上で、燃焼部から排煙部まで9.44m、作業路上端までは10.92m、池の浸食面から作業路上端までは11.84mである。窯跡の平面プランは、焚口部から排煙部までほぼ直線的にのびるが、焚口部の幅に比べて排煙部の幅が若干狭くなる。排煙部には作業路が取り付き、ほぼ直線的にのびている。

貼床の断ち割りをおこなった結果、おおむね $4\sim5$ 面の操業面が確認できた。貼床を除去すると、 築造当初の窯体が確認され、燃焼部床面からは舟底状ピットが確認された。

また、焼成部中位の掘り下げ中には、耳環が2点出土した。2点はやや離れて出土したが、斜面上に位置するものは窯体の床面直上から出土したものであり、操業終了直後に持ち込まれたものと考えられる。このため、周辺の土をふるって副葬品の発見に努めた結果、鉄鏃片2点が出土した。梅頭1次1号窯跡と同様に須恵器窯を墳墓に転用したものと考えられる。

**焚口・燃焼部** 焚口部は側壁に焼成部入口と認められる天井壁が残っておらず、位置を確定できない。燃焼部は、池の浸食面上にある段から焼成部との傾斜変換点までで、最終操業段階では主軸長  $2.45\,\mathrm{m}$ 、幅 $1.83\sim2.00\,\mathrm{m}$ 。当初操業面で主軸長 $2.30\,\mathrm{m}$ 、幅 $1.75\sim1.85\,\mathrm{m}$ 。床面はほぼ還元しており、焼成部へむかって $4^\circ$ 上がる。灰層はg-g'面 $1\cdot30$ 層が確認され、これが最終操業にともなう灰原であるが、その上層には窯壁の崩落が認められたことから、最終操業後あまり時間をおかずに窯が崩落したと考えられる。

当初操業面からは、主軸長1.53m、幅0.83m、深さ10~15cmの舟底状ピットが確認され、床面は被熱を受けず、還元・酸化層がピットの側壁を周回することから、焼成段階では舟底ピットは埋められていたと考えることができる。

焼成部 焼成部は、側壁はほぼ直線的にすぼまりながら、上位で最も狭くなる。最大幅は燃焼部境でとり、焼成部上位では幅1.50mと最も狭くなる。焼成部長は主軸上で6.72m、下位から平板的に上がり、下位では23°、上位では32°と最終床面上では傾斜角度の違いが明らかであるが、当初操業面ではやや弓なり状に上がる。

最終操業面では、傾斜変換点から2.15m入った所から置台が設置されるが、貼床上のためかはっきりとしない。むしろ当初操業面では径15~35cm程度の小さな置台が側壁沿いに並び、間には径50cm程度のやや大きな置台が設置される。また、舟底状ピットのすぐ上にも径45~60cmの置台が認められ、いわゆる甕据えピットと考えられる。

貼床は焼成部下位においては25cm程度の厚みをもち、 $4\sim5$ 面の操業面が確認できるが、上位では薄くなり1面しか確認できず、厚さ10cm弱しか確認できない。

焼成部の土層観察では、下半がまず崩落したことがうかがえるが、g-g 面19・47層などを中心とする崩落土上面がほぼ水平になることは注目される。層位上、焼成部上位はg-g 面19層以下の崩落土堆積後の埋没が考えられ、焼成部上位において耳環が検出された今一つ別の解釈を可能とするものかもしれない。この点については後述する。

排煙部 窯尻に石などで作られた抑焔柱が3点確認できた。左右の抑焔柱は、大甕の破片を床面に

置いた上に粘土で柱を作り、中央のものは花崗岩塊を立てる。素材は異なるが、いずれも柱の基部は25~30cm。高さは中央のものが10cm程度残るが、排煙孔の高さを示すものはなかった。3つの柱に仕切られる4つの排煙孔の幅は、左側から24・43・25・24cmと必ずしも等間隔ではない。排煙部全体では、幅1.6m、長さ0.2m。

作業路 作業路は窯尻から南西方向に直線的にのび、先端部はカクランにより削平される。窯尻の後背に設けられる土坑に連接し、土坑は主軸上で1.53m、作業路連接部まで2.30m、連接部から作業路先端までは3.75m。幅は検出面で $21\sim60$ cm、床面で $9\sim38$ cmと細く、斜面下方に向かうにつれて次第に細くなる。深さは最大58cm。土層の観察によれば、掘り込み面を含めると4面確認できる。

窯背部土坑は、床面がほぼ水平になり広く掘り込まれている。深さ0.6mほどであるが、削平により失われることを考えるとかなり大きい。土坑内はほぼ全面に被熱を受けて壁面は橙色を呈し、被熱範囲は作業路の一部にまで及ぶ。床面には焼土塊・焼土を含む橙色土が厚く全面に堆積しており、これは最終操業面にともなう。この橙色土は作業路の真中ほどまで確認でき、やはり最終操業段階にともない堆積が確認できる。また、床面上には窯尻側壁面に寄せて窯壁をまとめて廃棄した状況が確認できた。これらのことは、抑焔柱を含めた窯尻部分を作り変えた結果である可能性が高く、窯背部土坑・作業路に見られる焼土を含む橙色土もそれにともなう可能性がある。

前庭部・灰原 池の浸食等により全体が分からないが、前庭部は燃焼部から西側0.66mまでは幅 2.1mと窯とほぼ同じ幅でのびる。床面は大きく下がる。灰層は前庭部に充満している。

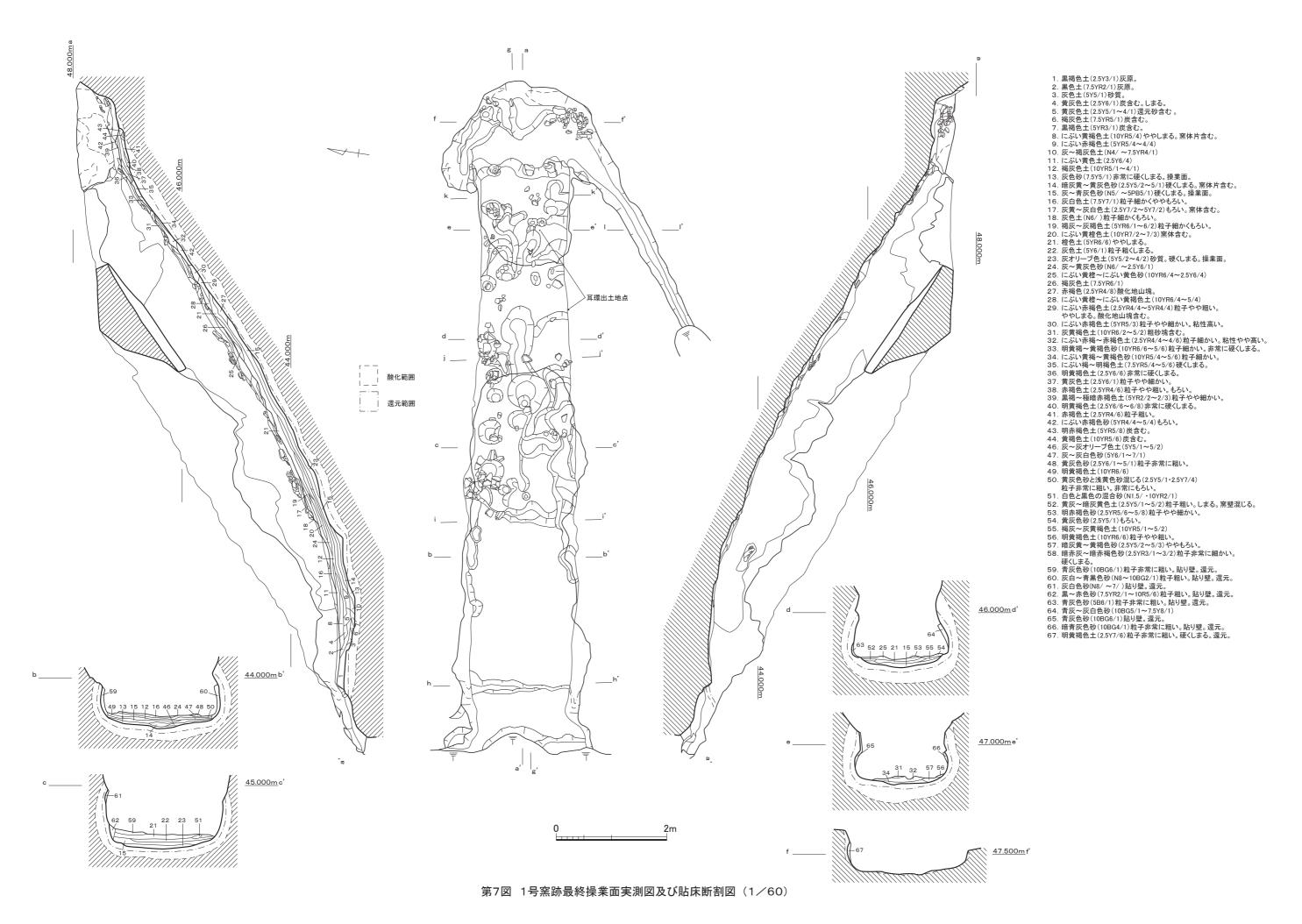
焼成部遺物出土状況と窯体内土層堆積状況 焼成部上位右側から耳環2点が出土した。1点は窯体内の流入土中から出土し、右側壁に接した位置で出土した(耳環①)。1点は1.55m上方に位置し、最終操業面直上から出土した(耳環②)。いずれも検出時に写真撮影・図化をおこなっている。耳環①の周辺からは完形の須恵器杯身2点が出土した。また、耳環①②周辺の窯体内下層の土をふるった結果、鉄鏃2点が出土した。鉄鏃は鏃頭のみで、茎部は確認できなかった。

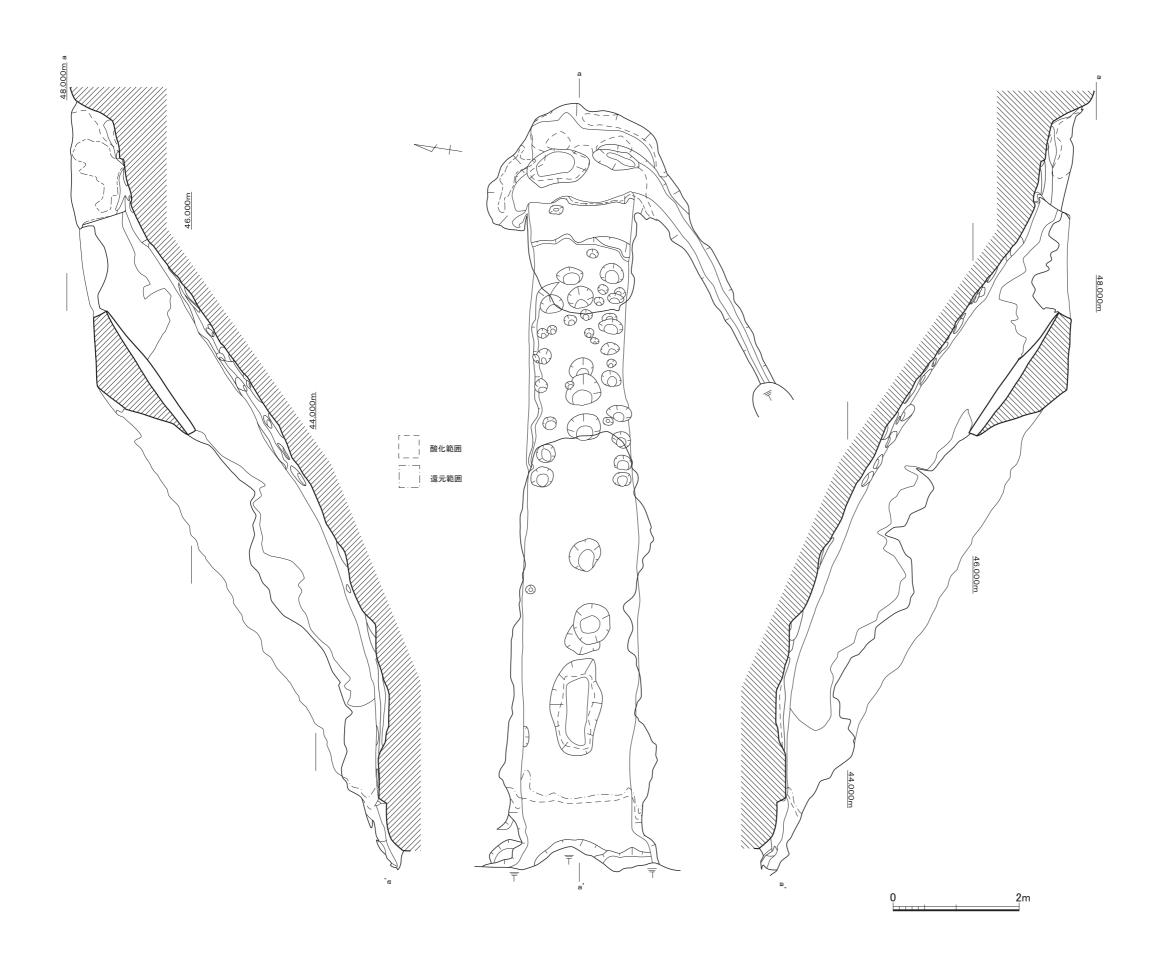
耳環が出土した焼成部上位は傾斜角度が30°をこえ、まっすぐ立つのも一苦労である。ここから 出土した耳環の埋没時期について、出土状況と窯体内縦断土層から検討してみる。

まず、耳環②は最終操業面直上から出土している。耳環①は流入土から出土しているが、上方からの滑落が想定でき、耳環①②は一対のものである可能性が高い。次に、縦断土層から見ると、耳環②の出土したg-g 面61層は堆積状況からみるとg-g 面 $19\cdot47$ 層より後に堆積したことがわかる。

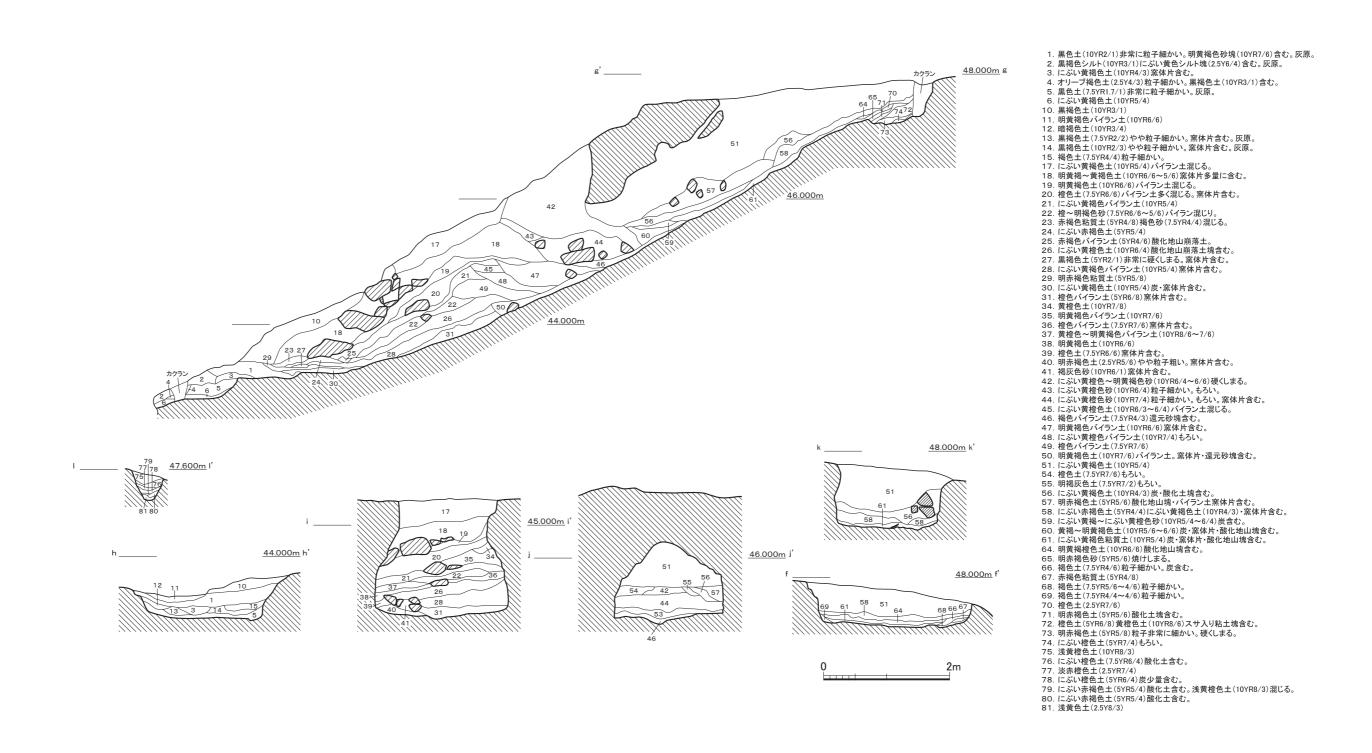
## 

第6図 1号窯跡焼成部・最終床面出土遺物実測図(1/2)

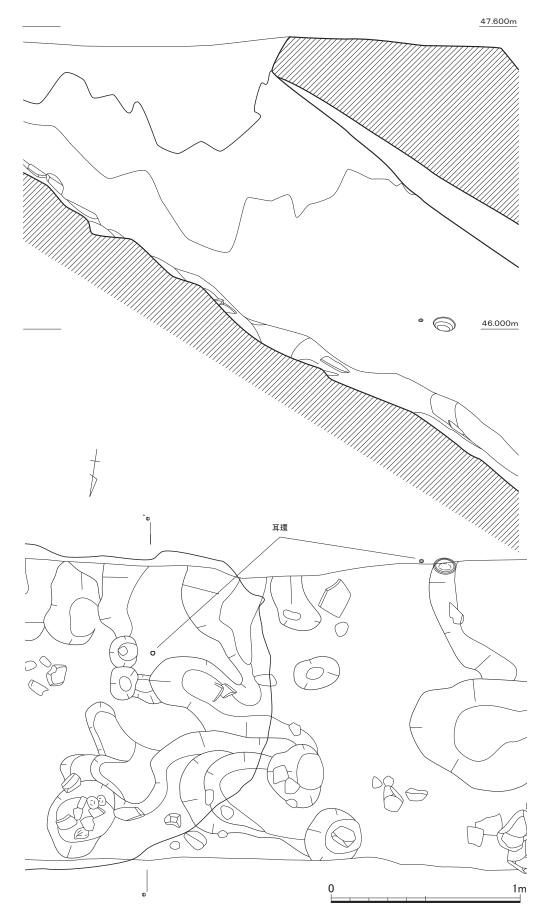




第8図 1号窯跡当初操業面検出状況実測図(1/60)



第9図 1号窯跡窯体内・作業路土層実測図(1/60)



第10図 1号窯跡耳環出土状況実測図(1/20)

g-g'面19・47層以下は、焚口部分で見ると最終操業にともなう灰層g-g'面1・30層上に確認でき、上方は調査時に残存していた焼成部天井部下にあたる。したがって、縦断土層から見ると焼成部下半が操業直後に崩落をおこし、その後上半に土砂が流入していることは明らかである。

ここで注目したいのは、g-g 面19・47層の上面がほぼ水平となることである。通常窯の崩落にともなう堆積土は斜面下方に落ち込むことが多く、傾斜の急な斜面に作られる窯であれば、なおさら水平な堆積層が生じることは極めて不自然と考える。しかも、残存する天井部下に水平な堆積層がのびることは、層の形成にあたって人為的な営力が関わった可能性が非常に高いように思う。したがって、ここでは1号窯跡の埋没過程について、焼成部下半の落下がまずおこり、後に上半への土砂流入がおこるが、その間に耳環(1)②を位置づけることが可能と考える。

耳環の出土する理由については、まとめで述べるように須恵器窯を墳墓として転用することを考えている。その場合、遺体を焼成部上位まで持ち上げるのは大変困難であり、調査時より疑問に思う点であった。しかし、窯体内縦断土層で確認できるように、焼成部下半の崩落・堆積後に一旦整地をおこなうことは、埋葬にともなうものとの解釈が可能である。この場合、遺体が置かれるのは残存する天井部から2.5mほど奥であり、埋葬位置としては十分な妥当性をもち、梅頭遺跡2次1号窯跡は崩落した窯の上半を使って墳墓に転用したものと考えたい。

#### 焼成部出土遺物 (第6図、図版47)

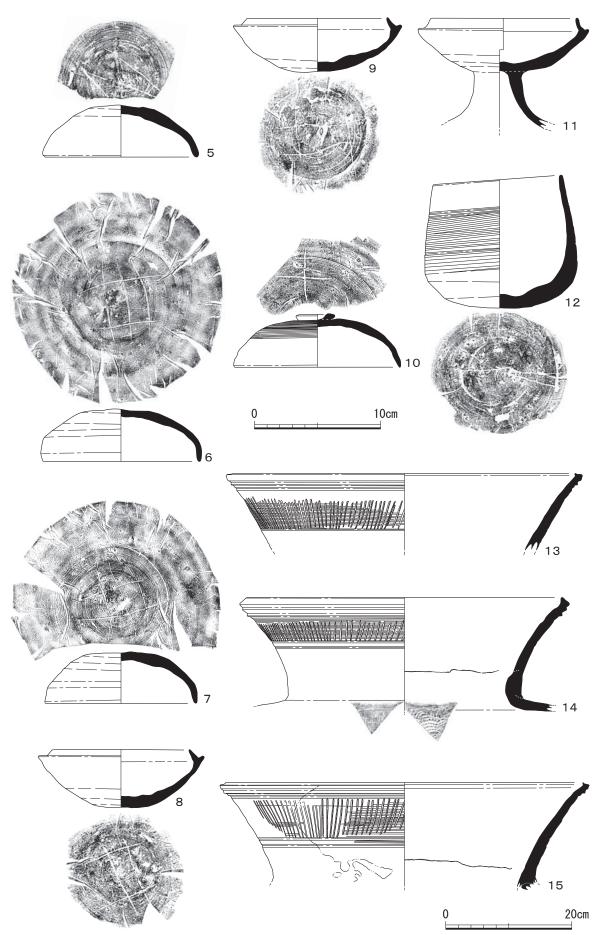
銅製品(1) 耳環である。直径約2.4cmを測り、欠損は見られない。

**鉄製品(2・3)** いずれも鉄鏃である。先端部付近のみ残存し、2は柳葉式長頸鏃で、3は円頭斧 箭式鏃である。

最終床面上出土遺物 (第6・11図、図版47・48)

銅製品(4) 耳環である。直径約2.0cmを測り、表面が腐食している。

須恵器(5~15)5~7は杯H蓋で、6は完形品である。いずれも天井部外面にヘラ記号を施す。復元口径12.0~12.5cmを測り、器高は比較的高い。口縁部はなだらかに開くもの(5)と、直立に近い傾きになるもの(6・7)がある。天井部は外面約1/2~2/3に回転ヘラケズリを施すことで丸みを持たせている。8・9は杯H身で、いずれも底部外面にヘラ記号を施す。8は復元口径11.1cm、9は口径11.15cmを測るが、8は器体が歪んでいるため、法量が不確定である。杯部は深く、立ち上がりは内傾する。底部では外面の約1/2~2/3に回転ヘラケズリを施す。10は高杯蓋で、口径13.2cmを測り、器高は比較的高い。口縁部はなだらかに開き、天井部は丸みを持つ。天井部では外面約2/3にカキメを施し、その後ヘラ記号を付けている。つまみは中央部が深くくぼみ、器体の中心をやや外れて貼り付く。11は有蓋高杯で、口径11.8cmを測り、杯部は深い。立ち上がりはやや直立する傾きになる。底部では外面約2/3の範囲に回転ヘラケズリが見られる。脚部は中位から大きく開く。12は椀で、ほぼ完形品である。口径は10.1cm、器高10.6cmを測り、体部から口縁部にかけてやや内傾する。体部外面ではカキメ・沈線が見られ、底部外面は回転ヘラケズリにより丸く仕上げた後、ヘラ記号を付ける。13~15は大甕で、復元口径49.8~55.6cmを測る。口縁上端部は三角形の突起状に成形しているが、三角形が小さいもの(13・15)と大きいもの(14)に分かれる。いずれも頸部外面ではカキメ施文後、2段の沈線を巡らし、その沈線間

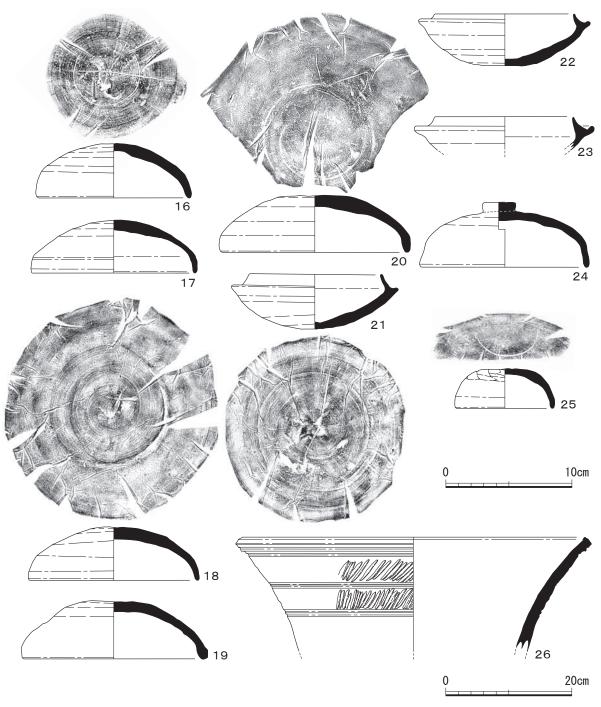


第11図 1号窯跡窯体内最終床面上出土遺物実測図(5~12は1/3、13~15は1/6)

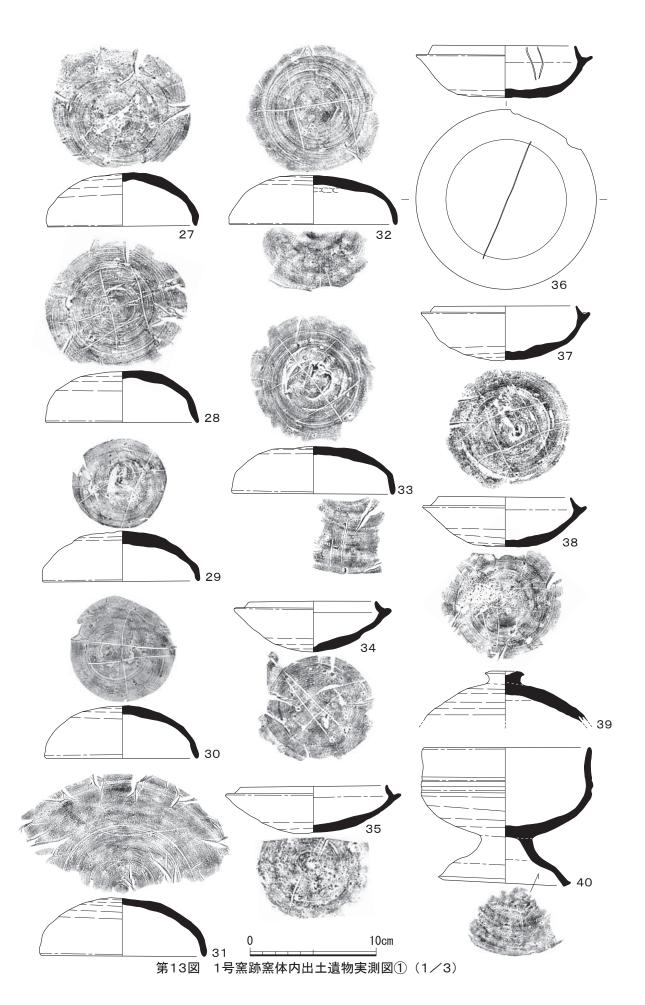
に連続斜線文を施している。

貼床内出土遺物 (第12図、図版49・50)

**須恵器**(16~26) 16~20は杯H蓋で、20以外はほぼ完形品である。口径は12.1~15.0cmを測る。器高は比較的高い。口縁部はなだらかに開くもの $(16\cdot19)$ と、直立に近い傾きになるもの $(17\cdot18\cdot20)$  とがある。天井部は外面約 $1/2\sim2/3$ に回転ヘラケズリを施すことで丸みを持たせている。 $21\sim23$ は杯H身で、23以外は完形品である。口径は $10.4\sim11.15$ cmを測り、 $21\cdot22$ の杯部は深い。立ち上がりは内傾するもの(21)、内傾しつつ端部で直立に近い傾きになるもの $(22\cdot23)$  がある。 $21\cdot22$ の底部は外面約1/3に回転ヘラケズリを施す。



第12図 1号窯跡貼床内出土遺物実測図(26は1/6、他は1/3)

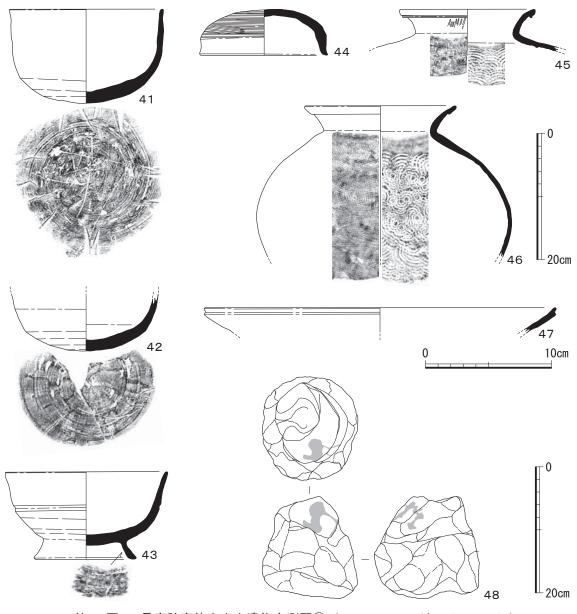


— 23 —

24は高杯蓋で、ほぼ完形品である。口径13.2cmを測り、器高は比較的高い。口縁部は直立気味に傾き、天井部は丸みを持つ。天井部では外面約2/3に回転ヘラケズリが見られ、つまみはボタン状を呈し、器体の中心から外れた位置に貼り付けられる。25は短頸壺蓋で、完形品である。口径7.8cmを測り、口縁部は直立に近い傾きになる。天井部は外面約1/2に手持ちヘラケズリを施す。

26は大甕で、復元口径54.3cmを測る。口縁端部は断面方形状を呈し、頸部外面では3段の沈線を巡らせ、沈線間に連続斜線文を施す。また、出土状況から焼台に転用された可能性がある。 **窯体内出土遺物**(第13・14図、図版50~54)

**須恵器(27~47)** 27~33は杯H蓋である。口径は11.9~13.4 cmを測る。器高は比較的高く、いずれも天井部外面にヘラ記号を施す。口縁部は直立に近い傾きになるもの(27・29・31~33) と、なだらかに開くもの(28・30)がある。いずれも天井部は外面約  $1/3 \sim 2/3$  に回転ヘラケズリを施す。 $34 \sim 38$ は杯H身で、35以外はほぼ完形品である。口径は $10.2 \sim 11.65$  cmを測る。



第14図 1号窯跡窯体内出土遺物実測図②(45・46・48は1/6、1/3)

 $34 \cdot 35$ は立ち上がりが内傾し、端部が直立に近い傾きになり、杯部が浅い。 $36 \sim 38$ は立ち上がりが内傾し、杯部が深い。いずれも底部は外面約 $1/2 \sim 2/3$ に回転ヘラケズリを施し、ヘラ記号が見られる。

39は高杯蓋である。天井部外面は回転ヘラケズリを施すことで丸みを待たせている。つまみは中央部が窪むボタン状を呈す。40は高杯で、口径13.15cmを測るが、器体が歪んでいるため法量は不確定である。杯部は椀形を呈し、口縁部はやや外反しながら上方にのびる。体部中位外面では沈線を巡らし、体部下位~底部に回転ヘラケズリを施すことで丸みを持たせている。脚部は短脚で中位が大きく開き、裾部付近で緩やかに屈曲する。脚部内面ではヘラ記号が見られる。

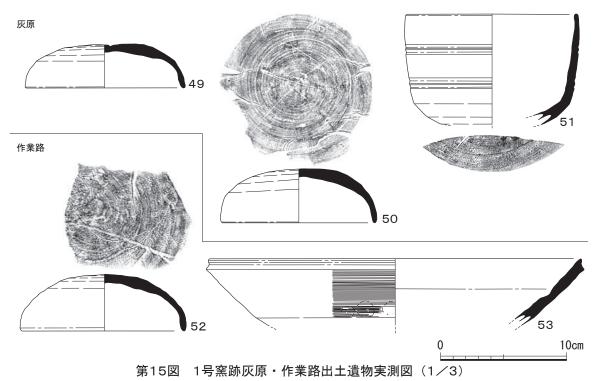
41・42は椀で、41はほぼ完形品である。41は口径12.2cmを測り、体部~口縁部にかけてほぼ直立し、端部はわずかに外反する。いずれも底部外面は回転ヘラケズリを施すことで丸みをもたせており、その後ヘラ記号を施す。43は台付椀で、復元口径12.8cmを測る。体部~口縁部にかけてやや外反しながらのびる。体部中位外面には沈線が巡り、下位では回転ヘラケズリを施す。高台内側にはヘラ記号が見られる。

44は短頸壺蓋で、ほぼ完形品である。口径は10.2cmを測る。口縁部は直立し、口縁端部では平坦面が成形される。天井部は丸みを持ち、外面3/4にカキメを施す。45・46は甕で、復元口径はそれぞれ21.1cm・24.0cmを測る。45は口縁端部を丸く仕上げ外面に沈線を施し、頸部外面ではハケメ状の痕跡が見られる。46は口縁端部を丸く仕上げ、器壁を比較的薄く成形し、外面に段を施す。47は鉢で、復元口径28.0cmを測る。口縁端部は外面に段を付ける。53と類似する。

抑焔柱(48) 花崗岩塊。円錐形を呈し、上部に煤が付着する。

#### 灰原出土遺物 (第15図)

**須恵器(49~51)** 49・50は杯H蓋で、50はほぼ完形品である。49は口径12.6cm、50は口径12.2cmを測り、49の器高は比較的低い。いずれも口縁部は直立に近い傾きになり、天井部は外



— 25 —

面約2/3に回転ヘラケズリを施す。50ではヘラ記号が見られる。

51は椀で、底部外面にヘラ記号が見られる。復元口径13.6cmを測り、体部~口縁部にかけて直立に近い傾きになる。体部外面では沈線が2段に巡り、底部外面は回転ヘラケズリを施す。

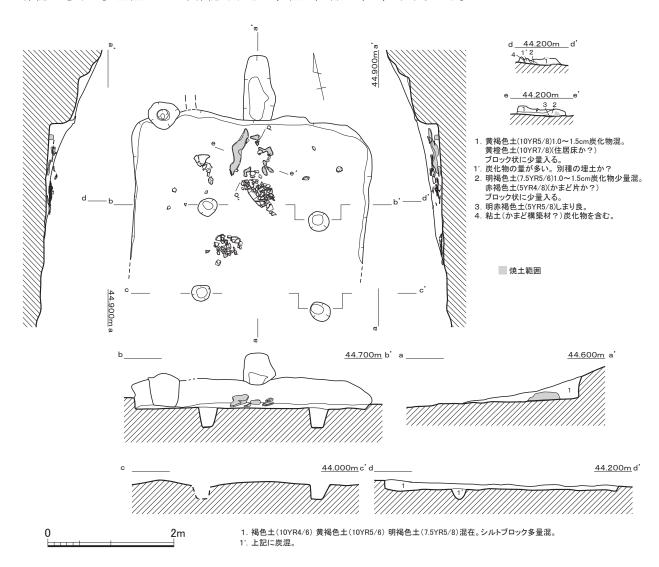
#### 作業路出土遺物 (第15図、図版54)

**須恵器**(52・53) 52は杯H蓋で、復元口径13.0cmを測る。天井部は丸みを持ち、外面にヘラ記号が見られる。器高は比較的高く、口縁部は直立に近い傾きになる。天井部は外面 1 / 2 に回転ヘラケズリを施す。53は鉢で、復元口径30.0cmを測る。口縁端部は断面四角形を呈し、端部外面が窪む。口縁部~体部外面ではカキメが施され、体部外面ではわずかに指頭圧痕が見られる。

#### (2) 竪穴住居跡

#### SC01 (第16図、図版18・19)

2区の南部、標高43.8~45.0mの南側斜面に位置する。平面プランは隅丸方形を呈し、北側壁上位にはカマドの煙道が造られる。斜面をL字に掘り込んでおり、南壁は認められない。、長さ3.71m、幅3.3m以上、最深部0.31mを測る。埋土は単層で褐色土が堆積し、貼床や壁溝の施設は確認できない。主柱穴は4本確認されるが、柱は住居に対し、ややゆがむ。



第16図 SC01実測図(1/60)

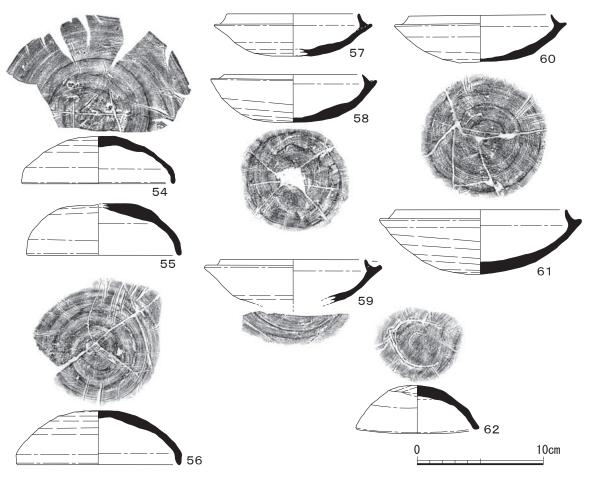
カマドは北壁中央部で検出されたが、わずかな焼土が残存するのみである。また、北壁中央部には平 面プランより突出する溝状遺構があり、焼土に対面する位置にあるためカマドの煙道部と考えられる。カマ ド周辺には須恵器の杯身、土師器の甕・甑の破片が散乱していた。

出土遺物 (第17・18図、図版54~55)

**須恵器** (54~62)  $54\sim56$ は杯H蓋である。復元口径 $12.2\sim13.0$ cmを測り、器高は比較的高い。いずれも口縁部は直立に近い傾きで、天井部は外面約 $1/2\sim2/3$ に回転ヘラケズリを施す。 $57\sim61$ は杯H身で、復元口径は $10.6\sim13.4$ cmを測る。57以外は杯部が深く、立ち上がりは内傾するもの(58)と、内傾しつつ端部が直立気味になるもの( $57\cdot59\sim61$ )がある。いずれも底部は外面約 $1/2\sim3/4$ に回転ヘラケズリを施す。

62は短頸壺蓋で、ほぼ完形品である。器体が歪んでいるため口径が9.1~9.8cmと不確定である。 口縁部はなだらかに開き、天井部は外面約2/3手持ちヘラケズリを施す。

土師器 (63~67) 63・64は甕で、復元口径はそれぞれ14.0cm、15.0cmを測る。63は頸部が比較的せばまり、口縁部が大きく外反する。64の口縁部は大きく外傾する。65~67は甑である。いずれも外面はハケメ、内面はケズリが見られる。65は復元口径30.0cmを測る。口縁部は大きく開き、体部と比べて器壁がやや厚くなる。65~67は同一個体とみられる。66は体部から底部にかけてせばまり、底端部の断面の形状は方形に仕上げている。67は把手が残存しており、体部ハケメにより整形した後に貼り付け、把手部はナデにより整形されている。



第17図 SC01出土遺物実測図① (1/3)

#### (3) 土坑

#### SX01 (第19図、図版19)

1区中央部、標高46.3~47.4mの北側斜面に位置し、周辺にはSX02、SB01・02がある。 平面プランは不整形な長楕円形を呈し、長さ4.28m、幅2.13m、最深部1.27mを測る。土坑内は 2段掘り状を呈する。埋土は上層に黄褐色土が堆積し、下層は明褐色~明黄褐色土を主体とする。 出土遺物には須恵器があるが、図化できるものはなかった。

#### SX02 (第19図、図版20)

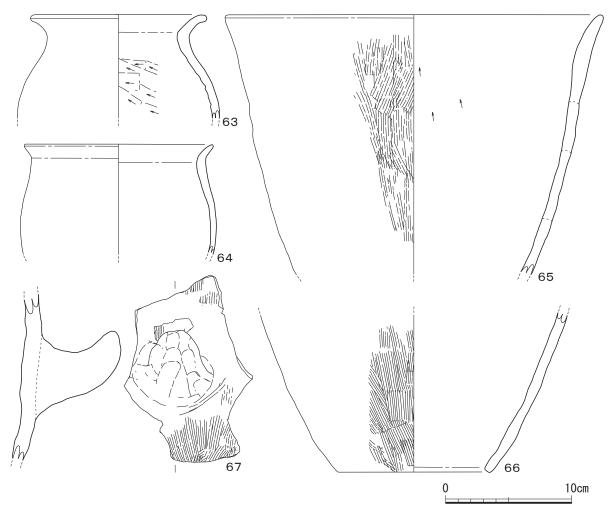
1 区中央部、標高45.9~46.7mの北側斜面に位置し、周辺にはS X 01、S B 01・02がある。 平面プランは不整方形を呈し、長さ2.98m、幅2.3m、最深部1.05mを測る。埋土は橙色土と黄色 土が混在し、風倒木の可能性がある。出土遺物には須恵器・土師器・石器がある。

#### 出土遺物 (第20図)

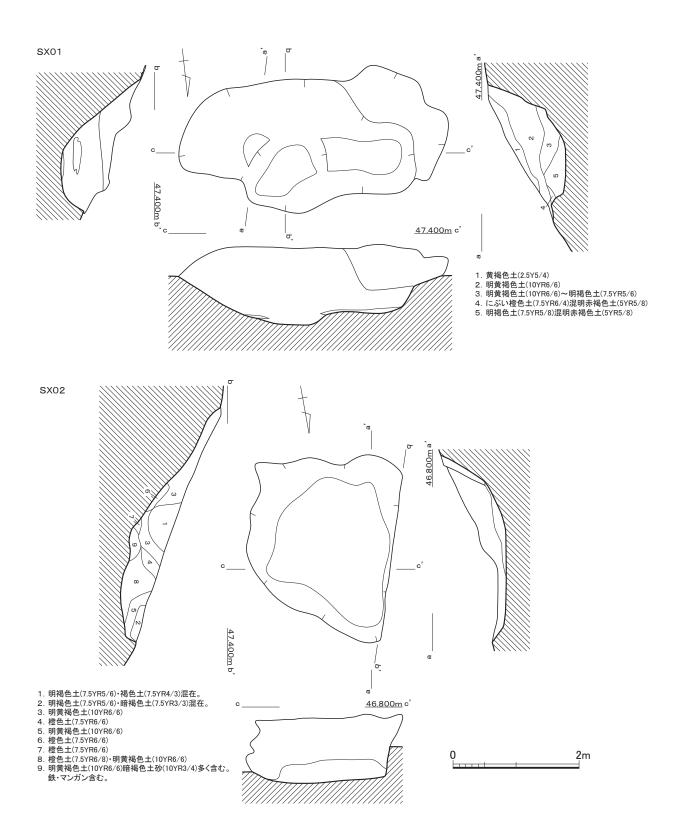
石製品(68) 安山岩製で横長剥片を利用した石匙である。刃部は両端部が欠損し、表裏面から作出され弧状に仕上げられる。つまみ部は表裏面より成形される。

#### SX03 (第21図、図版20)

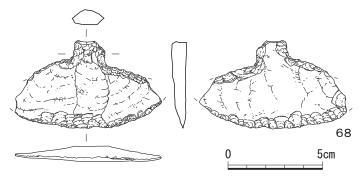
1 区西側、標高47.0~47.3mの北側緩斜面に位置し、周辺にはS X 02・04がある。平面プランは不整形な長楕円形に溝状遺構が続く形状を呈し、長さ4.82m、幅1.58m、最深部0.50mを測る。



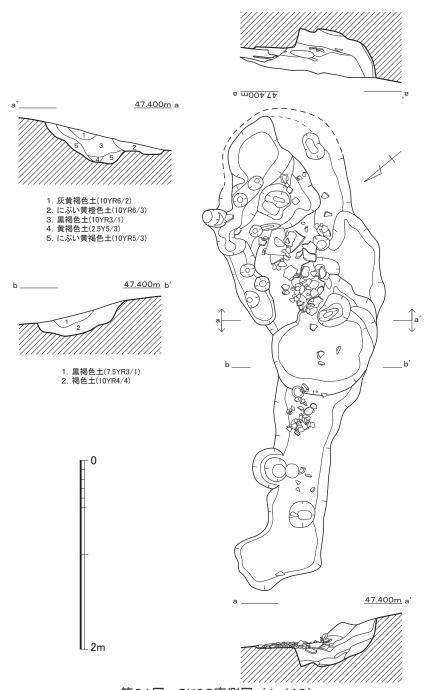
第18図 SC01出土遺物実測図②(1/3)



第19図 SX01・02実測図(1/60)



第20図 SXO2出土遺物実測図(1/2)



第21図 SX03実測図 (1/40)

長楕円形遺構では多量の須恵器の甕片が出土し、溝状遺構にも杯身や土師器片が見られる。埋土は 下層に褐色土、その上層に黒褐色の腐植土らしい土壌が堆積する。出土遺物は、須恵器・土師器が あり量は多い。

出土遺物 (第22・23図、図版55~56)

**須恵器**(69~80) 69~71は杯H蓋で、復元口径は12.1~13.5 cmを測る。いずれも器高は比較的高く、口縁部は直立に近い傾きになり、天井部は外面約  $1/2 \sim 2/3$  に回転ヘラケズリを施す。72~74は杯H身で、口径は10.7~11.9 mを測る。いずれも杯部は深い。立ち上がりは内傾しつつ端部で直立するもの(72・73)と、内傾しているもの(74)がある。底部は外面約  $1/2 \sim 2/3$  に回転ヘラケズリを施す。75は高杯で、復元口径11.6 cmを測る。口縁部は端部でやや外反し、体部外面では沈線状の窪みが見られる。76は有蓋高杯で、復元口径11.2 cmを測る。杯部は深く、立ち上がりは内傾しつつ端部で直立する。底部は外面約 1/3 に回転ヘラケズリを施す。

77は短頸壺蓋で、口径10.0cmを測る。口縁部は直立に近い傾きで、端部の断面形状は四角形を呈す。天井部は丸みを持つ。78は壺で、口縁部が欠損する。短頸壺か。体部外面および底部外面はカキメを施し、体部上位に幅広い沈線が巡る。底部は平底を呈す。79・80は甕である。79は復元口径18.8cmを測り、口縁部は丸く仕上げた外面に沈線を施す。80は復元口径24.7cmを測り、口縁部は最大体部径よりも外反する。体部外面はタタキ後カキメを施し、内面はナデが見られる。土師器(81) 把手付の甕で、復元口径16.4cmを測る。把手は欠損しているが体部中位より下位に貼り付けた痕跡が残る。口縁部はやや外反する傾きをとり、底部は平底である。全面的に摩滅しているが、体部下位外面ではハケメが残る。

## SX04 (第24図、図版21)

1区西側、標高46.8~47.2mの北側緩斜面に位置し、周辺にはSX03・05・06がある。平面プランは不整形な楕円形を呈し、長さ3.35m、幅2.45m、最深部0.17mを測る。床面ではピットが散在する。埋土は黒褐色土が主体となる。出土遺物には須恵器・土師器がある。

## 出土遺物(第26図、図版57)

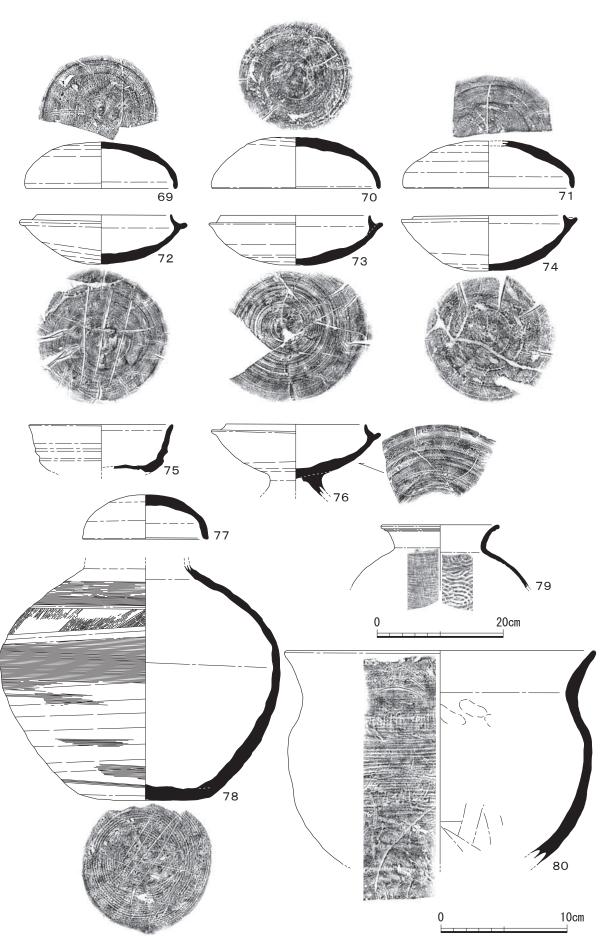
須恵器 (82~85) 82は杯H蓋で、復元口径12.4cmを測る。口縁部は直立に近い傾きで、天井部では回転ヘラケズリを施す。83は有蓋高杯で、復元口径11.8cmを測る。杯部は深く、立ち上がりは内傾する。84は高杯で、脚部のみ残存する。脚部は短脚で裾部付近で屈曲し、端部は断面方形状に仕上がる。85は切削物で、外面にナデ調整、内面では同心円文当て具痕が見られる。器壁は1.8cmと厚いため甕を製造する段階で切り落とされた余分な部分と思われる。

#### SX05(第24図、図版21)

1区西側、標高46.8~47.3mの北側緩斜面に位置し、東隣にはSX04・06がある。平面プランは不整形な楕円形を呈し、長さ3.27m、幅2.42m、最深部1.24mを測る。土坑内は階段状となり、最深部は略円形のピット状になる。埋土は炭化物が混じり、上層は黄色土、下層は褐色土が主体となる。出土遺物には須恵器・土師器がある。

## 出土遺物 (第26図、図版57)

土師器(86・87) 86は甕で、復元口径は15.4cmを測る。口縁部はなだらかに外反し、頸部内面は

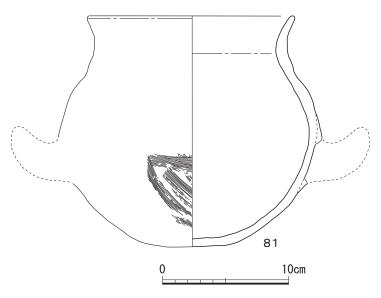


第22図 SX03出土遺物実測図① (79は1/6、他は1/3)

稜が見られる。外面には煤が付着する。87は甑の把手で、ナデ調整により成形される。外面に煤が付着する。

## SX06 (第24図、図版22)

1 区西側、標高46.3~46.8 mの北側緩斜面に位置し、周辺にはS X 04・05がある。平面プランは不整形な長楕円形を呈し、長さ2.57m、幅1.17m、最深部0.24mを測る。埋土は黒褐色土を主体とする。出土遺物には須恵器・土師器がある。



第23図 SXO3出土遺物実測図②(1/3)

## 出土遺物(第26図、図版57)

**須恵器(88)** 杯H身で、口径12.0cmを測る。杯部は浅く、口縁部は内傾し、受部のくぼみが比較的深い。底部外面ではナデを施し、その後へラ記号を付けている。

#### SX07 (第25図、図版22・23)

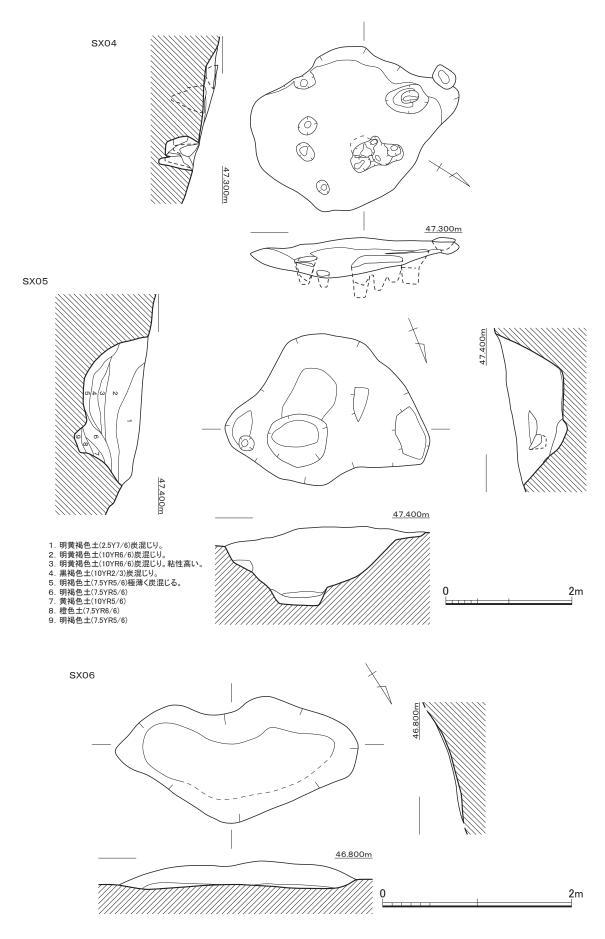
2区西側、標高46.0~47.0mの南側斜面に位置し、S X 10・12に切られる。この遺構は斜面を L字状に削ることで平坦面を造り出し、東西方向へ細長く不整形にのびる。東隣に続くS X 08も 同様な形態である。全長約20.4m、最大幅約3.26m、最深部0.75mを測る。

床面には多数のピットがあり、いずれかが建物を構成する柱穴であった可能性があるが、建物を 復元できない。また、遺構内中央部以東では炭化物が集中する範囲が見られ、須恵器の杯・甕、土 師器の甕・甑、瓦、祭祀遺物と思われるミニチュア土器、土製模造鏡等が多量に出土する。埋土は 黄橙色土を主体とする。

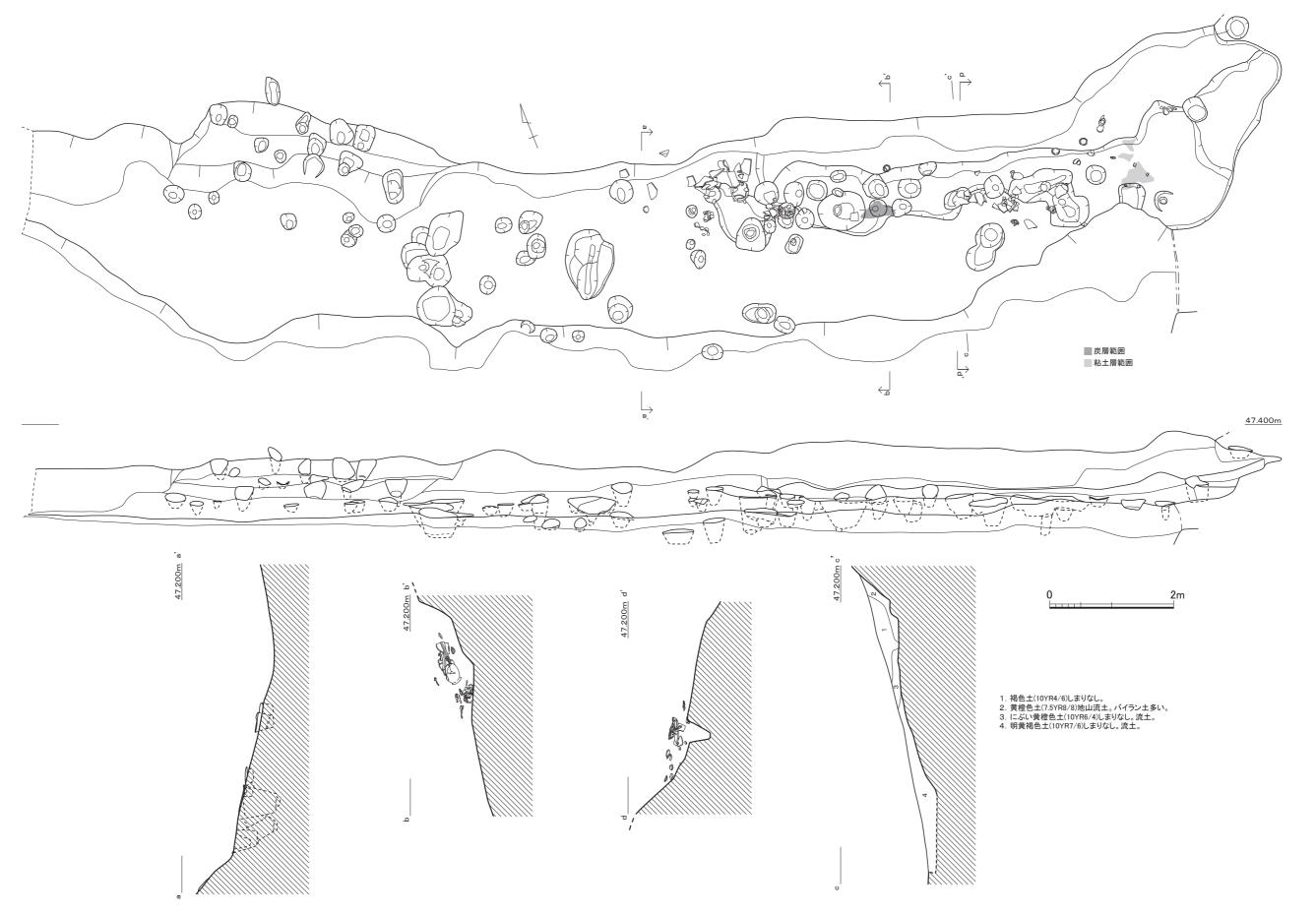
## 出土遺物 (第27~32図、図版57~64)

**須恵器(89~119)** 89~96は杯H蓋で、口径は10.45~13.0 cmを測る。95・96の器体は歪んでいるため法量は不確定である。器高は90・94が低く、他は比較的高い。口縁部はなだらかに開くもの(90)と、直立に近い傾きになるもの(89・91~94・96)がある。天井部外面は、雑なナデを施し天頂部が平坦を呈するもの(89~92・95・96)と、回転ヘラケズリにより丸みを持たせるもの(93・94)がある。97~99は杯G蓋で、口径は98で10.4 cm、99で8.2 cmを測るが、98は器体が歪んでいるため法量は不確定である。97・98は乳頭状つまみ、99はボタン状つまみを付し、98・99の天井部は外面約 2 / 3 に回転ヘラケズリを施す。

 $100\sim110$ は杯H身で、口径は8.7~10.65cmを測るが、 $109\cdot110$ は器体が歪んでおり法量は不確定である。立ち上がりは内傾しているもの( $100\cdot103\cdot106$ )と、内傾しつつ端部が直立に近い傾きになるもの( $101\cdot102\cdot104\cdot105\cdot107\sim110$ )があり、杯部は100以外比較的深い。底部外面の調整はナデを施すもの( $100\sim102\cdot104\cdot107\cdot109$ )と、回転ヘラケズリを施すもの



第24図 SX04~06実測図 (SX04·05は1/60、SX06は1/40)



第25図 SX07実測図(1/60)

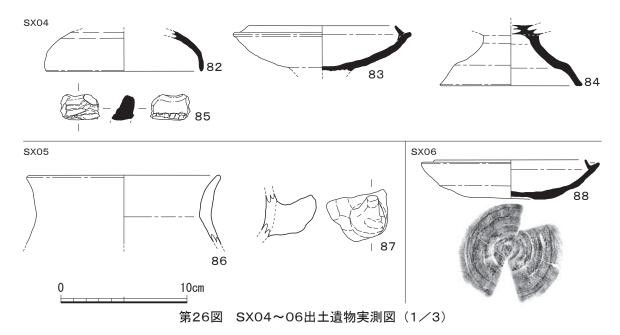
(103・105・106・108・110) がある。111は杯G身で、口径9.4cmを測る。口縁部はやや外反し、 体部中位外面には沈線が巡る。体部下位外面では回転へラケズリを施し、底部外面はナデである。 体部下位外面には別個体の破片が釉着する。

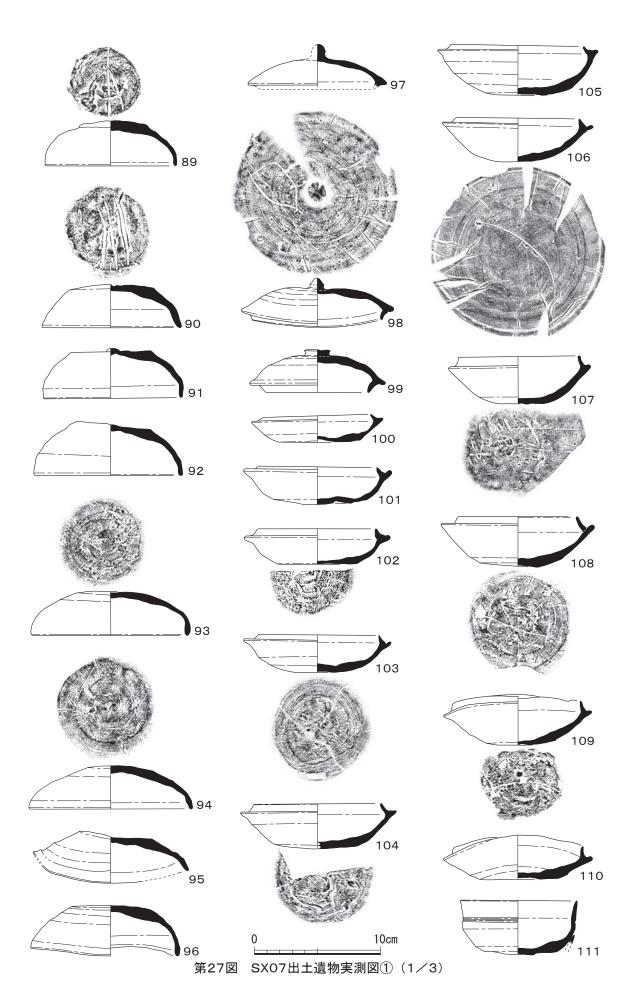
112は高杯蓋で、復元口径10.4cmを測る。器高は高く、口縁部はなだらかに開く。天井部は外面約1/3に回転ヘラケズリを施し、ボタン状のつまみが付く。113・114は高杯で、113は口径10.3cmを測るが、器形が歪んでいるため法量は不確定である。口縁部はわずかに外反し、杯部の体部外面では浅い沈線を施す。113・114いずれも短脚で裾部から短く開く。114の脚端部は断面三角形を呈す。115・116は壺で、復元口径はそれぞれ13.8cm、12.6cmを測る。115の口縁部は直線を呈し、外傾する。116の口縁部はS字状に外反する。いずれも端部は丸く仕上げる。115は体部がなだらかに膨らみ、116は球形状を呈す。115は土師質に焼成されている。117は甕で、復元口径は22.6cmを測る。口縁端部は丸く仕上げ、外面に1条の沈線が巡る。

118・119は切削物で、厚さ1.0~1.5cmを測る。外面にタタキが見られ、118は擬格子タタキ、119は平行タタキである。いずれも内面には同心円文当て具痕が見られる。

土師器(120~130・141) 120~127は甕である。120は口縁部が直立に近い傾きになり、体部は外面に平行タタキ、内面にハケメが見られる。121は小甕で、口径9.1cmを測る。口縁部はなだらかに外反し、体部~底部にかけて箱状を呈し、体部はさほど膨らまず、底部は外面を手持ちヘラケズリにより平底に整形される。122は口縁部がなだらかに外反し、体部外面はハケメ、内面はケズリを施す。123・124・126・127の復元口径はそれぞれ13.4cm・18.1cm・21.5cm・23.0cmを測る。123・124では口縁部が外反し、内面の頸部と体部の境に稜が付く。126・127では口縁部が大きく開き、頸部内面の口縁部・体部それぞれの境に稜が付く。体部外面はハケメ、内面はケズリを施す。

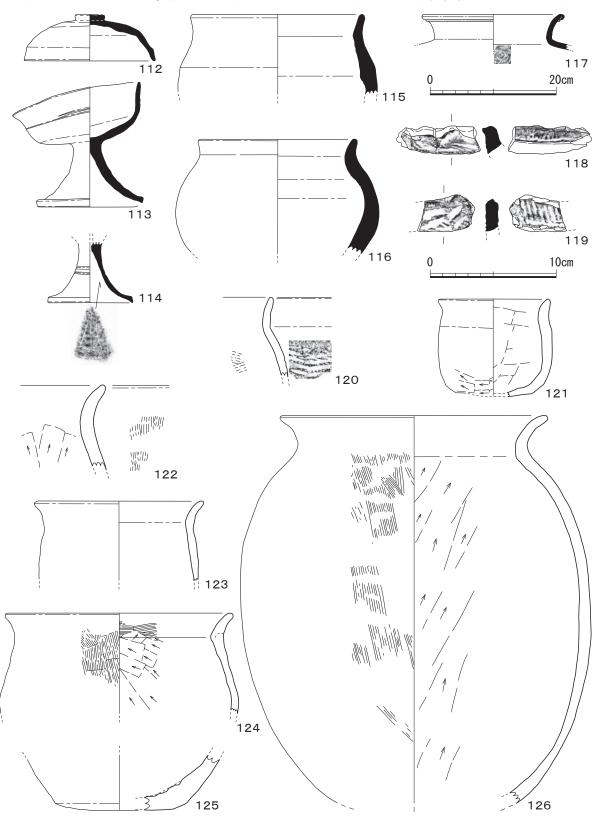
128・129は甑で、128の復元口径は15.2cmを測る。128の体部~口縁部は外傾し、端部はや や尖り気味に仕上げる。体部外面には把手が付き、ナデにより整形されている。129は体部下位~ 底部が残存しており、底部はやや内湾している。底部では穿孔が見られる。どちらも外面にハケメ、





内面にケズリを施す。130は移動式カマドの底部片である。外面はヘラ状工具によるナデを施し、 内面は指頭圧痕、底面ではヨコナデが見られる。

瓦(131~138) 131は丸瓦、132~138は平瓦で、137以外土師質である。凸面ではそれぞれ 平行タタキが見られる。凹面では弓切り痕が残るもの(131・135)、模骨痕が残るもの(132・

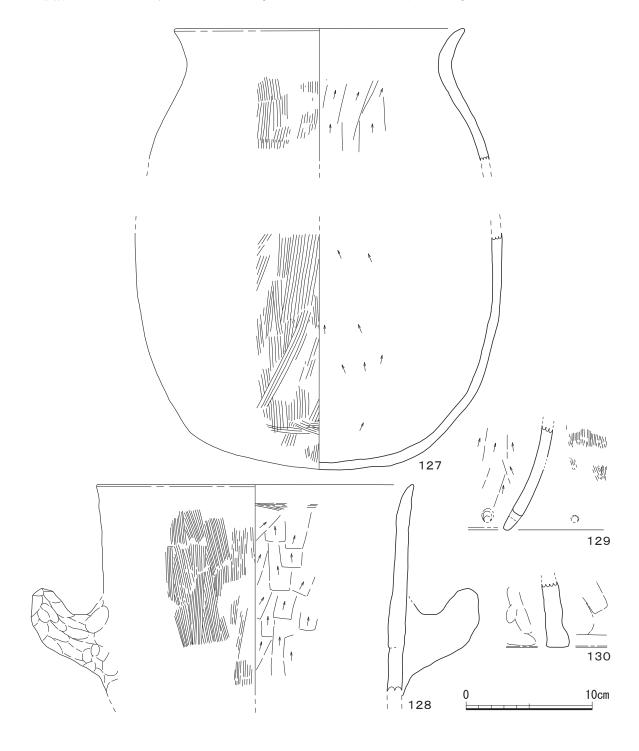


第28図 SX07出土遺物実測図②(117は1/6、他は1/3)

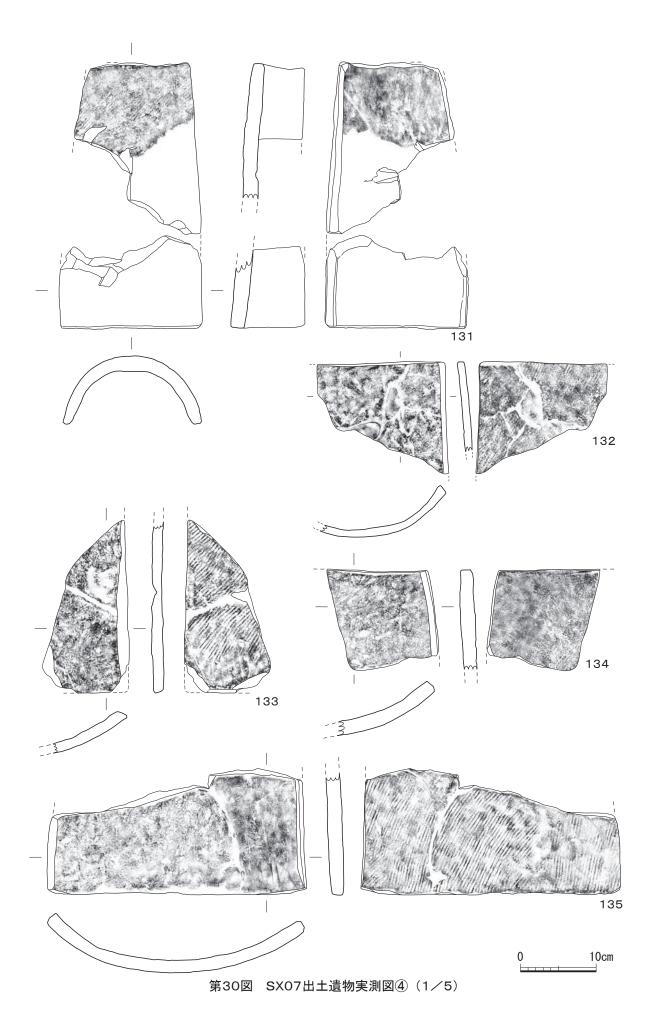
134・138)、弓切り痕と模骨痕が残るもの (136・137)、同心円文当て具痕が残るもの (133) がある。

**土製品(139~141)** いずれも土師質である。139・140は模造鏡。それぞれナデにより整形され、不整形の楕円を呈す。つまみ部に穿孔が見られ、139では穿孔とは別の未貫通の穴が確認できる。141はミニチュア土器の杯である。手づくねにより整形され、口縁端部の断面形状は三角形を呈す。 鉄滓 (142) 約4.0×2.5cm大を呈し、凹凸が全面で見られる。

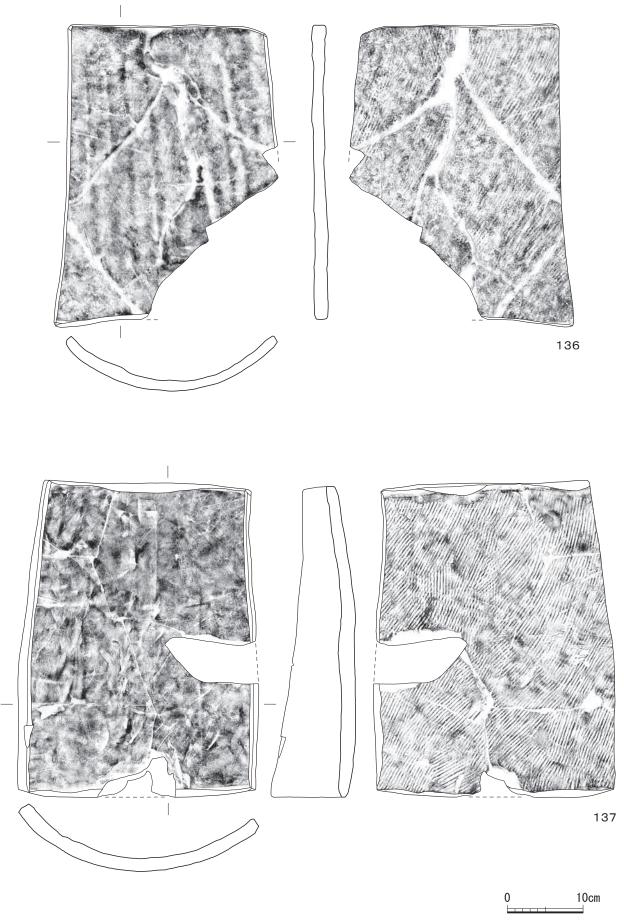
石製品(143) 滑石製の紡錘車である。全面に細かい研摩痕が見られる。



第29図 SX07出土遺物実測図③ (1/3)



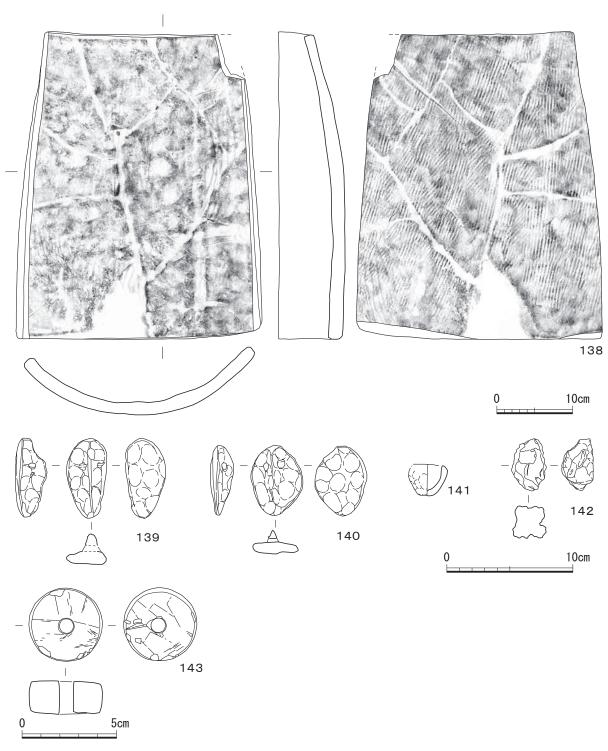
— 41 —



第31図 SX07出土遺物実測図⑤ (1/5)

# SX08(第33図、図版23·24)

2区西側、標高 $46.5\sim48.7$ mの南側斜面に位置する。周辺にはSD01、 $SX13\cdot16\cdot34$ があり遺構が切合うと考えられるが、前後関係は不明である。遺構は斜面をL字状に削ることで平坦部を作り出し、東西方向へ溝状にのびる。SX07と同様な遺構である。全長約23.60m、最大幅約5.3m、最深部約1.19mを測る。床面には多数のピットがあり、いずれかが建物を構成する柱穴である可能性が考えられる。



第32図 SX07出土遺物実測図⑥ (138は1/5、143は1/2、他は1/3)

出土遺物は多量にあり、須恵器の杯・甕、土師器の甕・支脚、瓦等が出土し、祭祀関連の遺物と 考えられる土製の模造鏡も見られた。しかし、これらの遺物の出土状況をみると、床面出土の遺物 もあるが、北壁の斜面や床面より上位で出土する遺物も多量にある。遺構西側ではピットが集中す る中に焼土が確認できる。埋土は黄色土を主体とする流入土が見られる。

出土遺物 (第34~36図、図版64~67)

**須恵器(144~185)** 144~150は杯H蓋で、口径は9.5~12.0cmを測る。器高は144・145・149が低く、他のものは比較的高い。146・149・150は器体が歪んでいるため法量が不確定である。口縁部は直立に近い傾きになるもの(144・145・147・148)と、口縁部が緩やかに開くもの(146・149・150)がある。天井部外面の調整は148・150が回転ヘラケズリ、147を除く他はナデである。

151・152は杯G蓋で、151の復元口径は8.8cm、152の口径は8.7cmを測る。器高は151は比較的低い。いずれもかえりは口縁部下に突出しており、152では中央が窪むボタン状のつまみが付く。

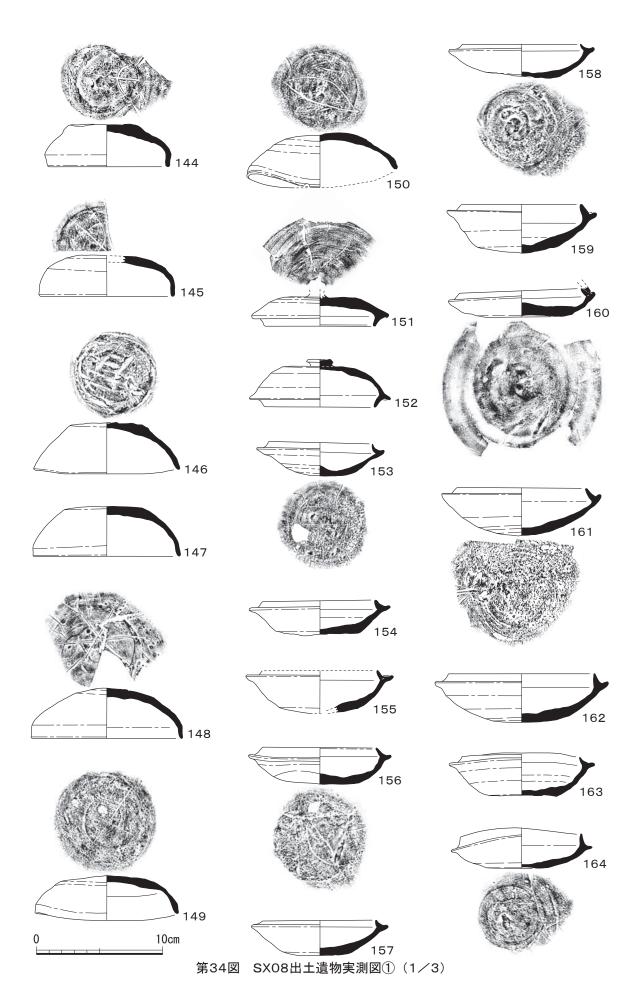
153~164は杯H身で、口径は8.3~11.6cmを測るが、157・160・163・164の器体は歪んでおり、法量は不確定である。160以外の杯部は比較的深い。立ち上がりは内傾しつつ端部が直立するもの(153・154・157・163)、内傾しているもの(155・156・158~161)、直立するもの(162・164)がある。底部外面の調整はナデ(153・154・156・158)と回転ヘラケズリ(160~163)、中央部周辺のみ回転ヘラケズリを施すもの(164)がある。165・166は杯B身である。いずれも低い高台が付き、165は体部・底部外面の境に稜が見られ、166は丸みを帯びる。167は杯か?復元口径13.2cmを測る。体部~口縁部は直線的にのび、大きく開く。

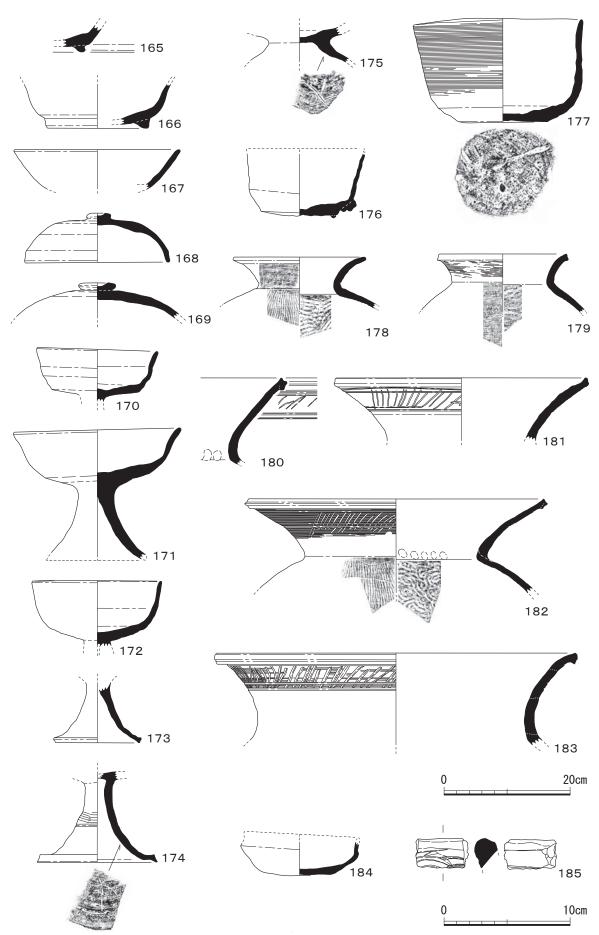
168・169は高杯蓋である。168は口径11.5cmを測り、口縁部はなだらかに開く。器高は比較的高い。168のつまみは中央が窪むボタン状で、169は中央が深く窪む輪状のつまみが付く。170~175は高杯である。復元口径は9.6~13.3cmを測るが、172は器体が歪んでいるため法量が不確定である。170・171は体部~口縁部にかけて外反し、172は外方にひらく。脚部はいずれも短脚で、171は緩やかに開き、173は裾部付近から大きく開く。174は裾部が平坦を呈するほど開き、端部が断面三角形を呈す。174・175は脚部内面でへう記号が見られる。

176・177は椀で、177の口径は11.1~13.5cmを測るが、器体が歪んでいるため法量不確定である。176は口縁部が欠損しているが、端部が直立を呈すようである。177は口縁部がやや外反し、口縁部~体部外面にカキメを施す。

178・179は甕である。178・179の復元口径はそれぞれ21.1cm、20.8cmを測る。口縁端部は丸く仕上がるもの(178)、四角に仕上がるもの(179)がある。178は頸部外面にヘラ記号が見られ、179ではカキメが施される。180~183は大甕で、181の口径40.4cm、182・183の復元口径はそれぞれ48.0cm、57.2cmを測る。口縁端部はいずれも断面四角形を呈するが、180・182では四角形の突帯、183では三角形の突帯が付く。いずれも頸部外面では2段に分けて沈線が施され、その沈線間~沈線下で連続斜線文が見られる。加えて、182・183ではカキメも確認できる。184は杯と思われる。形態は模倣杯に似る。口縁部と体部の境は段状を呈し、底部外面はナデを施す。185は切削物で、厚さ1.9cmを測る。外面ではナデ、内面は同心円文当て具痕が見られる。



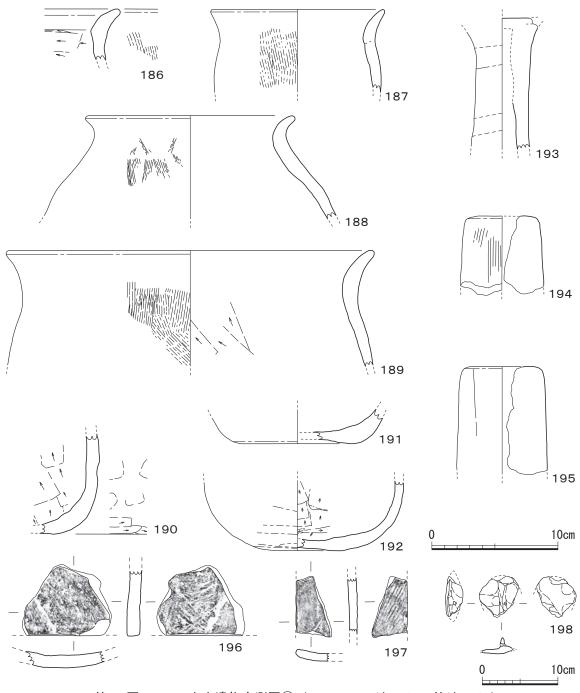




第35図 SX08出土遺物実測図②(178~183は1/6、他は1/3)

土師器 (186~195) 186~192は甕で、復元口径は187が13.8cm、188が16.6cm、189が29.2cmを測る。186・188の口縁部は短く、187・189の口縁部は比較的長い。また、頸部~体部の形状はあまりふくらみを持たないもの(187・189)、すぼまった頸部から体部はふくらむ形状を呈すもの(188)がある。190~192は底部が残存するが、いずれも平底に近い形状である。調整は頸部~体部外面ハケメ、内面ではヘラケズリを施す。底部外面は190で手持ちヘラケズリが見られ、191はナデ、192では体部下位外面にヘラケズリ後ナデを施す。

193は高杯で、割れ面では杯部と脚部の接合痕跡が見られる。また、脚部内面ではシボリ痕が確認できる。194・195は円柱状の支脚で、同一個体の可能性がある。194ではハケメが見られ、195は面取りを行ったような平坦部が確認できる。



第36図 SX08出土遺物実測図③ (196・197は1/5、他は1/3)

瓦(196·197) 平瓦で、土師質である。いずれも凹面は摩滅して、凸面では平行タタキが残る。 土製品(198) 模造鏡で不整な円形を呈すようである。ナデにより整形され、つまみ部では穿孔 が見られる。

## SX09 (第37図、図版24·25)

2 区西側、標高52.3~54.0 mの南側斜面に位置し、S X 11と切合うが前後関係は不明である。 平面プランは不整形な隅丸方形と長楕円形が重なる形状を呈し、長さは6.17 m、幅4.13 mを測る。 長楕円形の部分は上位にあり、溝状を呈して、西端部で南へ直角に曲がり、下位の隅丸方形遺構に 続く。長楕円形の部分と隅丸方形部分の間には階段状の平坦部がある。隅丸方形部分の北東部上位 平坦面には焼土層が確認されている。埋土は褐灰色土を主体とし、出土遺物には須恵器・土師器が ある。

## 出土遺物 (第38図、図版67·68)

須恵器(199~207) 199は杯H蓋で、口径12.9cmを測る。器高は比較的高い。口縁部は直立に近い傾きになり、天井部外面は中央部周辺に回転へラケズリを施す。200~203は杯H身で、復元口径は9.2~11.2cmを測る。杯部は比較的深い。立ち上がりは内傾しつつ端部で直立に近い傾きになるもの(200・203)、内傾するもの(201・202)がある。底部外面調整にはナデ(200・201)と回転へラケズリ(202・203)がある。204~206は杯G身で、復元口径は10.55~11.5cmを測るが、206は器体が歪んでいるため法量は不確定である。204は体部~口縁部は直線を呈し、外傾する。205・206は体部で外反し、その傾きのまま上方にのびる。204・205では体部外面に沈線を施す。207は短頸壺蓋で、復元口径9.0cmを測る。口縁部は直立に近い傾きになり、端部は断面四角形を呈す。

#### SX10 (第39図、図版25)

2区西側、標高 $46.1\sim46.3$ mのSX07内の西側に位置し、SX07検出時に確認された。平面プランは楕円形を呈し、長さ0.98m、幅0.77m、最深部0.24mを測る。土層観察では中間層に炭層(3層)があり、その下層(5層)には黄褐色土が堆積している。炭層の広がりと北壁面の酸化範囲からSX10はSX07に伴うカマドの可能性が高い。

## SX11 (第37図、図版26)

2区西側、標高51.9~53.0mの南側斜面に位置し、SX09と切合うが前後関係は不明である。 平面プランは長楕円形を呈し、長さ7.32m、幅2.76mを測る。遺構は斜面に2段の平坦面を作り 出している。上段部では須恵器の高杯・甕が出土した。埋土は褐色土を主体とする。

#### 出土遺物 (第38図、図版68)

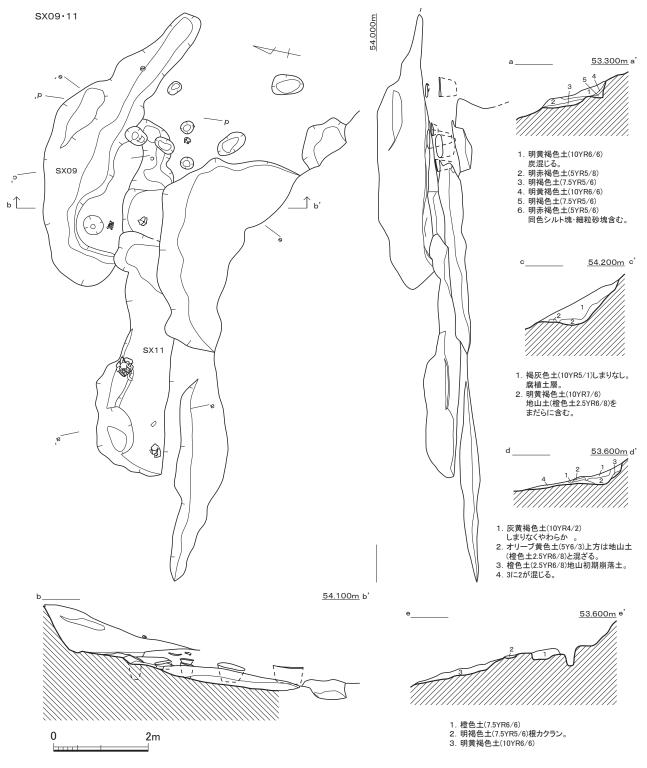
**須恵器(208~210)** 208は有蓋高杯で、口径10.7cmを測る。杯部は比較的深く、立ち上がりは内傾しつつ端部が直立に近い傾きになる。脚部は短脚で、裾部が大きく開くものと思われる。 209は高杯で、復元口径9.4cmを測る。口縁部はやや外反し、体部外面で沈線が見られる。脚部は短脚で、裾部にかけてなだらかに開く。

210は甕で、復元口径21.0cmを測る。口縁端部は四角形を呈する。頸部外面では斜線のヘラ記号が見られる。体部~底部外面では擬格子タタキ後カキメを施す。

## SX12 (第39図、図版26·27)

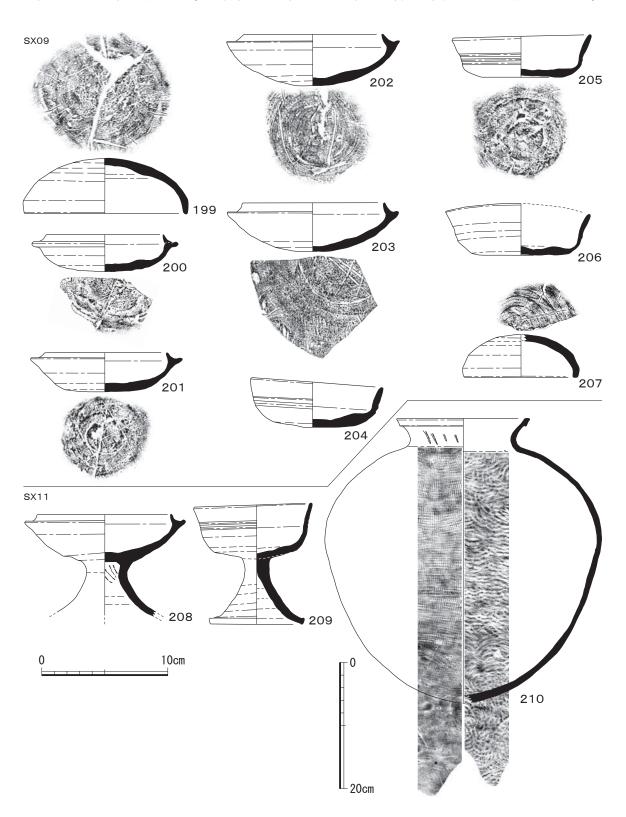
2区西側、標高46.3~46.6mに位置し、S X 07内中央部で検出された。平面プランは楕円形を呈し、長さ0.95m、幅0.78m、深さ0.26mを測る。床面は地形の傾斜に沿ってやや傾き、ピット状の浅い窪みが確認できる。S X 07内のカマドか?埋土は上層に焼土を多量に含む明褐色土が堆積し、下層は黒褐色土を主体とする。出土遺物には土師器があるが図化できなかった。

## SX13 (第39図、図版27·28)

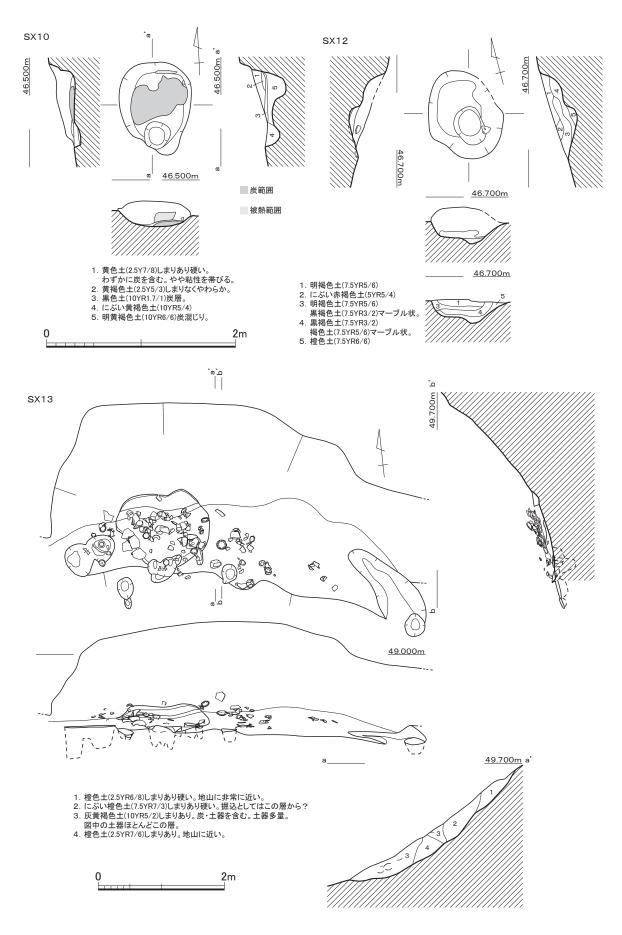


第37図 SX09・11実測図 (1/80)

2 区西側、標高47.8~49.5mの南側斜面に位置し、S X 08と切合い関係にあるが前後関係は不明である。平面プランは不整形な長方形を呈し、長さ5.83m、幅2.74m、最深部1.4mを測る。床面では溝状遺構・溜り状遺構・ピットが見られ、多量の遺物が散在する。遺物には須恵器の杯・甕、土師器の甕、瓦等がある。土層観察では、埋土は炭化物を含む灰黄褐色土を主体としている。



第38図 SX09・11出土遺物実測図(210は1/6、他は1/3)



第39図 SX10・12・13実測図 (SX10・12は1/40、SX13は1/60)

出土遺物 (第40・41図、図版68~72)

須恵器(211~233) 211~215は杯H蓋で、口径は9.4~11.7cmを測り、212・213の器高は比較的低い。211・215は器体が歪んでいるため法量が不確定である。いずれも口縁部は直立に近い傾きになり、天井部外面はナデで平坦を呈す。216・217は杯G蓋で、ほぼ完形である。天井部外面は216で中央の凹む、有蓋高杯のつまみに似たつまみが付き、外面約 2/3にカキメを施す。217ではボタン状のつまみが中央部よりややずれた位置に付く。いずれもかえりは口縁部下に突出する。

218~224は杯H身で、口径は9.1~14.4cmを測る。杯部は218・219以外は比較的深い。218・223は器体が歪んでおり法量は不確定である。立ち上がりは内傾しつつ端部で直立に近い傾きになるもの(218・220・223・224)、内傾するもの(219・222)、三角形の突起状を呈するもの(221)がある。また、222では立ち上がり端部に細かい割れが多数見られ、これは使用痕の可能性が考えられる。いずれも底部外面はナデである。225は杯G身で、復元口径は9.6cmを測る。体部はやや外反し、口縁部は直線的にのびる。底部外面は回転へラ切り後未調整である。

226・227は高杯である。いずれも短脚で、裾部付近から屈曲し大きく開くようである。227は脚部外面に沈線が施され、内面ではヘラ記号が見られる。228は椀で、復元口径12.2cmを測る。体部はやや内傾し、口縁部では直立に近い傾きになる。体部外面には沈線を巡らせ、底部外面はナデを施す。229は鉢で、椀形を呈し、復元口径20.0cmを測る。体部はやや内湾しながら口縁部に続き、端部はわずかに外反する。230は横瓶で、復元口径14.0cmを測る。口縁端部は四角に仕上げられ、体部外面は平行タタキ、内面では同心円文当て具痕が見られる。231は甑で、須恵質である。体部下位は斜めに傾き、端部は直立する。外面ではハケメが見られる。232は甕で、復元口径20.4cmを測る。口縁部端部は丸く仕上げる。233は切削物で、厚さ1.3cmを測る。外面は平行タタキ、内面では同心円文当て具痕が見られる。

**土師器(234~238・241)** 234は甕で、復元口径21.0cmを測る。口縁部は外傾し、頸部内面には稜が付く。235~237は甑で、237では底部内面に線刻が見られる。235・236の体部外面ではハケメが見られ、把手部はナデで整形される。237の体部下位外面はヘラケズリ後ナデを施す。235・237は底部で穿孔が見られる。

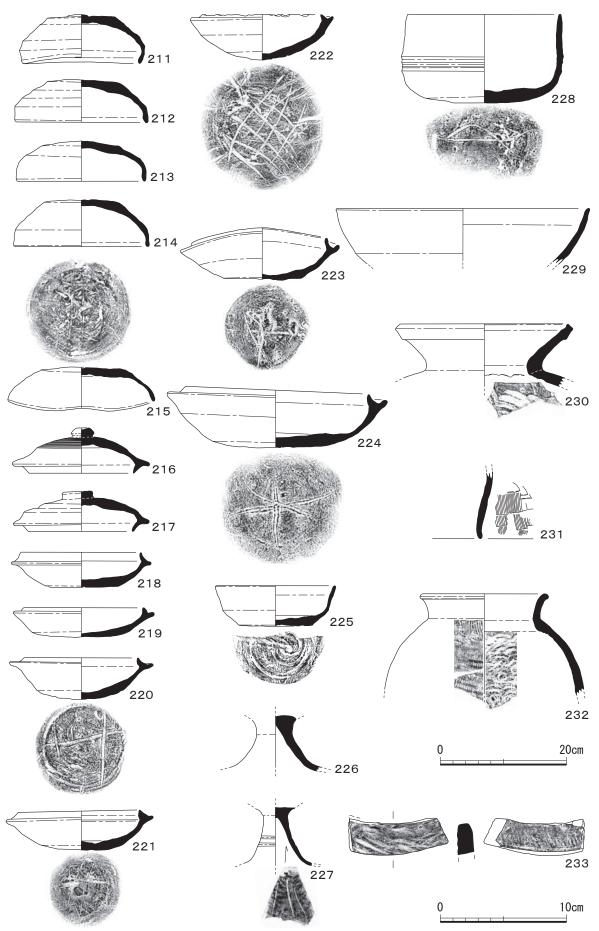
238は鉢で、復元口径13.5cmを測る。体部は直線的にのび、口縁部は内湾気味になる。241は ミニチュア土器の杯で、杯の深さは比較的浅い。

瓦(240) 丸瓦で、土師質である。凸面では平行タタキが見られる。

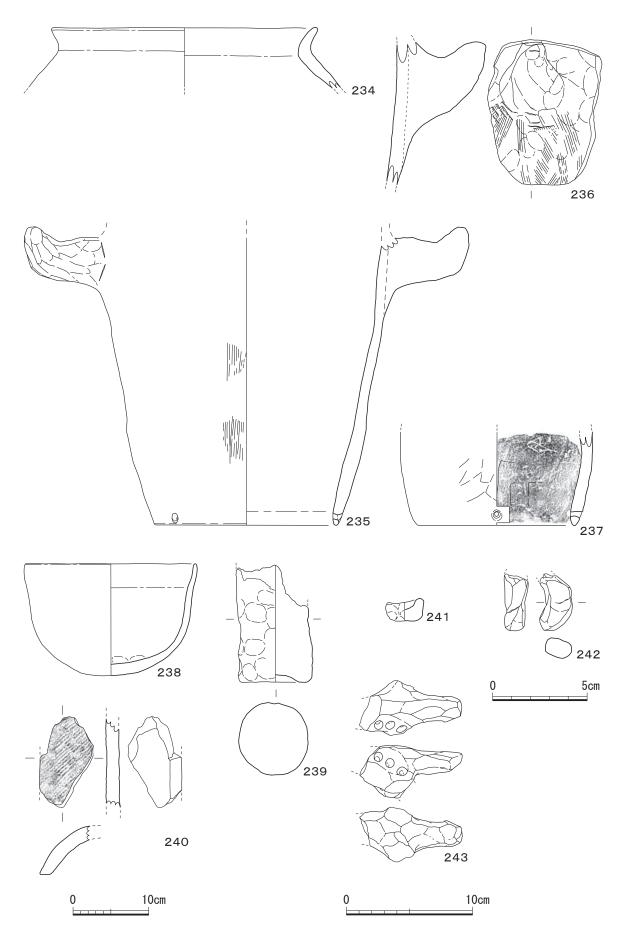
土製品(239・242・243) 239は円柱状の支脚である。ナデにより整形され、底面は上げ底状になる。242は勾玉状土製品で、厚さは1.0cmを測る。ナデにより整形され、断面形状は隅丸長方形を呈す。243は土馬であろうか。須恵質で、3ヶ所に穴を穿つ。

## SX14 (第42図、図版28)

2区西側、標高45.6~46.6mの南側斜面に位置し、周辺にはSX08・15・17・34がある。溝状で、全長5.07m、幅1.59m、最深部0.55mを測る。床面には土坑・ピットが散在し、埋土は黄褐色土が主体で、シルト質土と砂質土が互層になる。出土遺物には須恵器や土師器がある。



第40図 SX13出土遺物実測図①(232は1/6、他は1/3)



第41図 SX13出土遺物実測図②(240は1/5、242は1/2、他は1/3)

#### 出土遺物 (第44図)

土師器(244) 甕で、口縁部が緩やかに外反する。

SX15 (第42図、図版29)

2 区西側、標高45.0~46.6mの南側斜面に位置し、周辺にはSC01・SD01・SX14・17・20がある。平面プランは不整形な隅丸三角形を呈し、長さ4.66m、幅2.78m、最深部1.0mを測る。埋土は黄褐色土を主体とし、上層では互層状に堆積する。出土遺物には須恵器・土師器があるが、図化できるものはなかった。

#### SX16 (第43図、図版29・30)

2区西側、標高48.0~48.7mの南側斜面に位置し、SD01・SX13とは切合うが前後関係は不明である。平面プランは長楕円形を呈し、長さ6.95m、幅2.35m、最深部0.6mを測る。遺構内東側では多数のピットが見られ、中段平坦面には焼土がある。焼土範囲では支脚と思われる立石が確認でき、カマドが存在していたと考えられる。しかし、残存状態は悪く袖等の施設は不明である。出土遺物には多量の須恵器・土師器があり、出土状況は遺構外斜面から遺構内に流れ込んでいる。埋土は黄褐色土を主体とする流入土である。

出土遺物 (第44・45図、図版72・73)

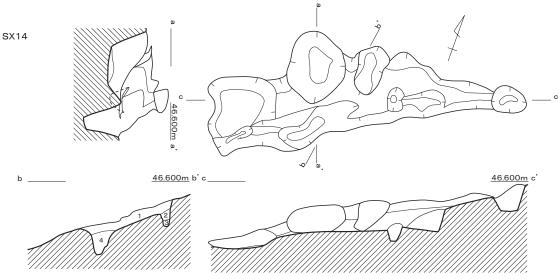
**須恵器**(245~274) 245~247は杯H蓋で、口径11.0~11.6cmを測り、器高は247以外は比較的高い。口縁部は直立に近い傾きになるもの(245・247)、なだらかに開くもの(246)がある。いずれも天井部外面はナデで仕上げる。248~250は杯G蓋で、口径は7.9~11.4cmを測る。いずれも器高は比較的低く、かえりは口縁部下に突出する。248では乳頭状、249では中央部がくぼむボタン状のつまみが付く。250は中央部がくぼむ扁平なボタン状のつまみで、中心からずれた位置に付く。

251~257は杯H身で、復元口径は8.7~11.2cmを測り、杯部は251のみ浅い。立ち上がりは内傾しつつ端部で直立に近い傾きになるもの(251~255)、内傾するもの(256・257)がある。底部外面は252で回転へラケズリが施されるが、他のものはナデで仕上げる。258~263は杯G身で、復元口径は9.4~11.0cmを測る。258は口縁部が緩やかに開き、体部下位に沈線を施す。259は口縁部がやや外反し、盤に近い器形になる。260は体部~口縁部にかけて直線的にのび、やや外傾する。261・263は体部中位で屈曲するが、261の口縁部は外反し、263は直立に近い傾きになる。262は体部に丸みを帯びながら、口縁部で直立する。底部外面の調整には、回転へラケズリ(258)、回転へラ切り後ナデ、(259・261・263)、回転へラケズリ後ナデ(260)、手持ちヘラケズリ(262)がある。

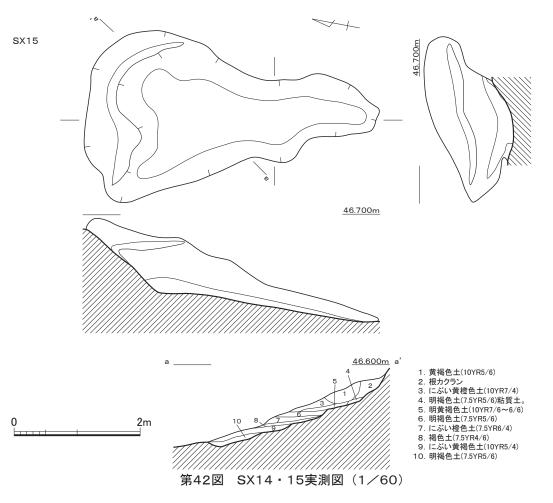
264は有蓋高杯で、口径8.8cmを測る。杯部は深く、立ち上がりは内傾しつつ端部が直立に近い傾きになる。受部には蓋の口縁端部と思われる破片が付着する。265~269は高杯で、265・266の復元口径はそれぞれ9.1cm、9.2cmを測る。265・266は体部~口縁部は直線的にのび、やや外傾する。いずれも体部外面に沈線を施す。267・268は短脚で、なだらかに裾部が開くと思われる。269はなだらかに開く脚部から裾部付近で緩やかに屈曲し端部に至る。

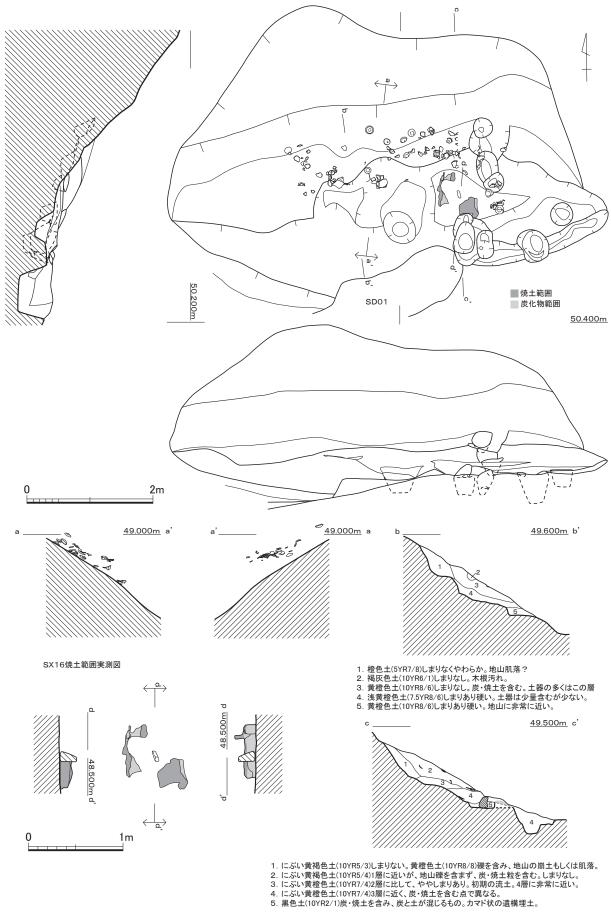
270は椀で、復元口径10.4cmを測る。体部~口縁部は細かな凹凸がありながら、直線的に上方

にのび、体部外面に沈線を施す。271は短頸壺蓋で、口径は7.5cmを測る。口縁部は直立に近い傾 きになり、端部は断面四角形を呈す。天井部は外面約 1/3 に回転へラケズリを施す。 $272 \cdot 273$ は短頸壺で、272は口径5.6cm、273は復元口径10.8cmを測る。272は扁平な球形を呈す体部から、 口縁部は直立する。273の口縁部はやや外反気味になり、体部形状は不明である。体部内面ではハ ケメ状の工具痕が見られる。274は鉢で、復元口径は18.0cmを測る。口縁部は直線的に上方にの

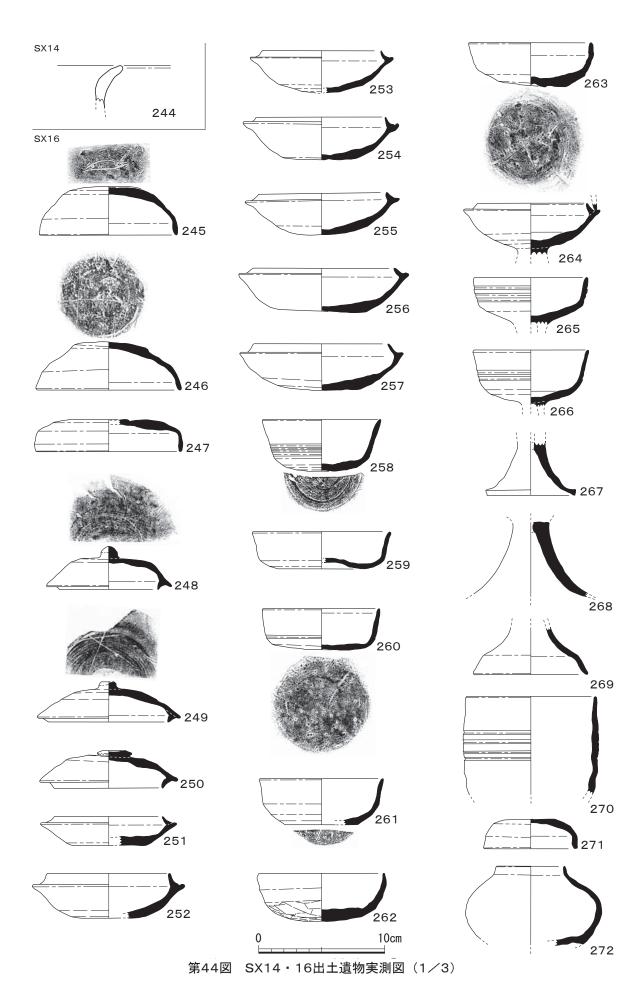


- 1. 明黄褐色土(10YR6/6)にぶい黄橙色土(10YR7/4)塊含む。
- 2. 明黄褐色土(10YR7/6~6/6) 3. にぶい黄橙色土(10YR7/4~6/4)粗礫。
- 4. にぶい黄橙色土(10YR6/4)黒色土(10YR2/1)含む。





第43図 SX16実測図 (焼土範囲実測図は1/40、1/60)



— 60 —

びながら、端部は嘴状に整形し、上端面を平坦に仕上げる。

土師器(275~277) 275・276は甑である。275は把手部が残存し、ナデによる整形が確認できる。276は体部下位が内傾し、底部で直立する。277は甕で、復元口径12.8cmを測る。須恵器の甕を模倣したような形状で、口縁端部は折り曲げて、断面鳥頭形状を呈す。

鉄製品(278) 鎌である。厚さ0.2cmを測り、切先部分が残存する。

SX17 (第46図、図版30・31)

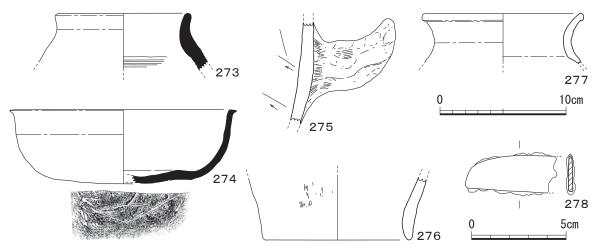
2区西側、標高43.7~45.1mの南側斜面に位置し、SC01と切合うが前後関係は不明である。 遺構は斜面を削り、平坦面を造り出し、溝状を呈す。全長約10.95m、幅3.81m、最深部0.60m を測る。床面には多数のピットがあり、建物を構成する柱穴と考えられる。遺物は須恵器・土師器 が見られる。埋土は黄色土を主体とする。

出土遺物 (第47図、図版73・74)

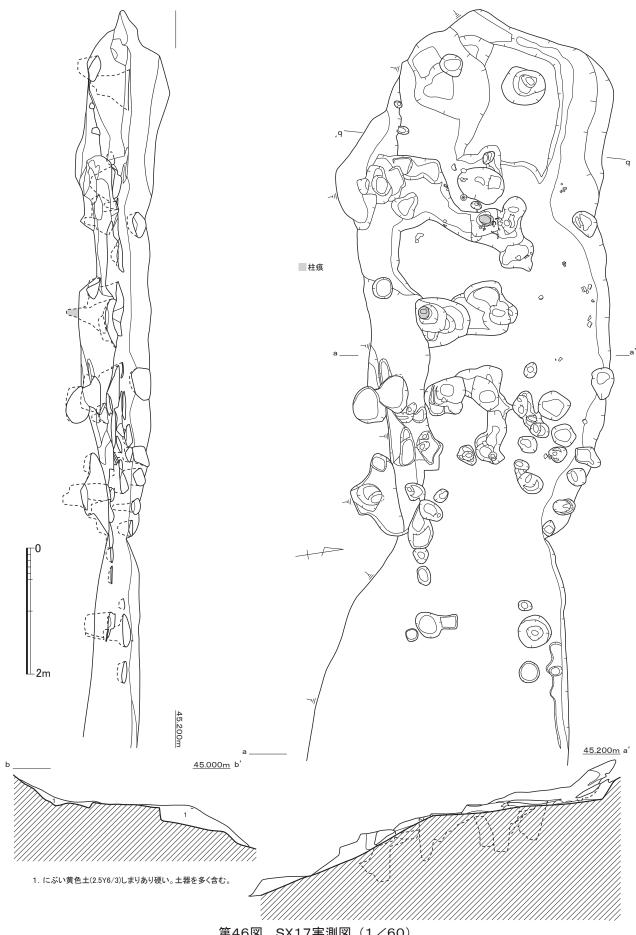
**須恵器**(279~287) 279は杯H蓋で、口径は12.6cmを測るが、器体が歪んでいるため法量は不確定である。口縁部はなだらかに開き、天井部は外面約1/2に回転へラケズリを施す。280~282は杯H身で、280・281の復元口径はそれぞれ9.5cm、9.9cm、282は口径11.6cmを測る。280は立ち上がりが内傾し、杯部が浅い。281・282は立ち上がりが内傾しつつ端部で直立し、杯部が深い。底部外面は281はナデ、282は回転へラケズリを施す。

283は高杯蓋で、中央がくぼむボタン状のつまみが中心からややずれた位置に付く。口径は11.2 cmを測り、器高は比較的高い。口縁部は直立に近い傾きになる。天井部は外面約1/3に回転へラケズリが施される。284は高杯で、脚部内面にヘラ記号を施す。短脚の脚部は、裾部で緩やかに屈曲する。285は椀で、復元口径は13.5cmを測る。体部は丸みを持ち、口縁部で外反する。底部外面は回転ヘラケズリを施す。286は甕か。復元口径14.6cmを測る。口縁部は外傾し、頸部と体部の境では外面に段が見られ、内面では稜が付く。体部内面はヘラケズリを施す。287は切削物で、厚さ1.8cmを測る。外面はヨコナデ、内面では同心円文当て具痕が見られる。

**土師器(288~290)** 288・289は甑で、把手が付く。いずれも把手はナデにより整形し、体部内面はヘラケズリを施す。289の体部外面はハケメが見られる。290はミニチュア土器の杯で、手づくね整形である。杯の深さは比較的深い。



第45図 SX16出土遺物実測図(278は1/2、他は1/3)



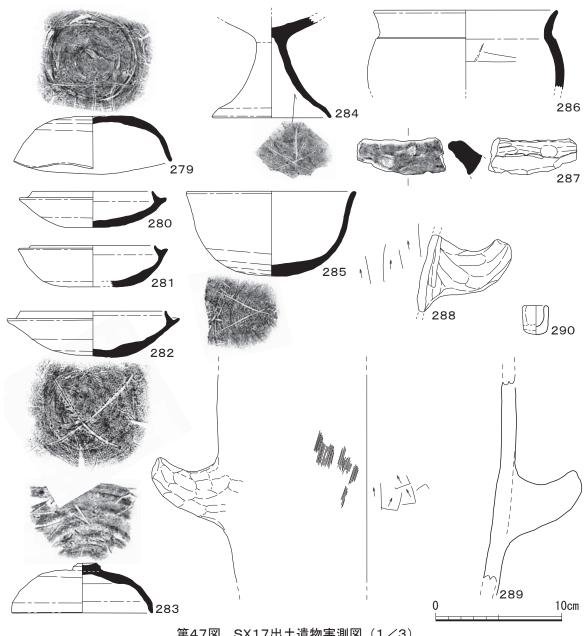
第46図 SX17実測図 (1/60)

## SX18 (第48図、図版31・32)

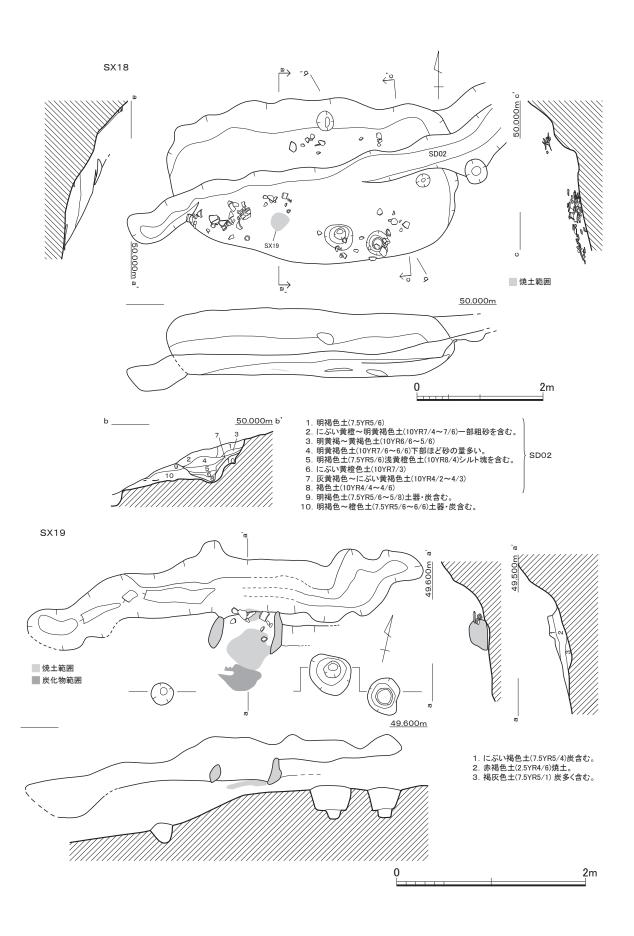
2区中央部、標高48.8~49.9mの南側斜面に位置し、遺構の中央をSD02・SX19に切られる。 平面プランは隅丸方形を呈し、長さ4.5m、幅2.60m、最深部0.47mを測る。出土遺物には須恵器・ 土師器が見られる。埋土は褐色土を主体とし、炭化物を含む。

# 出土遺物(第49図、図版74)

須恵器(291~301) 291~295は杯H蓋で、口径は10.3~11.9cmを測り、器高は比較的低い。 口縁部はなだらかに開くもの (291)、直立に近い傾きになるもの (292~295) がある。天井部 外面は回転へラ切り後ナデを施すもの(291~293・295)、回転へラケズリで仕上げるもの(294) があり、前者は天井部が平坦を呈するものが多く、後者は丸く仕上がる。295は天井部を打ち欠い て穿孔している。296は杯G蓋で、口径は8.2cmを測る。器高は低いが、器体が歪んでいるため 法量は不確定である。かえりは口縁部下に突出する。天井部外面はヘラ切り後ナデを施す。297は

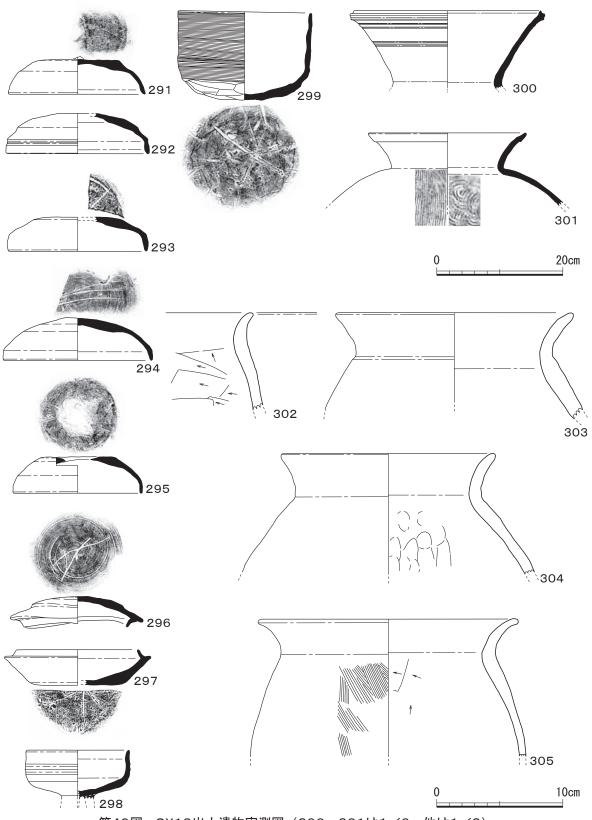


第47図 SX17出土遺物実測図(1/3)



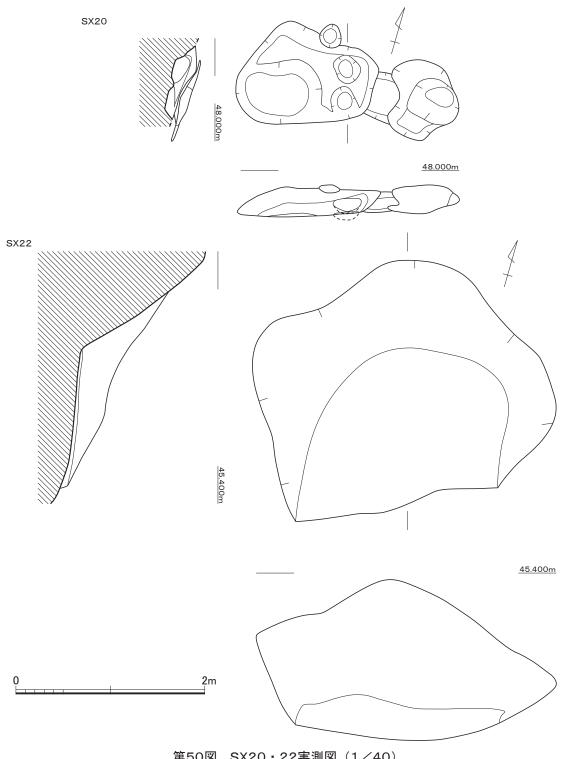
第48図 SX18・19実測図 (SX18は1/60、SX19は1/40)

杯H身で、復元口径は9.7cmを測り、杯部は比較的深い。立ち上がりは内傾し、底部外面はナデで仕上げ、平底になる。298は高杯で、復元口径8.1cmを測る。口縁部はわずかに外反し、体部外面では沈線が見られる。杯底部は回転ヘラケズリを施す。299は椀で、口径10.7cmを測る。体部~口縁部は直線的に上方にのび、外面ではカキメを施す。底部外面は手持ちヘラケズリにより丸く



第49図 SX18出土遺物実測図 (300・301は1/6、他は1/3)

仕上げる。300・301は甕で、復元口径はそれぞれ29.6cm、25.0cmを測る。300の口縁端部は 四角形に仕上げ、外面に2段の沈線を巡らす。301の口縁端部は丸く整形し、比較的薄く仕上げる。 土師器(302~305) いずれも甕で、303~305の復元口径は17.1~20.7cmを測る。302は体 部と頸部の境が不明瞭で、口縁部は外反する。303~305は頸部が屈曲し、口縁部の長さは長い。 体部外面は305はハケメが見られ、内面は302・305はケズリを施し、304で指頭圧痕を残す。 SX19 (第48図、図版32・33)



第50図 SX20・22実測図(1/40)

2区中央部、標高48.7~49.5mの南側緩斜面に位置し、S X 18を切る。遺構は全長約4.23m、最大幅0.65m、最深部0.46mを測る溝状遺構と3基のピット、0.78×0.6m範囲の焼土で構成される。焼土は袖部と思われる部分や床面が酸化しているため、カマドと考えられる。また、焼土後部に溝状遺構が東西方向にのび、前面にはピットがある。それぞれ住居を構成する壁溝・主柱穴の可能性がある。出土遺物は須恵器・土師器が見られる。

#### SX20 (第50図、図版33)

2区西側、標高47.5~47.8mの南側緩斜面に位置し、周辺にはSD01、SX15・16がある。 平面プランは不整形な方形と円形が組み合った形状を呈し、長さ2.35m、幅1.07m、最深部0.33 mを測る。遺物は東側の略円形部分で須恵器が出土したが図化できなかった。

#### **SX21** (第51・52図、図版33~38)

2区東側、標高48.4~51.4mの南東側斜面に位置し、周辺にはSX23~29・31~33がある。遺構は斜面をL字状に削ることで平坦面を造り出し、北東・南西方向へ溝状にのびる。全長約24.0m、最大幅3.02m、最深部1.16mを測る。床面には多数のピットがあり、中央部では遺構形状に沿って直線的に並ぶ。遺構北側の一段高い平坦部では焼土が広がる。遺物は遺構全面で出土し、須恵器の蓋杯・甕、土師器の甕等が多量に見られる。遺物出土状況と土層堆積状況を観察すると、貼床と思われる層の上面で検出された遺物も確認できる。埋土は上層が黄色土で、下層は橙色土を主体とする。上層は上方からの地山等の流入土、下層には貼床も認められる。また、p-p'面土層では12・13層と14・15層部分で人為的に掘削したと思われる層が観察できる。したがって、北側の一段高い平坦部の後に、長い平坦部が作られた可能性がある。

## 出土遺物 (第53~68図、図版75)

須恵器 (306~557) 306~363は杯H蓋で、復元口径は9.5~13.2cmを測る。口縁部は直立に近い傾きになるもの(306・308~310・315・316・319・321・323・325~330・334~336・342・343・345・347~350・353~358・362・363)、なだらかに開くもの(307・311~314・317・318・320・322・324・331~333・337~341・344・346・351・352・359~361)がある。天井部外面ではヘラ切り後ナデを施すもの(306・317・319・322・325・326~328・330・332~334・340・342・344~347・349・351~353・356・363)、回転ヘラケズリで仕上げるもの(307・309・311・312・315・316・318・320・321・324)、ナデを施し、一部でヘラケズリが見られるもの(308・313・331・336・338・339・341・343・350・354・357~360・362)、ヘラ切り後未調整のもの(337・355)、手持ちヘラケズリを施すもの(361)がある。回転ヘラケズリのものは天井部が丸く仕上がるが、その他の調整のものは比較的天井部が平坦になる場合が多い。364~371は杯G蓋で、天井部外面では371以外につまみが付き、乳頭状(364~369)と擬宝珠状(370)に分かれ、366・367・368ではカキメを施す。いずれもかえりは口縁部下に突出する。

 $372\sim481$ は杯H身で、、器体が歪むものも多く見られる。口径は $8.2\sim11.65$ cmを測り、杯部は $392\cdot416$ が浅く、他のものは比較的深い。立ち上がりは内傾しながら端部で直立に近い傾きになるもの( $372\sim374\cdot377\cdot379\cdot382\cdot384\cdot386\cdot389\cdot392\cdot394\cdot396\cdot398\cdot400$ ・

402・411~413・415・416・420~422・426・430~432・436~439・444~449・451・452~455・458・460・461・463~467・470・472・473・477・480・481)、内傾するもの (375・376・378・380・381・383・385・387・390・391・393・395・399・401・403・404・405・407・408~410・414・417~419・423~425・427・428・429・433~435・440~443・450・456・462・468・469・471・474~476・479)、断面形状が三角形を呈す もの (388・397・406・457・459・478) がある。底部外面の調整は回転ヘラケズリを施すもの (372・374・384・390~393・436・444・454・468・472・473・476・478・479)、手持ちヘラケズリで仕上げるもの (480)、ヘラ切り後未調整のもの (386・405・443)、ヘラ切り後ナデ、または一部にケズリを施すもの (前述以外のもの) がある。ケズリで仕上げた底部は丸みを持つものが多く、ナデで仕上げたものは底部が平底を呈するものが多い。

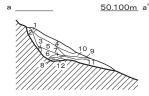
482~494は杯G身で、口径は9.35~11.2cmを測り、器体が歪むものが多い。口縁部は直線的に上方にのびるもの(482~484・491~494)、外反するもの(485~488)、丸みのある体部から口縁部で大きく外反するもの(489)、丸みがある体部から口縁部は直線的にのびるもの(490)がある。体部外面では沈線を施すものがあり、沈線には一周めぐらす沈線(482・483・487・488・490・491・494)と、らせん状に3・4周する沈線(492・493)がある。底部外面は回転ヘラケズリを施すもの(484・490)、ヘラ切り後ナデ、または一部にケズリを施すもの(483・485・486~489・493・494)、ヘラ切り後未調整のもの(482)がある。

495~499は高杯蓋で、口径は復元10.7~12.5cmを測り、器高は比較的高い。口縁部は直立に近い傾きであるもの(495・497)、なだらかに開くもの(496・498・499)がある。いずれもつまみが付き、扁平なボタン状で中央部がくぼむもの(495・497~499)、ボタン状のもの(496)がある。 $500\sim504$ は有蓋高杯で、復元口径は $9.2\sim11.9$ cmを測る。立ち上がりは内傾しているもの( $500\sim502\cdot504$ )、内傾しつつ端部が直立に近い傾きになるもの(503)がある。脚部はいずれも短脚で、裾部がなだらかに開くもの( $500\cdot501$ )、裾部付近で屈曲するものがある( $502\cdot503$ )。

 $505\sim524$ は高杯で、 $505\sim515$ の口径は $8.6\sim16.2$ cmを測る。杯部は体部から口縁部にかけて直線的にのび、体部外面に沈線を施すもの( $505\cdot512$ )、口縁部が緩やかに外反し、体部外面に沈線を施すもの( $506\cdot507\cdot514$ )、施さないもの(513)、体部~口縁部にかけて直線的にのび、大きく開くもの(509)、それに加え体部外面に沈線を施すもの(508)、杯部が他のものよりも深く、底部と体部の境が屈曲し、口縁部が外反するもの(510)、体部に丸みを帯び、口縁部が外反するもの(511)、口径に対し杯部の高さが低く、盤に類似する器形で口縁部が外反し、体部外面に沈線を施すもの(515)がある。また、外面でカキメが見られるもの( $505\cdot509\cdot514\cdot515$ )がある。脚部は短脚で、裾部が水平になるまで開くものの内、端部が断面三角形を呈すもの( $505\cdot519$ )、断面四角形を呈すもの( $508\cdot522$ )があり、脚部が緩やかに開くもの( $506\cdot517\cdot518\cdot520\cdot523$ )、脚部が緩やかに広がり、裾部で大きく開くもの( $507\cdot509\cdot511\cdot517\cdot521$ )、脚部が極端に短く、大きく開くもの(510)、脚部が緩やかに広がり端部が外側に跳ね上がるもの(516)、脚部が大きく広がり、裾部で屈曲するもの(524)も見られる。



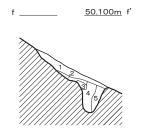
第51図 SX21実測図(1/80)



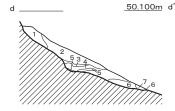
- 1. 橙色土(2.5YR6/8)しまりなくやわらか。地山の流土。 2. 橙色土(2.5YR7/8)しまりなくやわらか。地山の流土。 3. にぶい黄褐色土(10YR5/3)しまりなくやわらか。腐植土層。

- 4. にぶい黄色土(2.5Y6/3)しまりあり。炭を含む。 5. にぶい橙色土(7.5YR7/4)しまりあり硬い。炭を含む。地山崩落土。
- 5. にふい橙色工 (1.5YR//4)しまりあり硬い。灰を含む。地川朋洛工。
  6. 橙色土(2.5YR7/8)しまりあり硬い。地山崩落土。
  7. 灰赤色土(2.5YR4/2)しまりなくやわらか。炭を含む。焼土上の炭層。
  8. 赤褐色土(5.5YR4/6)しまりあまりなし。焼土層。
  9. 浅黄橙色土(7.5YR8/6)しまりあり硬い。焼土を含む。貼床?

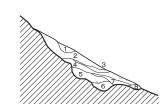
- 10. 浅黄色土(2.5Y7/3)しまりなくやわらか。炭を含む。 11. にぶい橙色土(7.5YR7/4)しまりあり硬い。焼土を含む。貼床?
- 12. にぶい橙色土(7.5YR7/3) しまりあり硬い。貼床?



- 1. にぶい黄橙色土(10YR6/3)炭を含む。土器の多くはこの層。 1. にふいき(他と上代けいが)別にさると、土命の多べはこの店。 灰白色粘土を含む。しまりあり硬い。 2. にぶい黄褐色土(10YR5/3) 炭少量含む。しまりあり硬い。貼床か? 3. 橙色土(25YR6/8)しまりあり硬い。地山の前落土・ 4. 浅黄色土(25Y74) ややしまりなくやわらか。柱痕か? 5. 橙色土(5YR6/8)しまりあり硬い。柱掘方埋土か?



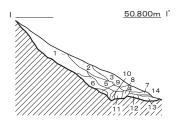
- 橙色土(2.5YR6/6)しまりなくやわらか。貼床?
- 7. 浅黄色土(2.5Y7/3)しまりなくやわらか。後世のピット。



<u>50.600m</u> i'

- 灰黄色(2.5Y7/2)しまりあり硬い。 2が地山の流土ならこれも地山流土中のもの。
   橙色土(2.5YR6/8)しまりあり硬い。地山の流土。
   浅黄色土(2.5Y7/3)しまりあり硬い。腐植土層。
- 4. にぶい黄色土(2.576/4)しまりあり硬い。炭を含む。腐植土層。 5. 黄褐色土(2.575/4)しまりあり硬い。腐植土層? 6. 浅黄色土(2.577/4)しまりあり硬い。

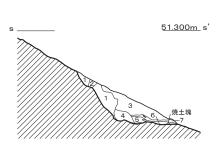
- 5. 浅寅色エ(2.5Y//4)しよりめり使い。
   上面で褐色土(7.5YR4/4)の粒を含みあるいは貼床?
   7. にぶい黄色土(2.5Y6/3)しまりあり硬く炭を含む。
   8. 黒褐色土(7.5YR2/2)にぶい黄色土(2.5Y6/3)が混じる。 焼土と炭と土を混ぜたような土。しまりなくやわらか。

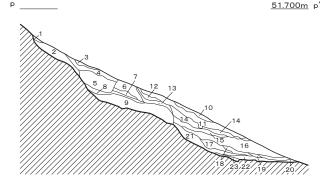


- 1. 浅黄色土(2.5Y7/3)しまりなし

- 1. 戊寅巳土(2.51/3)によりなし。 権色土(2.57R7/8)を含み、地山の流土。 2. 浅黄色土(2.577/4)しまりなし。 3. 暗褐色土(10YR3/3)しまりなく木根多。炭を含む。腐植土。 4. にぶり黄色土(10YR7/3)しまりあり。炭を含む。
- たい、資金と土(10)(RA)(4)3を粕状に含む。戻を含む。しまりなし。
   たぶい黄橙色土(10)(RA)(4)1まりあり。
   たぶい黄橙色土(10)(RA)(4)1まりあり硬い。
   たぶい黄褐色土(10)(RA)(3)1まりあり。
   浅黄橙色土(10)(RA)(3)1まりあり。
   浅黄色土(10)(RA)(3)2を含む。ビット?
   浅黄色土(10)(RA)(3)2を含む。じょりあり。
   10、銀匠のも(10)(RA)(3)2を含む。

- 10. 褐灰色土(10YR4/1))焼土を含む。 12. 明黄褐色土(10YR7/6)しまりあり。
- 13. にぶい黄橙色土(10YR6/4)しまりあり硬い。
- 14. 橙色土(5YR7/8)しまりあり硬い。





- 1. 浅黄色土(2.5Y7/4)しまりあり。地山流土の一部。
  2. 橙色土(2.5YR6/8)しまりあり。地山流土。炭を含む。
  3. 暗褐色土(10YR3/4)しまりなし。炭・焼土混。ピット?埋土。
  4. にぶい黄橙色土(10YR6/4)しまりあり。ピット?埋土。
  5. 明黄褐色土(10YR6/6)しまりあり。ピット?埋土。
  6. にぶい黄橙色土(10YR7/4)しまりあり。上半部遺構埋土。
  7. 橙色土(5YR7/8)しまりあり。地山流土。上半部遺構埋土。
  8. 灰黄褐色土(10YR6/2)しまりあり。炭・焼土を含む。上半部遺構床面直上?
  9. 橙色土(7.5YR7/8)しまりあり。炭・焼土を含む。上半部遺構。貼床?。
  10. 黄橙色土(7.5YR7/8)しまりあり。炭・焼土を含む。

- 13. にぶい黄褐色土(10YR4/3)しまりなた炭を含む。上半遺構場り直し面? 14. 橙色土(7.5YR6/8)しまりあり硬い。下半遺構への地山流土。

- 14. 権色工(1,5YR6/8)によりあり使い。ト于返情への地出流工。 15. にぶい黄権色土(10YR6/3)しまりあり。炭を含む。下半遺構埋土。 16. にぶい黄権色土(10YR7/4)しまりあり。炭を含む。下半遺構埋土。 17. にぶい黄権色土(10YR6/4)しまりあり。炭を含む。下半遺構埋土。 18. にぶい黄褐色土(10YR5/4)しまりあり。粘質土をシマ状に含む流水堆積?
- 19. 浅黄桧色土(10YR8/3)しまりなし。砂質土、炭を含む。 20. にぶい黄桧色土(10YR7/3)しまりなし。砂質土、炭を含む。 21. にぶい黄褐色土(10YR5/3)しまりなし。砂質土、炭を含む。 22. 浅黄色土(2.5Y7/3)しまりなし。砂質土。

- 23. 灰黄色土(2.5Y7/2)しまりなし。砂質土。

4m

また、脚部外面に沈線を施すもの(516・518・519・521・523)、内面でヘラ記号が見られるもの(511・519・521)がある。

525~537は椀で、復元口径は8.9~12.0cmを測る。器形は平底の底部から体部・口縁部にかけて緩やかに開くもの(525)、底部と体部の境に丸みを持ち、体部~口縁部がほぼ直立の傾きを呈すもの(526・527・529・534・535)、体部~口縁部がやや外傾するもの(528)、体部にわずかな丸みを持ち、口縁部で直立に近い傾きになるもの(530・537)、直立する体部から口縁部で内傾するもの(531)、体部~口縁部がやや丸みを帯びるもの(532)、口縁部~底部にかけ丸みを帯びるもの(533)、底部~体部下位が丸みを持ち、体部中位~口縁部が直線的になり内傾するもの(536)がある。また、外面では沈線を施すもの(525・532・534・535)、カキメを施すもの(527)、両方施すもの(526)がある。底部外面の調整は回転へラケズリ(525・533)、手持ちヘラケズリ(526・530・532・537)、ヘラ切り後のナデ、または一部ケズリ(527~529・531・534・536)に分かれる。

538・539は短頸壺蓋で、復元口径はそれぞれ7.8cm・8.6cmを測り、器高は比較的高い。口縁端部は538で四角形に仕上げ、539では端部を嘴状に整形する。天井部外面の調整は538ではナデ・一部にケズリを施す。539は回転ヘラケズリで仕上げる。540は短頸壺で、復元口径は7.5cmを測り、小型である。平底で、球形の体部から口縁部は外傾する。541は壺で、体部外面にヘラ記号を施す。復元口径は13.3cmを測る。口縁端部は上端面を平坦に仕上げ、外面は三角形の突帯状に整形する。

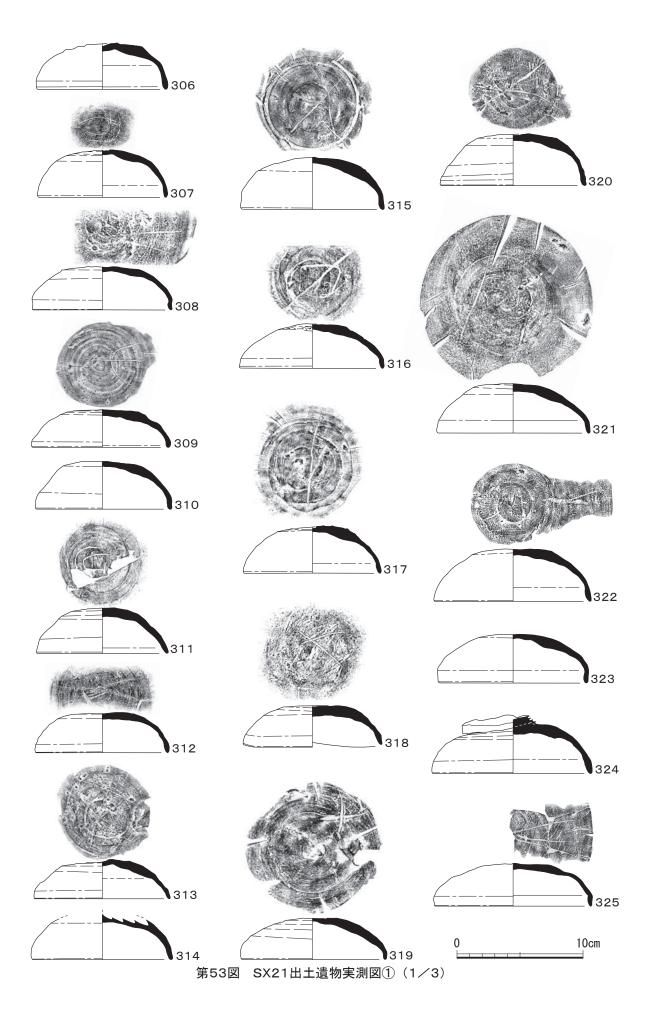
542~544は鉢で、復元口径は542で17.5cm、544で35.4cmを測る。542は口縁端部が断面 三角形を呈し、体部外面には沈線を巡らせる。543は体部下位~底部が残存し、底部外面はヘラ切 り後ナデを施す。544は口縁端部が断面四角形に近い。口縁部~体部外面ではカキメを施し、体部 内面はヘラケズリを行う。

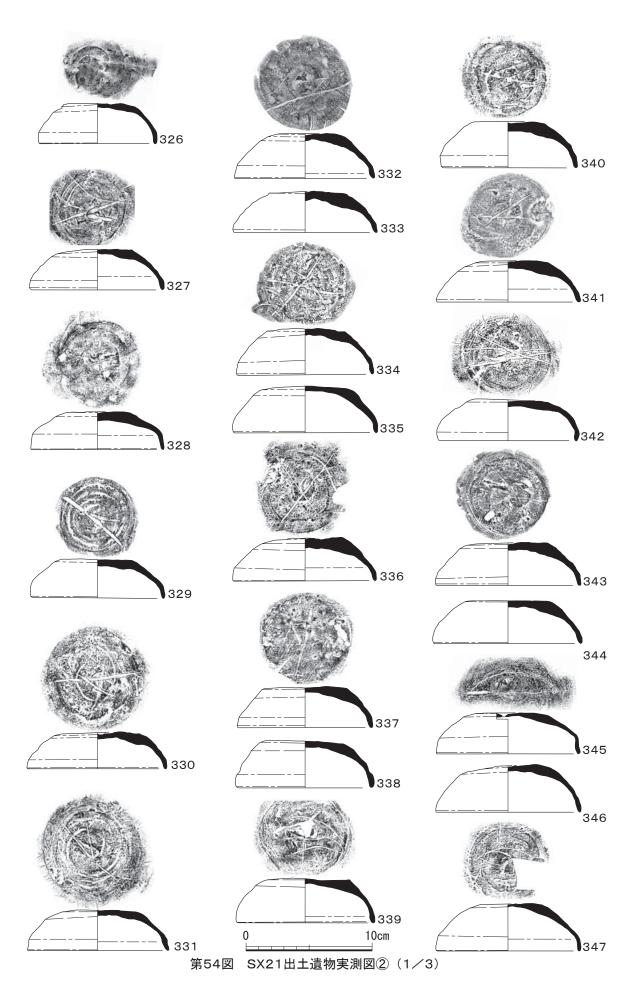
545~552は甕で、545・549の頸部外面にはヘラ記号が施され、文様のように見える。口径は15.3~23.0cmを測る。口縁端部には上端部分が断面三角形状を呈するもの(545)、四角形に仕上げるもの(546)、丸く仕上げるもの(547)、四角形に仕上げた端部外面に三角形の突起を整形するもの(548・549)、端部を折り曲げ鳥頭状に仕上げるもの(550)、四角形に仕上げた端部外面に沈線を施すもの(551)がある。552は体部~底部が残存し、底部外面には焼台と思われる破片が付着する。

553は大型の蓋で、復元口径24.6cmを測る。かえり端部と口縁部端部はほぼ同じ高さになる。554は注口で、復元注口径は1.8cmを測る。注口端部は先細りを呈す。555はミニチュア土器の壺で、口径4.7cmを測る。ヨコナデにより整形し、底部外面は手持ちヘラケズリを施す。556は焼台で、甕の体部破片が2枚付着する。557は杯H蓋内面に杯H身が釉着している状態である。蓋の復元口径は10.8cmを測る。

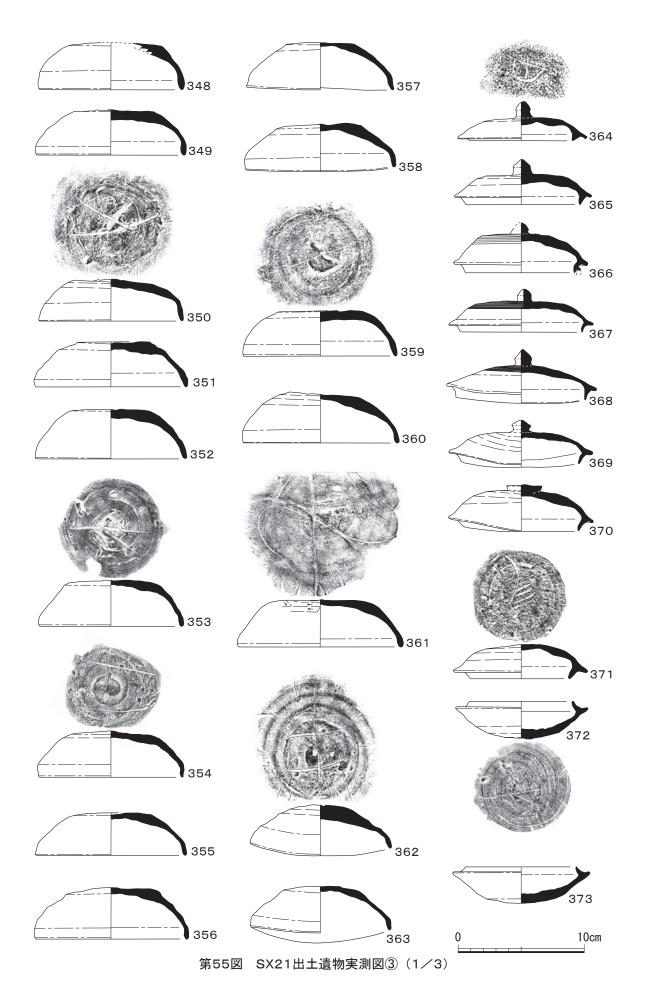
瓦(558) 平瓦で、厚さ2.0cmを測る。凸面では平行タタキが見られる。

**土師器(559~587)** 559~577・579・585・587は甕で、復元口径は559・564~576・585 で11.0~20.8cm、577で30.8cmを測る。559は球形の体部で、口縁部が外傾し、外面に浅い

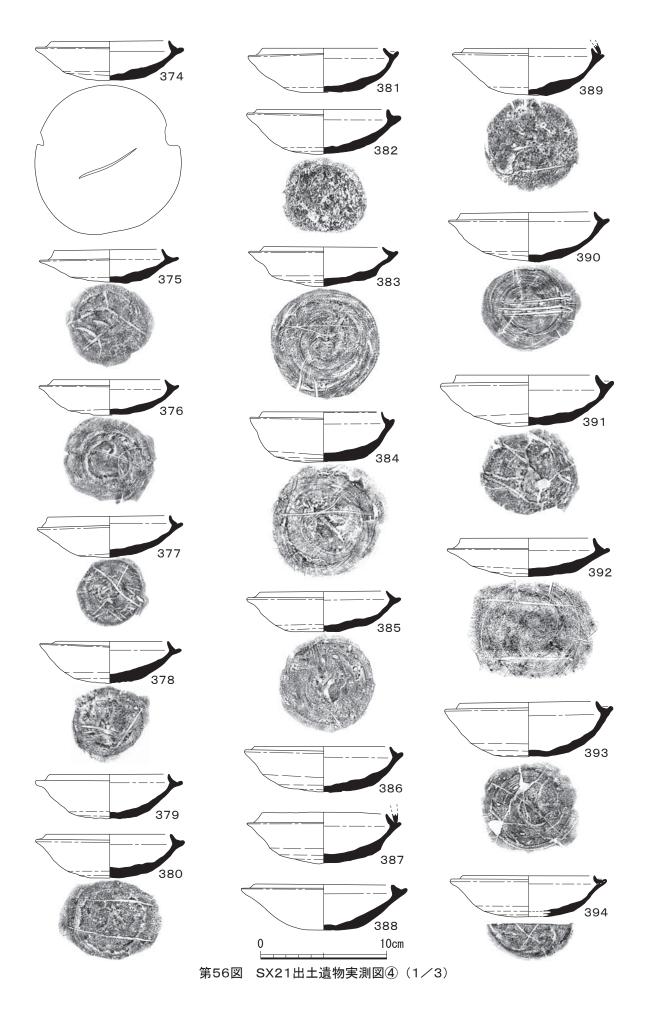


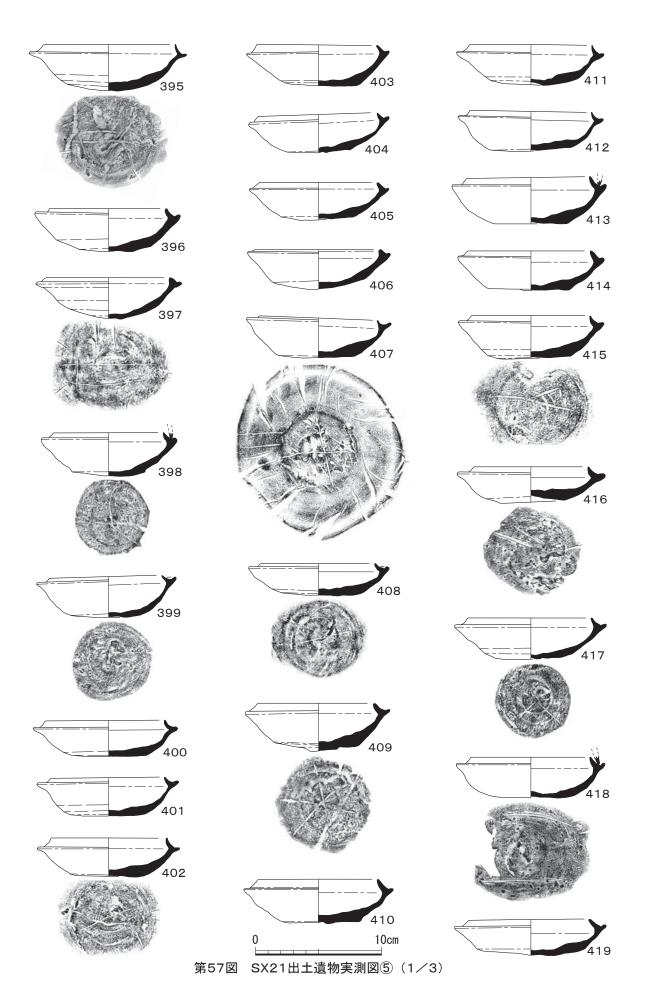


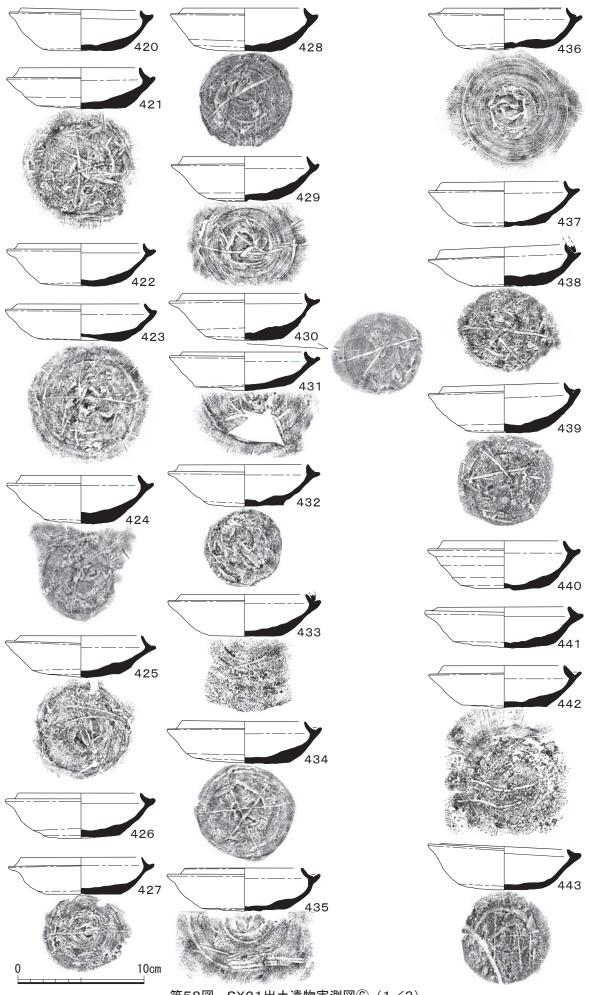
— 74 —



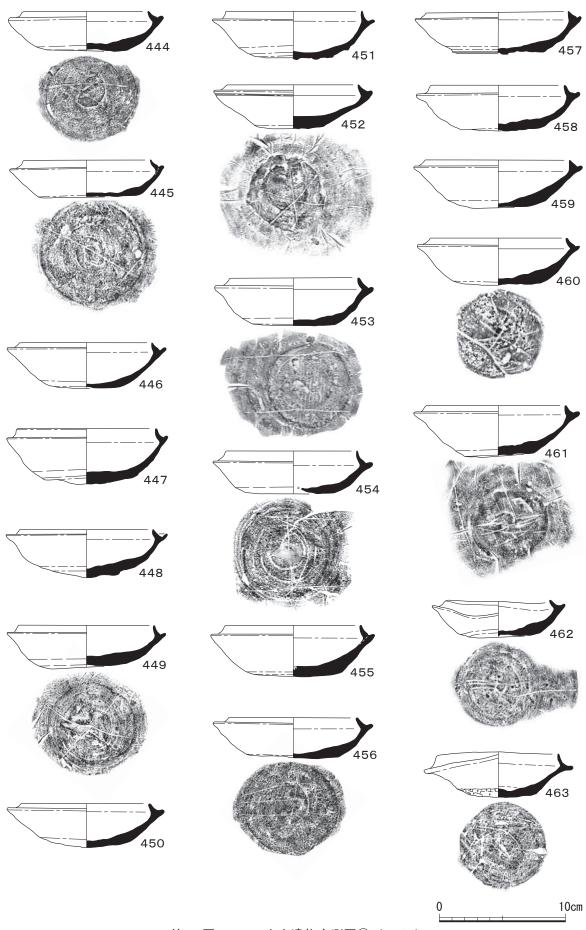
— 75 —



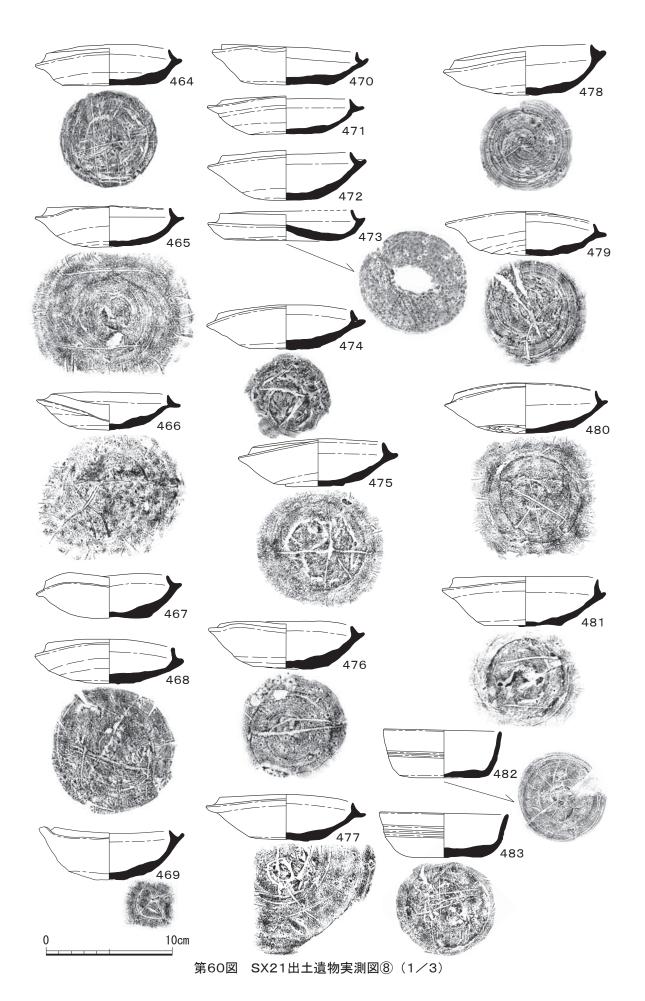




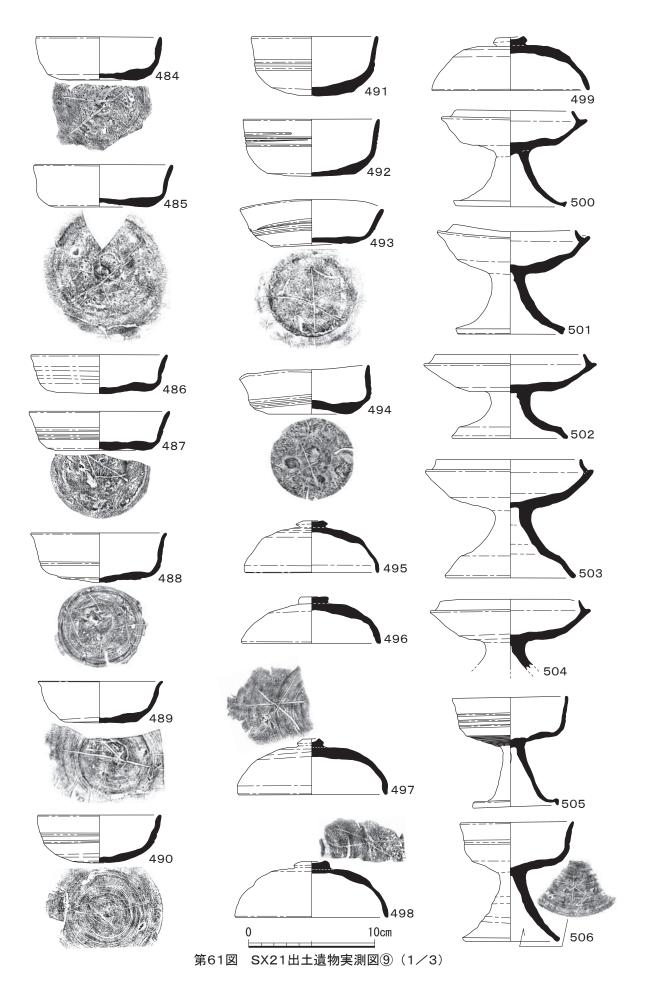
第58図 SX21出土遺物実測図⑥ (1/3)

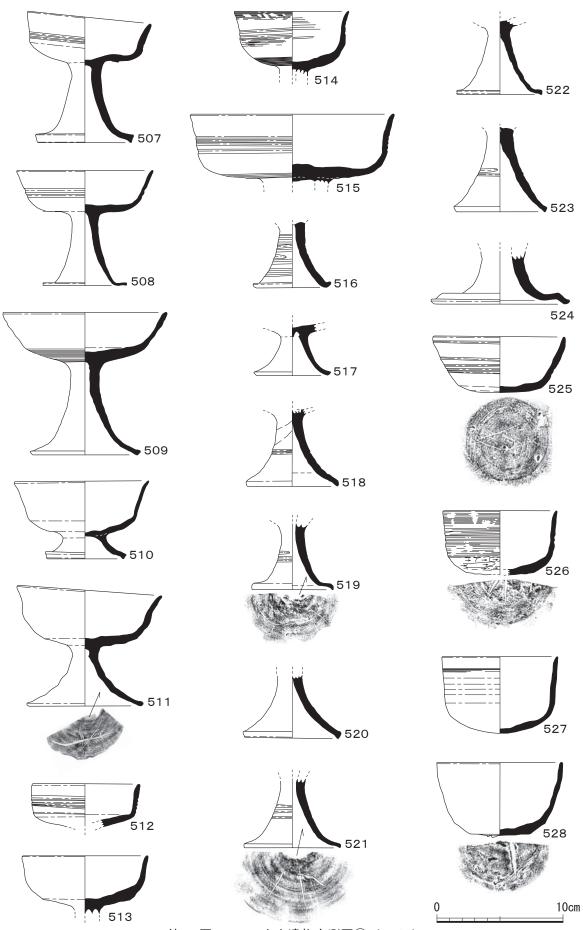


第59図 SX21出土遺物実測図⑦ (1/3)

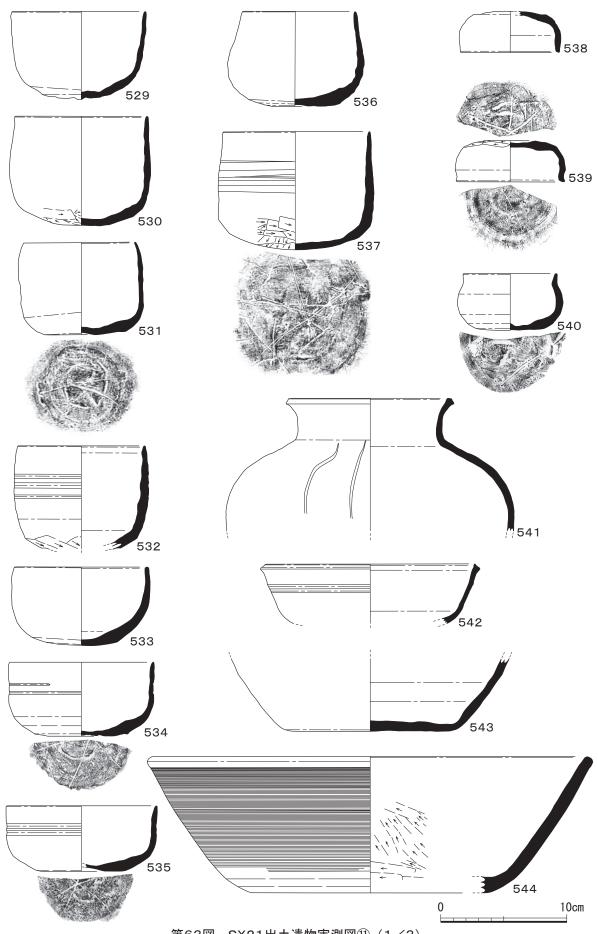


— 80 —

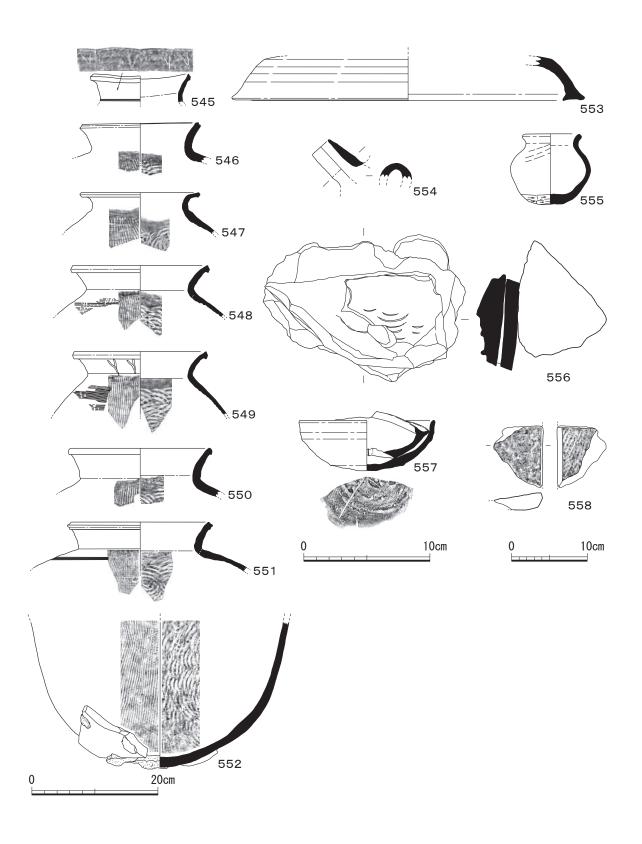




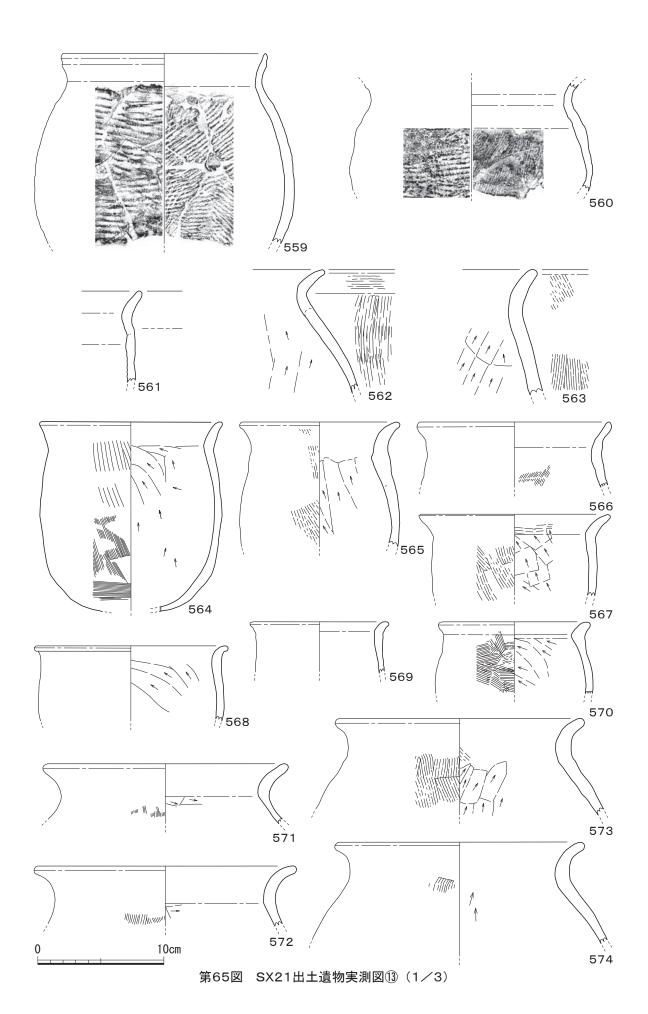
第62図 SX21出土遺物実測図⑩(1/3)



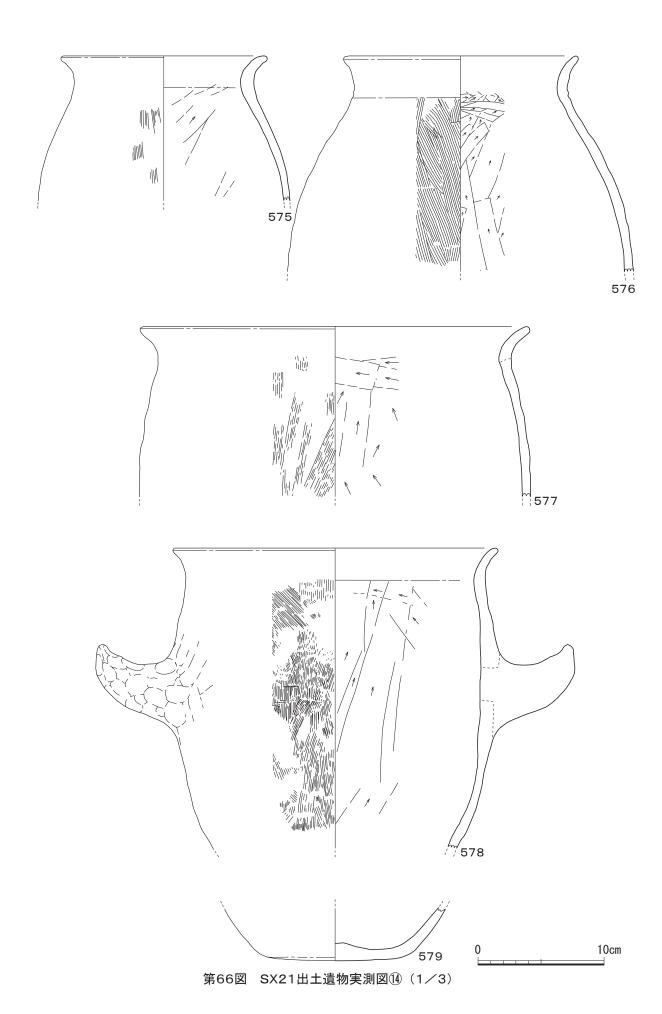
第63図 SX21出土遺物実測図⑪(1/3)

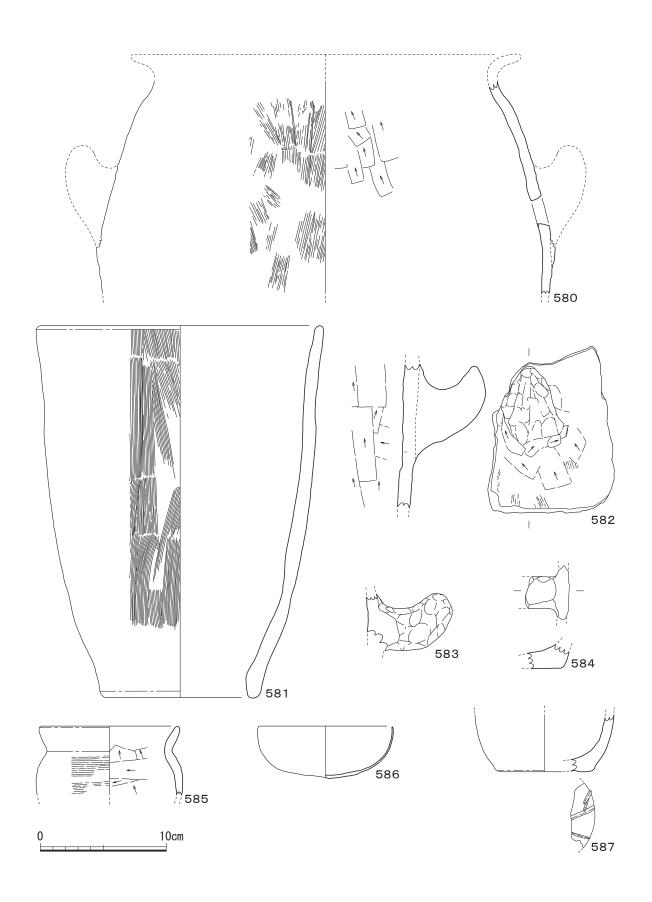


第64図 SX21出土遺物実測図⑫ (545~552は1/6、558は1/5、他は1/3)

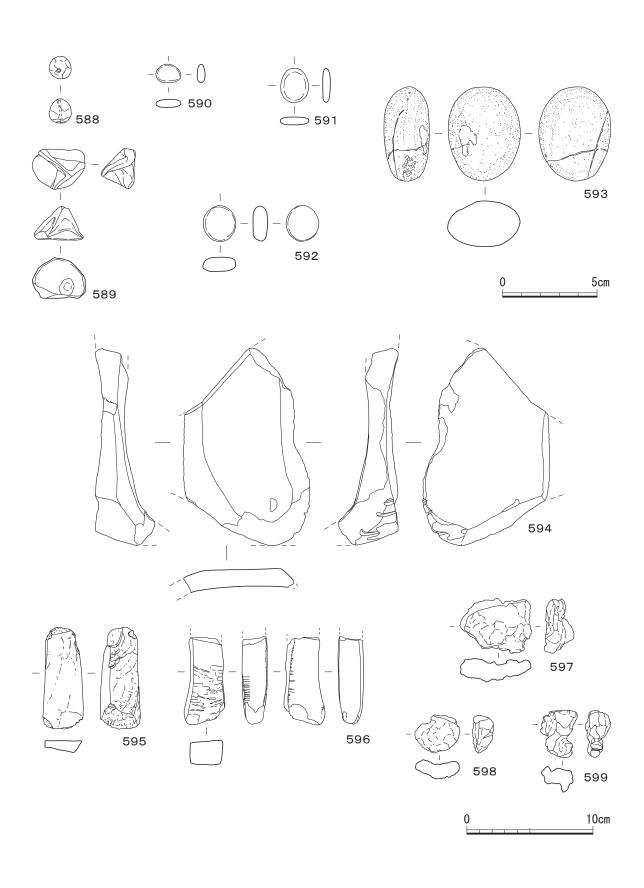


— 85 —





第67図 SX21出土遺物実測図⑮ (1/3)



第68図 SX21出土遺物実測図⑯ (588~593は1/2、他は1/3)

窪みを施す。560は体部が巾着形を呈し、口縁部は外反する。いずれの体部にも外面に平行タタキ、内面に平行条線文当て具痕が見られる。561は寸胴形の体部で、口縁部が外傾する。体部内面には平行当て具痕が見られる。562は球形の体部で、口縁部が大きく開く。563・576は体部から口縁部にかけて、緩やかに外反する。564・565は体部が寸胴形に近い形を呈す。564の口縁部は外傾し、565の口縁部は緩やかに外反する。頸部内面はいずれも稜が付く。566は体部から口縁部にかけて緩やかに外反し、体部外面では平行タタキが残る。567は寸胴形の体部~頸部で屈曲し、口縁部は大きく開く。568は寸胴形の体部で、口縁部は短く外反する。口縁端部は外方にのびる。569・570は口縁部の長さが短く、外傾する。頸部内面はいずれも稜が付く。569の体部は寸胴形で、570は球形である。571~575・577の口縁部は大きく外反し、端部が外側にのびる。578は口縁部が外反し、体部に差込式の把手が付く。579は底部のみが残存し、平底を呈す。578と同一個体の可能性がある。585の体部は球形で、口縁部は内湾気味になる。

580~584は甑で、578・581の復元口径はそれぞれ25.8cm・22.8cmを測る。580は丸みを持つ体部で、口縁部は大きく外反し端部が外側にのびるものと思われる。体部には把手が付いていた痕跡があり、差込式であったと考えられる。581の口縁部~体部は下に行くにつれて窄まる形を呈し、底部から直立に近い傾きになる。把手は付かない。582・583は把手が残存し、いずれもナデにより整形する。582では体部外面の把手接合部分にケズリを施す。584は底部の一部で、残存部から2つの半月形の蒸気孔が整形されていたと考える。586は椀で、復元口径は10.8cmを測る。器壁は薄く、丸底を呈す。587は底部が残存し、平底の底面には葉脈と思われる圧痕が残る。

**土製品**(588・589) 588は土玉で、径は1.2~1.3cmを測る。中心部よりややずれた位置に穿孔する。589は用途不明品である。三角錐の形状を呈し、ヘラ状工具により整形されたと思われる。 石製品(590~596) 590~592は円盤状石製品で、いずれも楕円形を呈す。碁石か?593は側面に敲打痕が残り、叩石の可能性がある。594~596は砥石で、594・595は砂岩である。594・595では2面に使用痕が見られ、596は4面に見られる。

**鉄滓**(597~599) 597の重量は54.3g、598・599は12.1~12.8g を測る。598は炉体に接していた圧痕が見られるため、炉底に溜まっていたものと思われる。599は多量の砂粒が付着するため、炉壁付近に溜まっていたものと思われる。

## SX22 (第50図、図版38)

2区中央部、標高43.6~45.3mの南東側斜面に位置し、北側にはSX23がある。平面プランは不整形な方形を呈し、長さ3.25m、幅2.58m、最深部1.36mを測る。埋土は単層で褐色土を主体とする。出土遺物には須恵器・土師器がある。

### 出土遺物 (第71図)

須恵器(600・601) 600は杯H身で、復元口径8.8cmを測る。立ち上がりは内傾する。601は椀で、 復元口径13.5cmを呈す。体部~口縁部は同じ傾きで直線的にのびる。底部外面は回転へラケズリ を施す。

## SX23 (第69図、図版39)

2区中央部、標高46.7~48.3mの南西側斜面に位置し、周辺にはSX22・31がある。当初、S

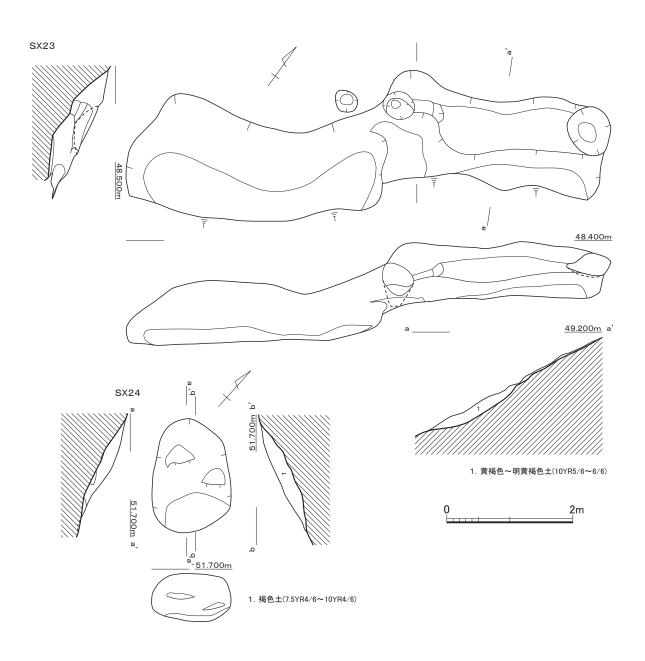
X23として広く検出したが、掘り下げの結果、SX31が別遺構とされた。斜面をL字状に掘り込み、 等高線に平行して東西に長くのびる。遺構は東西に分かれ、床面はほぼ水平であるが、東側の方が 高い。埋土は、黄褐色土を主体とし、出土遺物には須恵器・土師器がある。

### 出土遺物 (第71図、図版76)

**須恵器(602)** 杯H身で、口径8.9cmを測る。立ち上がりは内傾し、底部外面はヘラ切り後ナデて仕上げている。

# SX24 (第69図、図版39)

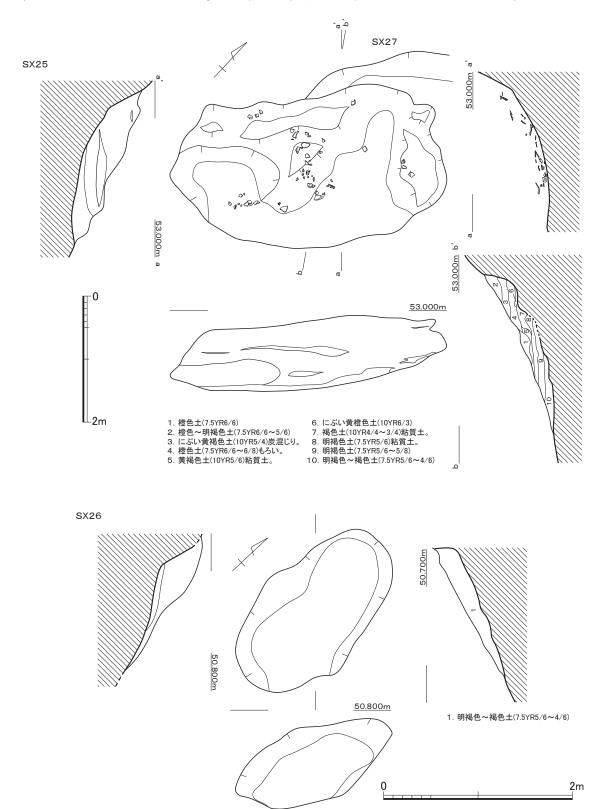
2 区東側、標高50.8~51.6mの南西側斜面に位置し、周辺には $SX21 \cdot 25 \sim 27$ がある。平面プランは長楕円形を呈し、長さ1.8m、幅1.25m、最深部0.67mを測る。遺構内には平坦部がほとんどなく、埋土は単層で褐色土を主体とする。出土遺物はない。



第69図 SX23・24実測図(1/60)

## SX25 (第70図、図版39·40)

2区東側、標高51.7~52.9mの南西側斜面に位置し、S X 27と切合うが前後関係は不明である。 平面プランは不整形な長方形を呈し、長さ4.39m、幅2.42m、最深部0.95mを測る。遺構内では 須恵器・土師器・瓦が出土した。出土状況を観察すると、床面上のものから浮いた状態のものまで



第70図 SX25・26実測図 (SX25は1/60、SX26は1/40)

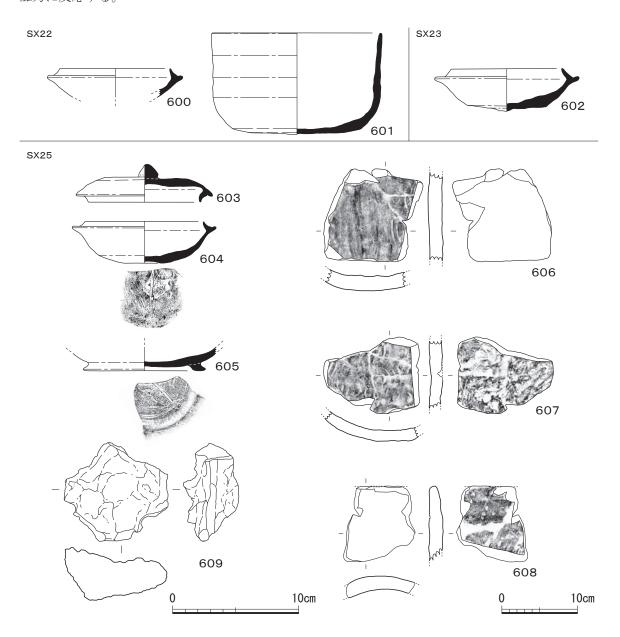
ある。埋土は褐色土を主体とし、シルト質土と砂質土が互層状になる。

出土遺物 (第71図、図版75・76)

**須恵器(603~605)** 603は杯G蓋で、口径は8.9cmを測り、かえりは口縁部下に突出する。天井部には乳頭状のつまみが付き、中心部からややずれている。604は杯H身で復元口径8.1cmを測る。立ち上がりは内傾し、端部は直立に近い傾きになる。底部外面はナデを施す。605は杯B身である。底部外面は回転ヘラケズリを施し、低い高台を付ける。

瓦 (606~608) いずれも平瓦である。 $606 \cdot 607$ の凹面では同心円文当て具痕が見られる。606は当て具後ナデを施す。607凸面は平行タタキの痕跡が見られる。608の凹面はヨコナデを施す。

**鉄滓(609)** L字型の断面形を呈すため、炉底の角に溜まったものと思われる。鉄滓の一部では 磁力に反応する。



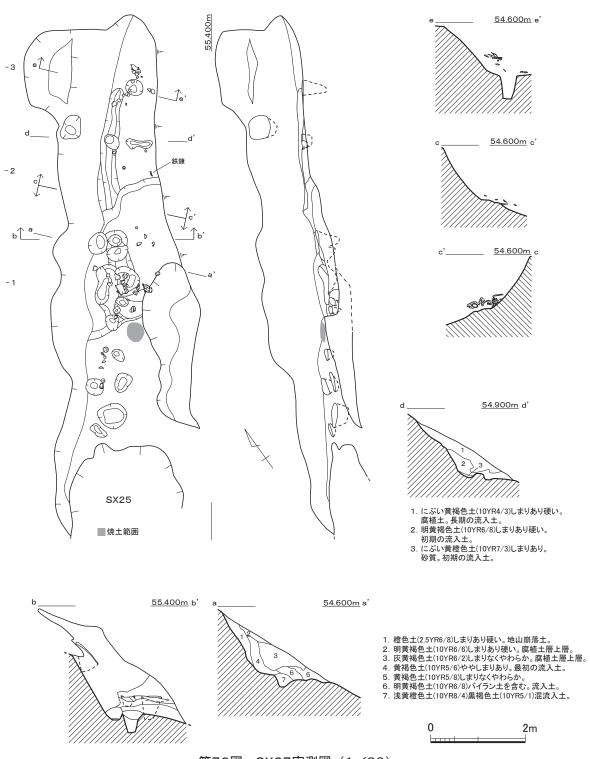
第71図 SX22・23・25出土遺物実測図 (606~608は1/5、他は1/3)

## SX26 (第70図、図版40)

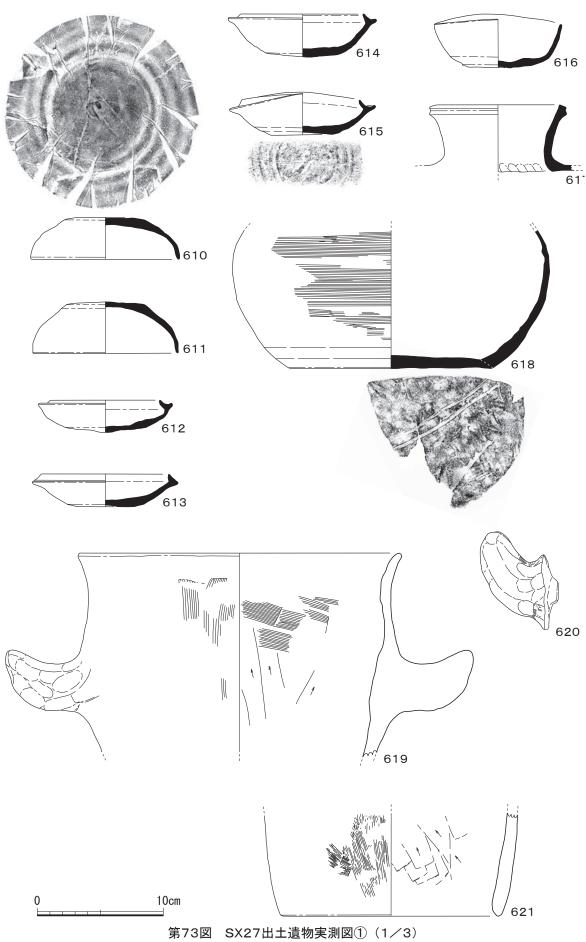
2区東側、標高 $49.7\sim50.7$ mの南西側斜面に位置し、周辺にはS X  $21\cdot24$  がある。平面プランは不整長楕円形を呈し、長さ2.02m、幅1.22m、最深部0.38mを測る。埋土は褐色土を主体とする。出土遺物には須恵器・土師器があるが、図化できなかった。

## SX27 (第72図、図版40・41)

2区東側、標高52.2~55.3mの南西側斜面に位置し、SX25と切合うが前後関係は不明であ



第72図 SX27実測図 (1/80)



る。遺構は傾斜面をL字状に削ることで平坦面を造り出し、北東・南西方向へ溝状にのびる。全長11.0m以上、最大幅3.16m、最深部1.29mを測る。床面には多数のピットがあり、建物を構成するものと思われる。また、遺構中央部付近では48×34cmの焼土が確認できる。遺物は須恵器・土師器・瓦・鉄器・鉄滓・石器が遺構内に散在し、床面近くで検出されている。埋土は黄褐色土を主体とする。

出土遺物 (第73・74図、図版76・77)

須恵器(610~618) 610・611は杯H蓋で、610の口径は11.9cm、611の復元口径は11.4cm を測る。いずれも口縁部は直立に近い傾きになり、天井部外面はナデて仕上げる。612~615は杯 日身で、復元口径は8.8~10.2cmを測るが、615は器体が歪んでいるため法量が不確定である。杯部は612・613が浅く、614・615が深い。立ち上がりは内傾しつつ端部が直立に近い傾きになるもの(612)、受部と一体化し、断面形が三角を呈すもの(613)、内傾するもの(614・615)がある。底部外面はいずれもヘラ切り後未調整かナデ、または一部にケズリを施す程度で雑なつくりになっている。616は杯G身で、口径10.15cmを測るが、器体が歪んでいるため法量は不確定である。体部は丸みを持ち、椀形状を呈す。底部はヘラ切り後ナデを施す。

617・618は平瓶で、617は復元口径10.9cmを測る。口縁端部は断面四角形を呈し、端部外面に三角形の突帯をつけた形状になる。頸部内面では指頭圧痕が残る。618は体部が扁平な球形を呈し、外面にはカキメを施す。底部は平底になる。

土師器(619~621) いずれも甑である。619は復元口径25.6cmを測り、口縁部は緩やかに外反する。把手は体部のやや高い位置につき、ナデにより整形される。ハケメは体部の内外面に見られる。620は差込式の把手で、ナデにより整形される。体部との接合部にはハケメが見られる。621は体部下位~底部が残存し、寸胴状になる。

瓦(622~624) いずれも平瓦で、凸面に平行タタキを施す。凹面では同心円文当て具痕・弓切り痕が見られ、加えて623・624には模骨痕・布目痕が確認できる。

石製品(625) 滑石製の円盤状石製品で、直径約4.0cmを測る。全面で擦痕が見られる。

**鉄滓(626)** 重さ373.3g を測り、炉底に接していたと思われる圧痕が見られるため、炉底に溜まっていた鉄滓だと考えられる。

鉄製品(627) 鎌である。厚さ0.2cmを測る。一部に木質と思われる痕跡が残る。

SX28 (第75図、図版41)

2区東側、標高49.0~50.0mの南側斜面に位置し、周辺にはSX21・29・33がある。平面プランは不整形な長楕円形を呈し、長さ4.63m、幅1.8m、最深部0.67mを測る。遺物は須恵器・土師器等が出土し、遺構内東側に散在する。埋土は黄褐色土が主体である。

出土遺物(第76図、図版78)

須恵器 (628~633) 628・629は杯H蓋で、復元口径は628で11.1cm、629で12.5cmを測る。口縁部は直立に近い傾きになるもの (628)、口縁部はなだらかに開くもの (629) がある。628 の口縁部外面では2段に分けた沈線が巡り、天井部は外面約1/3に回転ヘラケズリを施す。629 の天井部外面はヘラ切り後ナデを施す。630は杯G蓋で、復元口径10.2cmを測る。かえりは口縁

部下へわずかに突出し、天井部は外面約1/2に回転へラケズリを施す。

631は杯H身で、口径9.8cmを測る。立ち上がりは内傾しつつ端部で直立に近い傾きになる。底部はヘラ切り後ナデを施す。632は杯G身で、復元口径は9.6cmを測る。直線的にのびる体部から口縁部はやや外反する。633は椀で、復元口径16.2cmを測る。体部~口縁部は直線的にのびる。外面にはカキメを施し、体部に沈線を巡らす。底部外面は手持ちヘラケズリを施す。

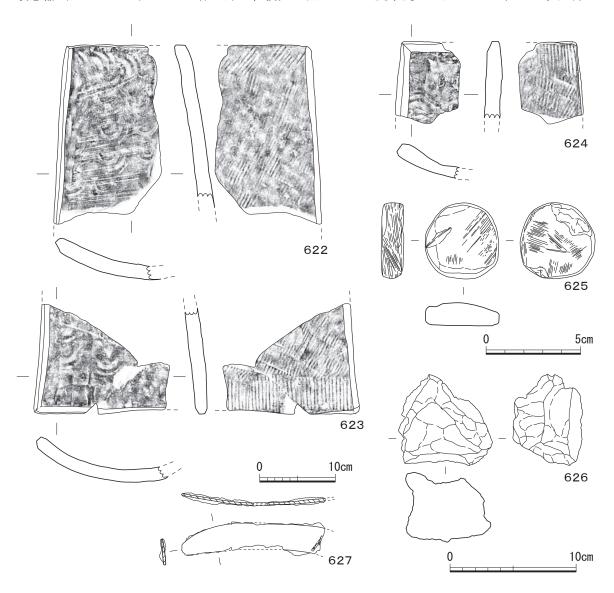
土師器(634・635) いずれも甑である。634は底部が残存し、端部はヨコナデにより断面四角形に仕上げられる。635は口縁部が残存し、復元口径27.0cmを測る。口縁部は緩やかに開く。

#### SX29 (第77図、図版42)

2区東側、標高 $47.5\sim48.5$ mの南側斜面に位置し、周辺にはS X  $28 \cdot 33$ がある。平面プランは三日月状を呈し、長さ6.58m、幅1.61m、最深部0.21 mを測る。床面は傾斜し、ピットが見られる。出土遺物には須恵器・土師器がある。埋土は橙色土が主体である。

#### 出土遺物 (第76図)

須恵器(636~639) 636は杯H身で、復元口径12.4cmを測る。立ち上がりは直立し、底部は



第74図 SX27出土遺物実測図②(622~624は1/5、625は1/2、626・627は1/3)

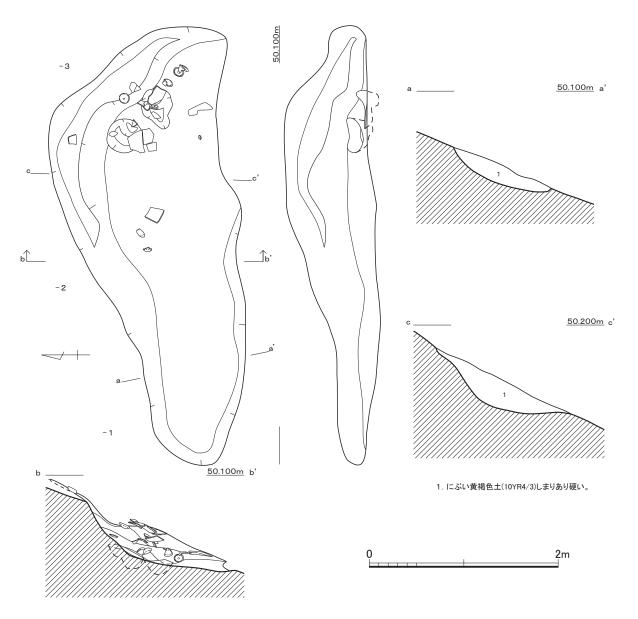
外面約1/2に回転へラケズリを施す。637は椀で、体部は直立に近い傾きになり、外面に沈線を施す。底部は平底を呈す。638・639は甕である。638は復元口径20.0cmを測り、口縁端部は折り曲げて断面形を鳥頭状に仕上げる。639は復元口径30.9cmを測り、口縁端部は四角形に仕上げ外面に沈線を施す。頸部外面には2段に分けて沈線を巡らせる。

### SX30

3区、標高 $44.0\sim45.8$ mの西側急斜面に位置し、北側には1 号窯跡、S X 37がある。不整形な長方形を呈し、長さ4.2m、幅2.77m、最深部0.41mを測る。床面は周辺地形と同様な斜面になる。須恵器が出土した。

### SX31 (第77図、図版42·43)

2区東側、標高46.8~48.3mの南西側斜面に位置し、周辺にはSX21~23・32がある。平面プランは不整形な隅丸円形を呈し、長さ3.02m、幅2.08m、最深部0.83mを測る。床面は南北方向



第75図 SX28実測図(1/40)

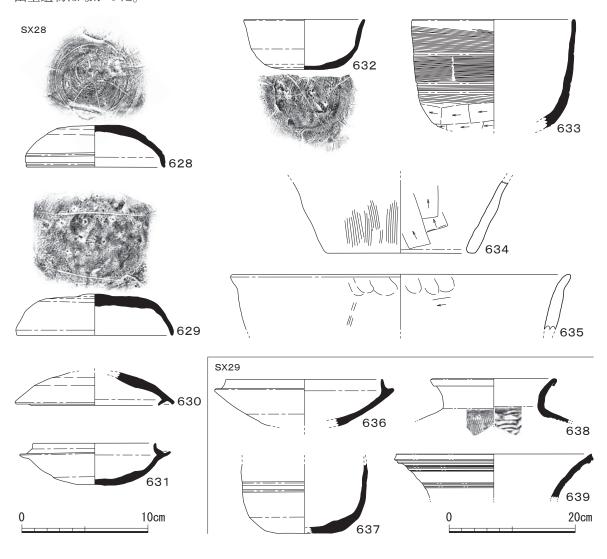
に傾斜し、南側ではピットが見られる。埋土は橙色土を主体とし、所々に灰白色の砂質土が帯状に 入り込んでいる。出土遺物には須恵器・土師器がある。

#### 出土遺物 (第80図)

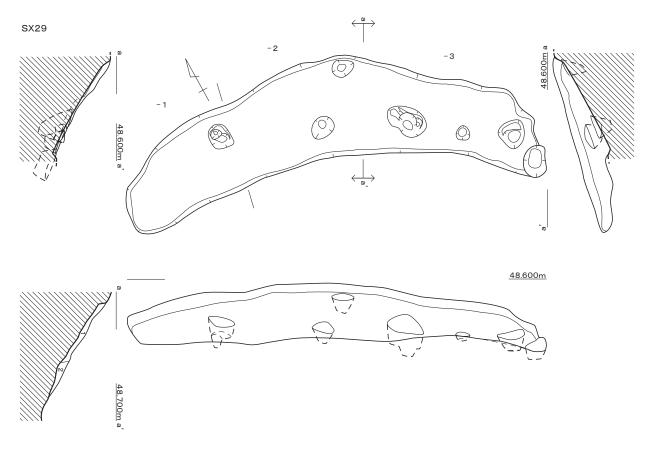
須恵器(640~642) 640は杯H蓋で、復元口径は11.8cmを測り、口縁部は直立に近い傾きになる。天井部外面はヘラ切り後ナデを施す。641は杯H身で、復元口径は11.3cmを測る。立ち上がりは内傾しつつ端部が直立に近い傾きになる。底部外面はヘラ切り後ナデを施す。642は高杯で、復元口径13.0cmを測る。直線的な体部から口縁部はやや外反する。体部外面2ヵ所には段が付く。脚部は短脚で緩やかに広がり、裾部付近でわずかに屈曲する。脚部内面ではヘラ記号が見られる。

#### SX32 (第78図、図版43)

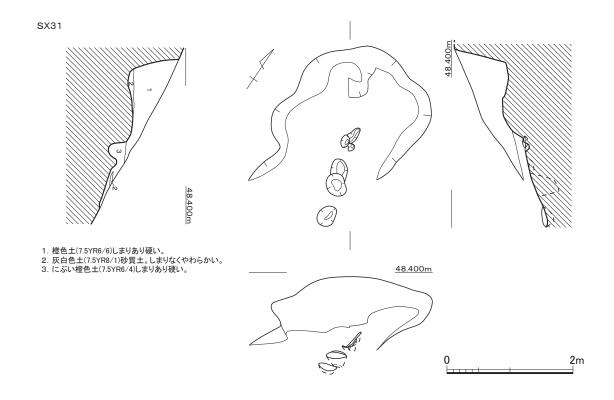
2区東側、標高 $47.1\sim47.7$ mの南西側斜面に位置し、周辺にはS X  $21\cdot31$  がある。平面プランは不整楕円形を呈し、長さ1.04m、幅0.78m、最深部0.55mを測る。埋土は黄褐色土を主体とする。出土遺物はなかった。



第76図 SX28・29出土遺物実測図 (638・639は1/6、他は1/3)



1. にぶい橙色土(7.5YR7/3)しまりあり硬い。 2. にぶい褐色土(7.5YR5/4)しまりあり硬い。汚れた土であるが地山との類別がつきにくくなる。



第77図 SX29·31実測図 (1/60)

## SX33 (第78図、図版43·44)

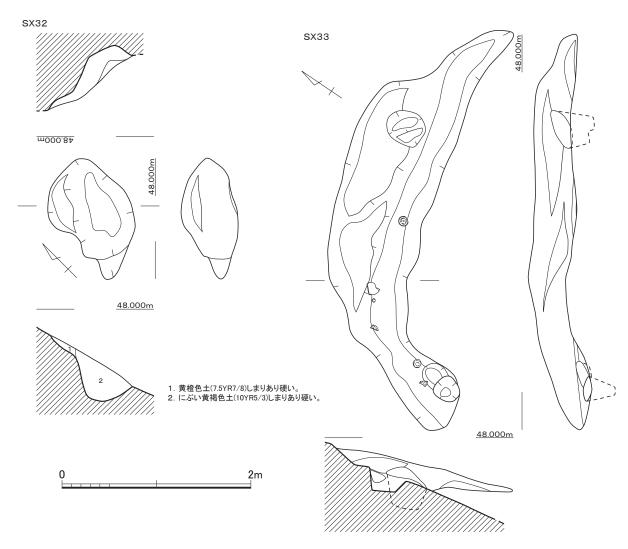
2区東側、標高47.2~47.9mの南西側斜面に位置し、周辺にはSX21・28・29がある。平面プランは不整形な三日月状を呈し、長さ4.2m、幅1.02m、最深部0.48mを測る。2段掘り状になり、最深部は東西方向に弧を描く溝状になる。出土遺物には須恵器・土師器がある。

### 出土遺物 (第80図、図版78)

**須恵器**(643~647) 643・644は杯H身で、643は復元口径11.1cm、644は口径10.0cmを測る。 立ち上がりは内傾しつつ端部は直立に近い傾きになるもの(643)、内傾するもの(644)がある。 いずれも底部外面回転ヘラケズリを施す。

645は高杯の脚部で、短脚である。脚部は大きく開きながら、中位で緩やかに屈曲する。端部は外面側の角をつまみ上げられて嘴状に仕上げる。脚部外面ではシボリ痕が見られる。646は椀で、復元口径8.3cmを測る。体部~口縁部は直線的にのび、やや内傾する。底部外面はヘラ切り後ナデを施す。

647は甕である。口縁端部は断面四角形を呈し、外面に沈線を巡らす。頸部外面にはカキメを施し、その上から連続斜線文を施文する。さらに2段に分けて沈線を巡らせる。



第78図 SX32・33実測図(1/40)

土師器(648) 甑で、復元口径21.8cmを測る。口縁部は緩やかに外反する。

## SX34 (第79図)

2区西側、標高47.2mに位置し、S X 08内の南東部に位置する。S X 08の検出後に確認された。 平面プランは短い溝状を呈し、長さ2.08m、幅0.71m、最深部0.14mを測る。出土遺物には、須恵器・ 土師器がある。S X 08と一連の遺構である可能性が高い。

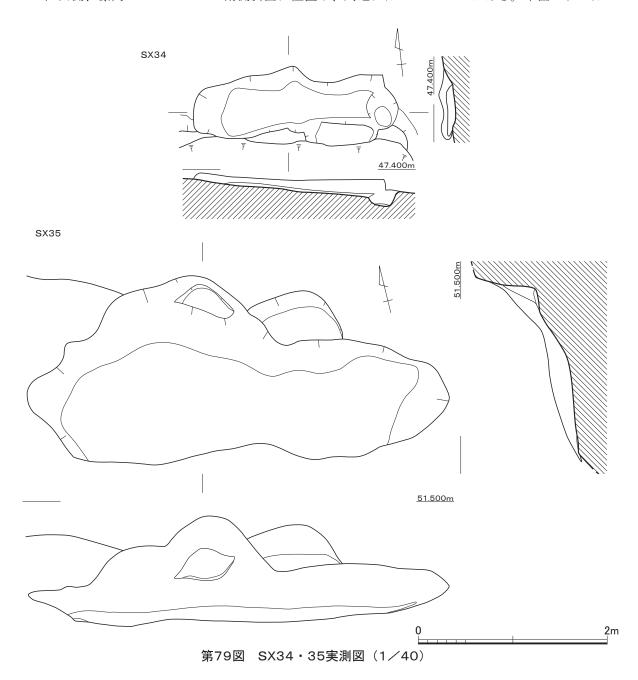
### 出土遺物 (第80図)

**須恵器(649)** 杯H身で、復元口径9.8cmを測る。立ち上がりは内傾しつつ端部が直立に近い傾きになり、外面に沈線状の浅いくぼみが巡る。

土師器(650) 椀である。底部に断面三角形の高台が付く。底部内面は回転ナデを施す。

### SX35 (第79図)

2区西側、標高50.2~51.3mの南側斜面に位置し、周辺にはSX08・11がある。平面プランは



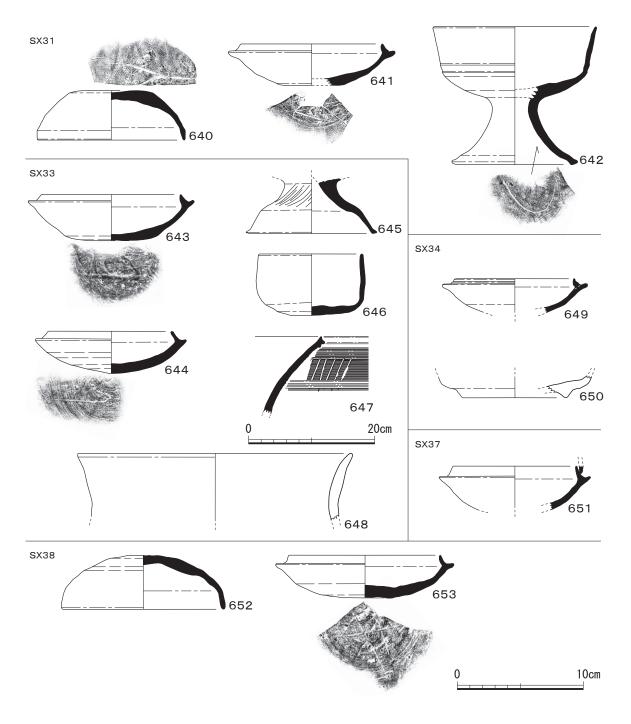
不整形な長楕円形を呈し、長さ4.46m、幅1.88m、最深部0.96mを測る。須恵器が出土したが、 図化できなかった。

## SX36

3区、標高43.8~45.6mの西側斜面に位置し、周辺には1号窯跡・S X 38がある。平面プランは不整形な長方形を呈し、長さ3.14m、幅2.51m、最深部0.16mを測る。床面は周辺地形と同様な傾斜になる。出土遺物には須恵器があるが、図化できなかった。

### SX37

3区、標高43.7~44.2mの西側斜面に位置し、周辺には1号窯跡・SX30がある。平面プラン



第80図 SX31・33・34・37・38出土遺物実測図(647は1/6、他は1/3)

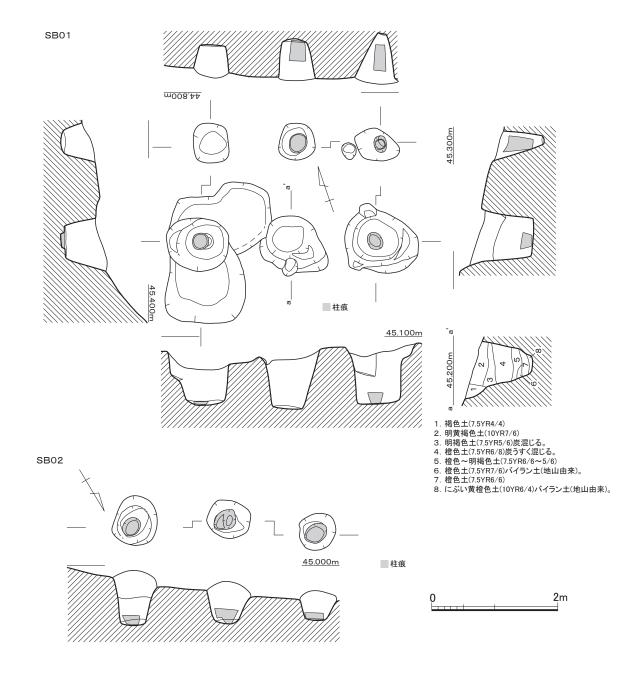
は不整長楕円形を呈し、長さ1.3m、幅0.87m、最深部0.1mを測る。床面は周辺地形と同様な傾斜になる。出土遺物には須恵器がある。

### 出土遺物 (第80図)

**須恵器(651)** 杯H身で、復元口径9.9cmを測る。立ち上がりは内傾し、外面に蓋の口縁端部破片が釉着する。

### **SX38**

3区、標高 $43.8\sim45.75$ mの西側斜面に位置し、周辺には1号窯跡・SX36がある。平面プランは略三角形を呈し、長さ3.15m、幅2.4m、最深部0.1mを測る。床面は周辺地形と同様な傾斜になる。須恵器・窯壁が出土した。



第81図 SB01・02実測図(1/60)

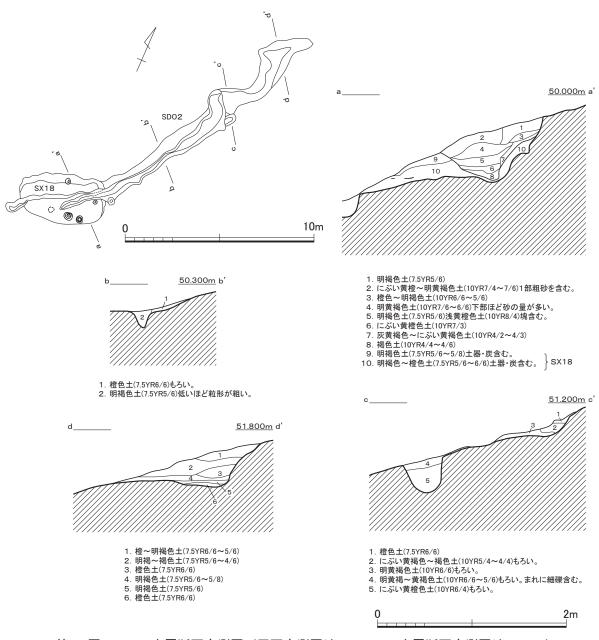
## 出土遺物 (第80図)

須恵器(652・653) 652は杯H蓋で、復元口径13.0 cmを測る。口縁部は直立に近い傾きになり、 天井部は外面約 1/2 に回転ヘラケズリを施す。653は杯H身で、復元口径は12.1 cmを測る。立 ち上がりは内傾し、端部は直立に近い傾きになる。底部は外面約 2/3 に回転ヘラケズリを施す。

#### (4) 掘立柱建物

#### SB01 (第81図、図版44・45)

1区中央部、標高44.4~45.0mの北側斜面に位置する。周辺には $SX01\cdot02$ 、SB02がある。  $1\times2$ 間の小規模な建物で、桁行2.75m、梁行1.55mを測る。掘方の平面プランはほぼ略円形で、掘方の大きさは標高が高い柱穴が大きく、低いほうが小さくなる。土層観察では柱痕が確認できる柱穴もあり、柱痕の深さはいずれも標高44.0m前後となっている。出土遺物には須恵器があるが、図化できなかった。



第82図 SD02土層断面実測図 (平面実測図は1/200、土層断面実測図は1/40)

#### SB02 (第81図、図版44)

1区中央部、標高44.4~45.0mの北側斜面に位置する。周辺にはSX01・02、SB01がある。 3基の柱穴が東西に並んで検出され、柱穴間は約1.5mを測る。柱穴3基に対応する柱穴列は発見 できなかったが、柱痕が残存するため掘立柱建物と判断した。掘方の平面プランは略円形を呈し、 深さはいずれも標高44.1m前後に揃っている。検出時に石器が出土した。

#### 出土遺物 (第83図、図版78)

石製品(654) 安山岩製の石鏃である。やや大型で、平面形は二等辺三角形状を呈し、基部に逆 U字状の抉りを施す。基部の端部をやや斜めに仕上げている。調整はやや粗雑である。

### (5) 溝

#### SD01 (図版45)

2区中央部、標高47.0~47.8mの南側斜面に位置し、東西にのびる。SX08・16と切合うが前後関係は不明である。全長約10.2m、最大幅0.83m、最深部0.51mを測る。埋土は淡灰色土の粘質土と砂質土が互層状に堆積する。出土遺物には須恵器・土師器・石製品がある。

#### 出土遺物(第83図)

**須恵器(655)** 杯H蓋で、復元口径は10.8cmを測る。口縁部は緩やかに開き、天井部外面はへ ラ切り後ナデを施す。

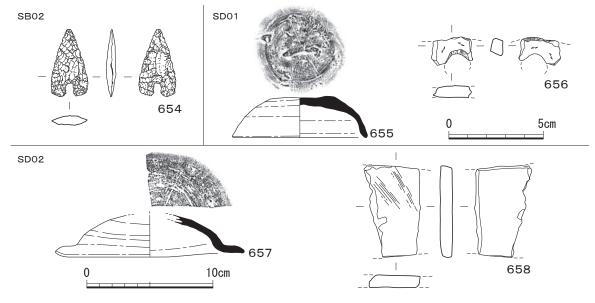
石製品(656) 滑石製の板状製品である。側面に加工痕が見られ、円形の穿孔が見られる。

#### SD02 (第82図、図版46)

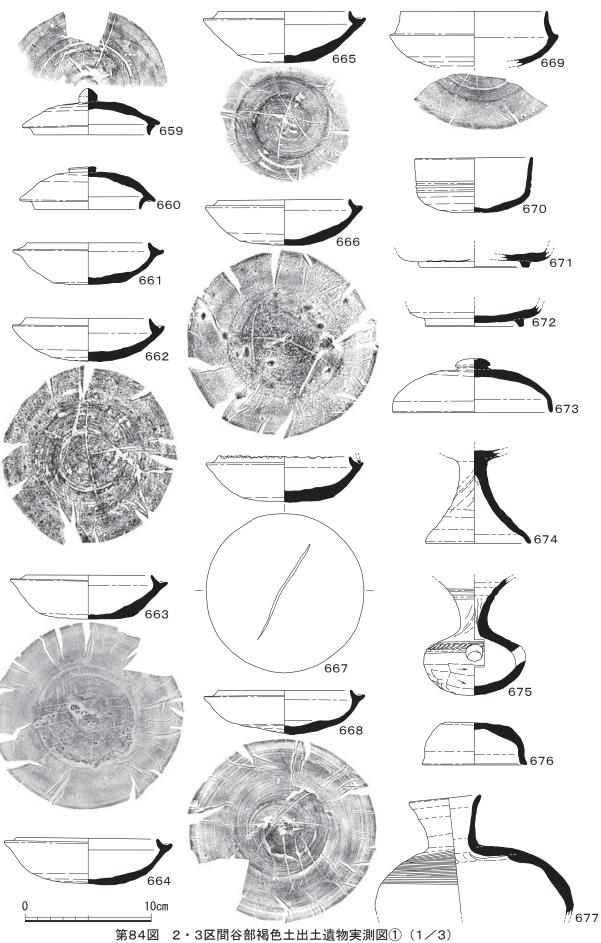
2区中央部、標高49.4~51.8mの南側斜面に位置し、南西にのびる。遺構はSX18・19を切る。 全長約15m、最大幅1.59m、最深部0.65mを測る。埋土は標高が高い地点は橙色土を多量に含み、 標高が低い地点は黄色土が主体となる。出土遺物には須恵器・土師器・石器がある。

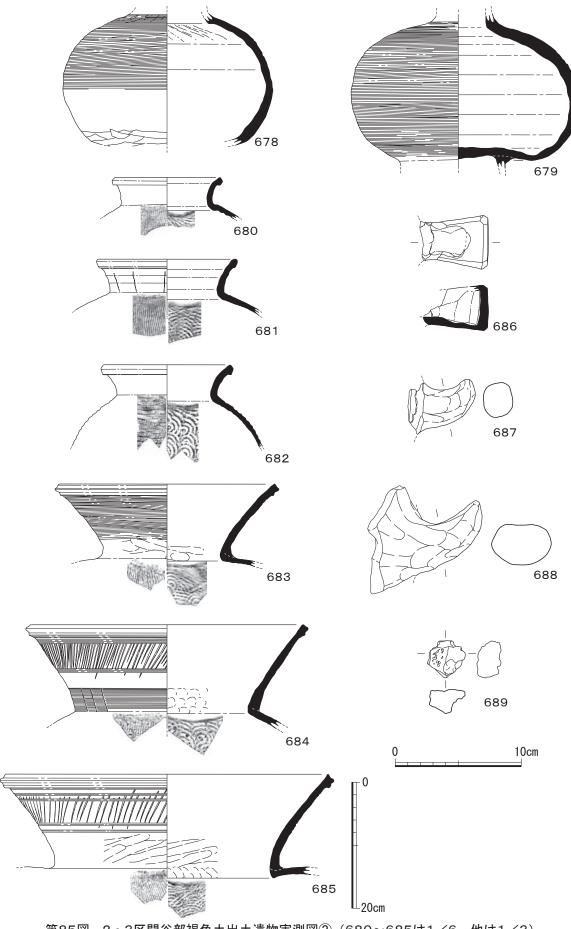
### 出土遺物 (第83図、図版78)

**須恵器(657)** 蓋で、復元口径は15.0cmを測るが、器体が歪んでいるため法量は不確定である。 口縁部はL字状に屈曲し、外側にのびる。



第83図 SB·SD出土遺物実測図(654・656・658は1/2、他は1/3)





第85図 2・3区間谷部褐色土出土遺物実測図② (680~685は1/6、他は1/3)

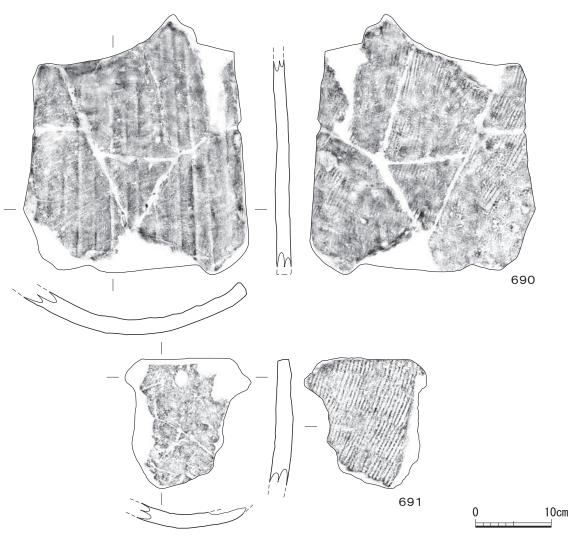
石製品(658) 砂岩製の砥石で、6面で使用痕が見られる。

#### (6) 谷部 (第5図、図版46)

2・3 区間谷部は、黒褐色土の堆積があり、遺物を相当量含んでいた。このため、掘り下げを実施し、 遺物の取り上げに努めた。

#### 出土遺物 (第84~86図、図版79~82)

須恵器(659~686) 659・660は杯G蓋で、口径は659で9.3cm、660は8.5cmを測る。いずれもかえりは口縁部下に突出し、天井部は外面約2/3に回転へラケズリを施す。659は乳頭状のつまみ、660は扁平なボタン状のつまみが中心よりずれた位置に付く。661~668は杯H身で、口径は9.9~11.3cmを測る。立ち上がりは内傾しつつ端部は直立に近い傾きになるもの(662・664・665・666・667)、内傾するもの(663・668)がある。底部外面の調整は回転へラケズリ(661・662・664~666・668)とヘラ切り後ナデ(663・667)がある。667は立ち上がり端部に細かい欠損部分が見られ、これらが使用痕である可能性がある。また、受部には蓋の口縁端部と思われる破片が付着する。669も杯H身であるが、前述した杯H身より口径が大きく、復元で11.7cmを測る。立ち上がりは長く、直立に近い傾きになる。底部は外面1/2に回転ヘラケズリを施す。670は杯G身で、復元口径は9.4cmを測る。体部~口縁部は直線的にのび、やや外傾する。



第86図 2・3区間谷部褐色土出土遺物実測図③ (1/5)

体部外面には沈線が巡り、底部外面は回転へラケズリを施す。671・672は杯B身で、底部に四角 形の短い高台を付ける。

673は高杯蓋で、復元口径12.7cmを測る。口縁部は直立に近い傾きになる。天井部は外面約1 /4に回転ヘラケズリを施し、中央部がくぼむ半球形ボタン状のつまみが付く。674は高杯の脚部 である。短脚で緩やかに開き、端部が内湾する。675は聴で、頸部・体部外面に2条沈線、体部の 沈線間に連続斜線文を施し、施文後に穿孔する。底部外面は手持ちヘラケズリを施す。

676は短頸壺蓋で、口径8.3cmを施す。口縁部は直立に近い傾きになり、端部は断面四角形に 仕上げる。天井部外面はヘラ切り後ナデを施す。677は平瓶で、復元口径5.8cmを測る。口縁部 はやや外反し、体部は扁平な球形を呈す。体部上位外面にはカキメを施し、断面では円盤閉塞の痕 跡が見られる。678・679は壺である。678は体部外面にカキメを施し、内面上位ではシボリ痕が 見られる。底部外面は工具によりナデを施す。679は体部外面にカキメを施し、内面上位ではシボ リ痕が見られる。底部は平底を呈し、高台が付く。

680~682は甕で、復元口径17.5~22.4cmを測る。口縁端部は四角形に仕上げるもの(680・682)、丸く仕上げるもの(681)がある。681の頸部外面ではヘラ記号が見られる。683~685は大甕で、復元口径は35.5~53.0cmを測る。口縁端部はいずれも四角形に仕上げ、外面に沈線が施される。683の頸部外面では2段に分けて沈線を巡らせ、カキメを施す。684では上位の2段に分けた沈線間に連続斜線文を施文し、下位にカキメを施す。685では2段に分けた沈線間に連続斜線文を施文する。

686は中空硯である。外面はケズリ、内面はナデにより仕上げる。

土師器(687・688) いずれも甑の把手で、ナデにより整形される。差込式である。

鉄滓(689) 重量21.2gを測り、若干磁力に反応する。

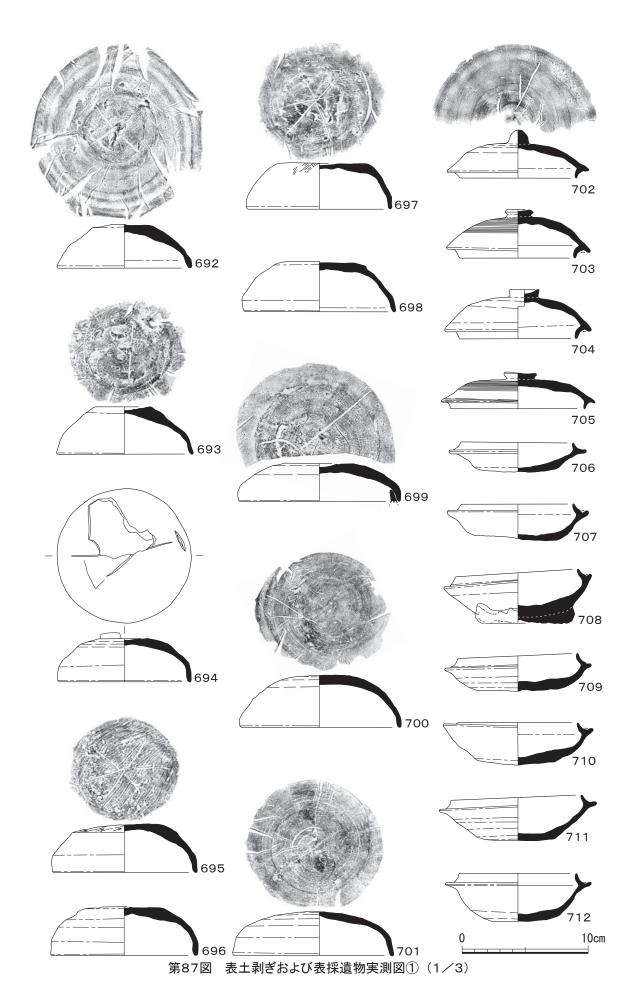
瓦(690・691) いずれも平瓦である。いずれも凸面では平行タタキが見られる。690の凹面では布目痕・模骨痕が残り、691の凹面では弓切り痕が見られる。

#### (7) その他の出土遺物

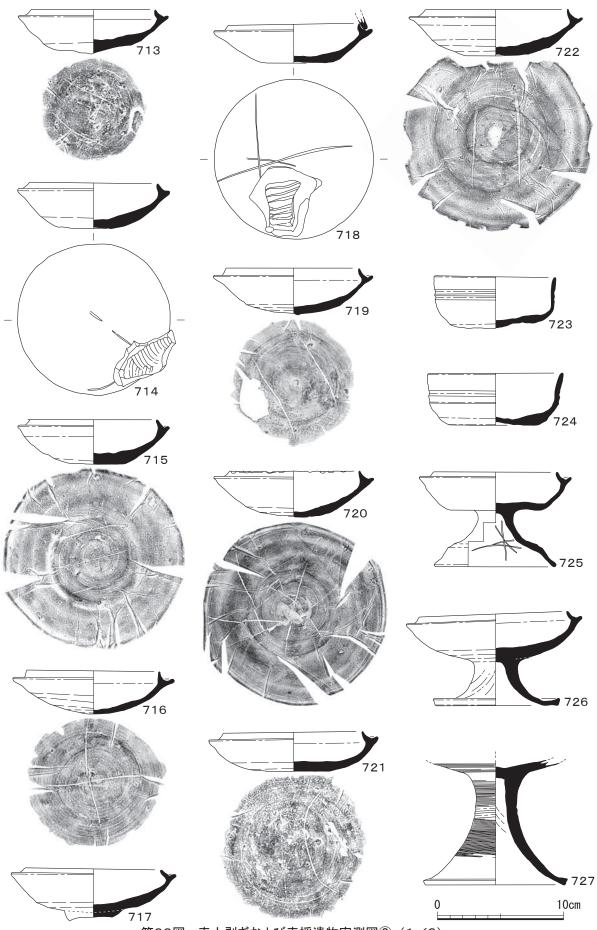
表土剥ぎおよび表採遺物 (第87~94図、図版83~90)

**須恵器**(692~743) 692~701は杯H蓋で、口径10.8~12.8cmを測る。口縁部はなだらかに開くもの(692・693)、直立に近い傾きになるもの(694~701)がある。天井部外面はヘラ切り後ナデまたは未調整であるもの(692・693・696~698)、回転ヘラケズリを施すもの(694・699~701)、手持ちヘラケズリを施すもの(695)がある。また、697は外面の一部でハケメが見られる。702~705は杯G蓋で、口径9.15~10.6cmを測る。いずれもかえりは口縁部下に突出し、つまみは乳頭状(702)、中央部がわずかに窪むボタン状(703)、中央部が深く窪むボタン状(704)、扁平なボタン状(705)に分かれる。天井部外面ではヘラケズリを行うもの(702・704)、カキメを施すもの(705)がある。

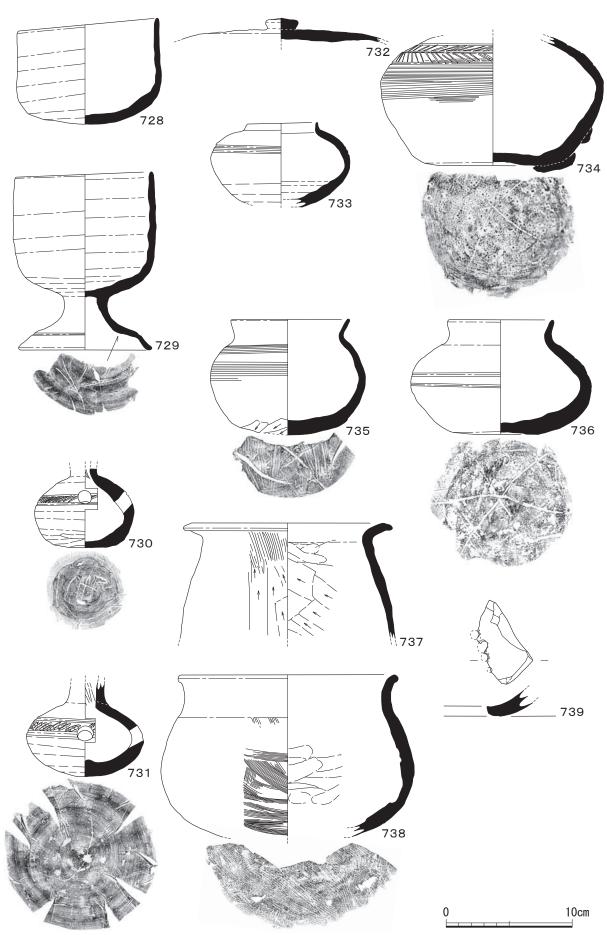
 $706\sim722$ は杯H身で、口径 $8.9\sim11.4$ cmを測る。立ち上がりは内傾しつつ端部は直立に近い傾きになるもの( $706\sim714\cdot716\cdot718\sim722$ )、内傾するもの( $715\cdot717$ )がある。天井部外面の調整はヘラ切り後ナデまたは未調整( $706\cdot709\cdot710\cdot711$ )、回転ヘラケズリ( $707\cdot712$ 



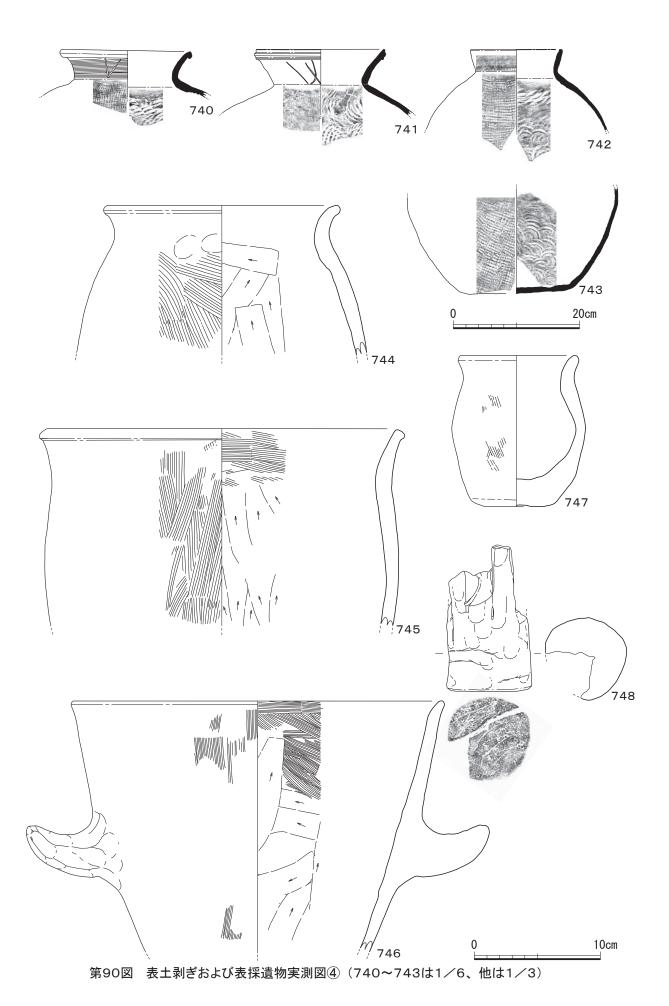
—110—



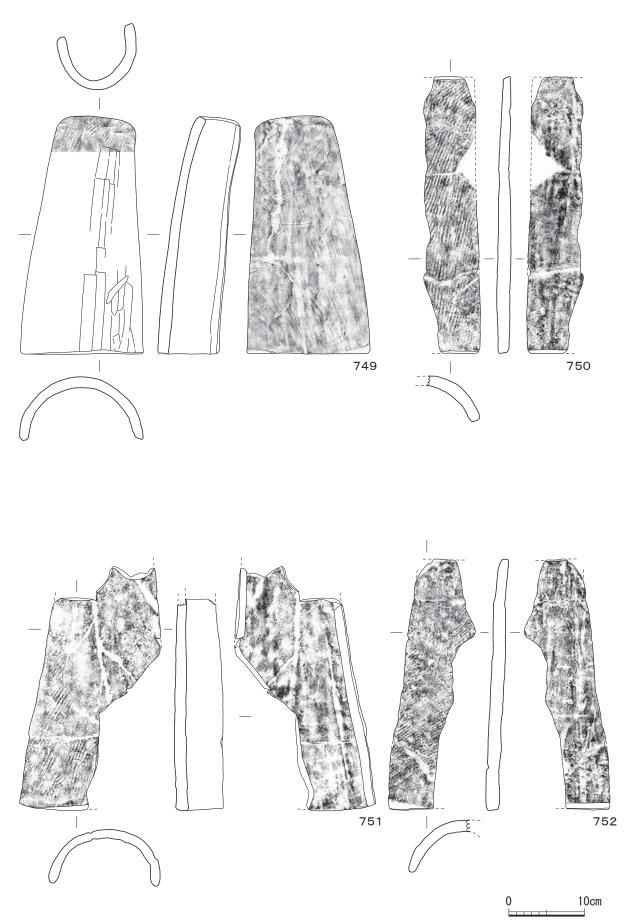
第88図 表土剥ぎおよび表採遺物実測図②(1/3)



第89図 表土剥ぎおよび表採遺物実測図③ (1/3)



—113—



第91図 表土剥ぎおよび表採遺物実測図⑤ (1/5)

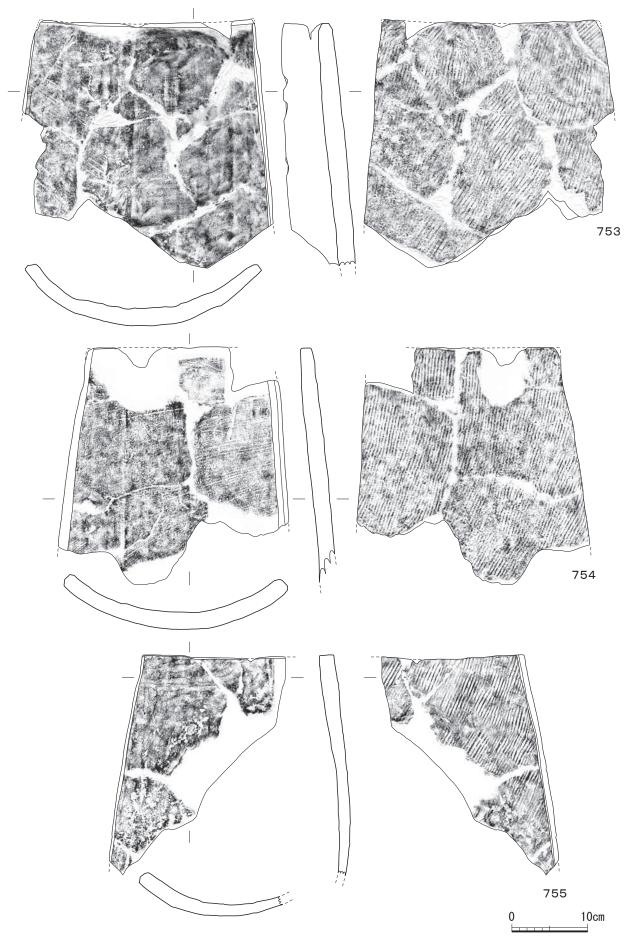
~717・719~722)に分かれる。また、器体に焼台・甕片・蓋口縁部が釉着するもの(708・709・714・717・718)がある。723・724は杯G身で、口径はそれぞれ9.75cm・11.4cmを測る。723は体部~口縁部にかけて直線的にのび、直立に近い傾きになる。体部外面には沈線を施す。724は体部中位で屈曲し、口縁部はやや外反する。体部外面には沈線・段を施す。いずれも底部外面はナデである。

725・726は有蓋高杯で、復元口径9.7cm・11.9cmを測る。725は立ち上がりが内傾しつつ端部が直立する傾きになり、底部外面調整はナデで仕上げ、杯部は箱型を呈す。脚部は短脚で、大きく開き、裾部付近で緩やかに屈曲する。脚部内面ではヘラ記号が見られる。726の立ち上がりは内傾し、底部外面は回転ヘラケズリにより丸みをつけて仕上がる。脚部は大きく広がり、裾部付近でほぼ水平に外側にのびる。727・729は高杯である。727は短脚で、なだらかに開き、杯底部・脚部外面はカキメ・沈線を施す。729は復元口径10.9cmを測り、杯部は通常の高杯より深い。体部~口縁部は直線的にのび、直立に近い傾きになる。脚部は大きく開き、裾部付近で屈曲する。また、脚部内面ではヘラ記号が見られる。

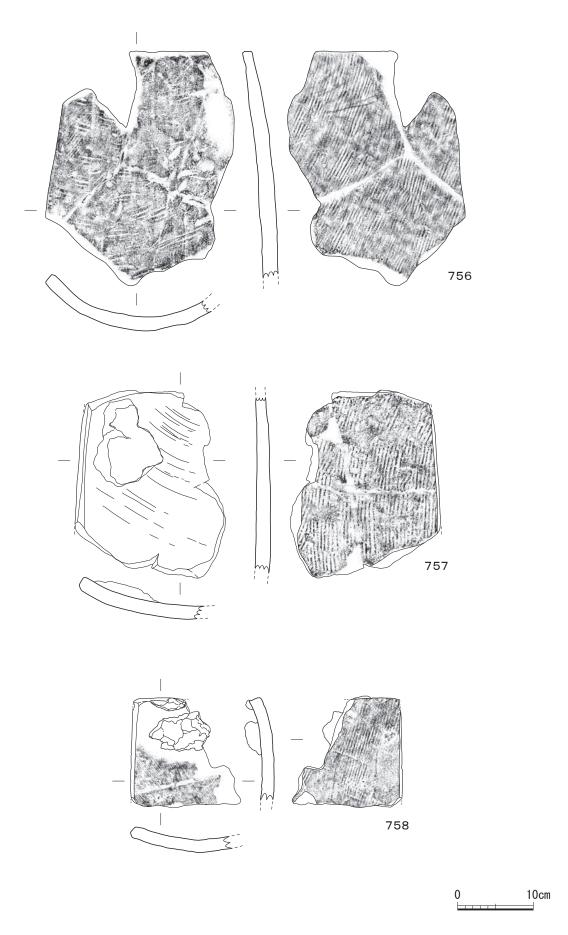
728は椀で、口径11.3cmを測る。体部~口縁部にかけ直線的にのび、直立に近い傾きになる。 底部外面は回転へラケズリを施す。730・731は聴である。730は体部が球形を呈し、底部は手持 ちヘラケズリにより平底に仕上げられる。731は扁平な球形を呈し、体部中位~底部の外面は回転 ヘラケズリを施す。いずれも体部中位に沈線・櫛状工具による連続刺突文を施文し、その後穿孔す る。732は杯蓋で、天井部外面に擬宝珠状のつまみが付く。

733は短頸壺で、口径5.6cmを測り、口縁部は直立する。体部は扁平な球形を呈し、外面では 沈線が見られる。底部外面は回転ヘラケズリを施す。734は壺か平瓶である。体部は扁平な球形を 呈し、外面にはカキメを施す。その後沈線・櫛状工具による刺突文の順に施文する。底部外面は手 持ちヘラケズリを施し、平底を呈す。体部下位・底部に他器種の須恵器が釉着する。735・736は 壺で、735の口径は9.5cm、736の復元口径8.1 cmを測る。735は口縁部が外傾し、体部が球形 を呈す。体部外面ではカキメが見られ、体部外面は手持ちヘラケズリを施す。736は口縁部が外傾 し、体部は扁平の球形を呈す。体部外面では沈線が見られ、底部外面は手持ちヘラケズリ後ナデで 仕上げ、平底を呈す。737は、土師器甕と同じ形態で、外面ハケメ、内面ヘラケズリを施す。須恵 質に焼成される。738は鉢で、復元口径17.5cmを測る。頸部~口縁部部にかけてわずかに外反する。 体部は球形を呈し、体部〜底部の外面ではハケメが見られる。739は甑であろうか?4ヵ所の穿孔 が確認できる。740~743は甕で、740~743は頸部外面にヘラ記号を施す。口径は 737で16.6 cm、740で20.8cm、741で20.4cm、742で復元口径14.6cmを測る。737は口縁部が大きく外 反し、端部は外側にのびる。体部上位外面ではハケメが見られ、中位以下はケズリを施す。740 ~743の口縁端部は四角形の突帯状に仕上げるもの(740)、四角形の端部外面に沈線状のくぼみ を施すもの(741)、四角形に仕上げるものが(742)ある。742は頸部が直立に近く立ち上がる。 743は甕の下半部が残存し、底部は平底を呈す。742と同一個体である可能性が高い。

**土師器(744~747)** 744・745は甕で、復元口径はそれぞれ18.6cm・27.8cmを測る。744 はやや膨らむ体部から口縁部で外反し、端部は丸く仕上げる。745は寸胴型の体部から口縁部部で



第92図 表土剥ぎおよび表採遺物実測図⑥ (1/5)



第93図 表土剥ぎおよび表採遺物実測図⑦ (1/5)

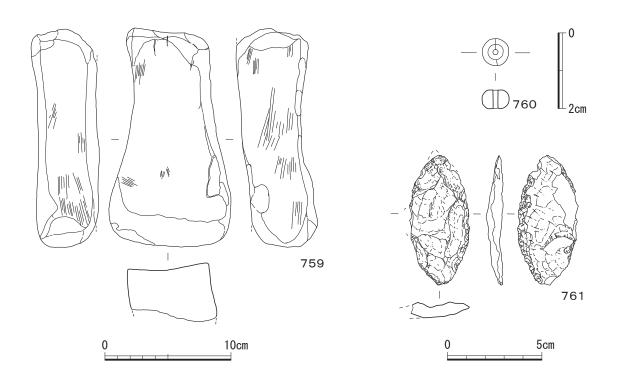
緩やかに外反し、端部は断面四角形に仕上げられる。746は把手付きの甑で、復元口径29.3cmを 測る。体部~口縁部は直線的にのび、上方に向かって大きく開く。体部外面~内面にハケメを施し、 体部内面はケズリを行う。747は小型の甕で、口径9.6cmを測る。長胴を呈す体部から口縁部は 外反する。底部外面は工具によるナデにより平底に仕上げる。

土製品(748) 円筒状土製品で、直径約6.6cmを測る。ナデにより整形し、所々にヘラ状工具が接触した痕跡が見られる。底面にはヘラ記号を施す。

瓦(749~758) 749~752は丸瓦で、土師質である。凹面ではいずれも模骨痕が見られ、これに加えて749は弓切り痕・布目痕・ハケメが確認でき、750・752では布目痕が付く。凸面は750~752で平行タタキがみられ、749では狭端部付近で平行タタキが見られ、他の広い部分はヘラケズリを施す。753~758は平瓦で、753~757は土師質、758は須恵質である。凹面はいずれも弓切り痕が残り、加えて753・754では布目痕・模骨痕、755は模骨痕・狭端部付近にヘラケズリ、756は同心円文当て具痕、758では布目痕が見られる。凸面では平行タタキ(753~755・757・758)と擬格子タタキ(756)が残る。757・758には焼台が釉着しており、焼成時の状況が良く分かる。

石製品(759·761) 759は砥石で、3面に使用痕が見られる。761はサヌカイト製のスクレイパーで、横長剥片の左側縁部では主に表面側から調整を施し刃部を作り出す。

ガラス製品(760) 小玉で、直径0.7cmを測る。明緑色を呈し、細かい気泡が見られる。



第94図 表土剥ぎおよび表採遺物実測図⑧(759は1/3、760は1/1、761は1/2)

## 表1 梅頭遺跡第2次調査出土遺物観察表①

			表1	<b></b>	2次調査出土遺物観	<b>佘衣</b> ①	
遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm·g) ①口径②器高 ③底径④高台径 ⑤最大径()は復元	形態・技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
1	銅製品	耳環	1号窯跡焼成部2右区上方流入土	縦2. 3横2. 6 直径0. 5			
2	鉄製品	鉄鏃	1号窯跡焼成部2右下層フルイにて 検出	縦5.4横1.1 厚0.25~0.3			柳葉式長頸鏃。
3	鉄製品	鉄鏃	1号窯跡焼成部2左下層フルイにて 検出	縦3.9横2.8 厚0.3			円頭斧箭式。
4	銅製品	耳環	1号窯最終床面直上耳環No2	縦1. 9横2. 1 直径0. 35			
5	須恵器	杯蓋	1号窯跡 最終床面 平面図⑨	①(12.0)②4.1	回転ナデ成形後、天井部内面 不定方向ナデ。外面1/2を回転 ヘラケズリ。	A:3mm以下の白色砂粒をやや多量含む。 B:良好。C:外灰10Y6/1〜暗灰N4/〜灰黄 褐10YR5/2、内灰10Y6/1〜暗灰N3/。	天井部外面へラ 記号。
6	須恵器	杯蓋	1号窯跡 清掃時 最終床面上 1号窯跡 焼成部1左 床面直上51層	①12.5②4.15	回転ナデ成形後、天井部内面 不定方向ナデ。	A:3mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外青灰10BG5/1〜灰N5/、 内灰N5/。	天井部外面へラ 記号。
7	須恵器	杯蓋	1号窯跡 最終床面直上	①12. 1②4. 1	回転ナデ成形。外面2/3を回転 ヘラケズリ。	A:5mm以下の白色砂粒を多量、微細な黒色粒を少量含む。B:良好。C:外青灰5B5/1~暗青灰5B3/1、内青灰5PB5/1。	天井部外面へラ 記号。
8	須恵器	杯身	1号窯跡 焼成部2右 耳環出土地点 付近	①(11.1)②4.7 受部径(13.2)	回転ナデ成形。外面2/3を回転 ヘラケズリ。	A:2mm以下の白色砂粒を多量、1mm以下の黒色粒を少量含む。B:良好。C:外灰白10Y8/1~灰N6/、内灰N4/。	底部外面へラ 記号。 歪みあり。
9	須恵器	杯身	1号窯跡 焼成部2右 耳環出土地点 付近	①11. 15②4. 3 受部径13. 4	回転ナデ成形。外面1/2回転へ ラケズリ。	A:1mm以下の白色砂粒を多量、0.5~1mm の黒色粒を少量含む。B:良好。C:外灰 N6/~灰N4/、内灰N4/。	底部外面へラ 記号。
10	須恵器	高杯蓋	1号窯跡 焼成部1左 床面直上 1号窯跡 焼成部1左 31層 1号窯跡 焼成部2右 下層 フルイ 検出	①13.2②4.2 つまみ径3.05	回転ナデ成形後、天井部内面 不定方向ナデ。外面2/3にカキ メ。つまみ貼付。	A:0.5~1mmの白色砂粒をやや多量 含む。B:良好。C:外灰N5/~黒N2/、内 灰N6/。	天井部外面 ヘラ記号。
11	須恵器	有蓋 高杯	1号窯跡 焼成部1左 31層 1号窯跡 清掃時 最終床面上 1号窯跡 焼成部1左 床面直上	①11. 8②8. 75+ α 受部径13. 5	回転ナデ成形。杯底部内面を 不定方向ナデ。杯部外面2/3を 回転ヘラケズリ。脚は回転ナ デ。	A:1mm以下の白色砂粒をやや多量含む。 B:良好。C:杯部外灰N4/〜灰白 7.5Y8/1、杯部内青灰5BG5/1。脚部内外 共灰白7.5Y8/1。	
12	須恵器	椀	1号窯跡 焼成部2右 31層 1号窯跡 焼成部2左 60層 1号窯跡 焼成部2左 61層 1号窯跡 焼成部1左 床面直上51層 1号窯跡 焼成部1左 31層	①10. 1②10. 6	回転ナデ成形後、底部内面不定方向ナデ。外面1/2回転ヘラケズリ、1/2にカキメ、沈線。	A:3mm以下の白色砂粒をやや多量含む。 B:良好。C:外内外共灰N6/〜暗灰N3/。	底部外面へラ 記号。
13	須恵器	大甕	1号窯跡 焚口左 最終床面上層	①(54. 1) ②12. 15+ α	口縁回転ナデ成形。頸部外面 にカキメ、連続斜線文、沈 線。	A:0.5~5mmの白色砂粒をやや多量 含む。B:良好。C:外黒7.5Y2/1~灰 7.5Y6/1、内灰10Y4/1~黒N2/。	
14	須恵器	大甕	1号窯跡 焚口左 最終床面上層 1号窯跡 最終床面直上	①(49. 8) ②18. 05+ α	体部外面は擬格子タタキ、内面は同心円文当て具。頸部外面にカキメ、連続斜線文、沈線。	A:3mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外灰5Y5/1〜暗灰N3/、内灰 N4/。	頸部外面降灰。
15	須恵器	大甕	1号窯跡 最終床面直上	①(55. 6) ②16. 45+ α	口縁回転ナデ成形。頸部外面 にカキメ、連続斜線文、沈 線。	A:4mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外灰5Y5/1~黒N2/、内灰 5Y4/1~暗灰N3/。	頸部外面降灰。
16	須恵器	杯蓋	1号窯跡 床24層	①12. 1②4. 3	回転ナデ成形後、天井部外面 を不定方向ナデ。外面2/3を回 転ヘラケズリ。	A:2mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外灰白2.5Y8/2〜明黄褐 10YR7/6、内灰白2.5Y8/2。	外面へラ記号。
17	須恵器	杯蓋	1号窯跡 断ち割りベルト中	①13. 2②4. 2 天井径9. 0	回転ナデ成形後、天井部内面 不定方向ナデ。外面1/2を回転 ヘラケズリ。	A:粗砂を少量含む。B:良好。C:外灰N6/ ~灰N5/、内暗灰黄2.5Y5/2。	外面降灰。
18	須恵器	杯蓋	1号窯跡 床4・5・9層	①13.6②4.2	不定方向ナデ。外面1/2を回転 ヘラケズリ。	A:5mm以下の白色砂粒、微細な黒色粒を 少量含む。B:良好。C:外灰NS/〜灰白 N7/〜暗紫灰5RP3/1、内灰N6/。	天井部外面へラ 記号。
19	須恵器	杯蓋	1号窯跡 床16層	①14. 35②4. 6	回転ナデ成形後、天井部内面 不定方向ナデ。外面1/2を回転 ヘラケズリ。	A:2mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外灰白2.5Y8/2~灰褐 7.5YR5/2、内灰白10YR8/2。 A:3mm以下の白色砂粒を微量、微細な黒	
20	須恵器	杯蓋	1号窯跡 床28・29・25・26	①15. 0②4. 6	回転ナデ成形後、底部内面を 不定方向ナデ。外面1/2を回転 ヘラケズリ。	色粒をやや多量含む。B:良好。C:外灰 黄2.5Y7/2~黄灰2.5Y4/1、内灰黄 2.5Y7/2。	体部外面へラ 記号。
21	須恵器	杯身	1号窯跡 床16・11層	①10. 4②4. 4 受部径13. 2	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面3/4を回転へ ラケズリ。	A:2mm以下の白色砂粒を微量含む。 B:良好。C:外灰黄2.5Y6/2〜黄灰 2.5Y4/1、内淡黄2.5Y8/3〜黒褐 2.5Y3/1。	底部外面へラ 記号。
22	須恵器	杯身	1号窯跡 床25層	①11. 15②4. 1 受部径13. 7	回転ナデ成形後、底部内面を 不定方向ナデ。外面1/3を回転 ヘラケズリ。	A:5mm以下の白色砂粒をやや多量含む。 B:良好。C:外オリーブ黒5Y3/2〜灰 5Y4/1、内オリーブ黒7.5Y3/1〜暗縁 10G3/1。	外面降灰。
23	須恵器	杯身	1号窯跡 床21層 1号窯跡 断ち割りベルト中	①(11.1) ②2.65+α 受部径(14.3)	回転ナデ成形。外面ヘラケズ リ。	A:粗砂を少量含む。B:良好。C:外灰白 2.5Y8/2~橙5YR7/6、内灰白2.5Y8/2。	
24	須恵器	高杯蓋	1号窯跡 床24層	①13. 2②5. 15	回転ナデ成形後、天井部内面 不定方向ナデ。外面2/3を回転 ヘラケズリ。つまみ貼付。	A:粗砂、微細な黒色粒を少量含む。 B:良好。C:外浅黄橙10YR8/3~橙 2.5YR6/8~灰赤2.5YR5/2、内浅黄橙 10YR8/3。	
25	須恵器	短頸壺蓋	1号窯跡 床17・18・19層	①7. 8②3. 15	回転ナデ成形。外面1/2を手持 ちヘラケズリ。	A:2mm以下の白色砂粒を微量含む。 B:良好。C:外褐灰7.5YR4/1〜灰黄褐 10YR6/2、内黄褐2.5Y5/3〜暗灰黄 2.5Y5/2。	天井部外面 ヘラ記号。
26	須恵器	大甕	1号窯跡 床36・37・39・42層	①(54.3) ②18.2+α	口縁回転ナデ成形後、頸部外 面に2段の連続斜線文、沈線。	A:2mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外灰褐5Y4/2、内赤灰 2.5YR5/1~灰5Y6/1。	全面降灰。焼台 に転用か?。

## 表2 梅頭遺跡第2次調査出土遺物観察表②

				衣と	<b></b>	2次調査出土遺物観	<b>奈衣</b> ②	
遺物番号	種類	器種		出土地点	法量(cm·g) ①口径②器高 ③底径④高台径 ⑤最大径()は復元	形態・技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
27	須恵器	杯蓋		焚口天井 崩落土 焚口左 根カクラン	①11.9②4.3	回転ナデ成形。外面2/3を回転 ヘラケズリ。	A:2mm以下の白色砂粒をやや多量含む。 B:良好。C:外灰N4/~灰5Y4/1、内灰 N4/。	天井部外面へラ 記号。著しい 歪みあり。
28	須恵器	杯蓋	1号窯跡	焚口天井 崩落土	①12. 2②4. 1	回転ナデ成形後、天井部内面 中央を不定方向ナデ。外面2/3 を回転ヘラケズリ。	A:2mm以下の白色砂粒をやや多量含む。 B:良好。C:外灰N5/、内灰N5/〜暗灰黄 2.5Y4/2。	天井部外面へラ 記号。 内面降灰。
29	須恵器	杯蓋	1号窯跡	焚口天井 崩落土	①12. 5②4. 1	回転ナデ成形。外面1/3を回転 ヘラケズリ。	A:1mm以下の白色砂粒をやや多量含む。 B:良好。C:外灰N5/~灰N4/、内灰N5/。	天井部外面へラ 記号。
30	須恵器	杯蓋	1号窯跡	焚口天井 崩落土	112.024.2	回転ナデ成形後、天井部内面 不定方向ナデ。外面1/3を回転 ヘラケズリ。	A:0.5~3mmの白色砂粒をやや多量 含む。B:良好。C:外灰N4/~暗灰N3/、 内灰N4/。	天井部外面へラ 記号。
31	須恵器	杯蓋	1号窯跡	20層	①13. 1②4. 6	回転ナデ成形後、天井部内面 不定方向ナデ。外面2/3を回転 ヘラケズリ。	A:2mm以下の白色砂粒をやや少量含む。 B:良好。C:外オリーブ黒5Y3/1、内灰 2.5Y4/1。	体部外面へラ 記号。
32	須恵器	杯蓋	1号窯跡	焚口天井 崩落土	①13. 4②3. 9	回転ナデ成形後、天井部内面 不定方向ナデ、指頭痕あり。 外面1/3を回転ヘラケズリ。	A:1mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:內外共灰N4/。	内外面共へラ 記号。
33	須恵器	杯蓋		焚口天井 崩落土 焚口左 最終床面上層	①13.0②3.8	回転ナデ成形後、天井部内面 不定方向ナデ。外面1/2を回転 ヘラケズリ。	A:0.5~3mmの白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外灰N4/~黒N2/、内灰N4/。	内外面へラ 記号。 外面降灰。
34	須恵器	杯身	1号窯跡	焚口天井 崩落土	①10. 2②4. 1 受部径12. 5	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面1/2を回転へ ラケズリ。	A:0.5~2mmの白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外灰N4/、内灰N5/。	底部外面へラ 記号。
35	須恵器	杯身	1号窯跡	焚口天井 崩落土	①11.65②3.8 受部径13.95	回転ナデ成形後、底部内面を 不定方向ナデ。外面1/2を回転 ヘラケズリ。	A:0.5~2mmの白色砂粒をやや多量 含む。B:良好。C:外褐灰7.5YR4/1~赤 灰2.5YR4/1、内灰赤2.5YR5/2。	底部外面へラ 記号。
36	須恵器	杯身	1号窯跡	焚口天井 崩落土	①11.5②4.2 受部径14.0	回転ナデ成形。外面3/5を回転 ヘラケズリ。	A:2mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外灰N5/、内灰N5/~灰オ リープ7.5Y5/2。	内外面へラ 記号。外面窯砂 釉着。
37	須恵器	杯身	1号窯跡	焼成部2右 上方流入土	①11. 25②4. 35 受部径13. 45	回転ナデ成形後、底部内面を 不定方向ナデ。外面1/2を回転 ヘラケズリ。	A:3mm以下の白色砂粒、1mm以下の黒色粒を少量含む。B:良好。C:外灰N6/~オリーブ黒7.5Y3/1、内灰N4/。	底部外面へラ 記号。
38	須恵器	杯身		焚口天井 崩落土 焚口最終床面直上層	①10.6②4.0 受部径13.0	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面1/2を回転へ ラケズリ。	A:0.5~5mmの白色砂粒をやや多量 含む。B:良好。C:内外共灰N6/。	底部外面へラ 記号。
39	須恵器	高杯蓋	1号窯跡	窯尻 51層下層	②3.9+α つまみ径3.1	回転ナデ成形後、天井部内面 を不定方向ナデ。外面回転へ ラケズリ。つまみ貼付。	A:1.5mm以下の白色砂粒を多量、粗砂を 微量含む。B:やや不良。C:外橙5YR6/6 〜にぶい橙7.5YR6/4、内橙5YR6/6。	
40	須恵器	高杯	1号窯跡	焚口天井 崩落土 焚口左 根カクラン 焚口左 最終床面直上層	①13. 15②11. 0 裾部径10. 5	回転ナデ成形後、杯底部内面 を不定方向ナデ。杯部外面3/5 を回転ヘラケズリ。	A:0.5~4mmの白色砂粒をやや多量含む。B:良好。C:内外共灰N5/~灰5Y5/1。	脚部内面へラ 記号。全体に 著しい歪み あり。
41	須恵器	椀	1号窯跡	焼成部2右 31層	①12. 2②7. 5	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面1/5(底部屈 曲部付近)を回転ヘラケズリ。	A:5mm以下の白色砂粒をやや多量含む。 B:良好。C:外灰N5/〜暗灰N3/、内灰N5/ 〜明オリーブ灰2.5GY7/1〜灰N4/。	底部外面へラ 記号。
42	須恵器	椀	1号窯跡	窯尻2 51層下層	294. 5+ α	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。底部外面回転へ ラケズリ。	A:1.5mm以下の白色砂粒を少量、微細な石英、粗砂を微量含む。B:やや不良。C:内外共橙5YR7/6。	底部外面へラ 記号。
43	須恵器	台付椀	1号窯跡 1号窯跡	焼成部2右 31層 焼成部2左 61層	①(12.8)②6.9 ④8.1	回転ナデ成形後、底部内面を 不定方向ナデ。外面3/5を回転 ヘラケズリ。高台貼付。	A:2mm以下の白色砂粒をやや多量、微細な黒色粒を微量含む。B:良好。C:内外共青灰10BG5/1。	
44	須恵器			焚口天井 崩落土 焚口左 根カクラン	①10. 2②3. 7	回転ナデ成形。外面3/4にカキメ。	A:1mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:內外共灰N6/。	
45	須恵器	甕	1号窯跡	焚口天井 崩落土	①(21. 1) ②6. 7+ α	体部外面は擬格子タタキ、内面は同心円文当て具。口縁は回転ナデ。頸部外面にハケ状の痕跡あり。タタキか?	A:0.5~1mmの白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外褐灰5YR5/1~灰N4/、内黒 褐10YR3/1。	
46	須恵器	獲	1号窯跡 1号窯跡 1号窯跡	焚口天井 崩落土 焚口左1層 黒褐色 焚口左最終床面直上層 焼成部1右 最終床面 焚口左 根カクラン	①(24. 0) ②24. 0+ α	体部外面は擬格子タタキ、内面は同心円文当で具。口縁は 回転ナデ。	A:2mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外灰N4/〜灰7.5Y6/1、内灰 N5/〜灰N〜灰7.5Y6/1。	
47	須恵器	鉢	1号窯跡	焼成部2右 17層	①(28. 0) ②2. 0+ α	回転ナデ成形。	A:1mm以下の白色砂粒をやや多量含む。 B:良好。C:外灰5Y6/1~黒N2/、内黒 N2/。	
48	抑焔柱		1号窯跡	中央分炎柱	縦16. 2横16. 4 高15. 1	円錐状。	A:0.5~5mmの白色砂粒を多量含む。 植物根を含む。C:にぶい黄橙10YR6/3。	上面煤付着。
49	須恵器	杯蓋	1号窯跡 検出中	焼成部~灰原	①12. 6②3. 45	回転ナデ成形後、天井部内面 不定方向ナデ。外面2/3を回転 ヘラケズリ。	A:1mm以下の白色砂粒をやや多量含む。 微細な粗砂を少量含む。B:良好。C:外 灰N6/、内灰白N7/。	
50	須恵器	杯蓋		灰原 1区 灰層 焼成部~灰原検出中	112. 224. 3	回転ナデ成形後、天井部内面 不定方向ナデ。外面2/3を回転 ヘラケズリ。	A:2mm以下の白色砂粒をやや多量、微細な粗砂を少量含む。B:良好。C:内外共 黄灰2.5Y6/1。	天井部外面へラ 記号。
51	須恵器	椀	1号窯跡	焼成部~灰原検出中	①(13. 6) ②8. 8+ α	回転ナデ成形。外面2/5を回転 ヘラケズリ。	A:1mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外灰N6/~灰N4/、内灰N5/。	底部外面へラ 記号。
52	須恵器	杯蓋	1号窯跡	作業路2 埋土	①(13.0)②4.5	回転ナデ成形後、天井内面不 定方向ナデ。外面1/2を回転へ ラケズリ。	A:微細な白色砂粒、雲母を微量含む。 B:やや不良。C:内外共にぶい黄橙 10YR7/4〜黄橙10YR8/6。	天井部外面へラ 記号。

# 表3 梅頭遺跡第2次調査出土遺物観察表③

			衣る	<b>伸</b>	2次調宜田工退物観	会なる	
遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高 ③底径④高台径 ⑤最大径()は復元	形態・技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
53	須恵器	鉢	1号窯跡 作業路 最終操業面下 埋土	①(30. 0) ②5. 3+ α	回転ナデ成形。外面カキメ、 下位は回転ヘラケズリ。外面 指頭痕あり。	A:1mm以下の白色砂粒を少量、微細な雲 母、赤褐色粒を微量含む。B:やや 不良。C:外橙2.5YR6/6、内にぶい橙 7.5YR6/4。	
54	須恵器	杯蓋	SC01 ⑤	①(12. 2)②3. 8	回転ナデ成形後、天井部内面 不定方向ナデ。外面1/2を回転 ヘラケズリ。	A:1mmの白色砂粒を微量含む。B:良好。 C:内外共灰N6/。	天井部外面へラ 記号。
55	須恵器	杯蓋	SC01 ⑨	①(12. 2) ②4. 1+ α	回転ナデ成形。外面ヘラケズ リ(欠損のため範囲不明)。	A:1mm以下の白色砂粒、微細な石英を 微量含む。B:不良。C:外淡黄2.5Y8/4〜 灰白N7/、内淡黄2.5Y8/4。	
56	須恵器	杯蓋	SC01 ① SC01-2 SC01-3	①13.0②4.3	回転ナデ成形後、天井部内面 不定方向ナデ。外面2/3を回転 ヘラケズリ。	A:粗砂を微量含む。B:良好。C:外灰N6/ 〜灰白5Y7/1、内灰N6/。	天井部外面へラ 記号。
57	須恵器	杯身	SC01 ⑦	①(10.6) ②3.4+α 受部径(12.5)	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面1/2を回転へ ラケズリ。	A:1mm以下の白色砂粒を微量含む。 B:良好。C:外灰白N7/、内灰N6/。	外面降灰。
58	須恵器	杯身	SC01 10	①11.0②3.8 受部径13.1	回転ナデ成形後、底部内面を 不定方向ナデ。外面2/3を回転 ヘラケズリ。	A:1.5mm以下の白色砂粒をやや多量 含む。B:良好。C:外灰黄2.5Y6/2〜灰 N5/、内灰7.5Y6/1〜灰N5/。	底部外面へラ 記号。
59	須恵器	杯身	SC01 18	①(11.4) ②3.4+α 受部径(14.0)	回転ナデ成形後、底部内面を ナデ。回転ヘラケズリ。	A:粗砂を微量含む。B:良好。C:外灰白 N7/〜灰N6/、内灰N6/。	底部外面へラ 記号。
60	須恵器	杯身	SC01 10	①11. 2②3. 8 受部径13. 6	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面3/4を回転へ ラケズリ。	A:1mm以下の白色砂粒、礫を微量含む。 B:良好。C:外灰黄2.5Y7/2~灰N5/、内 灰7.5Y7/1~灰10Y6/1。	底部外面へラ 記号。
61	須恵器	杯身	SC01 <sup>(1)</sup> SC01-2	①13. 4②5. 2 受部径16. 0	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面1/4を回転へ ラケズリ。	A:1mm以下の白色砂粒を微量含む。 B:良好。C:外灰N4/、内灰N4/~灰N5/。	外面降灰。
62	須恵器	短頸 壺蓋	SC01 10 SC01-3	①9. 1~9. 8②3. 8	回転ナデ成形後、天井部内面 ナデ。外面2/3を手持ちヘラケ ズリ。	A:粗砂を微量含む。B:良好。C:外灰N6/ 〜灰N5/、内灰N6/。	天井部外面へラ 記号。 歪みあり。
63	土師器	甕	SC01 (19	①(14. 0) ②8. 2+ α	体部内面斜方向のヘラケズ リ。他は摩滅。	A:1.5mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:不良。C:内外共橙5YR6/8、内橙 5YR6/8。	
64	土師器	甕	SC01 12	①(15. 0) ②10. 2+ α	摩滅の為、調整不明。	A:0.5~2mmの砂粒、礫を多量含む。 B:良好。C:外にぶい黄橙10YR7/3~浅黄 橙10YR8/4、内にぶい黄橙10YR7/3。	
65	土師器	甑	SC01 ①-2	①(30. 0) ②20. 6+ α	体部外面タテハケ、内面縦方 向ヘラケズリ(摩滅)。	A:1mm以下の白色砂粒を少量、礫を多量含む。B:やや不良。C:内外共浅黄橙7.5YR8/6。	
66	土師器	甑	SC01 ①-2	②12. 5+ α ③(12. 0)	体部外面はタテハケ、内面は 摩滅。	A:1mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:やや不良。C:外浅黄橙7.5YR8/4〜浅 黄橙10YR8/4、内浅黄橙7.5YR8/4。	No. 65と 同一個体。
67	土師器	甑	SC01	②14. 9+ α	体部外面タテハケ、内面は不 定方向のヘラケズリ。把手は 指頭痕を残すナデ成形。	A:1mm以下の白色砂粒、粗砂粒を微量 含む。B:やや不良。C:内外共浅黄橙 7.5YR8/6。	No. 65と 同一個体。
68	石製品	石匙	SX02	長4.6 幅7.8 厚0.8重23.0			安山岩。
69	須恵器	杯蓋	SX03 (3) SX03 (8)	①(12.1)②3.7	回転ナデ成形後、天井部内面 不定方向ナデ。外面2/3を回転 ヘラケズリ。	A:粗砂を微量含む。B:良好。C:外暗灰 N3/~灰N4/、内灰N4/~灰N5/。	天井部外面へラ 記号。
70	須恵器	杯蓋	SX03 表土ハギ	①(13.4)②4.1	回転ナデ成形後、天井部内面 ナデ。外面1/2回転ヘラケズ リ。	A:粗砂を少量、微細な粗砂粒を微量 含む。B:やや不良。C:外灰白N7/、内灰白7.5Y7/1。	天井部外面へラ 記号。
71	須恵器	杯蓋	SX03	①(13.5) ②3.75+α	回転ナデ成形後、天井部内面 をナデ、外面1/2を回転ヘラケ ズリ。	A:粗砂を多量含む。B:良好。C:外灰 10Y6/1、内灰黄2.5Y6/2。	天井部外面へラ 記号。
72	須恵器	杯身	-	①10.7②3.9 受部径13.3	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面2/3を回転へ ラケズリ。	A:粗砂と粗砂粒を微量含む。B:不良。 C:外浅黄2.5Y7/3、内淡黄2.5Y8/3。	底部外面へラ 記号。
73	須恵器	杯身	SX03 (II) SX03 (II)	①11.9②4.0 受部径13.8	回転ナデ成形。外面2/3を回転ヘラケズリ。	A:粗砂、粗砂粒を微量含む。B:良好。 C:外灰10Y6/1、内灰10Y6/1~灰 10Y5/1。	底部外面へラ 記号。
74	須恵器	杯身	SX03 (21)	①(11.9)②4.45 受部径13.9	回転ナデ成形。外面1/2を回転 ヘラケズリ。底部内面は摩 滅。	A:粗砂を少量含む。B:不良。C:外浅黄 2.5Y7/4、内淡黄2.5Y8/4。	底部外面へラ 記号。
75	須恵器	高杯	SX03	①(11. 6) ②3. 7+ α	回転ナデ成形後、底部内面不定方向ナデ。	A:混入物はほとんどない。B:良好。 C:外灰N5/、内灰N6/~灰白N7/。	
76	須恵器	有蓋 高杯	SX03 表土ハギ	①(11.2) ②5.7+α 受部径13.4	回転ナデ成形。杯底部内面を 不定方向ナデ。杯部外面1/3を 回転ヘラケズリ。脚は回転ナ デ。	A: 微細な砂粒、雲母を微量含む。B: 良好。C:外灰N6/、内灰N6/~灰白5Y7/1。	外面へラ記号。
77	須恵器	短頸 壺蓋	SX03 (23)	①10.0②3.5	内面回転ナデ。外面は摩滅の 為、調整不明。	A:粗砂を微量含む。B:良好。C:外灰白 N7/、内青灰5PB6/1。	
78	須恵器	壺	SX03 表土ハギ SP03	②18. 7+α ③10. 4 胴部径22. 3	回転ナデ成形。底部内面はナ デ。外面全面にカキメ。上位 に幅広の沈線。	A:粗砂を微量含む。B:良好。C:外灰N7/ 〜灰N6/、内灰N6/。	底部外面へラ 記号。体部外面 上半降灰。
79	須恵器	甕	SX03 ④ SX03 ⑩ SX03 表土ハギ	①(18.8) ②10.0+α	体部外面平行タタキ、内面同 心円文当て具。口縁回転ナ デ。	A:粗砂を少量含む。B:良好。C:外灰N6/、内灰N4/~暗灰N3/。	

## 表4 梅頭遺跡第2次調査出土遺物観察表④

			衣4	<b>伸</b>	2次調査出土遺物観	<b>佘衣</b> 鱼	
遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm·g) ①口径②器高 ③底径④高台径 ⑤最大径()は復元	形態・技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
80	須恵器	甕	SX03 (5)	①(24.7) ②17.0+α	体部外面タタキ後カキメ。内面中位はヨコナデ、下位はタ テナデ。口縁はヨコナデ。	A:1.5mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外褐灰7.5YR5/1、内灰褐 7.5YR5/2。	
81	土師器	甕	SX03 下方にて 取上げ帰属不明 SX03 ① SX03 ③ SX03 ③ SX03 ⑤ SX03 ⑤	①(16. 4)②18. 4 ③4. 9	外面下位、不定方向ハケ。貼 付の把手は欠損。全体的に摩 滅。平底。	A:7mm以下の白色砂粒をやや多量、赤褐色粒を微量、微細な雲母をやや多量含む。 B:やや不良。C:外浅黄橙7.5YR8/6~にぶい黄橙10YR7/2、内にぶい黄褐10YR7/4~灰白10YR7/1。	体部外面下半に 黒斑。
82	須恵器	杯蓋	SX04	①(12. 4) ②3. 2+ α	回転ナデ成形。天井部外面回 転ヘラケズリ。	A:1mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外灰N6/、内灰N5/。	外面降灰。
83	須恵器	有蓋 高杯	SX04	①(11.8) ②3.6+α 受部径(14.1)	回転ナデ成形後、杯底部内面 不定方向ナデ。	A:混入物はほとんどない。B:良好。 C:外灰N6/、内灰N6/~灰N5/。	杯蓋片口縁 釉着。
84	須恵器	高杯	SX04	②4.8+α 裾部径(11.3)	回転ナデ成形。杯底部内面は ナデ。	A:混入物はほとんどない。B:良好。 C:外暗青灰5B4/1、内灰N6/。	脚部内面降灰。
85 86	須恵器 土師器	切削物甕	SP08 SX05 5上面	長2. 1幅3. 2厚1. 8 ①(15. 4) ②5. 5+ α	外面はナデ、内面同心円文当 て具。側縁はヘラ切り。 摩滅の為、調整不明。	A:粗砂を微量含む。B:良好。 C:灰10YR6/1。 A:1.5㎜以下の白色砂粒、石英、赤褐色 粒を少量含む。B:やや不良。C:外浅黄 橙10YR8/3~浅黄橙10YR8/4、内浅黄橙 10YR8/4	外面煤付着。
87	土師器	甑	SX05 5上面	②4. 2+ α	指頭痕を残すナデ成形。	A:1.5mm以下の白色砂粒、赤褐色粒を 少量含む。B:やや不良。C:外浅黄橙 7.5YR8/4~浅黄橙10YR8/4、内浅黄橙 10YR8/4。	把手。 外面煤付着。
88	須恵器	杯身	SX06	①12.0②3.1 受部径14.1	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。底部外面ナデ。	A:混入物はほとんどない。B:良好。 C:内外共灰N6/。	底部外面へラ 記号。
89	須恵器	杯蓋	SX07-4 出土状況2	①10. 45②3. 6	回転ナデ成形後、天井部内面 不定方向ナデ。天井部外面へ ラ切り後ナデ。	8:4m以下の白色砂粒、石英を多量 含む。B:良好。C:外灰N4/、内褐灰 10YR5/1~灰黄褐10YR5/2。	天井部外面へラ記号。
90	須恵器	杯蓋	SX07-4	①(11.0)②3.45 天井径6.6	回転ナデ成形後、天井部内面 ナデ。天井部外面へラ切り後 ナデ。	A:粗砂を微量、2mm以下の黒色粒を多量含む。B:良好。C:外灰N6/、内灰白N7/ 〜灰N6/。	天井部外面へラ 記号。 外面降灰。
91	須恵器	杯蓋	SX07-4 出土状況8	①11. 3②3. 9	回転ナデ成形。外面2/5を回転 ヘラケズリ。	A:1.5mm以下の白色砂粒を微量含む。 B:良好。C:外灰N5/~灰N4/、内灰N6/。	
92	須恵器	杯蓋	SX07-1 下落込	①(11.8) ②3.7~4.3 天井径5.9	回転ナデ成形。天井部外面へ ラ切り後ナデ。	A:1mm以下の白色砂粒を少量、黒色粒を 多量含む。B:良好。C:外灰白N7/〜灰 N6/、内灰N6/。	体部外面降灰。 歪みあり。
93	須恵器	杯蓋	SX07-3	①12. 4②3. 5	回転ナデ成形後、天井部内面 ナデ。外面2/3を回転ヘラケズ リ。	A:0.5~2mmの白色砂粒をやや多量 含む。B:良好。C:外褐灰5YR4/1、内褐 灰5YR5/1。	天井部外面へラ 記号。外面 降灰。体部外面 別個体片釉着。
94	須恵器	杯蓋	SX07-4 出土状況12	①(13.0)②3.4	回転ナデ成形。外面3/5を回転 ヘラケズリ。	A:1mm以下の白色砂粒、黒色粒を多量 含む。B:不良。C:内外共灰N3/〜灰黄 2.5Y7/2。	天井部外面へラ 記号。
95	須恵器	杯蓋	SX07-4 出土状況12	①12. 35②4. 1	回転ナデ成形。天井部外面へ ラ切り後ナデ。外面一部のみ ヘラケズリ。	A:粗砂を少量含む。B:良好。C:内外共 灰N4/~暗灰N3/。	著しい歪み あり。
96	須恵器	杯蓋	SX07(07・08間)	①11.8②4.0	回転ナデ成形後、天井部内面 ナデ。天井部外面へラ切り後 ナデ。	A:1.5mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:内外共灰N5/〜灰N4/。	著しい歪み あり。
97	須恵器	杯蓋	SX07-3 出土状況12	①(11. 0) ②2. 2+ α	摩滅の為、調整不明。つまみ 貼付(欠損)。	A: 粗砂を微量含む。B: 不良。C: 外淡黄 2. 5Y8/3、内淡黄2. 5Y8/3~浅黄 2. 5Y7/3。	
98	須恵器	杯蓋	SX07-4	①10. 4②3. 9	回転ナデ成形後、天井部内面 ナデ。外面2/3を回転ヘラケズ リ。つまみ貼付。	A:1mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:内外共灰N5/。	天井部外面へラ 記号。著しい 歪みあり。
99	須恵器	杯蓋	SX07-3	①(8.2)②3.4 受部径(10.8) つまみ径2.0	回転ナデ成形後、天井部内面 中央ナデ。外面2/3回転ヘラケ ズリ。つまみ貼付。	A:1mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外灰白N7/〜灰N6/、内灰白N7/。	
100	須恵器	杯身	SX07-2	①8.7②2.1③6.4 受部径10.4	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。底部外面へラ切 り後ナデ。	A:1mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外灰白N7/~灰N6/、内灰白 7.5Y7/1。	
101	須恵器	杯身	SX07-4 出土状況5	受部径11.75	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面ヘラ切り後ナデ。	A:1.5mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外灰黄褐10YR5/2~褐灰 10YR5/1、内灰褐5YR5/2。	
102	須恵器	杯身	SX07-3	①(9.4)②2.8 ③(6.0) 受部径(11.6)	回転ナデ成形後、底部内面ナデ。外面へラ切り後ナデ。	A:1mm以下の白色砂粒を微量含む。 B:良好。C:外褐灰7.5YR6/1~褐灰 7.5YR4/1、内にぶい赤褐2.5YR5/3。	底部外面へラ 記号。
103	須恵器	杯身	SX07-3 出土状況4	①9.7②3.0 受部径11.8	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面1/3を回転ヘラケズリ (中央は削っていない)。	A:粗砂を微量含む。B:良好。C:内外共 灰N5/。	底部外面へラ 記号。
104	須恵器	杯身	SX07-4 出土状況4	①10. 2②3. 6 ③6. 6 受部径12. 35	回転ナデ成形後、底部内面ナデ。外面へラ切り後ナデ。	A:1mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外灰N4/、内灰褐7.5YR5/2。	底部外面へラ 記号。
105	須恵器	杯身	SX07(07・08間) SX07(07・08間) 掘り下げ部	①(10.65)②4.05 ③6.0 受部径(16.7)	回転ナデ成形後、底部内面ナデ。外面へラ切り後ナデ、一部回転ヘラケズリ。	A:粗砂を少量、微細な黒色粒を多量 含む。B:良好。C:内外共灰N5/。	歪みあり。
106	須恵器	杯身	SX07-4 出土状況7	①9. 9②3. 5 受部径11. 95	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面1/2を回転へ ラケズリ。	A:1mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外灰N6/~灰N5/、内黄灰 2.5Y5/1。	底部外面へラ 記号。
107	須恵器	杯身	SX07-4	①10. 0②3. 8 ③4. 55	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面へラ切り後 ナデ。	A:1mm以下の白色砂粒を微量、2mm以下の黒色粒を多量含む。B:良好。C:内外 共灰白N5/~灰N/6。	底部外面へラ 記号。

# 表5 梅頭遺跡第2次調査出土遺物観察表⑤

			衣り	<b></b>	2次調宜田工退物観	奈衣②	
遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高 ③底径④高台径 ⑤最大径()は復元	形態・技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
108	須恵器	杯身	SX07-3	①(9.4)②4.0 受部径(12.2)	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面1/2を回転へ ラケズリ。	A:1~2mmの白色砂粒をやや多量含む。 B:良好。C:外灰10Y6/1、内灰N5/。	底部外面へラ記号。
109	須恵器	杯身	SX07-4 出土状況6 SX07-4	①10. 2②4. 0 ③5. 5受部径11. 8	回転ナデ成形。外面へラ切り 後ナデ。底部内面は摩滅。	A:1mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外暗灰N3/〜灰N4/、内暗灰 N3/〜褐灰5YR4/1。	歪みあり。
110	須恵器	杯身	SX07-1 下落込	①10.3②3.5 ③6.2受部径11.8	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面3/5を回転ヘラケズ リ。	A:粗砂を微量含む。B:良好。C:内外共 灰N6/~灰N5/。	歪みあり。
111	須恵器	杯身	SX07-4 出土状況9	①9. 4②4. 3③6. 0	回転ナデ成形後、底部中央ナ デ。外面へラ切り後ナデ。外 面屈曲部のみ回転ヘラケズ リ。体部外面中位に2条沈線。	A:粗砂、黒色粒を微量含む。B:やや 不良。C:外灰N5/〜灰N4/、内灰N5/。	口縁~体部内面 降灰。体部下位 外面別個体片 釉着。
112	須恵器	高杯蓋	SX07-4 出土状況10 SX07-4	①(10.4)②3.7	回転ナデ成形。外面1/3を回転 ヘラケズリ。つまみ貼付。	A:1mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外灰N5/~灰N6/、内灰N5/。	内外面降灰。 体部外面別個体 片釉着。
113	須恵器	高杯	SX07-4	①10.3②9.9 裾部径8.45	回転ナデ成形後、底部内面ナデ。杯部外面中位2条沈線。	A:1.5mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外灰N6/〜暗青灰5B3/1、内 灰N4/。脚内褐灰5YR4/1。	外面~杯部内面 降灰。著しい 歪みあり。
114	須恵器	高杯	SX07-4 出土状況8	②4.8+α 裾部径6.75	回転ナデ成形。内面にシボリ 痕あり。外面中位に2条沈線。	A:粗砂を少量含む。B:良好。C:内外共 灰N6/~灰N4/。	脚部内面へラ 記号。
115	須恵器	壺?	SX07-3 出土状況3	①(13. 8) ②6. 4+ α	回転ナデ成形。	A:1mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:不良。C:外にぶい褐7.5YR5/4~にぶい赤褐5YR5/4、内にぶい赤褐5YR5/4、 にぶい橙7.5YR6/4。	土師質に焼成。
116	須恵器	壺	SX07-4 SX07-4 出土状況4 SX07-4 出土状況15	①(12. 6) ②9. 1+ α ⑤16. 1	回転ナデ成形。体部内面回転 ヘラケズリ?外面下位ヘラケ ズリか(摩滅)	A:2mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:やや不良。C:外灰7.5Y6/1〜灰 5Y6/1、内灰7.5Y6/1。	
117	須恵器	甕	SX07-4	①(22. 6) ②5. 7+ α	体部内面同心円文当て具。口縁は回転ナデ。体部外面降灰 のため調整不明。	A:1mm以下の白色砂粒を少量、2mm以下の黒色粒を多量含む。B:良好。C:外灰白N7/~灰N6/、内灰黄2.5Y7/2~灰N5/。	頸部内外面 降灰。
118	須恵器	切削物	SX07-1 検出面	長2. 3幅6. 6+ α 厚1. 5	外面は擬格子タタキ。内面同 心円文当て具。側縁はヘラ切 り。	A:1mm以下の白色砂粒をやや多量含む。 B:良好。C:にぶい褐7.5YR6/3〜灰褐 5YR5/2。	
119	須恵器	切削物	SX07-1	長2. 9幅4. 5+ α 厚1. 0	外面平行タタキ。内面同心円 文当て具。側縁はヘラ切り。	A:粗砂を微量含む。B:良好。C:灰N5/。	
120	土師器	甕	SX07-4 出土状況15	②6. 4+ α	体部外面平行タタキ、内面ハ ケ?(摩滅)	A:1mm以下の白色砂粒、赤褐色粒を多量、微細な雲母を少量含む。B:やや不良。C:外にぶい黄橙10YR7/4~にぶい橙7.5YR7/4、内にぶい黄橙10YR7/4。	
121	土師器	小甕	SX07-4	①9. 1②7. 7+ α	体部外面ヘラケズリ後ナデ(摩滅)。底部外面手持ちヘラケズリ。内面工具ナデ。口縁はヨコナデ。	A:1.5mm以下の白色砂粒を少量、微細な石英、雲母、長石を微量に含む。B:良好。C:内外共橙7.5YR7/6~橙5YR7/6。	体部外面黒斑あり。
122	土師器	甕	SX07-4 出土状況15	②6. 7+ α	体部外面タテハケ、内面縦方 向ヘラケズリ。全体的に摩 滅。	A:1mm以下の白色砂粒をやや多量、微細な長石、雲母を少量含む。B:やや不良。C:内外共橙7.5YR7/6~黄橙7.5YR7/8。	
123	土師器	甕	SX07-3 出土状況11	①(13. 4) ②6. 3+ α	摩滅の為、調整不明。	A:粗砂を微量含む。B:不良。C:外浅黄 橙10YR8/4~橙7.5YR7/6、内浅黄橙 10YR8/4~浅黄橙7.5YR8/4。	内面煤付着。
124	土師器	甕	SX07-3 出土状況3	①(18.1) ②8.0+α	体部外面タテハケ、内面不定 方向ヘラケズリ。口縁内面ヨ コハケ。	A:1mm以下の砂粒を多量含む。B:良好。 C:外橙2.5YR6/6、内にぶい黄橙 10YR7/4。	内面煤付着。
125	土師器	甕	SX07-3 出土状況10	24. 4+ α 310. 4	体部外面回転ナデ。底部外面 ヘラ切り後ナデ。内面屈曲部 ヨコナデ。他は摩滅で不明。	A:1.5mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:やや不良。C:外にぶい橙7.5YR6/4~ 橙5YR6/6、内にぶい橙5YR6/4。	No. 115と 同一個体か?
126	土師器	甕	SX07-3 出土状況6	①21. 5②30. 9+ α	体部外面タテハケ、内面縦方 向ヘラケズリ。口縁ヨコナ デ。	A:0.5〜4mmの白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外橙7.5YR7/6〜橙5YR6/8〜 にぶい褐7.5YR5/3、内橙5YR6/6〜にぶ い黄橙10YR6/4。	
127	土師器	甕	SX07-3 出土状況1 SX07-3	①(23. 0) ②18. 8+10. 5+ α	体部外面縦タテハケ、内面縦 方向ヘラケズリ。底部内面不 定方向ナデ。口縁ヨコナデ。	A:粗砂をやや多量、3~5mmの礫を少量 含む。B:良好。C:内外共にぶい黄橙 10YR7/4。	体部外面黒斑 あり。上位と下 位で接合不可。
128	土師器	甑	SX07-1 下落込	①(15. 2) ②16. 8+ α	体部外面タテハケ、内面は縦 方向ヘラケズリ。口縁はヨコ ナデ。把手は指頭痕を残すナ デ成形。	A:1.5mm以下の白色砂粒、石英を多量 含む。B:良好。C:外浅黄橙7.5YR8/4〜 浅黄橙10YR8/4、内浅黄橙10YR8/4〜に ぶい黄橙10YR7/4。	体部外面〜口縁 内面黒斑あり。
129	土師器	甑	SX07-4 清掃中	28. 3+ α	体部外面タテハケ。内面縦方 向ヘラケズリ。底部ヨコナデ 後、焼成前に穿孔。	A:1mm以下の白色砂粒を多量、微細な石英、雲母、微細粒を微量含む。B:良好。C:外橙7.5YR6/6、内煤のため不明。	底部内面~外面 煤付着。
130	土師器	移動式カマド		②5. 2+ α	外面へラ状工具によるナデ か?内面指頭痕あり。底面は ョコナデ。	A:1mm以下の白色砂粒を少量、赤褐色粒 を微量含む。B:良好。C:外橙 7.5YR7/6、内明黄褐10YR7/6。	底部煤付着。
131	瓦	丸瓦	SX07-3 出土状況2	長22. 8+12. 3+ α 幅19. 0厚2. 1	凹面は弓切り痕。凸面は平行 タタキ。	A:3mm以下の白色砂粒、2mm以下の赤褐色粒を微量に含む。B:不良。C:凹凸共橙5YR7/8~浅黄橙10YR8/4(マーブル状)。	
132	瓦	平瓦	SX07-4	長14. 8+ α 幅17. 4+ α 厚0. 9~1. 3	凹面に模骨痕あり。凸面は平 行タタキ(摩滅)。	A:1mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:やや不良。C:凹凸共橙7.5YR6/6~に ぶい黄2.5Y6/3。	

## 表6 梅頭遺跡第2次調査出土遺物観察表⑥

			衣り	<b></b>	2次調査出土遉物観	祭衣(6)	
遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm·g) ①口径②器高 ③底径④高台径 ⑤最大径()は復元	形態・技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
133	瓦	平瓦	SX07-3 出土状況7 SX07-3	長22. 7+ α 幅11. 7+ α 厚1. 5	凹面に同心円文当て具痕あ り。凸面は平行タタキ。	A:0.5mmの白色砂粒を少量含む。B:やや不良。C:凹橙5YR7/8。凸橙5YR7/8~浅黄橙10YR8/4(マーブル状)。	
134	瓦	平瓦	SX07-3 出土状況7	長13. 4+ α 幅14. 8+ α 厚2. 0	凹面に模骨痕あり。凸面は平 行タタキ。	A:粗砂を少量含む。B:やや不良。C:凹 橙5YR6/8~灰白10YR8/2(マーブル状)、 凸橙5YR6/8~にぶい黄橙10YR7/3。	
135	瓦	平瓦	SX07-3 出土状况5 SX07-3 出土状况8 SX07-3	長16.75+α 幅34.3+α厚1.8	凹面は弓切り後ナデか(摩滅)。凸面は平行タタキ。	A:3mm以下の白色砂粒を微量含む。 B:やや不良。C:凹にぶい橙7.5YR7/4~ 橙7.5YR7/6~浅黄橙10YR8/4(マーブル 状)、凸橙5YR7/6~浅黄橙10YR8/4(マー ブル状)	
136	瓦	平瓦	SX07-3 出土状況8 SX07-3 出土状況7 SX07-3 出土状況12	長40. 8+ α 幅28. 05+ α 厚1. 2~1. 7	凹面は弓切り痕・模骨痕あ り。凸面は平行タタキ。	A:1mm以下の白色砂粒、黒褐色粒をやや 多量含む。B:やや不良。C:凹明黄褐 10YR6/6~にぶい黄2.5Y6/3。凸橙 7.5YR6/6。	
137	瓦	平瓦	SX07-3 出土状況12 SX07-3 出土状況6 SX07-3 出土状況7 SX07-3 出土状況8	長41. 1+ α 幅31. 7+ α 厚1. 8	凹面は弓切り痕・模骨痕、その後ナデか?凸面は平行タタ キ。	A: 粗砂をやや多量含む。B: 良好。 C: 凹黄灰2. 5Y4/1~黄灰2. 5Y6/1。凸灰 7. 5Y4/1~灰黄2. 5Y6/2。	
138	瓦	平瓦	SX07-3 出土状況5 SX07-3 出土状況7	長46. 5幅32. 5 厚1. 95	凹面に模骨痕あり。外面は平 行タタキ。	A:3mm以下の白色砂粒を微量含む。 B:不良。C:凹淡黄2.5Y8/4~橙5YR6/8~ にぶい橙7.5YR7/4(マーブル状), 凸橙 7.5YR6/8~浅黄橙10YR8/4~橙 5YR6/8(マーブル状)。	
139	土製品	模造鏡	SX07-4	長6.35 幅3.2 厚2.4	指頭痕を残すナデ成形。穿孔 は2ヶ所。1ヶ所は貫通してい ない。	A:1mm以下の白色砂粒、石英、雲母を 微量含む。B:良好。C:にぶい黄橙 10YR7/4。	
140	土製品		SX07(07・08間)	長さ5.6幅4.1 厚1.9	指頭痕を残すナデ成形。穿孔 は一ヶ所。	A:微細な雲母、長石、石英を微量 含む。B:良好。C:にぶい黄橙10YR7/4。 赤彩橙5YR6/6。	
141	土師器	ミニ チュア 土器	SX07-3	①(2.5)②2.5 ③1.1	手づくね成形。	A:粗砂を少量含む。B:良好。C:内外共 橙5YR6/6~黄橙10YR8/6。	
142	鉄滓		SX07-4	長4. 15幅2. 8 厚2. 5重38. 6			
143	滑石 製品	紡錘車	SX07-4 出土状況14	長3. 9幅3. 9 厚1. 75重50. 0	細かい研磨痕あり。		
144	須恵器	杯蓋	SX08 (138)	①(9.7)②3.4 天井径5.5	回転ナデ成形後、天井部内面 ナデ。天井部外面へラ切り後 ナデ。	A:3mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外灰N6/~灰N4/、内灰N6/。	天井部外面へラ 記号。外面降 灰。歪みあり。
145	須恵器	杯蓋	SX08-2	①(10.8)②3.3	回転ナデ成形。天井部内面不 定方向ナデ。天井部外面へラ 切り後ナデ。	A:1.5mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外灰N5/、内灰N6/。	天井部外面へラ 記号。体部外面 降灰。
146	須恵器	杯蓋	SX08-4	①11.0~11.6 ②4.1	回転ナデ成形後、天井部内面 ナデ。天井部外面へラ切り後 ナデ。	A:2mm以下の白色砂粒をやや多量含む。 B:良好。C:外灰N6/~青灰5PB6/1、内青 灰5PB6/1~紫灰5RP5/。	天井部外面へラ 記号。
147	須恵器	杯蓋	SX08 SX08-1 SX08-2	①(11.7)②3.95 天井径6.3	摩滅の為、調整不明。	A:3mm以下の白色砂粒、石英を微量に 含む。B:やや不良。C:外浅黄2.5Y7/4、 内にぶい黄橙10YR7/4~浅黄2.5Y7/4。	
148	須恵器	杯蓋	SX08-3	①12. 0②4. 0	回転ナデ成形後、天井部内面 不定方向ナデ。外面1/2を回転 ヘラケズリ。	A: 微細な砂粒を少量含む。B: 良好。 C: 外灰白N7/~暗灰N3/、内灰N6/。	天井部外面へラ 記号。体部外面 降灰。
149	須恵器	杯蓋	SX08 (116)	①11. 4②3. 55	回転ナデ成形後、天井部内面 ナデ。天井部外面へラ切り後 ナデ。	A:2mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外青灰5PB6/1、内青灰 5PB6/1~灰N6/。	天井部外面へラ 記号。外面降 灰。歪みあり。
150	須恵器	杯蓋	SX08-1	①9.5~11.95 ②4.4	回転ナデ成形後、天井部内面 不定方向ナデ。外面1/2回転へ ラケズリ。	A:0.5mm以下の砂粒を多量含む。 B:良好。C:外灰N6/~灰N5/~浅黄 2.5Y7/3、内灰N5/~灰N4/~浅黄 2.5Y7/3。	天井部外面へラ 記号。著しい 歪みあり。
151	須恵器	杯蓋	SX08-4 最下層	①(8.8)②2.6+α	回転ナデ成形後、天井部内面 不定方向ナデ。天井部外面は ナデ。つまみ貼付(欠損)。	A:1mm以下の砂粒を少量含む。B:良好。 C:内外共灰N5/。	天井部外面へラ 記号。
152	須恵器	杯蓋	SX08-4	①8.7②3.85 つまみ径2.1 受部径11.2	回転ナデ成形後、天井部内面 不定方向ナデ。外面1/2回転へ ラケズリ。つまみ貼付。	A:2mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外青灰5PB6/1〜灰白N7/、内青灰5PB6/1。	
153	須恵器	杯身	SX08-2	①8. 3②2. 75 受部径10. 1	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面へラ切り後 ナデ。	A:1mm以下の白色砂粒を少量を含む。 B:良好。C:外灰N5/〜暗灰N3/、内灰N5/ 〜灰N4/。	底部外面へラ 記号。 内外面降灰。
154	須恵器	杯身	SX08-2	①9. 2②2. 9③6. 8 受部径11. 2	回転ナデ成形後、底部内面一 定方向ナデ。外面へラ切り後 ナデ。	A:1mm以下の白色砂粒、黒色粒を多量含む。B:良好。C:外灰白N7/~灰N6/、内灰白N7/。	
155	須恵器	杯身	SX08 清掃中	①(9.1)②3.4+α ③6.2受部径11.7	摩滅の為、調整不明。	A:1mm以下の白色砂粒を少量、微細な 粗砂を多量含む。B:不良。C:内外共に ぶい黄橙10YR7/4~黄灰2.5Y4/1。	
156	須恵器	杯身	SX08-4	①(9.0)②3.0 受部径11.3	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。底部外面へラ切 り後ナデ。	A:4mm以下の白色砂粒、黒色粒を多量含む。B:良好。C:外灰N4/〜灰10Y6/1、内灰N6/。	底部外面へラ 記号。大きい 歪みあり。
157	須恵器	杯身	SX08 (120)	①9. 1②2. 75 ③5. 2 受部径10. 8	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面は摩滅の為、不明。	A:2mm以下の白色砂粒、赤褐色粒を多量含む。B:やや不良。C:外にぶい黄橙10YR7/4〜浅黄橙10YR8/4、内にぶい黄橙10YR7/4。	

## 表7 梅頭遺跡第2次調査出土遺物観察表⑦

			表 / 《	<b></b>	2次調査出土遺物観	<b>奈衣</b> ①	
遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高 ③底径④高台径 ⑤最大径()は復元	形態・技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
158	須恵器	杯身	SX08 (110)	①9.5②2.7 受部径11.5	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面へラ切り後 ナデ。	A:2mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外灰N4/~暗灰N3/、内青灰 5PB5/1。	体部外面へラ 記号。
159	須恵器	杯身	SX08 (122)	①9.6②3.9③6.5 受部径11.9	回転ナデ成形。底部外面は摩 滅の為、調整不明。	A:2mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:やや不良。C:外灰白5Y7/2〜灰 5Y5/1、内オリーブ灰2.5GY6/1。	
160	須恵器	杯身	SX08 P-18	①9. 2②2. 3③7. 6 受部径11. 7	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。底部外面2/5を回転ヘラケ ズリ。中央は削らない。	A:1mm以下の砂粒を少量、黒色粒を多量 含む。B:良好。C:外灰N6/〜灰黄 2.5Y7/2、内紫灰5P6/1。	底部外面へラ 記号。歪み あり。口縁部 杯蓋片釉着。
161	須恵器	杯身	SX08-4	①(10.4)②3.85 受部径(12.6)	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面3/5回転ヘラケズリ。	A:3mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外灰N6/〜灰白5Y7/2〜灰 N4/、内灰白N6/。	底部外面へラ記号。
162	須恵器	杯身	SX08-4	①(11.6)②3.9 受部径(13.8)	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面3/5回転ヘラ ケズリ。	A:2mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外灰N6/〜灰白10Y7/1、内灰白10Y7/1。	
163	須恵器	杯身	SX08 (132) SX08 (136)	①8.3~9.4 ②3.45③5.6 受部径10.8~ 11.5	回転ナデ成形。底部外面へラ 切り後ナデ。外面一部回転へ ラケズリ。	A:1mm以下の砂粒を微量含む。B:良好。 C:外灰N5/~灰白N7/、内灰N6/~灰 N5/。	歪みあり。
164	須恵器	杯身	SX08-4 最下層	①7. 2~9. 7 ②3. 2③4. 9 受部径9. 6~11. 2	回転ナデ成形、底部内面不定 方向ナデ。外面1/2回転ヘラケ ズリ、中央は削らない。	A:2mm以下の砂粒を少量含む。B:良好。 C:外灰N6/~灰N4/、内灰N6/。	底部外面へラ 記号。大きい 歪みあり。
165	須恵器	杯身	SX08-3	②2. 1+ α	回転ナデ成形。高台貼付。	A:1mm以下の砂粒を微量に含む。 B:不良。C:内外共淡黄2.5Y8/3。	
166	須恵器	杯身	SX08 3・4区間ベルト1層 にぶい黄橙色土	②3. 5+ α ④(8. 2)	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。高台貼付。底部外面はヘ ラ切り後ナデ。	A:3mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:やや不良。C:内外共橙5YR6/8。	
167	須恵器	杯	SX08-4	①(13. 2) ②3. 2+ α	回転ナデ成形。	A: 微細な砂粒を少量含む。B: やや 不良。C: 外灰白5Y7/1〜灰黄2.5Y7/2、 内灰白5Y7/1。	
168	須恵器	高杯蓋	SX08 (128)	①11.5②4.0 つまみ径(1.9)	回転ナデ成形。外面は摩滅の 為、調整不明。つまみ貼付。	A:1mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:不良。C:外灰白2.5Y8/2、内浅黄 2.5Y8/3。	
169	須恵器	高杯蓋	SX08-3	②2.8+α つまみ径2.9	回転ナデ成形後、天井部内面 をナデ。天井部外面回転へラ ケズリ(範囲不明)。つまみ貼 付。	A:3mm以下の白色砂粒をやや多量含む。 B:やや不良。C:外青灰10BG5/1〜灰黄 2.5Y7/2、内オリーブ灰5GY6/1。	
170	須恵器	高杯	SX08-1 最下層	①(9. 6)②4. 3+ α	回転ナデ成形。	A:2mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外灰N4/〜灰黄2.5Y7/2、内暗灰N3/。	杯部内外面 降灰。
171	須恵器	高杯	SX08-2	①(13.3) ②10.5+α 裾部径(7.8)	回転ナデ成形。杯底部内面ナ デ。杯部外面下位回転ヘラケ ズリ。脚部外面は摩滅。	A:2mm以下の白色砂粒、粗砂、赤褐色粒を微量含む。B:不良。C:内外共浅黄橙10YR8/3~にぶい黄橙10YR7/4。	
172	須恵器	高杯	SX08-3	①(8.6~10.3) ②5.3+α	回転ナデ成形。杯部外面1/2を 回転ヘラケズリ。	A:3mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外灰白N7/~灰N5/、内灰白 5Y7/2~灰N5/。	大きい歪み あり。内外面 降灰。
173	須恵器	高杯	SX08-4	②4.8+α 裾部径7.0	回転ナデ成形。	A:2mm以下の砂粒を多量含む。B:良好。 C:外灰N6/~灰N4/、内暗青灰5PB4/1~ 紫灰5RP5/1。	脚外面降灰。
174	須恵器	高杯	SX08-3	②7. 2+α 裾部径(9. 5)	回転ナデ成形。脚部外面中位 に1条沈線、以上に幅1.2cmの カキメ。	A:2mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外灰N6/、内灰N5/。脚内部 灰白N7/~灰N5/。	脚部内面へラ 記号。
175	須恵器	高杯	SX08-3	22. 8+ α	回転ナデ成形。杯部底部内面ナデ。	A:2mm以下の白色砂粒、黒色粒を多量含む。B:良好。C:外灰白N7/、内明オリーブ灰2.5GY7/1。脚内部灰N5/。	脚部内面へラ 記号。杯部内面 降灰。
176	須恵器	椀	SX08 (123)	②5. 0+ α ③6. 05	回転ナデ成形。底部外面へラ切り後ナデ。	A:1mm以下の砂粒を少量含む。B:良好。 C:外灰N5/~灰N4/、内灰N5/。	体部外面底部 内面降灰。口縁 付近折れ曲が る。窯壁付着。
177	須恵器	椀	SX08-3	①11. 1~13. 5 ②8. 3③7. 1	回転ナデ成形。外面へラ切り 後ナデ、一部回転へラケズ リ。外面1/2にカキメ。	A:3mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:内外共暗灰N6/〜暗灰N3/。	底部外面へラ 記号。体部内外 面降灰。大きい 歪みあり。
178	須恵器	甕	SX08-1	①(21. 1) ②8. 15+ α	体部外面平行タタキ、内面は 同心円文当て具。口縁は回転 ナデ。	A:2mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外灰N6/、内灰N4/〜明オ リーブ灰2.5GY7/1。	頸部外面へラ記号。
179	須恵器	甕	SX08-3 最下層	①(20. 8) ②9. 3+ α	体部外面擬格子タタキ、内面 同心円文当て具。口縁は回転 ナデ。頸部外面にカキメ。	A:2mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:不良。C:外浅黄2.5Y7/3、内浅黄 2.5Y7/3~浅黄2.5Y7/4。	
180	須恵器	大甕	SX08 P-18	213. 7+ α	口縁回転ナデ。頸外面上半に斜線文、沈線。	A:4mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:不良。C:内外共灰白7.5Y7/1。	
181	須恵器	甕	SX08 (27)-1 SX08 (28)	①(40. 4) ②10. 0+ α	口縁回転ナデ成形。頸外面上半に連続斜線文、沈線。	A:3mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外青灰5PB6/1〜灰N5/、内灰N6/〜灰N5/。	頸部内面降灰。
182	須恵器	大甕	SX08 1・2区間ベルト	①(48. 0) ②14. 9+ α	体部外面擬格子タタキ、内面 同心円文当て具。口縁は回転 ナデ。頸部外面上2/3にカキ メ、連続斜線文、沈線。	A:3mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外灰N6/、内灰N4/~灰N6/。	頸部内外面 降灰。
183	須恵器	大甕	SX08 ⑤ SX08-4 SX08 ⑨-2	①(57. 2) ②14. 55+ α	口縁回転ナデ成形。頸外面上 半にカキメ、連続斜線文、沈 線。	A:0.5~2mmの白色砂粒をやや多量 含む。B:良好。C:外灰7.5Y5/1~オリー ブ黒7.5Y3/1、内灰白7.5Y7/1~暗灰 N3/。	
						·	

#### 表8 梅頭遺跡第2次調査出土遺物観察表⑧

150				衣8	<b>世</b>	2次調査出土 直物観	<b>奈衣®</b>	
18		種類	器種	出土地点	<ul><li>①口径②器高</li><li>③底径④高台径</li></ul>	形態・技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
18.	184	須恵器	杯?	SX08-2			C:外浅黄2.5Y7/3~にぶい黄橙 10YR7/4、内淡黄2.5Y8/3~にぶい橙	底部外面へラ記号。
186	185	須恵器	切削物	SX08 P-18		はヨコナデ。側縁はヘラ切		
15 上部	186	土師器	甕	SX08-4	②4. 1+ α	向ヘラケズリ。口縁ヨコナ	B:良好。C:外橙2.5YR6/6、内橙	
188 上田部 単   2008-3   2010-0   2010-	187	土師器	甕	SX08-4		体部外面タテハケ。内面摩滅	少量含む。B:良好。C:内外共橙5YR7/6	
190 上部部 東   5008-2   1008-	188	土師器	甕	SX08-3		ラケズリか?口縁はヨコナ	む。B:不良。C:外橙2.5YR6/6~橙	
190 上部部 要   2008-4   20-0   持ちヘッカイメリ、内面軽約向   20-0   20	189	土師器	甕	SX08-2		向ヘラケズリ。口縁はヨコナ	粒、粗砂を微量含む。B:良好。C:内外	
191 上部	190	土師器	甕	SX08-4	28. 0+ α	持ちヘラケズリ。内面縦方向		
192 上前部 美	191	土師器	甕	SX08-3		内外面ともナデ。	含む。B:良好。C:外橙2.5Y7/6~にぶい	底部のみ。
199	192	土師器	甕	SX08-4	25. 6+ α 39. 1		B:良好。C:外橙2.5Y6/6~灰黄褐 10YR5/2、内灰黄褐10YR6/2。	
195   土製品 文師   2008-2   長8.55-6   2008-2   長8.55-6   2008-2   長8.55-6   2008-2   長8.55-6   2008-2	193	土師器	高杯	SX08-3	210. 4+ α		を少量含む。B:良好。C:内外共橙 5YR6/6。	
195 工製品 文別 5M9-2	194	土製品	支脚	SX08-1 最下層	長6. 5+ α	タテハケ(摩滅)。		
199   頁   平瓦   XX08 P-2   横1.7 ca   F.7 ca	195	土製品	支脚	SX08-2	長8. 85+ α	摩滅の為、調整不明。		
197   夏   平夏   SNO8 P-13     回航(平) (2)	196	瓦	平瓦	SX08 P-2	幅11.7+α		B:やや不良。C:凹凸共にぶい黄橙	
198   土製品 概念鏡   XXOS P-18	197	瓦	平瓦	SX08 P-13	幅4.7+ $\alpha$		な黒色粒を少量含む。B:やや良好。C:	
199 類恵器   杯蓋   Xx09-3	198	土製品	模造鏡	SX08 P-18	幅3. 15+ $\alpha$		含む。B:良好。C:浅黄橙10YR8/4。	
200   須恵器   杯身   SX09 ①   一	199	須恵器	杯蓋	SX09-3	①12. 9②4. 35	央ナデ。外面2/5を回転ヘラケ	B:不良。C:外にぶい黄橙10YR7/4~にぶ い黄橙10YR6/4~淡黄2.5Y8/4、内にぶ	
201 須恵器 杯身   202 (類恵器 杯身   203 (到恵器	200	須恵器	杯身	SX09 P-1				
202 須恵器 杯身   203 須恵器 杯身   204   205 須恵器 杯身   204   須恵器 杯身   204   須恵器 杯身   205 須恵器 杯身   205 須恵器 杯身   205 須恵器 杯身   206 須恵器 杯身   206 須恵器 杯身   206 須恵器 杯身   207 須恵器   207 須恵器   208 須恵器   208 須恵器   208 須恵器   209 須恵器   209 須恵器   200 ���������������������������������	201	須恵器	杯身	SX09 ①		切り後ナデ。外面一部回転へ	不良。C:外にぶい黄橙10YR7/4~にぶい	底部外面へラ 記号。
203   須恵器   杯身   SP15   受部径(13.6)   受部径(13.6)   ファ・外面1/2を回転ヘラケズ リ。	202	須恵器	杯身	SX09-1		デ。外面2/3を回転ヘラケズ		底部外面へラ 記号。
204   須恵器   杯身   SX09-2・3間 ベルト2層   ①(10.55)②3.95   デ。外面ヘラ切り後ナデ、	203	須恵器	杯身	SP15		ナデ。外面1/2を回転ヘラケズ リ。	B:良好。C:外灰白N7/~灰N5/、内灰	底部外面へラ 記号。内面〜 外面上半降灰。
205 須恵器 杯身   SX09-2   1.1 (2/3. 65) (3/6. 2   デ・外面へラ切り後ナデ。 外面へラ切り後ナデ。 内面へラ切り後ナデ。 内面に外間が 中央ナデルが、 大井部内面 中央ナデルが、 大井部内面 中央ナデルが、 大井部内面に 中央・デルが、 大井部内面に 中央・デルが、 大井部内面に 中央・デルが、 大井部内面に 中央・デルが、 大井部内面に 中央・デルが、 大手が、 大手が、 大手が、 大手が、 大手が、 大手が、 大手が、 大手	204	須恵器	杯身			デ。外面へラ切り後ナデ、一 部回転へラケズリ。外面中位	含む。B:良好。C:外灰N5/、内灰N6/~	外面降灰。
206   須恵器   林身   SA09-3   (1) (9.0)②3.4+α   中央ナデ。外面へラ切り後ナデ。   暗灰N3/。   空転ナデ成形後、天井部内面   A:混入物はほとんどない。B:良好。   天井部外面を   元   元   元   元   元   元   元   元   元	205	須恵器	杯身	SX09-2			含む。B:良好。C:内外共灰N5/~灰	底部外面へラ 記号。
207 須恵器 売載 監査 SX09-3       ①(9.0)②3.4+α       中央ナデ。外面1/2をヘラナ デ。       C:外黄灰2.5Y6/1〜灰白2.5Y7/1、内灰 白2.5Y7/1、内灰 白2.5Y7/1、内灰 白2.5Y7/1。内灰 白2.5Y7/1。内灰 白2.5Y7/1。内灰 白2.5Y7/1。内灰 白2.5Y7/1。         208 須恵器 高杯 SX11-2       ①10.7②8.1+α 受部径12.75       申央ナデ。水面5+デ成形後、杯底部内面 ナデ。脚部内面にシボリ痕あり。       A:1.5mm以下の白色砂粒を含む。B:やや不良。C:内外共灰N6/〜灰白N7/。         209 須恵器 高杯 SX11       ①(9.4)②9.65 裾部径7.6       自転ナデ成形後、杯底部内面 ナデ。杯部外面中位に2条沈線。       A:1.5mm以下の白色砂粒を多量含む。B:良好。C:外灰N6/、内灰N5/〜暗灰 N3/、脚部内面灰N5/。内灰N5/〜中が、N3/、脚部内面灰N5/。       外面降灰。N3/、脚部内面灰N5/。         210 須恵器 甕 SX11-1 SX11       ①(21.0) ②45.1+α 同心田文当て具。口縁は回転 ナデ。 N2/、内灰白7.5Y6/1〜灰7.5Y6/1〜黒 N2/、内灰白7.5Y6/1〜灰N4/。       A:2mm以下の白色砂粒を少量含む。 割部外面へ 記号。 N2/、内灰白7.5Y6/1〜灰N4/。       記号。         211 須恵器 杯蓋 SX13 緑色 +       ①9.4②3 9       回転ナデ成形。 天井部外面へ A:2mのの石英をやや多量含む。 著しい歪み	206	須恵器	杯身	SX09-3				歪みあり。
208     須恵器 有意 高杯     SX11-2     サデ。脚部内面にシボリ痕あり。     A:1.5mm以下の自色砂粒を含む。 B:やベス良。C:外外果灰N6/〜灰白N7/。       209     須恵器 高杯     SX11     ①(9.4)②9.65     担転ナデ成形後、杯底部内面 ナデ。杯部外面中位に2条沈線。     A:1.5mm以下の自色砂粒を多量含む。 サデ。杯部外面中位に2条次線。     A:1.5mm以下の自色砂粒を多量含む。 サデ。杯面降灰。 N3/、脚部内面灰N5/〜暗灰 N3/、脚部内面灰N5/〜暗灰 N3/、脚部内面灰N5/〜暗灰 N3/、脚部内面灰N5/〜暗灰 N3/、脚部内面灰N5/〜に外灰内6/〜灰白、N3/、脚部内面灰N5/〜に外灰白の下。 Y56/1〜上で、Y56/1〜上で、Y66/1〜上で、Y66/1〜上で、Y66/1〜上で、Y66/1〜上で、N2/、内灰白7.5Y6/1〜上で、N2/、内で白7.5Y6/1〜上で、N2/、内で白7.5Y6/1〜上で、N2/、内で白7.5Y6/1〜上で、N2/、内で白7.5Y6/1〜上で、N2/、内で白7.5Y6/1〜上で、N2/、内で白7.5Y6/1〜上で、N2/、内で白7.5Y6/1〜上で、N2/、内で白7.5Y6/1〜上で、N2/、N2/、N2/ N2/ N2/ N2/ N2/ N2/ N2/ N2/ N2/ N2/	207	須恵器		SX09-3	①(9. 0)②3. 4+ a	中央ナデ。外面1/2をヘラナ	C:外黄灰2.5Y6/1~灰白2.5Y7/1、内灰	天井部外面へラ 記号。
209 須恵器 高杯 SX11     U.9.4/28.65 裾部径7.6     ナデ。杯部外面中位に2条沈線。     B:良好。C:外灰N6/、内灰N5/~暗灰 N3/ 脚部内面灰N5/。     外面降灰。       210 須恵器 甕 SX11-1 SX11     ①(21.0) ②45.1+α	208	須恵器		SX11-2		ナデ。脚部内面にシボリ痕あ		
210 須恵器     甕     N2/ 内灰白バ/~灰7.5Y6/1~黒     関心円文当て具。口縁は回転 カナデ。     B:良好。C:外灰白バ/~灰7.5Y6/1~黒     関心円文当て具。口縁は回転 カナデ。       211 須恵器     本業     CY13 緑色 +     「0.9 4/2/3.9」     回転ナデ成形。天井部外面へ     A:粗砂、2mmの石英をやや多量含む。     著しい歪み	209	須恵器	高杯	SX11		ナデ。杯部外面中位に2条沈 線。	B:良好。C:外灰N6/、内灰N5/~暗灰 N3/、脚部内面灰N5/。	外面降灰。
	210	須恵器	甕			同心円文当て具。口縁は回転 ナデ。	B:良好。C:外灰白N7/~灰7.5Y6/1~黒N2/、内灰白7.5Y6/1~灰N4/。	
[73778 BERMULTI/EXAMPLE 0978	211	須恵器	杯蓋	SX13 褐色土	19.423.9	回転ナデ成形。天井部外面へ ラ切り。	A:粗砂、2mmの石英をやや多量含む。 B:良好C:内外共灰N5/。	著しい歪み あり。

## 表9 梅頭遺跡第2次調査出土遺物観察表⑨

			衣9	<b></b>	2次調査出土遺物観	祭衣切	
遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm·g) ①口径②器高 ③底径④高台径 ⑤最大径()は復元	形態・技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
212	須恵器	杯蓋	SX13 W4	①10.6②3.4	回転ナデ成形。天井部外面へ ラ切り後ナデ。	A:1~4mmの石英をやや多量含む。 B:良好。C:外灰褐7.5YR5/2~灰5Y5/1、 内黄灰2.5Y5/1。	
213	須恵器	杯蓋	SX13-④ 土器群	110.423.2	回転ナデ成形後、底部内面一 定方向ナデ。外面はヘラ切り 後ナデ。	A:3mm以下の石英をやや多量含む。 B:良好。C:内外共灰7.5Y6/1。	
214	須恵器	杯蓋	SX13 W20	①(10.8)②3.7	回転ナデ成形後、天井部内面 中央一定方向ナデ。天井部外 面へラ切り後ナデ。	A:4mm以下の石英をやや多量含む。 B:良好。C:内外共灰7.5Y6/1。	
215	須恵器	杯蓋	SX13	①(11.7) ②2.7~3.5	回転ナデ成形後、天井部内面 不定方向ナデ。天井部外面へ ラ切り後ナデ。	A:2mm以下の白色砂粒をやや多量含む。 B:良好。C:內外共灰7.5Y6/1。	天井部外面へラ 記号。著しい 歪みあり。
216	須恵器	杯蓋	SX13 W7	①8.4②3.6 受部径10.9 つまみ径1.8	回転ナデ成形。外面2/3カキ メ。つまみ貼付。	A:2mm以下の石英を少し含む。B:良好。 C:外灰N5/、内灰赤2.5YR5/2~灰N5/。	
217	須恵器	杯蓋	SX13-③ 土器群 SX13 褐色土	①10.8②3.2 つまみ径2.4	回転ナデ成形後、天井部内面 不定方向ナデ。外面3/4を回転 ヘラケズリ。つまみ貼付。	A:1~5mmの石英を多量含む。B:良好。 C:内外共灰N4/。	
218	須恵器	杯身	SX13-③ 土器群	①11. 1②2. 8	回転ナデ成形。外面へラ切り 後ナデ。	A:3mm以下の石英を多量含む。B:良好。 C:内外共灰N4/。	歪みあり。
219	須恵器	杯身	SX13 W13	①(9.6)②2.3 受部径11.2	摩滅の為、調整不明。	A:3mm以下の石英をやや多量含む。 B:不良。C:外浅黄2.5Y7/3、内淡黄 2.5Y8/3。	
220	須恵器	杯身	SX13 W60	①9. 1②3. 3 受部径11. 4	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面へラ切り後 ナデ。	A: 微細な石英を少量含む。B: 良好。 C: 内外共灰7.5Y6/1。	底部外面へラ 記号。
221	須恵器	杯身	SX13	①(9.7)②3.2 受部径(11.7)	回転ナデ成形後、底部内面一 定方向ナデ。底部外面へラ切 り後ナデ。	A:粗砂を少量、1mm以下の黒色粒を多量含む。B:良好。C:外灰7.5Y6/1〜灰N4/、内灰7.5Y6/1。	底部外面へラ 記号。口縁部 杯蓋片釉着。
222	須恵器	杯身	SX13-② 土器群	①9.5②3.6 受部径11.3	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面へラ切り後 ナデ。	A:3mmの石英を多量含む。B:良好。 C:内外共灰白7.5Y7/2~灰7.5Y6/1。	底部外面へラ 記号。口縁細か い欠損あり。
223	須恵器	杯身	SX13-⑥ 土器群	①12.7 ②2.1~4.1 ③6.2受部径12.6	回転ナデ成形後、底部内面一 定方向ナデ。外面へラ切り後 ナデ。	A:3mm以下の石英をやや多量含む。 B:良好。C:内外共灰N5/。	底部外面へラ 記号。大きい 歪みあり。
224	須恵器	杯身	SX13-⑤ 土器群	①14.4 ②4.2~4.9 受部径17.6	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面はヘラ切り 後ナデ。	A:粗砂を微量含む。B:良好。C:外灰 7.5Y6/1~灰N5/、内灰7.5Y5/1。	底部外面へラ 記号。口縁部 杯蓋片釉着。
225	須恵器	杯身	SX13 W27	①(9.6)②3.3 ③(5.9)	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面へラ切り。	A:1mmの石英を少量含む。B:良好。 C:内外共灰N5/。	底部外面へラ 記号。
226	須恵器	高杯	SX13 W9	294. 4+ α	回転ナデ成形。	A: 微細な石英を少量含む。B: 不良。 C: 内外共灰白2. 5Y8/2~灰黄2. 5Y7/2。	
227	須恵器	高杯	SX13 W63	2)4. 6+ α	回転ナデ成形。脚部外面中位 に1条沈線。	A:2mm以下の石英をやや多量含む。 B:不良。C:内外共にぶい黄橙10YR6/3~ 灰白10Y7/1。	脚部内面へラ 記号。
228	須恵器	椀	SX13 W47	①(12.2)②7.0	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面へラ切り後 ナデ。体部外面中位に3条沈線 あり。	A:2mm以下の石英を少量含む。B:良好。 C:内外共灰N5/。	底部外面へラ 記号。
229	須恵器	鉢	SX13-① 土器群	①(20. 0) ②4. 4+ α	回転ナデ成形。	A:2mm以下の白色砂粒をやや多量含む。 B:やや不良。C:外にぶい黄橙10YR6/3~ 灰白7.5Y7/1、内にぶい黄橙10YR7/4。	
230	須恵器	横瓶	SX13 W17	①(14. 0) ②5. 0+ α	体部外面平行タタキ、内面同 心円文当て具。口縁回転ナ デ。	A:2mm以下の石英を少量含む。B:良好。 C:内外共灰N5/。	
231	須恵器	甑	SX13	②5. 3+ α	体部外面タテハケ。内面不定 方向ナデ。底部ヨコナデ。	A:粗砂を微量含む。B:良好。C:外灰 N6/、内灰7.5Y5/1。	
232	須恵器	甕	SX13 W15 SX13	①(20. 4) ②16. 1+ α	体部外面擬格子タタキ、内面 同心円文当て具。口縁は回転 ナデ。	A:0.5~3mmの白色砂粒をやや多量 含む。B:良好。C:外にぶい橙7.5YR7/3 ~褐灰7.5YR5/1、内にぶい黄橙 10YR6/4。	SX13 W45・W62 と同一個体と 思われるが接合 不可。
233	須恵器	切削物	SX13 黒褐色土	長8.0+ α 幅2.9+ α 厚1.3	外面平行タタキ。内面同心円 文当て具。両側縁をヘラ切 り。	A:微細な白色砂粒、石英、を少量 含む。B:良好。C:灰7.5Y6/1。	
234	土師器	甕	SX13 褐色土	①(21. 0) ②4. 8+ α	摩滅の為、調整不明。	A:2mmの石英をやや多量含む。B:良好。 C:内外共明黄褐10YR7/6。	
235	土師器	甑	SX13 W18 SX13 褐色土	②22. 8+ α ③(14. 6)	体部外面タテハケ、内面不定 方向のナデ(摩滅)。把手は指 頭痕を残すナデ成形。底部ョ コナデ、穿孔1ヶ所あり。	A:1mm以下の白色砂粒をやや多量含む。 B:良好。C:外橙7.5YR7/6~橙5YR6/6、 内にぶい黄橙10YR7/3~橙5YR6/6。	
236	土師器	甑	SX13-⑥ 土器群	②11. 9+ α	外面タテハケ。内面縦方向へ ラケズリ。把手は指頭痕を残 すナデ成形。	A:1〜2mmの石英、赤褐色粒をやや多量含む。B:良好。C:内外共にぶい黄橙10YR7/4〜橙7.5YR6/6。	把手。
237	土師器	甑	SX13 褐色土	①(12. 6) ②7. 4+ α	外面不定方向ヘラケズリ後ナ デ。内面縦方向ヘラケズリ。 底部ヨコナデ、穿孔あり。	A: 微細な白色砂粒、石英、赤褐色粒を 少量含む。B:良好。C:外橙7.5YR7/6~ にぶい黄橙10YR7/4、内橙7.5YR7/6。	内面へラ記号?
238	土師器	鉢	SX13 W23	①(13.5)②8.9	摩滅の為、調整不明。	A:2mm以下の石英を多量、赤褐色粒、 粗砂を少量含む。B:良好。C:内外共に ぶい黄橙10YR7/4。	外面黒斑あり。
239	土製品	支脚	SX13 SX13 黒褐色土 SX13 褐色土	29. 3+ α 35. 9	指頭痕を残すナデ成形。	A:1~5mmの石英を多量、粗砂を少量 含む。B:良好。C:にぶい黄橙10YR6/4。	

## 表10 梅頭遺跡第2次調査出土遺物観察表⑩

			衣10	<b>一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一</b>	32次調査出土遺物額	<b>祝祭衣</b> ⋓	
遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm·g) ①口径②器高 ③底径④高台径 ⑤最大径()は復元	形態・技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
240	瓦	丸瓦	SX13 下方 検出時	長12. 0+ α 幅7. 1+ α 厚0. 7~0. 9	凹面は摩滅。凸面は平行タタ キ。	A:2mm以下の白色砂粒、微細な赤色粒を 少量含む。B:やや不良。C:凹橙5YR6/8 〜浅黄橙7.5YR8/4(マーブル状)、凸橙 5YR6/8。断面浅黄2.5Y7/3。	
241	土師器	ミニ チュア 土器	SX13 W26	①3.0②1.8	手づくね成形。	A: 微細な白色砂粒、橙色粒を微量含む。B:良好。C:内外共橙7.5YR6/6~にぶい黄橙10YR7/4。	
242	土製品	勾玉状 土製品	SX13 黒褐色土	長3. 0+α幅1. 7 厚1. 0	ナデ成形。先端部を欠損。	A:0.5~1mmの白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:橙7.5YR6/6。	
243	須恵質 土製品	土馬?	SX13	長8. 1+ α 幅4. 3+ α 高4. 2+ α	ナデ成形か? (摩滅)。3ヶ所 に穴あり。	A:0.5~2mmの白色砂粒を多量含む。 B:不良。C:にぶい橙7.5YR7/4~灰白 5YR8/1~灰黄褐10YR5/2。	実体は不明。
244	土師器	甕	SX14 砂層	②3. 0+ α	摩滅の為、調整不明。	A:3mm以下の石英を少量含む。B:やや 不良。C:外灰7.5Y4/1、内橙5YR6/6。	外面黒斑あり。
245	須恵器	杯蓋	SX16 E10	①11.0②3.9	回転ナデ成形後、天井部内面 一定方向ナデ。天井部内面へ ラ切り後ナデ。	暗灰N3/、内灰N6/。	天井部外面へラ 記号。 外面降灰。
246	須恵器	杯蓋	SX16 E25	①11.6②3.8	回転ナデ成形後、天井部内面 不定方向ナデ。天井部外面へ ラ切り。	A:0.5~2mmの自色砂粒をやや多量、1mm の石英、微細な相砂を少量含む。B:不 良。C:外淡黄2.5Y8/4~にぶい黄 2.5Y6/4、内淡黄2.5Y8/3~浅黄 2.5Y7/4。	天井部外面へラ 記号。
247	須恵器	杯蓋	SX16-1	①(11. 6) ②2. 55+ $\alpha$	回転ナデ成形後、天井部内面 不定方向ナデ。天井部外面へ ラ切り後ナデ。	A:1mmの石英をやや多量含む。B:良好。 C:外灰N6/~灰N4/、内灰N6/。	
248	須恵器	杯蓋	SX16 W2	①7. 9②3. 4 受部径9. 9	回転ナデ成形。外面一部を回転へラケズリ。つまみ貼付。	A: 微細な石英、黒色粒をやや多量 含む。B: 良好。C: 外灰白7. 5Y7/1、内灰 N4/~灰白7. 5Y7/1。断面灰白N7/。	天井部外面へラ 記号。 外面降灰。
249	須恵器	杯蓋	SX16 E28	①(11.4)②3.2	回転ナデ成形後、天井部内面 不定方向ナデ。外面2/3を回転 ヘラケズリ。つまみ貼付。	A: 微細な白色砂粒をやや多量、1~5mm の石英を少量含む。B: やや不良。C: 外 にぶい赤褐5YR5/4、内明赤褐5YR5/6。 口縁部にぶい赤褐5YR5/3。	天井部外面へラ 記号。
250	須恵器	杯蓋	SX16 W21	①8.6②3.0 受部径11.0 つまみ径2.7	回転ナデ成形後、天井部内面 不定方向ナデ。外面2/3を回転 ヘラケズリ。つまみ貼付。	A:1〜3mmの石英を多量含む。B:やや 不良。C:外灰黄褐10YR6/2〜灰 7.5Y5/1、内灰10Y6/1。	
251	須恵器	杯身	SX16-1	①(8.7)②2.3+α 受部径(10.8)	回転ナデ成形。底部外面へラ 切り後ナデ、一部へラケズ リ。	A: 微細な白色砂粒、粗砂を少量含む。 B: やや不良。C: 外灰5Y5/1、内にぶい赤褐5YR5/3。	
252	須恵器	杯身	SX16-1	①(9.7)②3.6+α 受部径(12.1)	回転ナデ成形。外面1/2を回転 ヘラケズリ。	A:2mm以下の石英を少量含む。B:やや不良。C:内外共灰白7.5Y7/1〜灰白N7/。	
253	須恵器	杯身	SX16 2・3区間ベルト 2層	①(9.6)②3.4+α 受部径(11.4)	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。底部外面へラ切 り後ナデ。	A: 微細な長石、1.5mmの石英を微量含む。B:良好。C:内外共灰N6/〜灰N4/。 断面灰N5/。	外面降灰。
254	須恵器	杯身	SX16 E11	①10.3②3.4 受部径12.3	回転ナデ成形。底部外面へラ 切り後ナデ(摩滅)。	A: 微細な白色砂粒、粗砂を微量含む。 B: 不良。C: 外灰白5Y8/2、内淡黄 2. 578/3。	
255	須恵器	杯身	SX16 2・3区間ベルト 3・4層 SX16-3 下層	①10. 2②3. 4 受部径12. 3	底部外面はヘラ切り後ナデ。 他は摩滅の為、調整不明。	A: 微細な白色砂粒、石英を少量、微細な長石をやや多量含む。B: やや不良。 C:外黒褐2. 5YR3/1~にぶい黄橙 10YR7/4、内褐灰10YR6/1~にぶい黄橙 10YR7/4。断面褐灰10YR6/1。	
256	須恵器	杯身	SX16 W1	①11. 2②3. 5 受部径13. 6	底部外面へラ切り後ナデ。他 は摩滅の為、調整不明。	A:2mm以下の石英、粗砂を微量、微細な 長石をやや少量含む。B:不良。C:外灰 黄2.5Y7/2〜灰白2.5Y8/2、内黄橙 7.5YR8/8〜灰白2.5Y8/2。	
257	須恵器	杯身	SX16 E39	①10.9②3.7 受部径13.0	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面へラ切り後 ナデ。	A:白色砂粒、3mm以下の石英、微細な黒色粒をやや多量含む。B:良好。C:外灰白N8/~暗灰N3/、内灰N5/。断面灰N5/。	外面降灰。
258	須恵器	杯身	SX16-2	①(9.4)②4.1	回転ナデ成形後、底部内面を 不定方向ナデ。外面2/5を回転 ヘラケズリ。	A:1mm以下の石英を微量含む。B:良好。 C:内外共灰白N7/~灰N4/。	底部外面へラ 記号。
259	須恵器	杯身	SX16 2・3区間ベルト 2層 SX16 P-1	①(11.0)②2.95 ③(9.8)	回転ナデ成形。底部外面へラ切り後ナデ。	A:微細な黒色粒を多量含む。B:良好。 C:内外共灰N6/。	
260	須恵器	杯身	SX16 W5	①(9.4)②3.3+α	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面3/5回転ヘラ ケズリ後ナデ。外面下位に1条 沈線あり。	A:3mm以下の石英をやや多量含む。 B:良好。C:外灰N6/~灰N4/、内灰N5/。	底部外面へラ 記号。
261	須恵器	杯身	SX16 E30	①(9.8)②4.65 ③(5.8)	回転ナデ成形。外面へラ切り 後ナデ、一部回転へラケズ リ。	A:1mm以下の白色砂粒を少量、1mmの 石英を微量含む。B:やや良好。C:内外 共灰白5Y7/1。	底部外面へラ 記号。
262	須恵器	杯身	SX16 E18 SX16 2・3区間ベルト 2層	①10.0②3.8	回転ナデ成形後、底部内面一 定方向ナデ。外面3/5を手持ち ヘラケズリ。	A:3mm以下の石英を微量含む。B:良好。 C:外灰N6/~灰N5/、内灰5Y6/1。	
263	須恵器	杯身	SX16 E27	①9. 9②3. 5	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面へラ切り後 ナデ。	A:0.5~2mmの白色砂粒やや多量、2mmの 石英を微量含む。B:不良。C:外青灰 5PB5/1~暗青灰5PB3/1、内暗青灰 5B4/1。	底部外面へラ 記号。
264	須恵器	有蓋 高杯	SX16 E5	①8.8②4.1+α 受部径(10.8)	回転ナデ成形。杯底部内面を 一定方向ナデ。	A:1mmの石英、微細な雲母を微量、0.5 ~1mmの白色砂粒をやや多量含む。B:良 好。C:外灰白7.5Y7/1、内灰N6/。	口縁部杯蓋片釉着。
265	須恵器	高杯	SX16-2	①(9.1) ②3.75+ $\alpha$	回転ナデ成形。杯部外面へラ 切り後ナデ。	A: 微細な白色砂粒をやや多量含む。 B: やや不良。C: 外灰白7.5Y7/1〜灰白7.5Y8/1、内灰白7.5Y7/1。 断面灰白7.5Y7/1。	

## 表11 梅頭遺跡第2次調査出土遺物観察表⑪

			表11	<b>一個</b> 與夏砂果	32次調査出土遺物額	<b>总祭表</b> (1)	
遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm·g) ①口径②器高 ③底径④高台径 ⑤最大径()は復元	形態・技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
266	須恵器	高杯	SX16 W4	①(9. 2)②4. 5+ α	回転ナデ成形後、杯部外面1/2 を回転ヘラケズリ。体部外面 中位に2条沈線。	A:1mmの白色砂粒を少量含む。B:良好。 C:内外共赤灰2.5YR4/1~灰N4/。	
267	須恵器	高杯	SX16-1	②4.3+α 裾部径7.1	回転ナデ成形。	A:2mm以下の石英、黒色粒を少量含む。 B:良好。C:外灰N6/~暗灰N3/~浅黄 2.5Y7/3、内灰N6/。	外面降灰。
268	須恵器	高杯	SX16 E17	②5. 9+ α	回転ナデ成形。	A:微細な白色砂粒、粗砂、2mmの石英を 微量含む。B:不良。C:内外共淡黄 2.5Y8/3。	
269	須恵器	高杯	SX16-2	②3.8+α 裾部径(9.1)	回転ナデ。	A: 微細な白色砂粒を少量、微細な長石をやや多量含む。B: やや不良。C: 内外 共灰白5Y7/1。	
270	須恵器	椀	SX16 2・3区間ベルト 2層	①(10. 4) ②7. 8+ α	回転ナデ成形。外面中位に4条 沈線。	A:1mm以下の石英をやや多量含む。 B:良好。C:外暗灰N3/~灰N6/、内暗灰 N3/。断面褐灰10YR5/1。	内面降灰。
271	須恵器	短頸 壺蓋	SX16-2	①7. 5②2. 4	回転ナデ成形。外面1/3を回転 ヘラケズリ。	A:微細な白色砂粒を少量、3mm以下の石 英をやや少量、微細な長石を多量含 む。B:やや不良。C:外灰白5Y7/1〜灰 5Y6/1(マーブル状)、内灰白5Y7/2。	
272	須恵器	短頸壺	SX16 E36	①5. 6②7. 2+ α ⑤10. 6	摩滅の為、調整不明。	A:白色砂粒、3mm以下の石英をやや多量 含む。B:不良。C:内外共明黄褐10YR7/6 ~褐灰10YR5/1。	
273	須恵器	短頸壺	SX17 清掃中	①(10. 8) ②4. 6+ α	回転ナデ成形。体部内面下位 ヨコハケ?	A:1~4mmの石英を多量含む。B:良好。 C:内外共灰オリーブ5Y6/2。	
274	須恵器	鉢	SX16 E33	①(18. 0) ②6. 0+ α	回転ナデ成形。底部外面へラ 切り後ナデ。	A:4mm以下の白色砂粒、石英をやや多量含む。B:良好。C:内外共暗灰N3/〜灰白2.5GY8/1。	底部外面へラ 記号。
275	土師器	甑	SX16 2・3区間ベルト 2層	②8. 0+ α	指頭痕を残すナデ成形。一部 にハケ。内面はヘラケズリ後 ナデ。	A:2mm以下の白色砂粒、石英、微細な 長石をやや多量含む。B:良好。C:外黄 橙7.5YR7/8、内浅黄橙10YR8/3。断面浅 黄橙10YR8/3。	把手。
276	土師器	甑	SX16 2・3区間ベルト 2層	②5. 0+ α ③(11. 8)	外面タテハケ、内面へラケズ リ後ナデ。底部はヨコナデ。	A: 微細な白色砂粒、石英、長石をやや 多量含む。B: やや不良。C: 外橙 7. 5YR6/6、内浅黄橙10YR8/4。 断面浅黄 橙10YR8/6~橙7. 5YR6/6。	
277	土師器	甕	SX16 1・2区間ベルト 3層	①(12. 8) ②4. 0+ α	摩滅の為、調整不明。	A:2mm以下の白色砂粒、石英、橙色粒を やや多量含む。B:やや不良。C:外橙 7.5YR7/6、内橙5YR6/8。	
278	鉄製品	鎌	SX16 1・2区間ベルト 3層	長4. 9+ α 幅2. 0 厚0. 2			
279	須恵器	杯蓋	SX17-0 埋土	①12.6②3.6	回転ナデ成形後、天井部内面 不定方向ナデ。外面1/2を回転 ヘラケズリ。	A:2~3mmの石英を多量含む。B:良好。 C:内外共灰N5/~灰N4/。	天井部外面へラ 記号。 歪みあり。
280	須恵器	杯身	SX17-0 埋土	①(9.5)②2.9 受部径11.7	摩滅の為、調整不明。	A:1mm以下の石英を微量含む。B:不良。 C:内外共灰白5Y7/2。	
281	須恵器	杯身	SX17 P-5	①(9.9)②3.2+α 受部径(11.9)	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面へラ切り後 ナデ。	A:3mm以下の石英を少量含む。B:良好。 C:内外共灰10Y6/1~灰N5/。	
282	須恵器	杯身	SX17 床面上(写真にあり)	①11.6②3.7 受部径13.7	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面3/5を回転へ ラケズリ。	A:1~2mmの石英を微量含む。B:良好。 C:外灰白7.5Y7/1、内灰N5/。	底部外面へラ 記号。 外面降灰。
283	須恵器	高杯蓋	SX17 床面上(写真にあり)	①11.2②4.0 つまみ径2.2	回転ナデ成形後、天井部内面 不定方向ナデ。外面1/3を回転 ヘラケズリ。つまみ貼付。	A:1〜2mmの石英をやや多量含む。 B:良好。C:外灰N5/〜暗灰N3/、内灰 N5/。	体部外面へラ 記号。
284	須恵器	高杯	SX17-1	①8.0+α 裾部径(9.5)	回転ナデ成形。	A:1〜3mmの石英を多量含む。B:良好。 C:外灰白7.5Y7/1〜灰7.5Y5/1、内灰 N5/。	脚部内面へラ 記号。脚部外面 降灰。
285	須恵器	椀	SX17 床面上(写真にあり)	①(13.5)②6.8	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面3/5を回転へ ラケズリ。	A:白色砂粒、1~2mmの石英を少量含 む。B:やや不良。C:外灰5Y6/1~灰オ リーブ5Y6/2、内灰オリーブ5Y6/2。	底部外面へラ 記号。
286	須恵器	甕	SX17-0 埋土	①(14. 6) ②6. 3+ α	体部内面は横方向ヘラケズリか?他は摩滅の為、調整不 明。	A: 微細な白色砂粒、石英、黒色粒を やや多量含む。B: 不良。C: 内外共灰白 7. 5Y8/1。	
287	須恵器	切削物	SX17-2	長3. 2幅7. 1厚1. 8	外面ヨコナデ。内面同心円文 当て具。側縁をヘラ切り。	A: 微細な白色砂粒を微量含む。 B: 良好。C: 内外共褐灰10YR5/1。	
288	土師器	甑	SX17-1 埋土中	27. 8+ α	指頭痕を残すナデ成形。内面 は縦方向ヘラケズリ後ナデ。	A:1mmの石英をやや多量、微細な雲母を 微量含む。B:良好。C:内外共橙 7.5YR7/6。	把手。
289	土師器	甑	SX17 床面上(写真にあり)	216. 5+ α	体部外面タテハケ、内面縦方 向ヘラケズリ(摩滅)、把手は 指頭痕を残すナデ成形。	A:1~3mmの石英をやや多量、微細な 赤褐色粒を少量含む。B:良好。C:内外 共橙7.5YR6/6~黄橙10YR8/6。	
290	土師器	ミニ チュア 土器	SX17-2	①(2.1)②2.3	手づくね成形。	A: 微細な白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外橙7.5YR6/6、内にぶい黄 橙10YR6/4。	
291	須恵器	杯蓋	SX18 P-3	①(10.9)②2.8	回転ナデ後、天井部内面不定 方向ナデ。天井部外面へラ切 り後ナデ。	A:3mm以下の石英を少量含む。B:良好。 C:内外共灰N4/。	天井部外面へラ 記号。 外面降灰。
292	須恵器	杯蓋	SX18	①(11. 4) ②3. 2+ α	回転ナデ成形。天井部外面へラ切り後ナデ。	A:3mm以下の石英をやや多量含む。 B:やや不良。C:外灰7.5Y4/1〜灰白 5Y7/2〜灰黄褐10YR6/2、内オリーブ灰 2.5GY5/1。	内面指圧痕? あり。

## 表12 梅頭遺跡第2次調査出土遺物観察表⑰

			衣 12	何妈这奶牙	2次調宜田工退物的	THE ACTION OF TH	
遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高 ③底径④高台径 ⑤最大径()は復元	形態・技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
293	須恵器	杯蓋	SX18 ④ SX18 ①	①(11. 1) ②2. 7+ α	回転ナデ成形後、天井部内面 不定方向ナデ。天井部外面へ ラ切り後ナデ。	A:1~2mmの石英を少量含む。B:不良。 C:内外共灰褐7.5YR5/2。	天井部外面へラ 記号。
294	須恵器	杯蓋	SX18 ⑤	①(11.9)②3.4	回転ナデ後、天井部内面不定 方向ナデ。外面3/5回転ヘラケ ズリ。	A:1~2mmの石英を少量含む。B:良好。 C:外灰N5/~暗灰N3/、内灰N5/。	天井部外面へラ 記号。外面 降灰。天井部 外面別個体片 釉着。
295	須恵器	杯蓋	SX18 4	①10.3②2.9	回転ナデ成形後、天井部内面 不定方向ナデ。天井部外面へ ラ切り後ナデ。	A:1~3mmの石英を少量含む。B:良好。 C:外灰N6/~暗灰N3/、内灰N4/。	天井部外面へラ 記号。
296	須恵器	杯蓋	SX18 ①	①8. 2②2. 4 受部径10. 5	回転ナデ成形後、天井部内面 不定方向ナデ。天井部外面へ ラ切り後ナデ。	A:1mmの石英を少量含む。B:良好。 C:内外共灰N5/~オリーブ灰2.5GY6/1。	天井部外面へラ 記号。著しい 歪みあり。
297	須恵器	杯身	SX18 ①	①(9.7)②2.8+α ③(7.6) 受部径(11.6)	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面へラ切り後 ナデ。	A:1~2mmの石英を少量含む。B:良好。 C:外灰白7.5Y7/1~オリーブ灰 2.5GY5/1、内灰N5/。	底部外面へラ 記号。
298	須恵器	高杯	SX18	①(8. 1)②3. 9+ α	回転ナデ成形後、杯部底部内 面不定方向ナデ。杯部外面3/5 を回転ヘラケズリ。	A:2mmの石英をやや多量含む。B:良好。 C:内外共灰N4/。	
299	須恵器	椀	SX18-1 SX18 ④	①10.7②7.1	回転ナデ成形。外面2/5を手持 ちヘラケズリ、3/5をカキメ。	A:1~2mmの石英を少量含む。B:良好。 C:内外共灰N5/~暗灰N3/。	底部外面へラ 記号。体部外面 降灰。 歪みあり。
300	須恵器	甕	SX18 <sup>(1)</sup>	①(29. 6) ②12. 4+ α	口縁回転ナデ成形後、頸部外 面中位・上位に2条沈線。	A:1~3mmの石英を少量含む。B:良好。 C:内外共灰10Y5/1。	
301	須恵器	甕	SX18 12	①(25. 0) ②11. 5+ α	体部外面擬格子タタキ、内面 同心円文当て具。口縁回転ナ デ。	A:1~2mmの石英を微量含む。B:良好。 C:内外共暗灰N3/。	頸部内面、体部 外面降灰。
302	土師器	甕	SX18 ⑨	27. 6+ α	体部内面へラケズリ。他は摩 滅の為、調整不明。	A: 微細な白色砂粒、粗砂を少量含む。 B: やや不良。C: 内外共橙5YR6/8。	
303	土師器	甕	SX18 15	①(18. 9) ②8. 0+ α	口縁ヨコナデ。摩滅の為、調 整不明。	A:1~4mmの石英を多量、微細な粗砂を 微量含む。B:やや不良。C:内外共明黄 褐10YR7/6。	
304	土師器	甕	SX18 ①	①(17. 1) ②9. 6+ α	内面指頭痕あり。口縁内面ヨ コナデ。外面は摩滅の為、不 明。	A:1~4mmの石英を多量、微細な粗砂を 少量含む。B:やや不良。C:内外共明黄 褐10YR7/6。	
305	土師器	甕	SX18	①(20.7) ②10.9+α	体部外面タテハケ、内面へラケズリ(摩滅)。口縁ヨコナデ。	A:1〜4mmの石英を多量、微細な砂粒、 粗砂を少量含む。B:良好。C:内外共橙 5YR6/8。黒斑オリーブ黒5Y3/1。	外面黒斑あり。
306	須恵器	杯蓋	SX21-2 ③	①10. 4②3. 7 天井径6. 0	回転ナデ後、天井部内面中央 のみナデ。天井部外面へラ切 り後ナデ。	A:0.5mmの白色砂粒を少量、黒色粒を 多量含む。B:良好。C:外灰N6/〜暗灰 N3/、内灰N6/。	内面降灰。
307	須恵器	杯蓋	SX21-1 (b) SX21-1	①10. 4②3. 8	回転ナデ後、天井部内面一定 方向ナデ。外面1/2回転ヘラケ ズリ。	A:2mm以下の石英を少量含む。B:良好。 C:外灰N4/、内灰N6/。	天井部外面へラ 記号。
308	須恵器	杯蓋	SX21-2 (30)	①11. 1②3. 45 天井径6. 25	回転ナデ成形後、天井部内面 ナデ。天井部外面へラ切り後 ナデ、一部回転へラケズリ。	A:1mm以下の白色砂粒を微量含む。 B:良好。C:外灰N6/〜暗灰N3/、内灰 N6/。	天井部外面へラ 記号。 外面降灰。
309	須恵器	杯蓋	SX21-6 ①	①11.0②3.0	回転ヘラケズリ後、天井部内 面中央ナデ。外面1/2回転ヘラ ケズリ。	A: 微細な白色砂粒を微量、黒色粒を 多量含む。B: 良好。C: 内外共灰N6/〜灰 N5/。	天井部外面へラ 記号。 体部外面降灰。
310	須恵器	杯蓋	SX21-6 (89)	110.823.8	回転ナデ成形後、天井部中央 のみナデ。天井部外面は摩滅 の為、調整不明。	A: 微細な白色砂粒、礫を少量含む。 B: やや不良。C: 外灰白5Y8/1〜灰白5Y7/1、内灰5Y6/1〜灰白5Y8/1。	
311	須恵器	杯蓋	SX21-2 ®-1 SX21-2 ®-2	①10. 5②3. 65	回転ナデ成形後、天井部内面 不定方向ナデ。外面1/2回転へ ラケズリ。	A:1mmの白色砂粒を少量含む。B:良好。 C:外灰10Y6/1~暗灰N3/、内灰10Y6/1。	天井部外面へラ 記号。
312	須恵器	杯蓋	東斜面 SX21 検出時	①10.7②3.2	回転ナデ後、天井部内面一定 方向ナデ。外面1/2回転ヘラケ ズリ。	A:3mm以下の石英をやや多量に含む。 B:良好。C:外灰白N7/~灰N4/、内灰 7.5Y6/1。	天井部外面へラ 記号。
313	須恵器	杯蓋	SX21-6 16	①10.8②3.1	回転ナデ成形後、天井部内面 ナデ。外面へラ切り後ナデ、 1/3回転へラケズリ。中央は削 らない。	A: 微細な白色砂粒、黒色粒を多量含む。B:良好。C:外灰N5/、内灰N6/。	天井部外面へラ 記号。 外面降灰。
314	須恵器	杯蓋	SX21-6 (83)	①(11. 2) ②3. 6+ α	摩滅の為、調整不明。	A: 微細な白色砂粒、石英を少量含む。 B: 不良。C:外にぶい黄橙10YR7/4~黄橙 10YR8/6、内浅黄2.5Y7/4~にぶい黄橙 10YR7/3。	
315	須恵器	杯蓋	SX21-8	①10.0②3.6	回転ナデ成形後、底部内面不 定方ナデ。外面3/5を回転ヘラ ケズリ。	A:1mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外灰N6/~灰N4/、内灰N5/~ 灰N4/。	天井部外面へラ 記号。
316	須恵器	杯蓋	SX21-4 (58)	①(11.5)②3.5	回転ナデ成形後、天井部内面 ナデ。天井部内面へラ切り後 ナデ。	A:0.5~1mmの白色砂粒を多量含む。 B:不良。C:内外共灰N6/~灰白N7/。	天井部外面へラ 記号。
317	須恵器	杯蓋	SX21-4 (22)	①(10.95)②3.8	回転ナデ成形。天井部外面へ ラ切り後ナデ。	A:1~2mmの砂粒を少量含む。B:良好。 C:外灰N4/~暗灰N3/、内灰N4/。	天井部外面へラ 記号。
318	須恵器	杯蓋	SX21-5 上層 褐色土	①11.0②3.3	回転ナデ成形。天井部外面へ ラ切り後ナデ、一部回転へラ ケズリ。	A:2mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外灰N6/~黒N2/、内灰N6/。	天井部外面へラ 記号。大きい 歪みあり。体部 外面窯砂付着。

## 表13 梅頭遺跡第2次調査出土遺物観察表⑬

20.1 日本版				表13	<b>一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一</b>	2次調査出土 直物額	は祭衣し	
20		種類	器種	出土地点	①口径②器高 ③底径④高台径	形態・技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
201. 202.1   201.7   201.0	319	須恵器	杯蓋	SX21-7 (155)	①(11.5)②3.3	定方向ナデ。外面ヘラ切り後	B:良好。C:外青灰5B6/1~暗青灰	天井部外面へラ 記号。
22 原形	320	須恵器	杯蓋		①11.6②4.1	ラ切り、一部回転ヘラケズ		天井部外面へラ 記号。
22	321	須恵器	杯蓋	SX21-8 (25)	①12. 2②3. 9	定方向ナデ。外面1/2回転ヘラ	含む。B:不良。C:内外共灰白7.5Y7/1〜 灰白10Y7/1。	天井部外面へラ 記号。
25   現金面 作金   St21-5 (86)	322	須恵器	杯蓋	SX21-7 (21)	①12.5②4.1		B:やや不良。C:外灰白N7/〜灰白 7.5Y8/1、内灰白2.5Y7/1〜灰黄	
1012-623.0   回転デア破除、天井銀外編へ	323	須恵器	杯蓋	SX21-4 (36)	①(11.9)②3.9	摩滅の為、調整不明。		
323   京京   京京   京京   京京   京京   京京   京京	324	須恵器	杯蓋	SX21-5 (96)	①12.6②3.9	ラ切り後ナデ、一部回転ヘラ	A:0.5~5mmの白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外灰白N8/~暗灰N3/、内灰	天井部外面
325   京田   京田   京田   京田   京田   京田   京田   京	325	須恵器	杯蓋	SX21-6 黄色土	①12.6②3.4	デ。天井部外面へラ切り後ナ	B:不良。C:外灰10Y6/1、内褐灰10YR5/1	外面へラ記号。
227   須恵部   本義   121-6   123   121-6   123   121-6   123	326	須恵器	杯蓋	SX21-1 1 1 2	①(9.5)②3.2	方向ナデ。天井部外面へラ切		歪みあり。
329 須恵器 杯蓋   SZ21-5 (56)	327	須恵器	杯蓋	SX21-6	①10.6②3.2	ナデ。外面ヘラ切り後ナデ。	C:外灰N6/、内灰N5/。	
29 類重器 杯蓋   S21-7 (75)	328	須恵器	杯蓋	SX21-5 (56)	①(10.6)②3.0	ナデ。天井部外面へラ切り後 ナデ。	礫を微量含む。B:良好。C:外灰赤	天井部外面へラ 記号。
331 須恵器 杯蓋   321-4 ⑦	329	須恵器	杯蓋	SX21-7 (75)		一定方向ナデ。外面へラ切り	B:良好。C:内外共灰7.5Y6/1。	
331 (京恵器 杯蓋   SX21-5 (102)	330	須恵器	杯蓋	SX21-4 ⑦	①11. 1②2. 9	ナデ。外面ヘラ切り後ナデ。	含む。B:良好。C:外灰N4/~暗灰N3/、	記号。 外面降灰。
323 (羽恵器 杯蓋   3221-6 下層   ①11. 15/23. 6   十元、天井部外面へ   元中水平泉、下向外天灰目、下向外天灰目、下向外大阪(日 5 177)。	331	須恵器	杯蓋	SX21-5 (102)	①(11.3)②3.25	ナデ。天井部外面へラ切り後	を多量含む。B:良好。C:外黒N2/~灰	
333   須恵器   杯蓋   SX21-7 (23)   四転ナデ成形。 大井部外面へ   5:食好。 (:外灰形)へ暗灰形)、内灰形   大井部外面へ   5:食好。 (:外灰形)へ哨灰形)、内灰形   大井部外面へ   5:食好。 (:外灰形)へ哨灰形)、内灰形   大井部外面へ   5:食好。 (:外灰形)へ向灰形   大井部外面へ   5:食好。 (:外灰形)、内灰形   大井部外面へ   5:食好。 (:外水形)、内灰形   大月水形   大井部外面へ   5:食好。 (:外水形)、内灰   大月水形   大月水   大月水形   大月水   大月   大月	332	須恵器	杯蓋		<b>①</b> 11. 15 <b>②</b> 3. 6	ナデ。天井部外面へラ切り後	B:やや不良。C:内外共灰白7.5Y7/1。	天井部外面へラ 記号。
333   須恵器   杯蓋   X21-7 (127)	333	須恵器	杯蓋	SX21-7 (86)			B:良好。C:外灰N6/~暗灰N3/、内灰N5/ ~灰N4/。	
335   須恵器   杯蓋   SX21-7 (127)	334	須恵器	杯蓋	SX21-7 (23)	110.923.7		B:良好。C:外灰N5/、内灰N6/。	天井部外面へラ 記号。
336 須恵器 杯蓋   5 · 6区間ペルト 1層   ①11. 423.5   中央ナデ、外面〜ラ切り後ナデ、一部回転ペラケズリ。   日転ナデ成形後、天井部内面 大井・部外面〜ラ切り後 大手・部内面 大手・変した。   日転ナデ成形後、天井部内面 大手・変した。   日転ナデ成形後、天井部内面 大手・変した。   日転ナデ成形後、天井部内面 大手・変した。   日本・変した。   日本・変した。   日本・変した。   日本・変した。   日本・変した。   日本・変した。   日本・変した。   日本・変した。   日本・変した。   日本・デルスの面に、   日本・変した。   日本・デルスの面に、   日本・デルスの面に、   日本・デルスの面に、   日本・デルスの面に、   日本・変した。   日本・デルスの面に、   日本・デルスの面に、   日本・デルスの面に、   日本・デルスの面に、   日本・デルスの面に、   日本・デルスの面に、   日本・変した。   日本・変した。   日本・デルスの面に、   日本・変した。   日本・デルスの面に、   日本・変した。   日本・デルスの同に、   日本・デルスの面に、   日本・デルスの一に、   日本・変した。   日本・デルスのこれ、   日本・デルスの一に、   日本・デルスのの一に、   日本・デルスの一に、   日本・デルスの一に、   日本・デルスのこれ、   日本・デルスの面に、   日本・変した。   日本・変し	335	須恵器	杯蓋	SX21-7 (127)		ヘラケズリ。底部外面降灰の	を少量含む。B:不良。C:外浅黄2.5Y7/4 〜灰白2.5Y8/2、内淡黄2.5Y8/3〜淡黄	外面降灰。
338   須恵器   林蓋   SX21-6 (79)	336	須恵器	杯蓋	SX21 5・6区間ベルト 1層	①11. 4②3. 5	中央ナデ。外面へラ切り後ナ		天井部外面へラ 記号。
338   須恵器   杯蓋   SX21-6 (79)	337	須恵器	杯蓋	SX21-3				
339   須恵器   杯蓋   SX21-2 ①   SX21-2 ②   SX21-2 ③   SX21-2 ⑥   SX21-2 ③   SX21-2 ⑥   S	338	須恵器	杯蓋	SX21-6 (79)	①(10.8)②3.8	ナデ。天井部外面へラ切り後		
340   須恵器   杯蓋   SX21-2 (26)   天井経5.6   天井経5.6   下ボ。外面へラ切り後   上デ。   大井部外面へラ切り後   上デ。   大井部外面へラ切り後   上が。   大井部外面へラ切り後   上が。   大井部外面へラガリ。   日転り後2を多重さむ。   日本の中では形後、天井部内面   上が。   大井部外面へラがり。   日本の中では形後、天井部内面   上が。   大井部外面へラがり。   日本の一では形が後、天井部内面   上が。   大井部外面へラ切り後   上が。   大井部外面へラ切り後   上が。   大井部外面へラ切り後   上が。   大井部外面へラ切り後   上が。   大井部外面へラ切り後   上が。   大井部外面へラがりり後   上が。   大井部外面へラがりり後   上が。   大井部外面へラがりり後   上が。   大井部外面へラがりり後   上が。   大井部外面へラがりり後   上が。   大井部外面へラがりり後   上が。   大田町転のラケズリ。   日転・デ成形後、天井部内面   上が。   大田町町の白色砂粒をやや多量含む。   上りが。   大田町町の日では、   大井部外面へラがりを   上が。   大井部外面へラが、   日転・デ成形後、天井部内面   上が。   大田町町の日色砂粒をやや多量含む。   上が。   大田町町の日色砂粒をやや多量含む。   上が。   大田町町の   上が。   大田町町の日色砂粒をやや多量含む。   上が。   大田町町の日色砂粒をやや多量含む。   上りが。   大田町町の日色砂粒をやや多量含む。   上りが。   大井部外面へラ切りを   上が。   大井部外面へ   上がりを	339	須恵器	杯蓋			のみナデ。天井部外面へラ切		天井部外面へラ 記号。
341   須恵器   杯蓋   SX21-6   上午前工児   黄色土(上層)	340	須恵器	杯蓋			定方向ナデ。外面ヘラ切り後		天井部外面へラ 記号。
342   須恵器   杯蓋   SX21-8   ⑨	341	須恵器	杯蓋		①11. 45②3. 3	ナデ。天井部外面へラ切り後		
343   須恵器   杯蓋   SX21-6 (164)   ①11. 6②3. 45   ナデ。外面へラ切り後ナデ、一部回転ヘラケズリ。   日本のラケズリ。   日本のラケズリ。   日本のラケズリ。   日本のラケズリ。   日本のラケズリ。   日本のラケズリ。   日本のラケズリ。   日本のラケズリ。   日本のラケズリ。   日本のラウオリ。   日本のラウオリカン   日本のテン   日本のラウオリカン   日本のテン	342	須恵器	杯蓋	SX21-8 (19)	①11.0②3.3	不定方向ナデ。天井部外面へ		
344   須恵器   杯蓋   SX21-6   黒色土(下層)	343	須恵器	杯蓋	SX21-6 (164)	①11.6②3.45	ナデ。外面ヘラ切り後ナデ、	B:良好。C:外灰N5/~暗灰N3/、内青灰	天井部外面へラ 記号。
345   須恵器   杯蓋   SX21-1 ⑨   ①11. 5②3. 3   方向ナデ。天井部外面へラ切   「ハーマニョウイサベモクエ言む。 D. R. 好。   大井部外面へラ切   「小瓜町白以7/〜両下10火/1   内野屋/	344	須恵器	杯蓋	SX21-6 黒色土(下層)	①(11.8)②3.4	ナデ。天井部外面へラ切り後	粒を多量含む。B:良好。C:外灰N6/~灰	外面降灰。
	345	須恵器	杯蓋	SX21-1 ⑨	①11. 5②3. 3	方向ナデ。天井部外面へラ切		天井部外面へラ 記号。

## 表14 梅頭遺跡第2次調査出土遺物観察表⑭

			表14	<b></b> 一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一	2次調査出土遺物額	<b>元余衣</b> 世	
遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高 ③底径④高台径 ⑤最大径()は復元	形態・技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
346	須恵器	杯蓋	SX21-6(上層)	①11.5②3.8	回転ナデ成形後、天井部内面 ナデ。天井部外面へラ切り後 ナデ。	A:1mm以下の白色砂粒を微量含む。 B:不良。C:外灰白2.5Y8/2~淡黄 2.5Y8/3、内灰白2.5Y8/2。	
347	須恵器	杯蓋	SX21-5 (67) SX21-5 黄色土(上層) SX21-5	①(11.45)②3.8	回転ナデ成形後、天井部内面 ナデ。天井面外面へラ切り後 ナデ。	A: 微細な白色砂粒を少量含む。 B: 良好。C:外灰N6/〜暗オリーブ灰 2. 5GY4/1、内灰N6/。	天井部外面へラ 記号。 体部外面降灰。
348	須恵器	杯蓋	SX21-2 (21)	①11.55 ②3.75+α 天井径7.4	回転ナデ成形。天井部外面摩滅の為、調整不明。	A:1mm以下の白色砂粒、黒色粒を少量 含む。B:不良。C:外黄橙7.5YR7/8〜灰 白2.5Y8/2、内明黄褐10YR7/6〜灰白 2.5Y8/2。	
349	須恵器	杯蓋	SX21-4 (63)	①(11.9)②3.65	回転ナデ成形後、天井部内面 一定方向ナデ。天井部外面へ ラ切り後ナデ。	A:0.5~1.5mmの白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外にぶい褐7.5YR5/4~灰 5Y4/1、内にぶい褐7.5YR5/4。	
350	須恵器	杯蓋	SX21-5 (128)	①11. 45②3. 3	回転ナデ成形後、天井部内面 ナデ。天井部外面へラ切り後 ナデ、一部回転へラケズリ。	A:0.5mmの白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:内外共灰N5/。	天井部外面へラ 記号。 内外面降灰。
351	須恵器	杯蓋	SX21 5・6区間ベルト 1層	①12.0②3.6	回転ナデ成形後、天井部内面 中央ナデ。天井部内面へラ切 り後ナデ。	A:1mm以下の白色砂粒を微量含む。 B:良好。C:外灰白5Y7/1、内灰白N7/~ 灰N6/。	天井部内面以外 降灰。
352	須恵器	杯蓋	SX21-5 (123)	①12. 0②3. 95	回転ナデ成形。天井部外面へ ラ切り後ナデ。	A:1mmの白色砂粒を少量含む。B:不良。 C:内外共淡黄2.5Y8/3。	
353	須恵器	杯蓋	SX21-7 (76)	①11.5②3.7 天井径7.7	回転ナデ成形後、底部内面一 定方向ナデ。天井部外面へラ 切り後不定方向ナデ。	A: 微細な砂粒を少量含む。B: 良好。 C:外灰10Y6/1~灰N4/。内灰10Y6/1。	天井部外面へラ 記号。
354	須恵器	杯蓋	SX21-6 (46)	①11. 4②3. 7	回転ナデ成形後、天井部内面 ナデ。天井部外面へラ切り後 ナデ、一部回転へラケズリ。	A:1mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外灰N5/、内灰N6/。	天井部外面へラ 記号。 外面降灰。
355	須恵器	杯蓋	SX21-4 (46)	①(12.0)②3.35	内面回転ナデ。天井部内面中 央ナデ。天井部外面へラ切 り。	A:砂粒をほとんど含まない。B:不良。 C:内外共灰白2.5Y8/2。	
356	須恵器	杯蓋	SX21 5・6区間ベルト 3層	①12. 2②4. 1	回転ナデ成形後、天井部内面 ナデ。天井部外面へラ切り後 ナデ。	A:2mm以下の白色砂粒をやや多量含む。 B:やや不良。C:外灰白5Y8/1、内灰白 2.5Y8/2。	
357	須恵器	杯蓋	SX21-6 黒色土(下層)	①11.7②3.9	回転ナデ成形後、天井部内面 ナデ。天井部外面へラ切り後 ナデ。外面一部へラケズリ。	A:1.5mm以下の白色砂粒、礫を多量 含む。B:良好。C:外灰N6/〜灰N5/、内 灰N6/。	内外面降灰。 歪みあり。
358	須恵器	杯蓋	SX21-2 20	①11.95②3.85 天井径6.8	回転ナデ後、天井部内面ナ デ。天井部外面へラ切り後ナ デ、一部回転へラケズリ。	A:1mm以下の白色砂粒、黒色粒をやや 多量含む。B:良好。C:外灰白N7/~暗灰 N3/、内灰N6/。	体部内面降灰。 口縁付近歪み あり。
359	須恵器	杯蓋	SX21-5 (36)	①12. 25②3. 65	体部外面ナデ。外面へラ切り、一部回転へラケズリ。内面摩滅。	A:2mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:不良。C:外橙7.5YR7/6〜灰黄 2.5Y7/2、内にぶい黄橙10YR6/4。	天井部外面へラ 記号。
360	須恵器	杯蓋	SX21-4 (62)	①12. 35②4. 0	回転ナデ成形後、天井部内面 一定方向ナデ。天井部内面へ ラ切り後ナデ、一部回転へラ ケズリ。	A:0.5~1.5mmの白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外灰白N7/~黒N2/、内灰白N7/。	外面降灰。内面 補修痕あり。 天井部外面 付着物あり。
361	須恵器	杯蓋	SX21-5 (27)	①13. 2②3. 75	回転ナデ成形後、天井部内面 ナデ。外面3/5を手持ちヘラケ ズリ。	A:1mm以下の白色砂粒、雲母を多量 含む。B:不良。C:外黒2.5Y2/1、内にぶ い黄橙10YR6/4~黄灰2.5Y5/1。	天井部外面へラ 記号。
362	須恵器	杯蓋	SX21-5 (118)	①10. 2~11. 25 ②4. 0	回転ナデ後、天井部内面ナ デ。天井部外面へラ切り後ナ デ、一部回転へラケズリ。	A:1mmの白色砂粒を多量含む。B:良好。 C:外オリーブ灰2.5GY5/1〜黒N2/、内褐 灰5YR4/1〜黒N2/。	天井部外面へラ 記号。 外面降灰。
363	須恵器	杯蓋	SX21-1 ®	①11. 2②3. 4	回転ナデ成形。天井部外面へ ラ切り後ナデ。	A:1~3mmの石英を多量含む。B:良好。 C:内外共灰白N7/。	内面降灰。 著しい歪み あり。
364	須恵器	杯蓋	SX21-4 (37)	①8.2②3.1 受部径10.2 つまみ径1.15	回転ナデ成形後、天井部内面 ナデ。外面3/5回転ヘラケズ リ。つまみ貼付。	A:0.5~2mmの白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外灰7.5Y5/1、内灰N6/。	天井部外面へラ 記号。 外面降灰。
365	須恵器	杯蓋	SX21-7 (139)	①(9.1)②3.6 受部径(10.9) つまみ径1.4	回転ナデ成形後、天井部内面 不定方向ナデ。外面5/6を回転 ヘラケズリ。	A:1mm以下の白色砂粒をやや多量含む。 B:良好。C:外灰10Y6/1~灰N5/、内灰 10Y6/1。	
366	須恵器	杯蓋	SX21-6 ®	①8.7②4.0 受部径10.6	回転ナデ成形後、天井部内面 中央ナデ。外面3/5カキメ。つ まみ貼付。	A:1mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外灰N6/、内灰白N7/。	外面降灰。 口縁部杯身片 釉着。
367	須恵器	杯蓋	SX21-5 (68) SX21-5 (64)	①(9.7)②3.4 受部径(11.4) つまみ径1.1 ①9.6~10.35	回転ナデ成形後、天井部内面 ナデ。外面2/3カキメ。つまみ 貼付。	A: 微細粒を少量含む。B: 良好。C: 外暗 灰N3/~オリーブ灰5GY5/1、内灰N5/。	外面降灰。 口縁部杯身片 釉着。
368	須恵器	杯蓋	SX21-5 (154)	①9.6~10.35 ②4.3受部径 11.45~11.85 つまみ径1.3	回転ナデ成形後、天井部内面 ナデ。外面2/5カキメ、1/4回 転ヘラケズリ。つまみ貼付。	A:2mm以下の白色砂粒を多量含む。 B良好。C:内外共灰N4/。	歪みあり。
369	須恵器	杯蓋	SX21-7 ③	①9.3②3.8 受部径11.4 つまみ径1.4	回転ナデ成形後、天井部内面 ナデ。外面3/4を回転ヘラケズ リ。つまみ貼付。	A: 微細な白色砂粒を多量含む。 B: 良好。C:外灰N5/、内灰N4/。	著しい歪み あり。
370	須恵器	杯蓋	SX21-3 ① SX21-3	①(7.65~9.1) ②3.75受部径 10.3~11.5 つまみ径2.8	回転ナデ後、天井部内面ナ デ。外面3/5ヘラケズリ。つま み貼付。	A:1mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外灰N5/〜灰N4/、内灰N5/。	著しい歪み あり。 外面降灰。
371	須恵器	杯蓋	SX21 6・7区間ベルト 6層	①7. 9②2. 75 受部径10. 65	回転ナデ成形後、天井部内面 ナデ。外面3/4を回転ヘラケズ リ。	A:2mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外灰N6/〜灰N4/、内灰N6/。	天井部外面へラ 記号。 歪みあり。
372	須恵器	杯身	SX21-6 ①	①8. 2②3. 0 受部径10. 5	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面2/3回転ヘラケズリ。	A:微細な白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外灰N5/、内灰N4/。	底部外面へラ 記号。

## 表15 梅頭遺跡第2次調査出土遺物観察表⑤

			衣コラ	<b></b>	32次調査出土遺物額	<b>记</b> 条衣(1)	
遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm·g) ①口径②器高 ③底径④高台径 ⑤最大径()は復元	形態・技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
373	須恵器	杯身	SX21-6 (76)	①(8.8)②2.9 受部径(10.85)	摩滅の為、調整不明。	A: 微細な白色砂粒を微量含む。 B: 不良。C: 外黄灰2. 5Y6/1~淡黄 2. 5Y7/3、内黄灰2. 5Y6/1。	
374	須恵器	杯身	SX21-7 (135)	①9.5②3.1 受部径11.8	回転ナデ成形。外面3/4を回転 ヘラケズリ。つまみ貼付。	A:0.5~1mmの白色砂粒をやや多量 含む。B:やや不良。C:外灰白N7/~灰黄 褐10YR6/2、内灰白5Y7/1。	底部外面へラ 記号。 外面降灰。
375	須恵器	杯身	SX21-6 ⑤	①8.6②3.2 受部径11.1	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。底部内面へラ切り後ナ デ。	A:1mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:内外共灰白7.5Y7/1。	底部外面へラ 記号。蓋の 可能性あり。
376	須恵器	杯身	SX21-6 (120)	①9. 0②2. 8 受部径11. 1	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面ヘラ切り後ナデ。	A:微細な白色砂粒を微量含む。B:良 好。C:外灰N6/、内灰白N7/~灰N6/。	底部外面へラ 記号。
377	須恵器	杯身	SX21-6 (54)	①9.8②3.35 受部径11.6	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面ヘラ切り後ナデ。	A: 微細な白色砂粒をやや多量含む。 B: 不良。C: 外青灰5B6/1〜灰白 2. 5Y8/2、内灰白5Y7/1〜灰白5Y7/2。	底部外面へラ 記号。
378	須恵器	杯身	SX21-6 (115)	①9. 0②3. 3 受部径11. 2	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面へラ切り後ナデ、一 部回転ヘラケズリ。	A:微細な白色砂粒を微量含む。 B:良好。C:内外共青灰5B5/1。	底部外面へラ 記号。
379	須恵器	杯身	SX21-6 ⑥ SX21-6 (21)	①9.5②3.6 受部径11.7	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。底部外面へラ切り後ナ デ。	A:1mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:内灰N6/~灰N5/。外灰N6/。	
380	須恵器	杯身	SX21-6 (95)	①10.0②3.5 受部径11.85	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面ヘラ切り後ナデ。	A:微細な砂粒を多量含む。B:良好。 C:内外共灰N6/~灰白7.5Y7/1。	底部外面へラ 記号。
381	須恵器	杯身	SX21-7 (45)	①(9.7)②3.5 受部径(11.9)	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面ヘラ切り。	A: 微細な白色砂粒を多量含む。 B: 不良。C: 外灰白5Y5/1〜灰白10Y7/1、 内灰7. 5Y6/1。	
382	須恵器	杯身	SX21-7 (36)	①10.5②3.5 受部径12.2	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面ヘラ切り。	A: 微細な白色砂粒を微量含む。 B: 不良。C: 内外共浅黄橙10YR8/3~淡黄 2. 5Y8/3。	底部外面へラ 記号。
383	須恵器	杯身	SX21-7 (6)	①9.6②3.2 受部径11.85	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面へラ切り後ナデ、一 部回転ヘラケズリ。	A:混入物はほとんどない。B:良好。 C:外灰白N7/~灰N6/、内灰白N7/。	底部外面へラ 記号。 受部降灰。
384	須恵器	杯身	SX21-5 (110)	①9.5②4.0 受部径11.5	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面2/5回転ヘラケズリ。	A:1mmの白色砂粒を少量含む。B:良好。 C:外灰赤10R4/2〜暗オリーブ灰 2.5GY3/1、内灰赤10R4/2。	底部外面へラ 記号。 外面降灰。
385	須恵器	杯身	SX21-6 (29)	①10.0②3.4 受部径12.3	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面ヘラ切り後ナデ。	A:微細な白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外青灰5B6/1、内褐灰 7.5YR4/1。	底部外面へラ記 号。外面降灰。 やや歪みあり。
386	須恵器	杯身	SX21-6	①(10.9)②3.6 受部径12.6	底部外面へラ切り。外面一部 ヘラケズリ。内面摩滅の為、 調整不明。	A:微細な白色砂粒を多量含む。 B:不良。C:外灰白5Y8/1、内灰白 2.5Y8/2。	
387	須恵器	杯身	SX21-5 (145)	①10.0②4.1 受部径12.25	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面へラ切り後ナデ、一 部回転ヘラケズリ。	A:2mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外灰白N7/~灰N4/、内灰白N7/。	体部外面降灰。 口縁部杯蓋片 釉着。
388	須恵器	杯身	SX21-2 (29)	①11. 1②3. 65 ③4. 0 受部径(13. 2)	内面回転ナデ成形。外面摩滅 の為、調整不明。	A:2mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:不良。C:外にぶい黄橙10YR6/4〜灰黄 2.5Y7/2、内にぶい橙7.5YR7/4〜灰白 2.5Y8/2。	
389	須恵器	杯身	SX21-7 13	①10. 3②3. 7 受部径12. 1	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面ヘラ切り後ナデ。	A:1mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外灰N6/、内青灰5B5/1〜灰 N5/。	底部外面へラ 記号。体面 降灰。口縁部杯 蓋片釉着。
390	須恵器	杯身	SX21-6 (171)	①10.7②4.0 受部径12.75	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面1/2を回転ヘラケズ リ。	A:2mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:内外共青灰5PB5/1。	底部外面へラ 記号。
391	須恵器	杯身	SX21-7 焼土内 床面直上	①(11.1)②4.1 受部径13.8	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面3/5を回転ヘラケズ リ。	A:1mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:不良。C:外にぶい橙7.5YR7/4~浅黄 橙10YR8/4、内にぶい橙7.5YR7/4~にぶ い黄橙10YR7/4。	底部外面へラ 記号。
392	須恵器	杯身	SX21-8 (27)	①10.7②3.1 受部径12.9	回転ナデ成形後、不定方向ナ デ。外面3/5を回転ヘラケズ リ。	A:微細な黒色粒、長石を微量、2mm以下 の石英をやや多量含む。B:良好。 C:外灰白N7/、内灰N6/。	底部外面へラ 記号。 外面降灰。
393	須恵器	杯身	SX21 6・7区間ベルト 17~23層	①10.8②4.4 受部径13.4	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面3/5を回転ヘラケズ リ。	A:2mm以下の白色砂粒を多量含む。B:良好。C:内外共明オリーブ灰5GY7/1。	底部外面へラ 記号。
394	須恵器	杯身	SP19	①(10.6) ②3.2+α③(8.4) 受部径(12.4)	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面へラ切り後 ナデ。	A:粗砂を少量含む。B:良好。C:外灰白 5Y8/1、内灰黄2.5Y7/2。	
395	須恵器	杯身	SX21-6 (32) SX21-6 (100)	①10.5②3.7 受部径12.5	回転ナデ成形。外面ヘラ切り 後ナデ、一部回転ヘラケズ リ。	A:混入物はほとんどない。B:やや 不良。C:内外共淡黄2.5Y8/3〜灰白 2.5Y8/2。	底部外面へラ 記号。
396	須恵器	杯身	SX21-7 (35)	①9. 3②3. 4 受部径11. 7	回転ナデ成形後、底部内面ナデ。外面へラ切り後ナデ、3/5を回転ヘラケズリ。	A: 微細な白色砂粒、礫を多量含む。 B:良好。C:外灰N6/、内灰N5/。	体部外面降灰。
397	須恵器	杯身	SX21-5 (62)	①(9.8)②3.3 受部径(11.65)	外面へラ切り後ナデ。他は摩 滅の為、不明。	A:1mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:不良。C:外灰5Y6/1〜明黄褐 10YR7/6、内浅黄2.5Y7/3。	底部外面へラ 記号。
398	須恵器	杯身	SX21-6 (52)	①8.8②3.5 受部径10.75	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面ヘラ切り後ナデ。	A:1mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外灰N6/、内灰N4/。	底部外面へラ 記号。外面 降灰。口縁部杯 蓋片釉着。
399	須恵器	杯身	SX21-6 (57)	①8.9②3.35 受部径10.75	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面ヘラ切り後ナデ。	A:1mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外灰N5/、内暗灰N3/。	盛月福福。 底部外面へラ記 号。内面降灰。

## 表16 梅頭遺跡第2次調査出土遺物観察表⑩

			表16	<b>一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一</b>	32次調査出土 直物額	说祭表(b)	
遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm·g) ①口径②器高 ③底径④高台径 ⑤最大径()は復元	形態・技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
400	須恵器	杯身	SX21-6 黒色土(下層)	①9.55②2.9 受部径11.5	回転ナデ成形後、底部内面ナデ。底部外面	A:1mm以下の白色砂粒をやや多量含む。 B:良好。C:外灰N6/~灰白N7/、内灰 N6/。	底部外面へラ 記号。 外面降灰。
401	須恵器	杯身	SX21-7 (33)	①9. 2②3. 1 受部径11. 3	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面ヘラ切り後ナデ、一 部回転ヘラケズリ。	A:微細な白色砂粒を微量含む。 B:良好。C:外灰白5Y7/2~灰N7/、内灰 N6/。	外面降灰。口縁 部杯蓋片釉着。
402	須恵器	杯身	SX21-4 (32)	①9. 2②3. 5③3. 1 受部径11. 2	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面へラ切り後 ナデ。	A:0.5~1mmの白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:内外共灰白10Y7/1。	底部外面へラ 記号。
403	須恵器	杯身	SX21 4・5区間ベルト 3~8層 (6層除く)	①9.6②3.3 受部径11.3	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面へラ切り後ナデ。	A:2mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外灰N6/、内灰白N7/。	歪みあり。
404	須恵器	杯身	SX21-6 (72)	①9. 5②3. 2 受部径11. 2	外面回転ナデ、底部へラ切 り。内面は摩滅の為、不明。	A:微細な白色砂粒を少量含む。B:不 良。C:外灰黄2.5Y7/2〜灰白2.5Y8/1、 内灰白2.5Y8/2〜灰白2.5Y8/1。	
405	須恵器	杯身	SX21-6 (110)	①9. 4②3. 0 受部径11. 1	底部外面へラ切り。他は摩滅 の為、不明。	A:1mm以下の白色砂粒を微量含む。B:不 良。C:外黄灰2.5Y5/1〜黄灰2.5Y4/1、 内淡黄2.5Y8/4〜にぶい黄橙10YR7/4。	
406	須恵器	杯身	SX21-3 ②	①(10.1)②3.2 ③7.3 受部径11.35	摩滅の為、調整不明。	A:0.5mmの白色砂粒を少量含む。 B:不良。C:内外共灰白5Y7/2。	
407	須恵器	杯身	SX21-3 ②	①7. 15~10. 9 ②3. 2~3. 55 ③6. 0 受部径9. 25~ 12. 2	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面へラ切り後 ナデ。	A:2mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外灰N5/~灰N6/、内灰N5/。	底部外面、体部 外面へラ記号。 大きい歪みあ り。外面降灰。 口縁部杯蓋片 釉着。
408	須恵器	杯身	SX21 5・6区間ベルト 2層	①9. 1②2. 6 受部径11. 1	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面ヘラ切り後ナデ。	A: 微細な白色砂粒を微量含む。B: やや 不良。C: 外灰白5Y8/1、内灰白 2. 5Y8/2。	底部外面へラ 記号。
409	須恵器	杯身	SX21-6 (27)	①9. 9②3. 8 受部径11. 5	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面ヘラ切り後ナデ。	A:1mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:不良。C:外にぶい橙7.5YR7/4、内浅 黄橙7.5YR8/4~浅黄橙10YR8/3。	底部外面へラ 記号。
410	須恵器	杯身	SX21-4 (27)	①(9.55)②3.5 受部径11.8	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面へラ切り後 ナデ。	A:0.5~2mmの白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外オリーブ灰5GY5/1~灰 N5/、内オリーブ灰5GY5/1。	
411	須恵器	杯身	SX21-3 ⑤	①9. 7②3. 25 ③6. 9 受部径11. 7	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面ヘラ切り後ナデ。	A:1mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外灰N4/〜暗灰N3/、内灰 N4/。	外面降灰。
412	須恵器	杯身	SX21-7 (91)	①9. 7②3. 2 受部径11. 6	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面へラ切り後 ナデ。	A: 微細な白色砂粒を少量含む。 B: 良好。C: 外灰白7. 5Y7/1〜灰褐 7. 5Y4/2、内灰褐7. 5YR4/2。	外面降灰。口縁 部杯蓋片釉着。
413	須恵器	杯身	SX21-6 黑色土(下層)	①9.8②3.75 ③5.6受部径12.3	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。底部外面ヘラ切り後ナ デ。	A:1mm以下の白色砂粒、礫を多量含む。 B:良好。C:外灰N6/、内灰N4/。	底部外面へラ 記号。体部外面 降灰。口縁部 杯蓋片釉着。
414	須恵器	杯身	SX21-6 (129)	①9.85②3.1 受部径(11.6)	摩滅の為、調整不明。	A:1mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:不良。C:外灰白2.5Y8/2〜灰白 5Y7/2、内灰白5Y8/2〜淡黄2.5Y8/3。	
415	須恵器	杯身	SX21-5 (28)	①9. 45②3. 5 受部径11. 55	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面へラ切り後ナデ。	A:2mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外暗灰N3/、内灰N4/。	底部外面へラ記 号。外面降灰。
416	須恵器	杯身	SX21-7 (34)	①9. 3②2. 8 受部径11. 7	  回転ナデ成形。外面へラ切り  後ナデ。	A:1mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:内外共灰白N7/。	底部外面へラ 記号。外面 降灰。口縁部 杯蓋片釉着。
417	須恵器	杯身	SX21-7 (32)	①9. 9②3. 3 受部径12. 0	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面へラ切り後ナデ、一 部回転ヘラケズリ。	A:1mm以下の白色砂粒を微量含む。 B:やや不良。C:外灰白5Y8/1〜灰N6/、 内灰白2.5Y7/1。	底部外面へラ記号。
418	須恵器	杯身	SX21-6 黑色土(下層)	①9. 3②3. 2 受部径11. 8	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。底部外面へラ切り後ナ デ。	A:微細な白色砂粒を微量、黒色粒を 多量含む。B:良好。C:外灰N4/、内灰 N6/。	底部外面へラ 記号。体部外面 降灰。口縁部 杯蓋片釉着。
419	須恵器	杯身	SX21-6 (48)	①11. 65②2. 9 受部径12. 0	回転ナデ成形後、底部内面中 央ナデ。外面へラ切り後ナ デ。	A:1mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外灰N5/~灰N6/、内灰N4/。	外面降灰。
420	須恵器	杯身	SX21-7 (95)	①9.5②3.3 受部径11.5	回転ナデ成形。底部外面へラ 切り後不定方向ナデ。	A:微細な白色砂粒を少量含む。 B:不良。赤焼。C:内外共橙5YR6/8~に ぶい黄橙10YR7/4(マーブル状)	
421	須恵器	杯身	SX21-1 (34)	①9.55②3.3 ③7.0受部径11.8	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面へラ切り後ナデ、一 部へラケズリ。	A:0.5~1mmの白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外緑灰1066/1、内オリーブ 灰2.5GY6/1。	底部外面へラ 記号。
422	須恵器	杯身	SX21-6 (93)	①10.05②3.4 受部径11.85	回転ナデ成形。底部外面摩滅 の為、調整不明。	A:1mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:やや不良。C:外灰白2.5Y8/1〜灰白 10Y7/1、内淡黄2.5Y8/3〜灰N5/。	
423	須恵器	杯身	SX21-5 (100)	①10. 2②2. 95 受部径12. 0	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面へラ切り後ナデ。	A:0.5~1mmの白色砂粒を多量含む。 B:不良。C:外オリーブ黒5Y3/2~明褐 7.5Y5/6、内オリーブ黒5Y3/2。	底部外面へラ 記号。
424	須恵器	杯身	SX21-6 (28)	①9. 4②3. 9 受部径11. 7	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面へラ切り後ナデ。	A:1mm以下の白色砂粒を多量含む。B:や や不良。C:外にぶい赤褐5YR5/4~にぶ い褐10YR5/4、内にぶい赤褐5YR5/4。	底部外面へラ 記号。

## 表17 梅頭遺跡第2次調査出土遺物観察表①

			表17	<b>一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一</b>	2次調査出土遺物額	現祭衣(リ)	
遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm·g) ①口径②器高 ③底径④高台径 ⑤最大径()は復元	形態・技法の特徴	A:胎士 B:焼成 C:色調	備考
425	須恵器	杯身	SX21-2 (3)	①9.65②3.3 ③7.75 受部径11.95	回転ナデ成形後、底部内面ナデ。外面ヘラ切り後ナデ。	A:2mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外灰N6/~暗灰N3/、内灰 N6/。	底部外面へラ 記号 外面降灰。
426	須恵器	杯身	SX21-6 @	①9.8②3.6 受部径11.9	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面へラ切り後ナデ。	A:1mm以下の白色砂粒を微量含む。 B:良好。C:外灰N6/、内灰N7/。	
427	須恵器	杯身	SX21-7 (74)	①9. 65②2. 95 受部径11. 55	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面ヘラ切り後ナデ。	A:1mm以下の砂粒を微量含む。B:良好。 C:外灰N6/、内灰白N7/。	やや歪みあり。 底部外面へラ 記号。体部内面 〜外面降灰。
428	須恵器	杯身	SX21-7 ⑥	①9. 7②3. 4 受部径11. 7	回転ナデ成形。底部外面へラ 切り後ナデ。	A:1mm以下の白色砂粒を微量含む。 B:良好。C:外灰N6/〜灰N5/、内灰N6/〜 灰白N7/。	底部外面へラ 記号。
429	須恵器	杯身	SX21 4・5区間ベルト3~8層 (6層除く)	①9.8②3.6 受部径11.75	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面ヘラ切り後ナデ、一 部回転ヘラケズリ。	A:2mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:不良。C:外灰赤2.5YR4/2~赤灰 2.5YR4/1、内灰赤2.5YR4/2。	底部外面へラ 記号。
430	須恵器	杯身	SX21-6 (23)	①9. 7②3. 7 受部径12. 0	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面へラ切り後ナデ。	A:微細な砂粒を少量含む。B:良好。 C:内外共灰N6/~灰N5/。	底部外面へラ 記号。
431	須恵器	杯身	SX21-1 南側 褐色土 SX21-1	①9. 9②3. 1 ③7. 65 受部径11. 9	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面へラ切り後 ナデ。	A:0.5~2mmの白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外灰白N7/、内灰N6/。	底部外面へラ 記号。 外面降灰。
432	須恵器	杯身	SX21-7 (26)	①10.3②3.4 受部径12.1	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面へラ切り後ナデ。	A:1.5mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外灰N6/、内赤灰2.5YR5/1。	底部外面へラ 記号。
433	須恵器	杯身	SX21-5 (105)	①(10.1)②3.3 受部径12.1	回転ナデ成形後、底部内面ナデ。外面降灰の為、調整不明。	A:0.5~2mmの白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外暗灰N3/~黒N2/、内暗灰 N3/。	底部外面へラ 記号。杯蓋口縁 付着。
434	須恵器	杯身	SX21-7 (56)	①9. 9②3. 4 受部径12. 3	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面ヘラ切り後ナデ。	A:微細な白色砂粒を微量含む。 B:良好。赤焼。C:外にぶい橙5YR6/3、 内にぶい橙7.5YR7/4。	底部外面へラ 記号。
435	須恵器	杯身	SX21-4 ®	①9. 4②3. 4 受部径12. 15	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面へラ切り後 ナデ。	A:0.5~3mmの白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外暗灰N3/~灰N5/~紫灰 5PB5/1、内灰N4/。	体部外面へラ 記号。体部外面 降灰。
436	須恵器	杯身	SX21-5 (133)	①9. 7②3. 3 受部径12. 2	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面3/5回転ヘラケズリ。	A:1mmの白色砂粒を少量含む。B:良好。 C:内外共暗青灰5PB3/1〜暗紫灰 5RP4/1。	底部外面へラ 記号。内面〜 受部外面降灰。
437	須恵器	杯身	SX21-6 ①	①9. 9②3. 6 受部径12. 0	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面ヘラ切り後ナデ。	A:1mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:内外共灰N4/。	外面降灰。 口縁部、体部 別個体片釉着。
438	須恵器	杯身	SX21-6 (165)	①10.0②3.35 受部径12.1	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面ヘラ切り後ナデ。	A:1mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外灰N5/〜暗灰N3/、内青灰 5PB6/1。	底部外面へラ 記号。体部外面 砂粒付着。口縁 部杯蓋片釉着。
439	須恵器	杯身	SX21-6 (166)	①9.6②4.0 受部径12.1	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面ヘラ切り後ナデ、一 部回転ヘラケズリ。	A:4mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外灰N4/、内灰N5/。	底部外面へラ 記号。体部外面 降灰。
440	須恵器	杯身	SX21-2 16	①9. 7②3. 9③7. 0 受部径12. 1	回転ナデ成形。底部外面へラ 切り後ナデ。	A: 2mm以下の白色砂粒を少量含む。 B: 不良。C:外灰白2.5Y7/1〜黄灰 2.5Y6/1、内灰白2.5Y8/2。	
441	須恵器	杯身	SX21-6 黄色土	①10. 4②3. 2 受部径12. 6	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。底部外面へラ切り後ナ デ。	A:1mm以下の白色砂粒、微細な雲母、 赤褐色粒を微量含む。B:不良。C:外浅 黄橙10YR8/4~明黄褐10YR7/6、内明黄 褐10YR7/6。	
442	須恵器	杯身	SX21-2 最下層 SX21-3	①9. 7②3. 35 ③6. 6 受部径12. 15	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面ヘラ切り後ナデ。	A:1mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外灰N5/~灰N4/、内灰N4/。	底部外面へラ 記号。 外面降灰。
443	須恵器	杯身	SX21-6 (101)	①(10.1)②3.7 受部径12.2	回転ナデ成形。底部外面へラ 切り。	A:2mm以下の砂粒、雲母を少量含む。 B:不良。C:外黄橙10YR8/6~淡黄 2.5Y8/3、内黄橙10YR8/6。	底部外面へラ 記号。
444	須恵器	杯身	SX21-7 ①	①10.0②3.15 受部径12.3	回転ナデ成形。底部外面3/5回 転ヘラケズリ。	A:1mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外灰N5/、内灰N5/~灰N4/。	底部外面へラ記 号。外面降灰。
445	須恵器	杯身	SX21-4 (49)	①10.1②2.9 受部径12.2	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。底部外面へラ切り後ナ デ。	A: 微細粒を少量含む。B:良好。C:外灰N6/〜暗オリーブ灰2.5GY3/1、内灰N6/。	底部外面へラ 記号。 外面降灰。
446	須恵器	杯身	SX21-5 (76)	①10.5②3.6 受部径12.6	底部外面へラ切り後ナデ。他 は摩滅の為、調整不明。	A: 微細な白色砂粒を少量含む。 B: 不良。C: 内外共にぶい黄橙10YR7/4。	
447	須恵器	杯身	SX21-5 (134)	①11. 1②4. 45 受部径12. 8	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面ヘラ切り後ナデ。	A:0.5~2mmの白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外灰N6/、内黄灰2.5Y5/1。	外面一部降灰。 歪みあり。
448	須恵器	杯身	SX21-5 (143)	①10.6②3.8 受部径12.8	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面ヘラ切り後ナデ。	A:1mm以下の白色砂粒を微量含む。 B:不良。C:外灰白2.5Y8/2、内灰白 2.5Y8/2~明黄褐10YR7/6。	
449	須恵器	杯身	SX21-8 ①	①10.8②3.5 受部径12.6	回転ナデ成形後、天井部内面 一定方向ナデ。天井部外面へ ラ切り後ナデ。	A:4mm以下の石英をやや多量含む。 B:良好。C:外灰N6/~黒N2/、内灰白 10Y7/1~灰N6/。	底部外面へラ 記号。外面 降灰。著しい 歪みあり。
450	須恵器	杯身	SX21-6 黄色土	①10.3②3.5 受部径12.5	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。底部外面へラ切り後ナ デ。	A:1mm以下の白色砂粒をやや多量含む。 B:やや不良。C:内外共灰白5Y8/1。	
451	須恵器	杯身	SX21-5 (113)	①10.8②3.7 受部径12.9	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。底部外面は調整不明。	A:1mmの白色砂粒を多量含む。B:良好。 C:外灰N6/〜灰白7.5Y7/1、内灰N6/。	外面降灰。
452	須恵器	杯身	SX21-3 (19)	①9. 45②3. 5 ③5. 5受部径12. 6	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面ヘラ切り後ナデ。	A:1mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外にぶい赤褐2.5YR4/4〜黄 灰2.5Y4/1、内にぶい赤褐2.5YR4/4。	底部外面へラ 記号。

# 表18 梅頭遺跡第2次調査出土遺物観察表®

			衣 18	<b>伸</b> 现	2次調宜出工退物街	<b>1</b>	
遺物 番号	種類	器種	出土地点	法量(cm·g) ①口径②器高 ③底径④高台径 ⑤最大径()は復元	形態・技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
453	須恵器	杯身	SX21-6 (44)	①10. 2②3. 8 受部径12. 6	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。底部外面摩滅、一部回転 ヘラケズリ。	A:1mm以下の白色砂粒、礫を多量、粗砂を微量含む。B:不良。C:外灰白5Y7/1、内灰黄2.5Y7/2。	底部外面へラ記号。
454	須恵器	杯身	SX21-8 ⑤ SX21 7 · 8間 7層 SX21-8	①10.5②3.4 受部径12.7	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面3/5回転ヘラ ケズリ。	A: 微細な長石をやや多量、3mm以下の 石英を多量含む。B: 良好。C: 内外共灰 N6/〜灰N4/。	底部外面へラ 記号。
455	須恵器	杯身	SX21-5 上層 褐色土	①10.8②4.1 受部径12.95	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面ヘラ切り後ナデ。	A:2mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:不良。C:外にぶい赤褐5YR5/4〜にぶ い橙7.5YR6/4、内にぶい黄橙10YR6/3。	
456	須恵器	杯身	SX21-7 (44)	①10.3②3.3 受部径12.7	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面ヘラ切り後ナデ。	A:1mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外灰N6/~灰N5/、内灰N5/。	底部外面へラ 記号。
457	須恵器	杯身	SX21 5・6区間ベルト 3層	①11.3②3.3 受部径13.2	回転ナデ成形後、底部内面ナデ。外面ヘラ切り後ナデ。	A:0.5~1mmの黒色粒を多量含む。 B:良好。C:外灰白N7/、内灰N6/。	大きい歪み あり。口縁部杯 蓋片釉着。底部 外面別個体片 釉着。
458	須恵器	杯身	SX21-6 黄色土	①10.6②3.6 受部径13.0	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。底部外面へラ切り後ナ デ。	A:1mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外灰白5Y7/1、内灰白 7.5Y7/1。	
459	須恵器	杯身	SX21 5・6区間ベルト 4層	①11.5②3.8 受部径13.4	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。底部外面は摩滅の為、不 明。	A: 微細な白色砂粒を微量含む。 B: 不良。C:外灰白2. 5Y8/2、内淡黄 2. 5Y8/3。	
460	須恵器	杯身	SX21-6 (143)	①10.8②3.75 受部径12.9	摩滅の為、調整不明。	A:2mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:不良。C:外灰黄2.5Y7/2、内灰白 2.5Y8/2。	底部外面へラ 記号。
461	須恵器	杯身	SX21 5・6区間ベルト 1層	①11.0②4.1 ③5.5受部径13.2	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面ヘラケズリ後ナデ、 一部回転ヘラケズリ。	A: 微細な白色砂粒を微量含む。B: やや 不良。C: 外灰白5Y8/1、内灰白 2. 5Y8/2。	底部外面へラ 記号。
462	須恵器	杯身	SX21-6	①8. 4②3. 0③6. 3 受部径10. 5	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面ヘラ切り後ナデ。	A:微細な白色砂粒を微量含む。 B:良好。C:外灰N6/、内灰N4/。	外面へラ記号。 大きい歪み あり。
463	須恵器	杯身	SX21-6 中層 赤褐色土	①(9.7)②3.6 受部径11.8	У.	A:1mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外褐灰10YR4/1、内褐灰 7.5YR5/1。	底部外面へラ 記号。 歪みあり。
464	須恵器	杯身	SX21-6 黄色土	①9.8②3.3 ③7.55 受部径 11.7	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。底部外面へラ切り後ナ デ。	A:微細な白色砂粒を微量、黒色粒を 多量含む。B:良好。C:外灰N6/〜灰 5Y6/1、内灰N5/。	底部外面へラ記号。
465	須恵器	杯身	SX21-5 (104)	受部径10.75~ 11.8	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面1/3回転ヘラケズリ。 中央は削らない。	A:1mmの微砂粒を少量含む。B:良好。 C:外暗オリーブ灰2.5GY3/1〜灰5Y6/1、 内暗灰N3/。	底部外面へラ 記号。外面 降灰。大きい 歪みあり。
466	須恵器	杯身	SX21-5 (88)	①9.3~10.0 ②3.0受部径11.4 ~11.5	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面へラ切り後 ナデ。	A:0.5mmの白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外暗灰N3/、内暗赤灰 5R3/1。	底部外面へラ 記号。全体的に 歪みあり。
467	須恵器	杯身	SX21-7 (113)	①7.4~9.8②3.7 受部径10.0~ 11.6	回転ナデ成形後、天井部内面 不定方向ナデ。外面ヘラ切り 後不定方向ナデ。	A:1mm以下の白色砂粒をやや多量、微細な茶色粒を少量含む。B:やや不良。C: 外灰白5Y7/1~暗灰N3/、内灰5Y5/1。	外面降灰。 歪みあり。
468	須恵器	杯身	SX21-6 (168)	①7.5~10.7 ②3.6受部径9.9 ~11.8	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面3/4回転ヘラ ケズリ。	A:1mm以下の砂粒、黒色粒を多量含む。 B:良好。C:外灰N4/〜灰N6/、内灰N6/〜 青灰5PB5/1。	底部外面へラ 記号。著しい 歪みあり。外面 に砂粒付着。
469	須恵器	杯身	SX21-1 <sup>(1)</sup> SX21-1	①9. 1~10. 5 ②3. 8~4. 2 受部径11. 5~ 12. 6	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面へラ切り後 ナデ。	A:1~2mmの石英をやや多量含む。 B:良好。C:外灰7.5Y6/1、内暗灰N3/。	底部外面へラ 記号。歪み あり。 体部外面降灰。
470	須恵器	杯身	SX21-7 (24)	①10.8②3.2 受部径12.4	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面ヘラ切り後ナデ。	A: 微細な白色砂粒を微量含む。 B: 良好。C: 外灰白5Y7/1〜灰白 7. 5Y7/1、内灰7. 5Y5/1〜灰N6/。	著しい歪み あり。口縁部杯 蓋片釉着。
471	須恵器	杯身	SX21-1 (21)	①10. 2②2. 8 受部径12. 5	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。底部外面へラ切 り後ナデ。	A:微細な石英、白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:内外共灰N5/〜灰N4/。	歪みあり。
472	須恵器	杯身	SX21-6 下層	①10. 25②4. 0 受部径12. 6	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面3/5回転ヘラケズリ。	A:1mm以下の白色砂粒、黒色粒を多量 含む。B:良好。C:外灰N6/〜灰5Y6/1、 内灰N6/。	口縁部杯蓋片釉着。
473	須恵器	杯身	SX21-6 上半部土坑 黄色土(上層)	①10.55②2.5 受部径12.5	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面3/4回転ヘラケズリ。	A:1mm以下の砂粒を少量含む。B:良好。 C:外灰N5/、内灰白N7/。	歪みあり。外面 降灰。底部外面 ヘラ記号。
474	須恵器	杯身	SX21-6 (170)	①8.5~10.5 ②3.6受部径11.0 ~12.6	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面ヘラ切り後ナデ、一 部回転ヘラケズリ。	A:2mm以下の砂粒を少量、黒色粒を多量 含む。B:良好。C:外灰N6/、内青灰 5PB5/1。	底部外面へラ 記号。体部外面 降灰。著しい 歪みあり。
475	須恵器	杯身	SX21-2 ⑥	①8.4~10.5 ②3.8受部径11.0 ~12.7	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面へラ切り後 ナデ。	A:1mmの白色砂粒、黒色粒を多量含む。 B:良好。C:内外共灰白N8/〜暗灰N3/。	底部外面へラ 記号。大きい 歪みあり。
476	須恵器	杯身	SX21 5・6区間ベルト 6層	①11. 3②3. 8 受部径12. 4	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ、外面3/5回転ヘラケズリ。	A:1mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外灰N4/、内灰白N7/〜灰 N6/。	底部外面へラ 記号。歪みあ り。窯砂付着。
477	須恵器	杯身	SX21-4 (64)	①9. 1~10. 55 ②3. 7 受部径12. 65	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面へラ切り後ナデ、一 部回転へラケズリ。	A:2mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外暗灰N3/~黒N2/、内暗灰 N3/。	内外面へラ記 号。歪みあり。 外面降灰。
478	須恵器	杯身	SX21-6 (49)	①10.8②4.1 受部径12.9	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面1/2回転ヘラケズリ。	A:1mm以下の白色砂粒、礫を多量含む。 B:良好。C:内外共灰N5/。	底部外面へラ 記号。著しい 歪みあり。

## 表19 梅頭遺跡第2次調査出土遺物観察表⑨

		表19	<b>世</b> 與退	2次調宜田工退物街	<b>混杂衣(9</b> )	
種類	器種	出土地点	法量(cm·g) ①口径②器高 ③底径④高台径 ⑤最大径()は復元	形態・技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
須恵器	杯身	SX21-6	①10.7②3.5 受部径12.8	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面2/3回転ヘラケズリ。	A: 微細な白色砂粒を少量、黒色粒を 多量含む。B: 良好。C: 外灰7. 5Y7/1〜灰 N5/、内灰N6/。	底部外面へラ 記号。大きい 歪みあり。
須恵器	杯身	SX21-5 (108)	①8.7~11.25 ②4.0受部径11.3 ~12.95	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。底部外面手持ちヘラケズ リ。	A:0.5mmの白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:内外共暗灰N3/~灰白 5Y7/1。	底部外面へラ記 号。内外面降 灰。歪みあり。
須恵器	杯身	SX21-5	①11.5②4.0 受部径11.2~ 13.0	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面ヘラ切り後ナデ。	A:2mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外暗青灰5PB3/1、内暗紫灰 5P4/1。	底部外面へラ 記号。 歪みあり。
須恵器	杯身	SX21-6 黒色土(下層) SX21-6 上半部土坑 黄色土(上層)	①9. 35②3. 9 ③7. 0	回転ナデ成形後、外面1/4回転 ヘラケズリ。中央は削らな い。	A:1mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:やや不良。C:外青灰5B6/1〜褐灰 10YR6/1、内灰褐5YR5/2。	底部外面へラ 記号。
須恵器	杯身	SX21-7 (82) SX21-7 (99)	①10. 15②3. 5 ③7. 9	定方向ナデ。外面へラ切り後 不定方向ナデ。外面中位2条沈	A:1mm以下の白色砂粒をやや多量含む。 B:やや不良。C:内外共灰7.5Y6/1〜暗灰 N3/。	底部外面へラ 記号。著しい 歪みあり。
須恵器	杯身	SX21-7 (19)	①(10.0)②3.4 ③8.1	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面3/5を回転ヘラケズ リ。	A: 微細な白色砂粒を少量含む。 B: 良好。C: 外黒褐10YR3/1〜褐灰 7. 5YR4/1、内褐灰7. 5YR5/1。	底部外面へラ 記号。
須恵器	杯身	SX21-4 ① SX21-4 ②	①11. 2②3. 3	回転ナデ成形後、底部内面ナデ。外面へラ切り後ナデ。	A:1mmの白色砂粒を少量含む。B:良好。 C:外灰N6/~暗灰N3/、内灰N6/。	底部外面へラ記 号。歪みあり。
須恵器	杯身	_	①(10.8)②3.1 ③8.3	回転ナデ成形後、底部内面ナデ。外面ヘラ切り後ナデ。	A:2mm以下の砂粒を極少量、黒色粒を 多量含む。B:良好。C:外灰N7/、内灰 N6/。	外面降灰。歪みあり。
須恵器	杯身	SX21-7 (37)	①(11. 2)②3. 1 ③(8. 2)	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面ヘラ切り後ナデ。体 部外面下位は沈線状になる。	A:混入物はほとんどない。B:良好。 C:外灰N5/〜灰N6/、内灰N5/。	底部外面へラ記 号。内外面降 灰。歪みあり。
須恵器	杯身	SX21-6 (100)上	①(10.8)②3.95 ③6.6	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面へラ切り後 ナデ、一部回転へラケズリ。	A:2mm以下の砂粒を少量含む。B:良好。 C:外灰白N7/~青灰5PB5/1、内灰N6/。	底部外面へラ 記号。
須恵器	杯身	SX21-1 (38) SX21-1 (35)	①10. 0②5. 7 ③3. 3	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面へラ切り後 ナデ、一部ヘラケズリ。	A:0.5~1mmの白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外灰N5/、内オリーブ灰 2.5GY5/1。	底部外面へラ 記号。 歪みあり。
須恵器	杯身	SX21-5 (107)	①9. 8②3. 8	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面1/2回転ヘラケズリ。	B:良好。C:外灰N4/~黄灰2.5Y5/1、内 灰N4/。	底部外面へラ 記号。 外面降灰。
須恵器	杯身	SX21-7 (157)	①(10.1)②4.7	回転ナデ成形後、天井部内面一定方向ナデ。	B:良好。C:外浅黄2.5Y7/2~灰白 2.5Y7/1、内にぶい黄橙10YR7/3。	
須恵器	杯身	SX21-4 (40)	3(6.85)	体部外面3~4条洗線(らせん 状)。摩滅の為、調整不明。	A.1mmの日色砂粒を多重音む。B.不良。 C:外灰黄2.5Y7/1、内灰白5Y7/1。	
須恵器	杯身	SX21-5 (31)	①8.6~11.4 ②3.8	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面ヘラ切り後ナデ。外 面中位2~3条沈線(らせん状)	A:1mm以下の白色砂粒を微量含む。 B:良好。C:内外共灰N4/。	底部外面へラ 記号。大きい 歪みあり。
須恵器	杯身	SX21-1 黄色土(中層)	①(10.4)②3.9 ③6.1	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。底部外面へラ切り後ナ デ。	A: 微細な白色砂粒を少量、黒色粒を 多量含む。B: 良好。C: 内外共灰N6/。	底部外面へラ 記号。内外面 降灰。底部外面 粘土釉着。
須恵器	高杯蓋	SX21-5 (28)	①(10.7)②4.1 つまみ径2.5	回転ナデ成形後、天井部内面 ナデ。外面1/2回転ヘラケズ リ。つまみ貼付。	A:2mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外暗赤灰7.5R3/1、内灰 N4/。	
須恵器	高杯蓋	SX21-6 (33)	①11. 1②3. 7	口縁付近は回転ナデ。他は摩滅。つまみ貼付。	A: 微細な白色砂粒を微量含む。B: 不 良。C: 内外共灰白5Y7/1〜灰白5Y7/2。	
須恵器	高杯蓋	SX21-7 ⑤	①11.9②4.4 つまみ径2.3	回転ナデ成形後、外面1/2を回 転ヘラケズリ。つまみ貼付。	A:1mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:やや不良。C:外にぶい褐7.5YR5/3、 内にぶい橙7.5YR6/4。	外面へラ記号。
須恵器	高杯蓋	SX21-7 (55)	①12.2②4.5 つまみ径2.8	摩滅の為、調整不明。つまみ 貼付。	A: 微細な白色砂粒を微量含む。 B: 不良。C: 内外共浅黄橙10YR8/4~にぶ い黄橙10YR7/4。	体部外面へラ 記号。
須恵器	高杯蓋	SX21-5 (97)	①(12.5)②4.3 つまみ径2.7	回転ナデ成形。外面3/5を回転 ヘラケズリ。つまみ貼付。天 井部内面摩滅。	B:不良。C:内外共浅黄橙10YR8/3~明褐7.5YR5/6。	
須恵器	有蓋 高杯	SX21-6	①(9.2)②7.6 受部径(11.6) 裾部径9.0	回転ナデ成形。杯底部内面ナデ。	A: 微細な白色砂粒を多量含む。B: やや不良。C: 外灰オリーブ5Y4/2、内明オリーブ灰5GY7/1。	
須恵器	有蓋 高杯	SX21 2・3区間ベルト下層(仮)	受部径12.15 裾部径(8.6)	回転ナデ成形。杯底部内面ナデ。	B:良好。C:外灰N4/~暗灰N3/、内灰 N4/。	杯部大きい歪み あり。
須恵器	有蓋 高杯	SX21-6 下層	①(11.9)②6.7 受部径(13.65) 裾部径9.2	回転ナデ成形。杯底部内面ナ デ。杯部外面3/5回転ヘラケズ リ。	A:1.5mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外青灰5B5/1~暗青灰 5B4/1、内青灰5B5/1。	
須恵器	有蓋 高杯	SX21-2 (I) SX21-2 (I) SX21-2 SX21-2 (26) SX21-2 (28)	①(11.6)②9.4 受部径(13.3) 裾部径10.4	回転ナデ成形。杯底部内面ナデ。	A:2mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外灰N5/、内灰N6/。	
須恵器	有蓋 高杯	SX21-3 ⑨	①11. 1②5. 6+α 受部径12. 75	回転ナデ成形。杯部外面一部 を回転ヘラケズリ。杯底部内 面ナデ。	A:2mm以下の白色砂粒を多量、3~7mmの 礫を少量含む。B:良好。C:外灰N5/、内 灰N6/。	
須恵器	高杯	SX21-6 SX21-6 上層 褐色土 SX21-6 中層 赤褐色土 SX21-6 下層	①9.2②(8.9) 裾部径(6.8)	回転ナデ成形。杯底部内面ナ デ。杯部外面中位に3条の沈 線。下部にカキメ。	A:1mm以下の白色砂粒を微量含む。 B:良好。C:外灰白N7/、内灰白 7.5Y8/1。	全面降灰。
	類	<ul><li>須恵器 杯 杯 身</li><li>須恵器 杯 杯 身</li><li>須恵器 杯 杯 身</li><li>須恵器 杯 杯 タ 身</li><li>須恵器 器 器 器 器 器 器 器 器 器 器 器 器 器 器 器 器 器 器</li></ul>	無類 器種 出土地点  須恵器 杯身 SX21-6  須恵器 杯身 SX21-5 (108)  須恵器 杯身 SX21-6 黒色土(下層)  須恵器 杯身 SX21-6 黒色土(下層)  須恵器 杯身 SX21-7 (82)  ヌルニー	無類 器種 出土地点 (元・宮) (口は2番高 (元・宮) (口は2番高 (元・安) (口は2番高 (元・安) (口は2番高 (元・安) (口は2番高 (元・安) (元・安) (口に2番高 (元・安) (元・安	種類   一部	報報   お社   お出   お出   お出   お出   お出   おま   おま   おま

# 表20 梅頭遺跡第2次調査出土遺物観察表⑩

			表20	何识退则牙	2次調宜田工退物街	t#4W	
遺物 番号	種類	器種	出土地点	法量(cm·g) ①口径②器高 ③底径④高台径 ⑤最大径()は復元	形態・技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
506	須恵器	高杯	SX21-6 ⑦	①(9.0)②9.5 裾部径7.7	回転ナデ成形後、杯底部内面 ナデ。杯部外面中位に1条沈 線。	A:1~1.5mmの白色砂粒を多量含む。B: 良好。C:外灰白N7/~灰N6/、内灰N6/。	脚部内面へラ 記号。
507	須恵器	高杯	SX21-5 (26) SX21-5	①9.85②10.45 裾部径(7.8)	回転ナデ成形。脚部内面にシ ボリ痕あり。杯部外面中位に2 条沈線。	A:2mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:内外共暗灰N3/。	脚部内面以外 降灰。 杯部歪みあり。
508	須恵器	高杯	SX21-6 (51)	①(10.8)②9.15 裾部径(6.6)	回転ナデ成形。杯底部内面ナデ。杯部外面中位に2条沈線。	A: 微細な白色砂粒を少量含む。 B: 良好。C: 内外共灰N6/。	
509	須恵器	高杯	SX21-6 下層	①(13.0)②11.3 裾部径8.8	回転ナデ成形。杯底部内面ナ デ。杯部外面3/5回転ヘラケズ リ後カキメ。	A: 微細な白色砂粒を多量含む。 B: 不良。C: 内外共灰黄2.5Y6/2〜黄灰 2.5Y6/1。	
510	須恵器	高杯	SX21-6 黒色土(下層)	①10.7②6.3 裾部径6.4	回転ナデ成形後、底部内面ナデ。	A:粗砂を微量含む。B:良好。 C:外灰N6/、内灰N5/。	内外面降灰。 歪みあり。
511	須恵器	高杯	SX21-6 (4)	①11.5②9.6 裾部径9.2	回転ナデ成形。杯部底部内面ナデ。	A:混入物はほとんどない。B:良好。 C:外灰赤10R5/2、内黒褐5YR2/1。外底 灰N4/。	脚部内面へラ 記号。外面全体 降灰。
512	須恵器	高杯	SX21-1 (30)-2 SX21-1	①8. 6②3. 4+ α	回転ナデ成形。杯部外面中位3 ~4条の沈線(らせん状)。	A: 微細な石英を微量含む。B: 良好。 C: 内外共灰N4/~灰N6/。	体部内外面 降灰。
513	須恵器	高杯	SX21-7 (62)	①10. 0②5. 6+ α	回転ナデ成形。	A:1mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外灰N5/、内灰N6/~灰N5/。	内面降灰。口縁 部歪みあり。
514	須恵器	高杯	SX21-5 (65)	①(9.1)②5.1+ a	回転ナデ成形後、杯底部内面 ナデ。外面カキメ。杯部外面 中位2条沈線。	A: 微細な白色砂粒を多量含む。 B: 良好。C: 外暗オリーブ灰2. 5GY4/1~ 灰白5Y7/1~黄灰2. 5FY6/1、内暗オリー ブ灰2. 5GY4/1~灰白7. 5Y7/1。	杯部内外面降灰。
515	須恵器	高杯	SX21-6 (37) SX21-6 (68) SX21-6 (38) SX21-6 上層 褐色土 SX21-6	①16. 2②5. 5+ α	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面中位4条沈線、下面に カキメ。	A:微細な白色砂粒を微量含む。 B:良好。C:内外共灰N6/。	内面降灰。
516	須恵器	高杯	SX21-6 (149)	②5. 1+ α 裾部径6. 2	回転ナデ成形後、脚部外面カ キメ、中位2条沈線。	A:1mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:内外共青灰5B6/1。	
517	須恵器	高杯	SX21-2 ⑨	②4.1+α 裾部径6.1	回転ナデ成形。杯底部内面ナデ。	A: 微細な白色砂粒を微量含む。 B: 良好。C: 内外共灰N5/~暗灰N3/。	外面降灰。
518	須恵器	高杯	SX21-2	②6. 1+ α 裾部径7. 3	回転ナデ成形。脚内外面シボ リ痕。脚外面2~3条沈線。	A:0.5~2mmの白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:内外共青灰5PB5/1。	外面降灰。
519	須恵器	高杯	SX21-2	②5. 25+ α 裾部径(6. 45)	回転ナデ成形。脚内外面シボリ痕。脚外面2~3条沈線(らせん状)。	A:0.5~1mmの白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外灰N5/、内オリーブ灰 2.5GY6/1。	脚部内面へラ 記号。
520	須恵器	高杯	SX21-7	②5. 0+α 裾部径7. 8	回転ナデ成形。	A:1mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:緑灰7.5GY5/1~オリーブ灰 2.5GY6/1。	
521	須恵器	高杯	SX21-5 15	②5. 45+α 裾部径7. 7	回転ナデ成形。脚部外面中位 に3条沈線。	A:2mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:不良。C:内外共褐灰5YR4/1。	脚部内面へラ 記号。
522	須恵器	高杯	SX21-6 上半部土坑 黄色土(上層)	②5. 9+ α 裾部径6. 8	回転ナデ成形。脚部外面シボリ痕。	A:混入物はほとんどない。B:良好。 C:外黄灰2.5Y5/1~灰N6/、内褐灰 7.5YR5/1~灰N5/。	
523	須恵器	高杯	SX21-6 黄色土	②6.7+α 裾部径7.4	回転ナデ成形。脚部外面中位2 条沈線(らせん状)。	A:1mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:やや不良。C:外黄灰2.5Y6/1〜灰黄 2.5Y7/2、内緑灰5G7/1。	
524	須恵器	高杯	SX21-6 上層 褐色土	②4. 2+ α 裾部径(11. 0)	回転ナデ成形(摩滅)。	A:1mmの白色砂粒を少量含む。B:良好。 C:外橙7.5YR7/6~にぶい橙7.5YR7/4、 内橙5YR7/6~にぶい橙7.5YR7/4。	
525	須恵器	椀	SX21-4 (26)	①10.5②4.5	1条沈線あり。	A: 微細な白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:内外共暗灰N3/。	底部外面へラ 記号。 外面降灰。
526	須恵器	椀	SX21-4 (47)	$(9.1)$ $(9.1+\alpha)$ $(9.5.4+\alpha)$	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ、外面屈曲部のみ手持ちへ ラケズリ。底部内面ナデ。外 面カキメ。中位に2条沈線。	A:0.5~1.5mmの白色砂粒、黒色粒を 多量含む。B:良好。C:内外共灰N6/~暗 灰N3/。	底部外面へラ 記号。 歪みあり。
527	須恵器	椀	SX21-5 (32)	①(9.2)②6.1	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面へラ切り後ナデ。外 面カキメ。	A:2mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:不良。C:内外共灰白5Y7/1〜灰オリーブ5Y5/2。	
528	須恵器	椀	SX21-4 (58) SX21-4 (62)	①(10.0)②5.8 ③(4.8)	回転ナデ成形。外面へラ切り後ナデ。	A:0.5~1mmの白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:内外共暗オリーブ灰 2.5GY4/1。	底部外面へラ 記号。
529	須恵器	椀	SX21-6 黄色土(中層) SX21 5・6区間ベルト 3層 SX21-6 上半部土坑 黄色土(上層)	①(10.4)②7.0	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。底部外面へラ切り後ナ デ。外面一部回転へラケズ リ。	A: 微細な白色砂粒を微量含む。 B: 良好。C: 外褐灰10YR5/1~黒褐 10YR3/1、内灰N5/。	歪みあり。
530	須恵器	椀	SX21 4・5区間ベルト3~8層 (6層除く)	①10. 65②8. 7	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面2/5手持ちヘラケズ リ。	A:2mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:內外共灰N4/。	
531	須恵器	椀	SX21-5 (122)	①(8.9)②7.3 ③6.5	回転ナデ成形。外面へラ切り 後ナデ。	A:1mmの白色砂粒を多量含む。B:良好。 C:内外共灰N4/~暗灰N3/。	底部外面へラ 記号。
532	須恵器	椀	SP18	①(10. 2) ②8. 2+ α ③(8. 8)	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面1/3を手持ちヘラケズ リ。外面中位に3条沈線。	A:1mmの白色砂粒を多量含む。B:良好。 C:外灰白7.5Y7/1~灰N5/、内灰白 5Y7/1。	著しい歪み あり。
533	須恵器	椀	SX21-5 (150)	①10. 7②6. 25	回転ナデ成形。外面1/3を回転 ヘラケズリ。	A:2mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:不良。C:外にぶい黄橙10YR7/4~橙 5YR7/8、内橙7.5YR7/6。	

# 表21 梅頭遺跡第2次調査出土遺物観察表②

			衣乙!	伸頭退跡牙	2次調宜田工退物街	<b>元宗</b> (4)	
遺物 番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高 ③底径④高台径 ⑤最大径()は復元	形態・技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
534	須恵器	椀	SX21-6 ⑩下	①(11.4)②5.9 ③(7.4)	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面へラ切り後ナデ、一 部回転ヘラケズリ。外面中位 に2条沈線。	A: 微細な白色砂粒を微量、黒色粒を 多量含む。B: 良好。C: 外灰N4/、内青灰 5B6/1。	底部外面へラ 記号。 外面降灰。
535	須恵器	椀	SX21-6 上半部土坑 黄色土(上層)	①(12.0)②5.2 ③(7.0)	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。底部外面降灰のため調整 不明。外面中位に2条沈線。	A:1mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外灰5Y6/1〜灰5Y5/1、内灰 N4/。	底部外面へラ 記号。 外面降灰。
536	須恵器	椀	SX21-5 (71) SX21-5 (74)	①(9.0)②7.55	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面へラ切り後ナデ。	A:1mmの白色砂粒を多量含む。B:良好。 C:内外共暗オリーブ灰2.5GY4/1。	内外面降灰。
537	須恵器	椀	SX21-2 SX21-3 ②	①(11.6)②9.4 ③12.0	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面2/5手持ちへ ラケズリ。	A:1~2mmの白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外灰N4/、内灰N5/。	底部外面へラ 記号。
538	須恵器	短頸 壺蓋	SX21 5・6区間ベルト 4層	①(7.8)②3.25	回転ナデ成形後、天井部内面 ナデ。天井部外面へラ切り後 ナデ、一部回転へラケズリ。	A:1mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外灰白5Y8/1~灰N6/、内灰白N7/。	外面降灰。
539	須恵器	短頸 壺蓋	SX21-4 ④	①(8.6)②3.25 ③7.4	回転ナデ成形後、天井部内面 ナデ。外面3/5回転ヘラケズ リ。	A:2mm以下の白色砂粒を多量含む。B:良好。C:外灰N6/~暗灰N3/、内灰N6/。	天井部内外面 ヘラ記号。
540	須恵器	短頸壺	SX21-7 (83)	①(7.5)②4.5 ⑤(8.4)	回転ナデ成形。底部外面一定 方向ナデ。底部内面調整不 明。	A: 微細な白色砂粒を少量含む。 B: 良好。C: 外灰N6/〜灰N4/、内灰オ リーブ5Y5/2〜灰N4/。	底部外面へラ 記号。体部外面 〜内面降灰。
541	須恵器	壺	SX21-7 (85) SX21-7 (128) SX21-6 (132) SX21-7	①(13. 3) ②10. 5+ α	回転ナデ成形。	A: 微細な白色砂粒をやや多量含む。 B: 良好。C: 内外共灰5Y6/1〜灰 7. 5Y4/1。	体部上位へラ 記号。No. 543と 同一個体か?
542	須恵器	鉢	SX21-1	①(17. 5) ②4. 8+ α	回転ナデ成形。体部外面上位 に2条沈線。	A:2mm以下の石英を少量、1mmの長石を 微量含む。B:良好。C:外灰白N8/、内灰 白5Y7/1。	
543	須恵器	鉢?	SX21-7 (78) SX21-7 (100) SX21-7 (101)	25. 7+ α 3(13. 4)	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。底部外面へラ切 り後ナデ。	A: 微細な白色砂粒を多量、茶色粒を やや多量含む。B: やや不良。C: 内外共 灰白5Y7/1~灰黄2.5Y7/2。	平底。
544	須恵器	鉢	SX21-4 SX21-6	①(35. 4) ②10. 8+ α ③(19. 0)	回転ナデ成形。外面口縁~体 部下位カキメ。内面下2/3ヘラ ケズリ。底部外面屈曲部回転 ヘラケズリ。	A:2mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外灰10Y4/1~黄灰2.5Y4/1、 内灰10Y4/1。	
545	須恵器	甕	SX21-6 <sup>(1)</sup>	①15. 3~16. 4 ②4. 7+ α	回転ナデ。	A:1mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外灰白N7/、内灰白N7/〜灰 N6/。	著しい歪み あり。頸部外面 文様あり。
546	須恵器	甕	SX21-6 (156) SX21-6	①19. 2②6. 3+ α	体部外面平行タタキ、内面同 心円文当て具。口縁回転ナ デ。	A:2mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:内外共灰N5/。	頸部内外面 降灰。
547	須恵器	甕	SX21-6 (39)	①(19. 0) ②6. 6+ α	体部外面格子タタキ、内面当 て具。口縁は回転ナデ。	A:2mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外灰白7.5Y7/1、内青灰 10BG6/1~灰白N6/。	
548	須恵器	甕	SX21-6 (148)	①(21. 5) ②8. 1+ α	体部外面平行タタキ後カキ メ、内面同心円文当て具痕。 口縁回転ナデ。	A:3mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外灰白10Y7/1~灰N5/、内灰白10Y7/1。	
549	須恵器	甕	SX21-6 (107)	$\textcircled{1}(21.4)$ $\textcircled{2}10.0+\alpha$	体部外面平行タタキ後カキ メ、内面同心円文当て具。口 縁回転ナデ。	A:1mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外灰白10Y7/1~灰N6/、内灰白10Y7/1。	頸部外面文様 あり。
550	須恵器	甕	SX21-6 (78)	①(22. 8) ②7. 7+ α	体部外面平行タタキ、内面同 心円文当て具。口縁回転ナ デ。	A: 微細な白色砂粒を少量含む。 B: 良好。C: 内外共灰7.5Y6/1~灰N6/。	
551	須恵器	漉	SX21-6 上層 褐色土	①(23. 0) ②7. 8+ α	体部外面平行タタキ後カキメ、内面同心円文当て具。口縁回転ナデ。	A:1.5mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外灰N6/、内青灰5B6/1。	頸部内外面 降灰。歪み あり。体部外面 付着物あり。
552	須恵器	甕	SX21-6 (26)	②23. 0+ α	体部外面平行タタキ後一部カ キメ、内面同心円文当て具。	A:0.5~3mmの白色砂粒をやや多量 含む。B:良好。C:外灰N6/~灰オリーブ N5/2、内灰10Y5/1~灰N4/。	底部外面焼台 付着。
553	須恵器	蓋	SX21-7 (69) SX21 6・7区間ベルト 7層	①(24.6) ②3.5+α 受部径(28.0)	回転ナデ成形。外面回転へラ ケズリ(範囲は不明)。	A:1mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外灰N6/、内灰N6/~灰白 N7/。	大型。
554	須恵器	注口	SX21-6	長3.4+α 注口径(1.8)	回転ナデ。	A: 微細な砂粒を微量含む。B:良好。 C:外灰白N7/、内灰白5Y7/1。	外面降灰。
555	須恵器	ミニ チュア 土器	SX21-4 16	①4. 7②5. 6	ヨコナデ成形。外面1/4手持ち ヘラケズリ。	A:1mmの白色砂粒を少量含む。B:良好。 C:内外共灰10Y5/1~暗灰N3/。	内外面降灰。
556		焼台	SX21-1 (33)	高10. 3長16. 1 幅11. 7	売体部破片が2枚、焼き台に付着する。焼き台下面には窯床の砂が付着する。	A:甕①3mm以下の白色砂粒を多量含む。 甕②2mm以下の白色砂粒を多量含む。焼 台8mm以下の白色砂粒を多量含む。窯床 5.5mm以下の白色砂粒を多量含む。 C:甕②内暗青灰5PB4/1~青灰5PB5/1。 甕②外暗青灰5B4/1~青馬5B2/1、内灰 白N7/。焼台暗青灰5B4/1~青灰5PB6/1 ~にぶい橙7.5YR7/3。窯床浅黄橙 10YR8/4~青灰5B5/1。	
557	須恵器	杯蓋	SX21-6 (65)	①(10.8)②4.0	回転ナデ成形後、底部内面ナ デ。外面へラ切り後ナデ。	A:微細な白色砂粒を少量、黒色粒を 多量含む。B:良好。C:内外共灰N6/〜灰 N5/。	杯蓋と杯身が 釉着。杯蓋は 逆転している。
558	瓦	平瓦	SX21-6	長8. 1+ α 幅6. 5+ α 厚2. 0	凹面摩滅。凸面平行タタキ。	A:1.5mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:やや不良。C:凹凸共明黄褐10YR7/6。	

## 表22 梅頭遺跡第2次調査出土遺物観察表②

			1822	何识思则牙	2次調宜田工退物街	1. <del>7. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1.</del>	
遺物 番号	種類	器種	出土地点	法量(cm·g) ①口径②器高 ③底径④高台径 ⑤最大径()は復元	形態・技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
559	土師器	甕	SX21-5 (27)	①(16. 4) ②15. 1+ α ⑤(20. 6)	体部外面擬格子タタキ、内面 当て具。口縁摩滅。	A: 微細な白色砂粒、雲母を少量含む。 B: 良好。C: 外明赤褐5YR5/6、内橙 5YR6/6。	体部内面煤付着。
560	土師器	魙	SX21 5・6区間ベルト 2層	②8. 7+ α	体部外面平行タタキ、内面へ ラケズリ後、細い平行当て 具。口縁ヨコナデ。	A:微細な白色砂粒を微量含むB:良好。 C:外浅黄橙10YR8/4、内にぶい黄橙 10YR9/4。	外面被熱。
561	土師器	甕	SX21-7 下層	②7. 3+ α	体部外面摩滅、内面平行当て 具。口縁ヨコナデ。	A:2mm以下の砂粒を多量含む。赤褐色 粒、粗砂を少量含む。B:良好。C:外橙 2.5YR6/6、内にぶい橙7.5YR7/4~灰黄 褐10YR4/2。	内面煤付着。
562	土師器	甕	SX21-6 (52)上	29. 5+ α	体部外面タテハケ、内面縦方 向ヘラケズリ。口縁外面ヨコ ハケ。	A:1mm以下の白色砂粒を多量、微細な 粗砂を少量含む。B:良好。C:外黄橙 10YR8/6、内にぶい黄橙10YR7/4。	
563	土師器	甕	SX21-6 (109)	②9. 95+ α	体部外面タテハケ、内面縦方 向ヘラケズリ。口縁ヨコナ デ。	A:3mm以下の砂粒を多量、石英、雲母を 少量含む。B:良好。C:外橙2.5YR6/8~ 浅黄橙10YR8/4、内橙2.5YR6/8~淡黄 2.5Y8/3。	体部外面黒斑 あり。
564	土師器	甕	SX21-6 黒色土 SX21-6 黄色土	①(14.5) ②14.9+α	体部外面タテハケ、内面縦方 向ヘラケズリ。口縁ヨコナ デ。	A: 微細な白色砂粒、微細な茶色粒を 少量含む。B: やや不良。C: 外橙 2. 5YR6/6~にぶい橙7. 5YR7/3、内にぶ い黄橙10YR6/4。	
565	土師器	甕	SX21-6 (141)	①(12.7) ②9.9+α	体部外面タテハケ、内面縦方 向ヘラケズリ。口縁ヨコナ デ。	A:3mm以下の砂粒を多量、赤褐色粒を 少量含む。B:良好。C:外浅黄橙10YR8/3 〜にぶい橙5YR7/4、内にぶい黄橙 10YR7/3。	
566	土師器	魙	SX21-6上半部土坑 黄色土(上層)	①(15. 4) ②4. 2+ α	体部外面平行タタキ、内面ハケ。口縁ヨコナデ。	A:1.5mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:不良。C:外明赤褐5YR5/6、内にぶい 褐7.5YR5/3。	
567	土師器	甕	SX21-6 ③	①(15. 2) ②6. 5+ α	体部外面タテハケ、内面へラ ケズリ。口縁ヨコナデ。	A: 微細な白色砂粒を多量含む。 B: 良好。C: 外橙2. 5YR7/6。 内浅黄橙 7. 5YR8/4~浅黄橙10YR8/4。	内面煤付着。
568	土師器	甕	SX21-7 (125)	①(15. 4) ②5. 9+ α	回転ナデ成形。	A: 微細な白色砂粒をやや多量、赤色粒を少量含む。B: やや不良。C: 外赤褐5YR4/6~にぶい黄橙10YR7/3、内橙7.5YR6/6~黒褐10YR3/2。	内面煤付着。
569	土師器	舞	SX21-7 ①	①(11. 0) ②4. 0+ α	摩滅の為、調整不明。	A: 赤褐色粒を少量、微細な白色砂粒、 粗砂を微量含む。B: やや不良。C: 外橙 5YR6/6、内橙7.5YR6/6。	口縁端部煤付着。
570	土師器	甕	SX21-6 上層 褐色土	①(12. 0) ②5. 7+ α	体部外面斜方向ハケ、内面斜 方向ヘラケズリ。口縁ヨコナ デ。	A: 微細な白色砂粒、雲母を少量含む。 B: 良好。C:外にぶい褐7.5YR6/3、内に ぶい橙7.5YR6/4。	
571	土師器	甕	SX21-3 12	①(19. 45) ②4. 8+ α	体部外面タテハケ、内面横方 向ヘラケズリ。口縁ヨコナ デ。	A:1mm以下の白色砂粒、雲母を微量 含む。B:良好。C:内外共にぶい黄橙 10YR7/4。	
572	土師器	魙	SX21-6 (161)	①(19. 8) ②9. 7+ α	体部外面タテハケ、内面縦方 向ヘラケズリ、屈曲部斜方向 ハケ。口縁ヨコナデ。	A:4mm以下の砂粒を多量、赤褐色粒を 少量含む。B:良好。C:外浅黄橙 10YR8/4、内にぶい黄橙10YR7/4。	外面黒斑あり。
573	土師器	甕	SX21-2 ①	①(20. 8) ②4. 8+ α	体部外面タテハケ、内面へラケズリ(摩滅)。口縁ヨコナデ。	A:2mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:内外共橙7.5YR6/6~浅黄橙 10YR8/4。	
574	土師器	甕	SX21-5 (138) SX21-5 (139) SX21-5 (141)	①(19. 8) ②8. 1+ α	体部外面タテハケ、内面へラケズリ。口縁ヨコナデ。	A:5mm以下の白色砂粒、2mm以下の赤褐色粒を多量含む。B:良好。C:外にぶい黄橙10YR7/4~にぶい黄褐10YR5/3、内にぶい黄橙10YR5/2。	
575	土師器	甕	SX21-7 (104) SX21-7 (105)	①(16. 4) ②11. 5+ α	体部外面タテハケ、内面へラ ケズリ、口縁ヨコナデ。	A:1mm以下の白色砂粒をやや多量、微細な赤褐色粒を少量含む。B:やや不良。 C:外橙7.5YR6/6~にぶい黄橙10YR7/2、 内橙7.5YR6/6。	
576	土師器	魙	SX21 5・6区間ベルト 3層	①(18.7) ②17.1+α	体部外面タテハケ、内面不定 方向ヘラケズリ。口縁ヨコナ デ。	A: 微細な白色砂粒をやや多量含む。 B: 良好。C: 内外共橙2. 5YR6/8。	
577	土師器	魙	SX21-6	①(30. 8) ②13. 5+ α	体部外面タテハケ、内面縦方 向ヘラケズリ後上位を横方向 ヘラケズリ。口縁ヨコナデ。	A:1mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:やや不良。C:内外共浅黄橙10YR8/4。	
578	上師器	甑	SX21-8 ① SX21-8 (30)	①(25. 8) ②23. 8+ α	体部外面タテハケ、内面縦方 向ヘラケズリ。口縁ヨコナ デ。把手は差込式で、指頭痕 を残すナデ成形。	A:3mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:やや良好。C:外明赤褐2.5YR5/8。一 部明黄褐10YR6/8~黒10YR2/1、内明赤 褐2.5YR5/8。	
579	土師器	甕	SX21-6 (130)	②4. 2+ α ③(10. 8)	内外面ナデか?(摩滅)。	A:2mm以下の砂粒、5mmの礫、粗砂を 少量含む。B:良好。C:外橙2.5YR6/6、 内5YR6/6。	外面煤付着。
580	土師器	甑	SX21-7 <sup>(1)</sup>	216. 9+ α (5)(16. 4)	体部外面タテハケ、内面縦方 向ヘラケズリ。差込式把手は 欠損。	A:1.5mm以下の白色砂粒、赤褐色粒を 多量含む。B:やや不良。C:外浅黄橙 7.5YR8/4、内浅黄橙10YR8/4。	
581	上師器	甑	SX21-1 20 SX21-1 12	①(22.8)②29.5 ③(12.7)	体部外面タテハケ、内面へラケズリ(摩滅)。口縁と底部は ヨコナデ。	A:2mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:内外共明赤褐5YR5/6。	外面黒斑あり。
582	上師器	甑	SX21-6 (145)	211. 5+ α	体部外面タテハケ、内面縦方 向ヘラケズリ。把手は指頭痕 を残すナデ成形。外面接合部 付近をヘラケズリ。	A:6mm以下の砂粒、礫を多量含む。 B:良好。C:外浅黄橙10YR8/3、内にぶい 橙7.5YR7/4。	把手。
583	土師器	甑	SX21-6 下層	294. 5+ α	指頭痕を残すナデ成形。	A:1mm以下の砂粒を多量含む。B:良好。 C:外にぶい黄橙10YR7/4、内にぶい赤褐 5YR5/4。	把手。

## 表23 梅頭遺跡第2次調査出土遺物観察表②

			1人20	<b>伸</b> 现	2次調査出土遺物額	<b>(余衣</b> @	
遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm·g) ①口径②器高 ③底径④高台径 ⑤最大径()は復元	形態・技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
584	土師器	甑	SX21-5 黄色土(上層)	②2. 05+ α	内外面ナデ。	A:2mm以下の白色砂粒、雲母を多量 含む。B:良好。C:内外共にぶい黄橙 10YR7/4~明赤褐5YR5/8。	
585	土師器	甕	SX21-7	①(11. 2) ②5. 5+ α	体部外面ヨコハケ、内面不定 方向ハケ。口縁ヨコナデ。	A:3mm以下の砂粒を少量含む。B:良好。 C:外橙5YR7/6~にぶい黄橙10YR7/4、内 浅黄橙10YR8/4~灰黄褐10YR5/2。	
586	土師器	椀	SX21-7	①(10.8)②4.2	摩滅の為、調整不明。	A:3mm以下の砂粒、赤褐色粒を少量含む。B:良好。C:内外共にぶい黄橙 10YR7/4~にぶい橙5YR7/4。	
587	土師器	甕	SX21-7 (94)	24. 6+ α (3(7. 6)	内面ナデ。外面摩滅。	A:0.5~4mmの白色砂粒を多量含む。 B:やや不良。C:内外共にぶい黄橙 10YR6/4。	底部外面木葉 痕?平底。
588	土製品	土玉	SX21-5	長1.3径1.2 孔径0.15重1.4	中心ややずれた所に穿孔。	A:微細な白色砂粒を微量含む。 B:良好。C:橙7.5YR6/8。	
589	土製品	不明	SX21-6 黄色土	縦2. 1横2. 8 高1. 8	ヘラ状工具よる成形。裏面ナ デ。	A:1mm以下の白色砂粒をやや多量含む。 B:良好。C:橙7.5YR6/6~浅黄橙 10YR8/4(マーブル状)。	
590	石製品	円盤状 石製品	SX21-2 赤褐色	長1. 5幅2. 0 厚0. 65重2. 4			
591	石製品	円盤状 石製品	SX21-4 最下層	長1. 8幅1. 5 厚0. 4重1. 8			碁石?
592	石製品	円盤状 石製品	SX21-6 黒色土(下層)	長さ1.9幅1.7 厚0.75重 3.8			基石?
593	石製品		SX21-5 (61)	長5. 0幅3. 8 厚2. 4重66. 4	敲打痕あり。		
594	石製品	砥石	SX21-7 下層	長15. 65+α 幅10. 0+α厚4. 7 重450	2面を使用。		砂岩。
595	石製品	砥石	SX21-6	長さ8.1幅3.4 厚1.0重29.0	2面を使用。		砂岩。
596	石製品	砥石	SX21-6	長6. 95+ α 幅3. 3+ α 厚1. 95重64. 6	4面を使用。		
597	鉄滓		SX21-6	長5. 4幅4. 0厚2. 2 重54. 3		A:1mmの砂粒を少量含む。C:明褐 7.5YR5/6~明赤褐5YR3/2。	
598	鉄滓		SX21-6	長3. 5幅3. 0厚1. 1 重12. 8		A:1mmの砂粒を多量含む。C:表灰 7.5Y5/1。裏明褐7.5YR5/6。	裏面は炉体に 接していたと 思われる圧痕が みられるため、 炉底に溜まって いた滓の可能性 が考えられる。
599	鉄滓		SX21-6	長3. 2幅2. 6厚1. 8 重12. 1		A:1~10mmの砂粒を多量含む。C:表暗灰 N3/。裏橙5YR6/8。	滓の大きさに対 して多量の砂粒 が確認で、炉壁 とから、炉で が考えられる。
600	須恵器	杯身	SX22	①(8.8)②2.3+α 受部径(10.8)	回転ナデ成形。	A: 微細な白色砂粒、長石をやや多量 含む。B: 良好。C: 内外共灰7.5Y5/1。	
601	須恵器	椀	SX22	①(13.5)②8.1 ③(10.2)	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面2/5を回転へ ラケズリ。	A:2mm以下の石英をやや多量含む。 B:良好。C:外灰白N8/~灰10Y5/1~暗オ リーブ5Y4/3、内灰N6/~淡黄5Y8/2。	内面~体部外面 降灰。
602	須恵器	杯身	SX23-2	①8.9②3.0③6.1 受部径11.4	回転ナデ成形。外面へラ切り 後ナデ。	A:2mm以下の石英を少量含む。B:良好。 C:内外共オリーブ灰2.5GY6/1~灰N4/。	
603	須恵器	杯蓋	SX25-2 SX25-1	①8. 9②3. 0 受部径10. 9	回転ナデ成形後、天井部内面 一定方向ナデ。外面3/5を回転 ヘラケズリ。つまみ貼付。	A: 微細な石英をやや多量含む。 B: 良好。C: 外暗赤褐10R3/2~暗赤灰 10R3/1、内灰N6/~灰白2. 5GY8/1~黒褐 2. 5Y3/1。	外面降灰。口縁 部杯蓋片釉着。
604	須恵器	杯身	SX25 ① SX25 ⑦	①(8.1)②3.3 受部径(10.5)	回転ナデ成形後、不定方向ナ デ。外面ヘラ切り後ナデ。	A:2mm以下の石英をやや多量含む。 B:良好。C:外灰N5/〜灰N7/〜暗灰N3/、 内灰N5/。	底部外面へラ記 号。受部降灰。 歪みあり。
605	須恵器	杯身	SX25 ③	21. 9+ α (1. 9. 7)	回転ナデ成形。底部外面へラ ケズリ。高台貼付。	A:微細な石英をやや多量含む。B:やや 不良。C:外灰10Y4/1〜灰10Y6/1〜灰 10Y7/1〜灰白10Y8/1、内灰10Y5/1。	底部外面へラ 記号。
606	瓦	平瓦	SX25 (21) SX25 (24)	長12. 3+ α 幅13. 0+ α 厚1. 8~2. 1	凹面は同心円文当て具後縦方 向ナデ。凸面は摩滅。	A: 微細な白色砂粒をやや多量含む。 B: やや不良。C: 凹橙5YR6/8、凸橙 2. 5YR6/8。	
607	瓦	平瓦	SX25 (24) SX25-1		凹面は同心円文当て具。凸面 は平行タタキ(摩滅)。	A:4mm以下の白色砂粒をやや多量含む。 B:やや不良。C:凹橙5YR6/8、凸にぶい 橙5YR6/4。	
608	瓦	平瓦	SX25 (21) SX25-1	長10. 0+ α 幅8. 5+ α 厚1. 4~1. 8	凹面はヨコナデ。凸面は摩 滅。	A:0.5~2mm白色砂粒を少量含む。 B:やや不良。C:凹橙5YR6/8、凸橙 5YR7/8。	
609	鉄滓		SX25 16	長8. 2幅7. 8厚4. 3 重239. 9	一部磁力に反応。	A:1mmの砂粒を少量含む。C:暗緑灰 5G3/1~橙7.5YR6/8~暗赤10R3/6。	炉底滓?
610	須恵器	杯蓋	SX27-1 ⑫	①11. 9②3. 3	回転ナデ成形後、天井部内面 不定方向ナデ。天井部外面へ ラ切り後ナデ。	A: 微細な雲母、長石、3mm以下の石英を 微量に含む。B: 不良。C: 外浅黄橙 10YR8/4〜明褐7. 5YR5/8〜黒褐 2. 5Y3/1、内明黄橙10YR7/6。	天井部外面へラ 記号。天井部 外面黒斑あり。
	須恵器	杯蓋	SX27-1 ④	①(11.4)②4.1	回転ナデ成形後、天井部内面 不定方向ナデ。天井部外面へ	A:4mm以下の石英を多量含む。B:良好。 C:内外共灰白N7/。	

#### 表24 梅頭遺跡第2次調査出土遺物観察表倒

			表24	<b>一种</b> 明	52次調査出土遺物観	<b>見祭表</b> (24)	
遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm·g) ①口径②器高 ③底径④高台径 ⑤最大径()は復元	形態・技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
612	須恵器	杯身	SX27-2	①(8.8)②2.6 受部径(10.7)	回転ナデ成形後、底部内面一 定方向ナデ。外面ヘラ切り。	A:2mm以下の石英を微量含む。B:良好。 C:外灰白5Y7/1~暗灰N3/、内灰N4/。	外面降灰。
613	須恵器	杯身	SX27-1 ①	①(10.2)②2.6 受部径(11.6)	摩滅の為、調整不明。	A:5mm以下の石英を少量含む。B:不良。 C:内外共明黄褐10YR6/6。	
614	須恵器	杯身	SX27 1・2区間ベルト 下層 赤褐 色土	①9.9②3.4 受部径11.8	底部外面へラ切りか?摩滅の 為、調整不明。	A: 微細な砂粒を微量含む。B:不良。 C: 内外共黄橙10YR8/8。	
615	須恵器	杯身	SX27-1 ®	①9. 4②2. 8 受部径11. 6	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面へラ切り後 ナデ、一部回転へラケズリ。	A: 微細な長石を微量、4mm以下の石英を 多量に含む。B: 良好。C: 内外共灰N5/~ 黒N2/。	底部外面へラ 記号。内面〜受 部降灰。著しい 歪みあり。
616	須恵器	杯身	SX27-1 ①	<b>1</b> 10. 15 <b>2</b> 3. 5	回転ナデ成形。外面へラ切り 後ナデ。	A: 微細な長石、3mm以下の石英を微量 含む。B: 良好。C: 内外共灰N6/。	歪みあり。
617	須恵器	平瓶	SX27-3	①(10.9) ②5.3+α	体部内面回転ナデ。口縁回転 ナデ成形。頸部接合部分に指 頭痕あり。	A:2mm以下の白色砂粒、石英を微量含む。B:良好。C:内外共灰10Y5/1~灰N4/。	
618	須恵器	平瓶	SX27-1 ⑥ SX27-3 ② SX27-3	②11. 0+ α ③(16. 25)	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。体部外面カキ メ。体部下位回転ヘラケズ リ。底部外面不定方向ナデ。	A:1mm以下の白色砂粒をやや多量、微細な黒色粒を少量含む。B:良好。C:内外共灰N4/。	底部外面へラ 記号。
619	土師器	甑	SX27-3 ①	①(25. 6) ②16. 2+ α	体部外面タテハケ、内面中位 以下を縦方向ヘラケズリ、上 位ヨコハケ。口縁は摩滅。把 手は指頭痕を残すナデ成形。	A:5mm以下の石英を多量、粗砂、黒色粒を少量含む。B:良好。C:内外共橙 5YR6/8。	差し込み式 把手。
620	土師器	甑	SX27-2 ② SX27-2	②7. 8+ α	指頭痕を残すナデ成形。一部 にハケあり。把手は差込式。	A:5mm以下の石英をやや多量、赤褐色粒を少量含む。B:やや不良。C:橙7.5YR6/6~明黄褐10YR7/6。	把手。
621	土師器	甑	SX27-1 ⑦	②8. 2+ α ③(17. 6)	体部外面タテハケ、内面縦方 向ヘラケズリ。	A:3mm以下の白色砂粒、1mm以下の石英をやや多量含む。B:不良。C:外明黄褐10YR7/6~黒N2/、内明黄褐10YR6/6。	外面黒斑あり。
622	瓦	平瓦	SX27-1 15	長23. 7+ α 幅10. 2+ α 厚1. 9	凹面は弓切り痕・同心円文当 て具。凸面は平行タタキ。	A:1mm以下の白色砂粒をやや多量含む。 B:良好。C:凹灰黄2.5Y7/2~にぶい赤褐 5YR5/4。凸にぶい黄橙10YR6/4~褐 7.5YR4/4。	
623	瓦	平瓦	SX27-1 16 SX27-2 6	長14.5+α 幅17.95+α 厚1.5~1.7	凹面は弓切り痕・布目痕・模 骨痕・同心円文当て具。凸面 は平行タタキ。	A:2mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:凹にぶい赤褐5YR4/3。凸褐 7.5YR4/3。	
624	瓦	平瓦	SX27-1 17	長10. 9+ α 幅8. 6+ α 厚1. 5~2. 0	凹面は弓切り痕・布目痕・模 骨痕・同心円文当て具。凸面 は平行タタキ。	A:2mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:凹にぶい赤褐5YR4/3。凸に ぶい褐7.5YR5/3~にぶい黄橙10YR7/4。	
625	滑石 製品	円盤状 石製品		長4. 0幅3. 9 厚1. 2重37. 8	全面に擦痕あり。		
626	鉄滓		SX27 1・2区間ベルト 下層 赤褐 色土	長7. 15幅6. 9 厚5. 5重373. 3		A:底面部分に2mm以下の砂粒が多量みられる。C:黄橙7.5YR7/8。底面灰オリープ7.5Y5/2	炉底滓?
627	鉄製品	鉄鎌	SX27-2	長11. 4+α幅2. 1 厚0. 2重18. 2			
628	須恵器	杯蓋	SX28 ®	①(11.1)②3.3	ヘラケズリ。	A:3mm以下の石英をやや多量含む。 B:良好。C:外暗灰N3/~灰N6/、内灰 7.5Y4/1。	天井部外面へラ 記号。外面降 灰。体部外面 別個体片釉着。
629	須恵器	杯蓋	SX28 16	①(12.5)②3.3	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。天井部外面へラ 切り後ナデ。	A:1mmの石英を微量含む。B:やや不良。 C:外褐灰5YR4/1~オリーブ黒5Y3/1、 内褐灰5YR4/1。	天井部外面へラ 記号。 外面降灰。
630	須恵器	杯蓋	SX28-2 SX28-3	①(10.2)②2.6 受部径(12.7)	転ヘラケズリ。	A:1mm以下の石英をやや多量含む。B:良好。C:内外共オリーブ灰2.5GY6/1。	
631	須恵器	杯身	SX28 18	①9. 8②3. 4 受部径12. 0	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面へラ切り後 ナデ。	A:2mm以下の石英をやや多量含む。 B:良好。C:内外共暗青灰5B4/1。	
632	須恵器	杯身	SX28 ①	①(9.6)②4.0	回転ナデ成形後、底部内面一 定方向ナデ。外面へラ切り。 板状圧痕か?	A:1~3mmの石英を微量含む。B:良好。 C:外灰N6/~暗灰N3/、内灰N6/。	底部外面へラ 記号。 外面降灰。
633	須恵器	椀	SX28 ②	①(16. 2) ②7. 7+ α	回転ナデ成形。底部外面を手持ちヘラケズリ。外面体部カキメ、3条沈線。	A:1~3mmの石英を多量含む。B:良好。 C:外灰白5Y7/1~灰5Y6/1、内灰N4/。	外面降灰。
634	土師器	甑	SX28-2	25. 8+ α 3(11. 8)	体部外面タテハケ、内面縦方 向ヘラケズリ。底部ヨコナ デ。	A:1~4mmの石英を多量、微細な赤褐色 粒を微量含む。B:良好。C:内外共にぶ い黄橙10YR7/4。	
635	土師器	甑	SX28-2	①(27. 0) ②4. 4+ α	体部外面タテハケ、縦方向へ ラケズリ(摩滅)。口縁内外面 に指頭痕あり。	A:1~4mmの石英を多量、微細な赤褐色 粒を微量含む。B:良好。C:内外共にぶ い黄橙10YR7/4。黒斑黒5Y2/1。	外面黒斑あり。
636	須恵器	杯身	SX29-2	①(12.4) ②3.7+α 受部径(14.2)	回転ナデ成形。外面1/2を回転 ヘラケズリ。	A:2mm以下の石英をやや多量含む。 B:良好。C:外灰N6/、内灰7.5Y6/1。	
637	須恵器	椀	SX29-3	②5. 5+ α ③(4. 2)	体部外面擬格子タタキ、内面 同心円文当て具。口縁は回転 ナデ。外面体部中位に2条沈 線。	A:3mm以下の石英をやや多量含む。 B:不良。C:内外共明黄褐10YR7/6~黄 2.5Y8/6。	
638	須恵器	甕	SX29-3	①(20. 0) ②7. 0+ α	口縁回転ナデ成形。頸部外面に沈線。	A: 微細な石英を微量含む。B: 良好。 C: 外灰白5Y7/1~灰7.5Y4/1、内灰N5/~ 暗灰N3/。	頸部内外面 降灰。
639	須恵器	甕	SX29-2	①(30. 9) ②7. 0+ α	体部外面回転ナデ、中位に2条 沈線。他は摩滅の為、不明。	A:2mm以下の石英をやや多量含む。 B:良好。C:外暗灰N3/、内灰白N7/〜暗灰N3/。	内面降灰。

# 表25 梅頭遺跡第2次調査出土遺物観察表您

	<ul><li>植 出土地点</li><li>蓋 SX31 埋土中</li><li>身 SX31 埋土中</li></ul>	法量(cm·g) ①口径②器高 ③底径④高台径 ⑤最大径()は復元	形態・技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
恵器 杯		①(11.8)②3.9			
	身 SX31 埋土中	I	回転ナデ成形。天井部外面へ ラ切り後ナデ。	A:1mmの石英、黒色粒を微量含む。 B:良好。C:外灰7.5Y6/1~暗灰N3/、内 灰7.5Y6/1。	天井部外面へラ 記号。 外面降灰。
恵器 高橋		①(11.3)②3.3 受部径(13.3)	回転ナデ成形。外面へラ切り 後ナデ。	A:2mm以下の石英を微量含む。B:不良。 C:内外共浅黄橙10YR8/4~灰5Y6/1。	底部外面へラ記号。
	SX31 埋土中 SX30 1層	①(13.0)②10.95 裾部径(10.0)	回転ナデ成形。	A:2mm以下の石英を少量含む。B:良好。 C:内外共灰白7.5Y7/1~灰N4/。	脚部内面へラ 記号。杯部内面 〜脚部外面 降灰。
恵器杯	身 SX33	①(11.1)②3.7 受部径(13.2)	回転ナデ成形後、底部内面一 定方向ナデ。外面を1/2回転へ ラケズリ。	A:1mmの白色砂粒、石英、をやや多量 含む。B:不良。C:外橙7.5Y7/6〜浅黄橙 10YR8/4、内橙7.5YR6/6。	底部外面へラ 記号。
恵器杯	身 SX33	①10.0②3.3 受部径12.0	定方向ナデ。外面5/6を回転へ ラケズリ。	を微量含む。B:良好。C:内外共灰白 5Y7/1~灰5Y6/1。	底部外面へラ 記号。 外面降灰。
恵器 高標	K SX33 ①	②4. 3+ α 裾部径10. 4	痕あり。	C:外灰7.5Y4/1、内灰7.5Y6/1。	
恵器 核	SX33 ⑤	①(8.3)②4.9	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面へラ切り後 ナデ。	A:微細な白色砂粒、黒色粒を微量、4mm 以下の石英を少量含む。B:良好。C:内 外面灰白7.5Y7/1~灰N4/。	
恵器 独	E SX33	②12. 3+ α	口縁回転ナデ成形。頸部外面 上半にカキメ、連続斜線文、 沈線。	A:1〜2mmの石英をやや多量含む。 B:良好。C:外灰7.5Y6/1〜暗灰N3/、内 灰N4/。	
師器 簡	š SX33	①(21. 8) ②5. 4+ α	摩滅の為、調整不明。	A: 微細な白色砂粒、赤褐色粒、3mm以下 の石英をやや多量含む。B:良好。 C:外明黄褐10YR7/6、内にぶい黄橙 10YR7/4。	
恵器 杯	身 SX34	①(9.8)②2.7+α 受部径(11.5)	回転ナデ成形。	A:1mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外暗青灰10BG4/1、内青灰 5PB5/1。	
師器 桝	š SX34	21. 7+ α 4(8. 2)	内面は回転ナデ。外面は摩滅 の為、調整不明。	A:3mm以下の白色砂粒をやや多量含む。 B:不良。C:内外共橙5YR6/8。	
恵器 杯	身 SX37	①(9.9)②3.3+α 受部径(12.1)	回転ナデ成形。	A: 微細な長石、石英を微量含む。 B: 良好。C: 外灰7. 5Y4/1/~黒7. 5Y2/1、 内灰N6/~灰N5/。	外面降灰。口縁 部杯蓋片釉着。
恵器 杯	盖 SX38	①(13. 0) ②4. 3+ α	回転ナデ成形後、天井部外面 不定方向ナデ。外面1/2を回転 ヘラケズリ。	A: 微細な長石を微量、3mm以下の石英を やや多量含む。B:良好。C:外灰白N7/~ 灰オリーブ5Y4/2、内灰白N7/。	外面降灰。
恵器杯	身 SX38	①(12.1)②3.4 受部径(14.2)	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面2/3を回転へ ラケズリ。	A: 微細な長石を微量、4mm以下の石英を やや多量含む。B: 良好。C: 外灰N6/~オ リーブ灰2. 5GY5/1~明オリーブ灰 2. 5GY7/1、内灰N6/。	底部外面へラ 記号。 外面降灰。
製品石質	鏃 SB02 下方検出時	長3. 45+α幅1. 95 厚0. 5重2. 4			安山岩。
恵器 杯詞	盖 SD01 砂層	①(10.8)②3.25 天井径5.0	回転ナデ成形。天井部外面へ ラ切り後ナデ。	A:粗砂を微量含む。B:良好。C:外灰N4/ 灰白10Y7/1、内灰N6/~灰10Y6/1。	天井部外面へラ 記号。
骨石 八月	明 SD01 砂層	長1. 5+ α 幅2. 2+ α 厚0. 6重2. 9	円形の穿孔か?		
恵器 蓋	§ SD02-1	①(15. 0) ②3. 35+ α	内面は摩滅。外面は2/3を回転 ヘラケズリ。口縁は回転ナ デ。	A:1.5mm以下の白色砂粒をやや多量 含む。B:良好。C:外灰N4/、内灰 10Y6/1。	天井部外面へラ 記号。大きい 歪みあり。
製品 砥	石 SD02-4	長4. 9幅2. 4+ α 厚0. 7重12. 8	6面を使用。		砂岩。
恵器 杯語	蓋 2·3区間 谷部 褐色土	①9.3②3.7 受部径11.0 つまみ径1.5	回転ナデ成形。外面3/5を回転 ヘラケズリ。つまみ貼付。	A:0.5mmの白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外灰白5Y7/1〜暗灰N3/、内暗灰5PB5/1。	天井部外面へラ 記号。外面 降灰。大きい 歪みあり。
恵器 杯詞	蓋 2・3区間 谷部 褐色土	①8.5②3.4 受部径10.8 つまみ径2.2	回転ナデ成形後、天井部内を 不定方向ナデ。外面2/3を回転 ヘラケズリ。つまみ貼付。	A:1mmの白色砂粒を少量含む。B:良好。 C:外灰白10Y7/1、内暗青灰5B4/1。	外面降灰。
恵器 杯	身 2・3区間 谷部 褐色土	①9. 9②3. 3 受部径12. 0	回転ナデ成形。底部内外面は 摩滅。	A:0.5~1.5mmの白色砂粒を少量含む。 B:不良。C:内外共淡黄2.5Y8/3。	
恵器杯	身 2・3区間 谷部 褐色土	①10.0②3.5 受部径12.1	回転ナデ成形後、底部内面を 不定方向ナデ。外面3/5を回転 ヘラケズリ。	A:0.5~2.5mmの白色砂粒をやや多量 含む。B:良好。C:外灰N6/~にぶい褐 7.5YR6/3、内灰褐7.5YR5/2。	底部外面へラ記号。
恵器杯	身 2・3区間 谷部 褐色土	①10. 1②3. 5 受部径12. 5	回転ナデ成形後、底部内面を 不定方向ナデ。底部外面はナ デ。	A:1.5mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:内外共灰白7.5Y7/1。	底部外面へラ 記号。
恵器杯	身 2・3区間 谷部 褐色土	①11. 3②3. 8 受部径13. 4	回転ナデ成形。外面3/5を回転 ヘラケズリ。底部内面は摩 滅。	A:0.5mmの白色砂粒をやや多量含む。 B:不良。C:内外共灰白2.5Y8/2。	摩滅著しい。
恵器杯	身 2・3区間 谷部 褐色土	①10.6②4.1 受部径12.9	回転ナデ成形後、底部内面を 不定方向ナデ。外面1/2を回転 ヘラケズリ。	A:0.5~2mmの白色砂粒をやや多量 含む。B:良好。C:外青灰5B6/1、内明オ リーブ灰2.5GY7/1。	底面外部へラ記号。
恵器杯	身 2・3区間 谷部 褐色土	①10.6②3.7 受部径12.5	回転ナデ成形後、底部内面を 不定方向ナデ。外面2/5を回転 ヘラケズリ。	A:0.5~2mmの白色砂粒を微量含む。 B:良好。C:外灰白N7/~灰白5Y7/1、内明青灰5PB7/1。	底部外面へラ 記号。 外面降灰。
恵  恵  雨  恵  恵  恵  恵  恵  恵  恵  恵  恵  恵  恵  恵  恵	# # # # # # # # # # # # # # # # # # #	12	(語 杯身 SX33 ① ①10.0②3.3 ② 前径12.0 ② 24.3 + α 經部径10.4 ② 15.8 施 SX33 ① ②12.3 + α 经部径10.4 ③ 26.5 4 + α ②12.3 + α ③ 25.5 4 + α ②1.7 + α ④(8.2) ③ 25.4 + α ②1.7 + α ④(8.2) ④(9.9)②3.3 + α ②16.5 4 + α ②1.7 + α ④(8.2) ④(9.9)②3.3 + α ②16.5 4 + α ②1.7 + α ④(8.2) ④(9.9)②3.3 + α ②16.5 4 + α ④(12.1) ④(13.0) ② 4.3 + α ④(12.1)②3.4 ② 16.5 4 + α ⑥ SX38 ② (12.1)②3.4 ② 16.5 4 + α ⑥ SX38 ③ (12.1)②3.2 5 下井径5.0 ⑥ SE2.3 4 ⑥ SE2.3 4 ⑥ SE2.3 4 ⑥ SE2.3 4 ② SE2.3 6 ⑥ SE2.3 4 ② SE2.3 6 ⑥ SE2.3 4 ③ SE2.3 6 ⑥ SE2.3 4 ⑥ SE2.3 6 ⑥ SE2.3 4 ⑥ SE2.3 6 ⑥ SE2.3 4 ⑥ SE2.3 6 ⑥ S	27	

## 表26 梅頭遺跡第2次調査出土遺物観察表®

				表26	<b>一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一</b>	32次調査出土遺物額	<b>常表也</b>	
遺物番号	種類	器種	出土地点		法量(cm·g) ①口径②器高 ③底径④高台径 ⑤最大径()は復元	形態・技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
667	須恵器	杯身	2・3区間 谷部 褐色土	:	①10. 6②3. 7 受部径12. 5	回転ナデ成形後、底部内面を 不定方向ナデ。外面はヘラ切 り後ナデ。	A:2mmの砂粒を少量含む。B:良好。 C:外灰N4/〜灰白2.5Y7/1、内灰N4/。	外面へラ記号。 外面降灰。口縁 部細かい欠損 あり。杯蓋片 口縁釉着。
668	須恵器	杯身	2・3区間 谷部 褐色土	:	①10.7②3.6 受部径12.8	回転ナデ成形後、底部内面を 一定方向ナデ。外面1/2を回転 ヘラケズリ。	A:粗砂を微量含む。B:良好。C:外黒褐 10YR3/1、内灰褐7.5YR5/2。	底面外部へラ 記号。
669	須恵器	杯身	2・3区間 谷部 褐色土	-	①(11.7) ②4.4+α 受部径(13.4)	回転ナデ成形。外面1/2を回転 ヘラケズリ。	A:0.5mmの白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:かえり以外の外面褐灰 5YR5/1、内面・口縁外面灰赤10R5/2。	底面外部へラ 記号。
670	須恵器	杯身	2・3区間 谷部 褐色土	-	①(9.4)②4.4	回転ナデ成形。外面3/5回転へ ラケズリ、体部外面中位2条沈 線。	A:粗砂を少量、2mmの砂粒を微量含む。 B:良好。C:內外共暗青灰5PB4/1。断面 赤褐10YR5/3。	
671	須恵器	杯身	2・3区間 谷部 褐色土	-	21. 6+ α (4. 6)	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面へラ切り後 ナデ。高台貼付。	A:粗砂を微量含む。B:良好。C:外灰白 N7/~灰N5/、内灰白N7/。	
672	須恵器	杯身	2・3区間 谷部 褐色土	-	21. 7+α 4(7.8)	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面へラ切り後 ナデ、板状圧痕あり。高台貼 付。	A:粗砂を微量含む。B:良好。C:内外共 灰白N7/。	
673	須恵器	高杯蓋	2・3区間 谷部 褐色土	:	①(12.7)②4.3 つまみ径2.8	回転ナデ成形後、天井部内面 不定方向ナデ。外面1/4を回転 ヘラケズリ。つまみ貼付。	A:粗砂を微量含む。B:良好。C:内外共 にぶい橙2.5YR6/4。断面の一部青灰 5B6/1。	つまみ部分板状 圧痕?あり。
674	須恵器	高杯	2・3区間 谷部 褐色土	:	②7. 4+ α 裾部径(8. 4)	回転ナデ成形。杯底部内面を 不定方向ナデ。脚内外面にシ ボリ痕あり。	A:0.5mmの白色砂粒をやや多量含む。 B:良好。C:内外共灰7.5Y6/1。	
675	須恵器	瓱	2・3区間 谷部 褐色土	:	②9. 3+α⑤8. 1 孔径1. 4	回転ナデ成形。体部外面1/2を 手持ちヘラケズリ。上位に沈 線、連続斜線文。頸部内外面 にシボリ痕あり。頸部外面中 位に2条沈線。	A:粗砂を微量含む。B:良好。 C:青灰5B5/1。	内外全面降灰。 穿孔時の粘土が 内側に残る。
676	須恵器	短頸 壺蓋	2・3区間 谷部 褐色土	:	①8. 3②3. 4	回転ナデ成形。天井部外面へ ラ切り後ナデ。	A:0.5~2mmの白色砂粒をやや多量 含む。B:良好。C:外にぶい黄2.5Y6/3~ 黄灰2.5Y5/1、内にぶい赤褐5YR5/4~に ぶい黄2.5Y6/3~黄灰2.5Y5/1。	
677	須恵器	平瓶	2・3区間 谷部 褐色土 2・3区間谷包含層	:	①(5.8)②9.5+α	回転ナデ成形。体部外面上半 カキメ。円盤閉塞後、回転ナ デ成形の口縁を接合。	A:1mmの白色砂粒を少量含む。B:やや 不良。C:内外共灰白5Y7/1〜灰N6/。	
678	須恵器	壺	2・3区間 谷部 褐色土	-	210. 4+ α ⑤16. 7	回転ナデ成形。外面上半にカ キメと2条沈線、底部付近工具 によるナデ。内面上位シボリ 痕あり。	A:1mmの白色砂粒を微量含む。B:良好。 C:内外共灰白N7/。	
679	須恵器	壺	2・3区間 谷部 褐色土	=	2)12. 3+ α (5)18. 0	回転ナデ成形後、体部外面全面にカキメ。体部上半に3条沈線。高台貼付。内面上位にシボリ痕あり。	A:0.5~1.5mmの白色砂粒をやや多量 含む。B:良好。C:外暗灰N3/、内青灰 5PB6/1。	体部外面、 底部内面降灰。
680	須恵器	甕	2・3区間 谷部 褐色土	:	①17. 5②6. 6+ α	体部外面は平行タタキ後カキ メ、内面は同心円文当て具。 口縁は回転ナデ。	A:0.5~2mmの白色砂粒をやや多量 含む。B:良好。C:内外共灰N6/。	
681	須恵器	甕	2・3区間 谷部 褐色土	:	①(22. 4) ②8. 9+ α	体部外面は平行タタキ後カキ メ、内面は同心円文当て具。 口縁は回転ナデ。	A:粗砂を微量含む。B:良好。C:外灰白 2.5Y7/1〜灰N5/、内灰白2.5Y7/1。	頸部外面へラ 記号。
682	須恵器	甕	2・3区間 谷部 褐色土	:	①(21. 0) ②13. 1+ α	体部外面は擬格子タタキ、内 面は同心円文当て具。口縁は 回転ナデ。	A:0.5~1.5mmの白色砂粒をやや多量 含む。B:良好。C:内外共青灰5B6/1。	体部外面、 口縁内面降灰。
683	須恵器	大甕	2・3区間 谷部 褐色土	;	①(35. 5) ②13. 1+ α	体部外面は擬格子タタキ、内面は同心円文当て具。口縁は回転ナデ成形。頸部外面にカキメ、沈線。	A:1mmの白色砂粒をやや多量含む。 B:良好。C:内外共暗灰N3/〜灰白 5Y7/1。	頸部内外面 降灰。
684	須恵器	大甕	2・3区間 谷部 褐色土	;	①(44. 8) ②16. 5+ α	体部外面は平行タタキ、内面 は同心円文当て具。口縁回転 ナデ。頸部外面下位はカキ メ、上半に連続斜線文、沈	A:1〜2mmの白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外灰白N7/〜暗灰N3/、内暗 赤褐2.5YR3/4。	
685	須恵器	大甕	2・3区間 谷部 褐色土	:	①(53. 0) ②16. 5+ α	体部外面は擬格子タタキ、内面は同心円文当て具。口縁は回転ナデ成形。頸部外面に連続斜線文、沈線。	A:0.5~1.5mmの白色砂粒をやや多量 含む。B:良好。C:外暗灰N3/、内灰 N5/。	
686	須恵器	中空硯	2・3区間 谷部 褐色土	-	②3. 6+ α 縦5. 4+ α 横4. 2+ α	外面はヘラケズリ。内面はナ デ。	A:粗砂を微量含む。B:良好。C:外灰 10Y4/1、内灰N6/。	図右面降灰。
687	土師器	甑	2・3区間 谷部 褐色土	:	②4. 1+ α	指頭痕を残すナデ成形。	A:粗砂を微量含む。密で精良な胎土。 B:良好。C:にぶい黄橙10YR7/4。	差込式の把手。
688	土師器	甑	2・3区間 谷部 褐色土	:	28. 6+ α	指頭痕を残すナデ成形。	A:1~2mmの白色砂粒をやや多量、1mmの 赤褐色粒を微量含む。B:良好。C:にぶ い黄橙10YR7/4。	差込式の把手。
689	鉄滓		2・3区間 谷包含層		長2.9幅3.0 最大厚1.9重21.2			メタル少量残。
690	瓦	平瓦	2・3区間 谷部 褐色土	:	長34. 5+ α 幅29. 5+ α 厚1. 8~2. 2	凹面は布目痕・模骨痕。凸面 は平行タタキ、一部ヘラケズ リ。	A:0.5~1mmの白色砂粒をやや多量 含む。B:やや不良。C:凹にぶい黄 2.5YR6/3~にぶい黄褐10YR5/4。凸灰黄 2.5Y6/2~灰黄褐10YR5/2~明黄褐 10YR6/6。	
691	瓦	平瓦	2・3区間 谷部 褐色土	:	長17. 0+ α 幅16. 0+ α 厚1. 4~2. 5	凹面は弓切り痕。凸面は平行 タタキ。	A:0.5~1mmの白色砂粒を少量含む。 B:やや不良。C:凹凸共明褐7.5YR5/6。	

## 表27 梅頭遺跡第2次調査出土遺物観察表②

			衣2/	<b>伸</b> 现	2次調宜田工退初街	(宗衣())	
遺物 番号	種類	器種	出土地点	法量(cm·g) ①口径②器高 ③底径④高台径 ⑤最大径()は復元	形態・技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
692	須恵器	杯蓋	試掘20次 12地点	110.823.5	回転ナデ成形。天井部外面へラ切り後ナデ。	A:3mm以下の白色砂粒、微細な黒色粒を 少量含む。B:良好。C:外明青灰5BG7/1 〜明緑灰10G3/1、内灰N6/。	天井部外面へラ 記号。
693	須恵器	杯蓋	試掘20次 6地点	①10.8②3.8	回転ナデ成形。天井部内面へ ラ切り。	A:2mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:やや不良。C:外灰白7.5Y7/1〜暗灰 N3/、内灰白7.5Y7/1。	天井部外面へラ 記号。 外面降灰。
694	須恵器	杯蓋	表採	①10. 8②3. 45	回転ナデ成形後、天井部内面 不定方向ナデ。外面1/2回転へ ラケズリ。	A:1mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外黄灰2.5Y4/1〜黒 2.5Y2/1、内黄灰2.5Y4/1。	天井部外面へラ 記号。天井部 外面別個体片 釉着。
695	須恵器	杯蓋	試掘20次 6地点	①11. 35②3. 9	回転ナデ成形後、天井部内面 不定方向ナデ。外面3/5を手持 ちヘラケズリ。	A:1mm以下の白色砂粒をやや多量含む。 B:良好。C:内外共灰白7.5Y7/1。	天井部外面へラ 記号。
696	須恵器	杯蓋	試掘20次 中央斜面表採	①11. 6②3. 85	回転ナデ成形。外面2/3カキメあり。つまみ貼付。天井部外面へラ切り後ナデ。	A:3mm以下の白色砂粒、微細な黒色粒を 少量含む。B:良好。C:外青黒5PB2/1~ 青灰5PB6/1~灰白7.5Y8/1、内青灰 5PB5/1。	外面降灰。
697	須恵器	杯蓋	試掘20次 4地点	①11. 4②3. 6	回転ナデ成形後、天井部内面 不定方向ナデ。天井部外面へ ラ切り後不定方向ナデ。外面 一部にタテハケ。	A: 粗砂を少量含む。B: やや良好。 C: 外灰黄褐10YR6/2、内灰黄褐10YR6/2 ににぶい橙7.5YR7/4が混じる(マーブル 状)。	天井部外面へラ 記号。
698	須恵器	杯蓋	表採	①11.9②4.0	回転ナデ成形後、天井部内面 不定方向ナデ。天井部外面へ ラ切り後ナデ。	A:3mm以下の白色砂粒をやや多量含む。 B:良好。C:外灰N5/~黒N2/、内灰N5/。	
699	須恵器	杯蓋	試掘20次 6地点	①(12.9)②3.0	回転ナデ成形後、天井部内面 不定方向ナデ。外面3/4を回転 ヘラケズリ。	A:2mm以下の白色砂粒を少量、0.5~1mm の黒色粒をやや多量含む。B:良好。C: 内外共灰N5/。	天井部外面へラ 記号。 杯身口縁釉着。
700	須恵器	杯蓋	試掘20次 8地点	①12. 6②4. 15	回転ナデ成形後、天井部内面 不定方向ナデ。外面1/2を回転 ヘラケズリ。	A:2mm以下の白色砂粒をやや多量含む。 B:良好。C:内外共灰黄2.5Y6/2。	天井部外面へラ 記号。
701	須恵器	杯蓋	試掘20次 9地点	①12.8②3.6	回転ナデ成形後、天井部内面 不定方向ナデ。外面3/5を回転 ヘラケズリ。	A:1mm以下の白色砂粒を多量、微細な 黒色粒を少量含む。B:良好。C:内外共 灰N6/。	天井部外面へラ 記号。
702	須恵器	杯蓋	表採	①9. 3②3. 8 受部径11. 3	回転ナデ成形後、天井部内面 不定方向ナデ。外面3/5を回転 ヘラケズリ。つまみ貼付。	A:粗砂を少量含む。B:良好。C:外にぶ い橙7.5YR7/3~にぶい橙2.5YR6/4、 内にぶい橙7.5YR7/4。	天井部外面へラ 記号。
703	須恵器	杯蓋	表採(遺構面覆土中)	①9.15②3.9 受部径11.4 つまみ径2.2	回転ナデ成形。外面2/3カキメ あり。つまみ貼付。	A:2.5mm以下の白色砂粒、微細な黒色粒をやや多量含む。B:やや不良。 C:外浅黄2.5Y7/4~灰黄2.5Y7/2、内淡黄2.5Y8/4。	
704	須恵器	杯蓋	表採(遺構面覆土中)	①9.3②3.9 受部径11.6 つまみ径2.4	回転ナデ成形後、天井部内面 不定方向ナデ。外面2/3を回転 ヘラケズリ。つまみ貼付。	A:1mm以下の白色砂粒をやや多量、微細な黒色粒を少量含む。B:良好。C:外浅黄5Y7/3~灰5Y6/1、内灰白5Y7/2~灰5Y6/1。	著しい歪み あり。
705	須恵器	杯蓋	試掘20次 9地点	①10.6②2.9 受部径12.2	回転ナデ成形後、天井部内面 不定方向ナデ。外面全面にカ キメ。つまみ貼付。	A:0.5~3mmの白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外灰10Y6/1~暗灰N3/、内灰 10Y6/1。	著しい歪み あり。
706	須恵器	杯身	試掘20次 12地点	①9. 0②2. 4受部 径10. 9	回転ナデ成形後、底部内面を 不定方向ナデ、外面はヘラ切 り後ナデ。	A:3mm以下の白色砂粒、微細な黒色粒を 少量含む。B:良好。C:外灰N5/〜灰白 2.5GY8/1、内灰N4/。	
707	須恵器	杯身	試掘20次 9地点	①8. 9②2. 9 受部径11. 2	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面1/2を回転へ ラケズリ。	A:2mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:やや不良。C:外灰N6/〜灰N4/、内灰 N4/。	
708	須恵器	杯身	試掘20次 中央斜面表採	①9. 9②4. 0 受部径11. 8	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。	A:3mm以下の白色砂粒、1mm以下の黒色 粒を少量含む。B:良好。C:外灰白N7/、 内青灰5PB6/1。	底部に窯砂 釉着。杯蓋片 口縁釉着。
709	須恵器	杯身	試掘20次 7地点	①9.55②3.0 受部径11.6	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。底部外面へラ切 り。	A:2mm以下の白色砂粒を多量、微細な 黒色粒をやや多量含む。B:良好。C:外 明オリーブ灰2.5GY7/1〜暗オリーブ灰 2.5GY4/1〜明紫灰5P7/1、内青灰 5PB5/1。	体部下位に 別個体片釉着。
710	須恵器	杯身	試掘20次 12地点	①9.65②3.4 受部径12.0	回転ナデ成形後、底部内面を 不定方向ナデ、外面はヘラ切 り後ナデ。	A:2mm以下の白色砂粒、1mm以下の黒色粒を少量含む。B:良好。C:外灰白5Y7/1~灰白5Y7/2、内灰白5Y7/2~灰オリーブ5Y6/2。	
711	須恵器	杯身	試掘20次 3地点	①10.5②3.6 受部径12.5	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。底部外面へラ切 り後ナデ。	A:4mm以下の白色砂粒をやや多量、微細な黒色粒を微量含む。B:良好。C:外灰N6/~暗オリーブ灰2.5GY4/1、内黒褐10YR3/1~灰N6/。	
712	須恵器	杯身	表採	①9.35②3.8 受部径11.65	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面1/2を回転へ ラケズリ。	A:2mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外黄灰2.5Y5/1~褐灰 5YR5/1、内暗青灰5PB4/1。	
713	須恵器	杯身	表採	①9. 9②3. 5 受部径11. 95	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面3/5を回転へ ラケズリ。	A:1mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:やや不良。C:外灰白N7/〜灰N4/、内 灰10Y4/1。	底部外面へラ 記号。
714	須恵器	杯身	表採	①10. 15②3. 7 受部径12. 0	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面1/2を回転へ ラケズリ。	A:0.5~2mmの白色砂粒を多量、0.5~ 1mmの黒色粒を少量含む。B:やや不良。 C:外黄灰2.5Y4/1、内黄灰2.5Y5/1。	底部外面へラ記 号。外面降灰。 底部外面別個体 片釉着。
715	須恵器	杯身	表採(遺構面覆土中)	①10. 25②3. 5 受部径12. 0	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面1/2を回転へ ラケズリ。	A:6mm以下の白色砂粒、微細な黒色粒を やや多量含む。B:やや不良。C:外灰白 5Y7/2〜にぶい黄2.5Y6/3、内淡黄5Y8/3 〜浅黄2.5Y7/4。	底部外面へラ 記号。
716	須恵器	杯身	試掘20次 8地点	①10. 5②3. 45 受部径12. 8	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面2/3を回転へ ラケズリ。	A:2mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:内外共灰黄2.5Y6/2。	底部外面へラ 記号。

## 表28 梅頭遺跡第2次調査出土遺物観察表®

			衣28	<b>一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一</b>	2次調宜田工退物街	<b>元余衣</b> @	
遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm・g) ①口径②器高 ③底径④高台径 ⑤最大径()は復元	形態・技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
717	須恵器	杯身	試掘20次 11-3地点 検出面 表採	①10.9②3.5 受部径13.1	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面3/5を回転へ ラケズリ。	A:1mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外灰7.5Y6/1〜灰7.5Y5/1、 内青灰5PB6/1。	外面降灰。 底部、体部外面 別個体片釉着。
718	須恵器	杯身	表採	①10.5②3.15 受部径12.7	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面は摩滅。	A:2mm以下の白色砂粒をやや多量、微細な黒色粒を少量含む。B:良好。C:外灰黄2.5Y6/2~黒褐2.5Y3/1、内灰5Y6/1。	外面へラ記号。 杯蓋片口縁釉 着。底部外面別 個体片釉着。
719	須恵器	杯身	表採	①10.55②3.7 受部径12.7	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面1/2を回転へ ラケズリ。	A:1mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外灰N5/、内灰N4/。	底部外面へラ 記号。 外面降灰。
720	須恵器	杯身	試掘20次 7地点	①10.85②4.2 受部径12.8	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面2/5回転ヘラ ケズリ。	A:3.5mm以下の白色砂粒を多量、微細な 黒色粒をやや多量含む。B:良好。C:外 暗青灰5B4/1~青灰5B5/1、内青灰 5B5/1。	外面へラ記号。 口縁端部に細か い欠損あり。
721	須恵器	杯身	試掘20次 11-3地点 検出面 表採	①11. 1②3. 2 受部径13. 5	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面2/3を回転へ ラケズリ。	A:4mm以下の白色砂粒をやや多量含む。 B:良好。C:外オリーブ灰2.5GY5/1〜灰 7.5Y4/1、内暗青灰5PB3/1。	外面へラ記号。 外面降灰。
722	須恵器	杯身	試掘20次 12地点	①11.4②3.7 受部径(13.8)	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面3/5を回転へ ラケズリ。	A:6mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:やや良好。C:外灰黄2.5Y7/2~淡黄 2.5Y8/3、内淡黄2.5Y8/4。	底部外面へラ 記号。
723	須恵器	杯身	試掘20次 12地点	①9. 75②4. 2 ③6. 8	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面へラ切り後 ナデ。体部外面中位に2条沈線 あり。	A:粗砂を多量、微細な黒色粒を少量 含む。B:良好。C:内外共灰5Y5/1。	
724	須恵器	杯身	試掘20次 11-3地点 検出面 表採	①11. 6②4. 3 ③8. 9	回転ナデ成形。底部外面は不 定方向ナデ。体部外面中位に2 条沈線。	A:1mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外灰7.5Y6/1、内褐灰 5YR4/1。	
725	須恵器	有蓋 高杯	試掘20次 4地点	① (9.7) ②7.5 受部径(12.1) 裾部径 (9.7)	回転ナデ成形。杯底部内面を 不定方向ナデ。	A:1~3mmの白色砂粒を多量含む。 B:やや不良。C:杯部内外共暗灰N3/、脚部内外共裾脚灰N5/。	脚部内面へラ記 号。外面降灰。 杯部著しい 歪みあり。
726	須恵器	有蓋 高杯	試掘20次 10地点	①11.9②7.3 受部径14.0 裾部径(10.1)	回転ナデ成形後、杯底部内面 を不定方向ナデ。杯部外面1/5 を回転ヘラケズリ。脚部外面 にシボリ痕あり。	A:2mm以下の白色砂粒をやや多量含む。 B:良好。C:外褐灰7.5YR5/1~にぶい橙 7.5YR6/4、内にぶい橙7.5YR6/4。	
727	須恵器	高杯	試掘20次 8地点	②9. 85+α 裾部径11. 1	回転ナデ成形後、外面にカキメ。脚部中位に2条沈線。脚部内面上半にシボリ痕あり。	A:0.5~2mmの白色砂粒をやや多量、 微細な黒色粒を少量含む。B:良好。C: 杯部外灰白7.5Y7/1、脚部外暗灰N3/~ 灰白7.5Y7/1、杯部内暗灰N3/、脚部内 灰白7.5Y7/1。	
728	須恵器	椀	表採(遺構面覆土中)	111.328.3	回転ナデ成形後、底部内面中 央のみ不定方向ナデ。外面2/5 回転ヘラケズリ。	A:2mm以下の白色砂粒、微細な黒色粒を 少量含む。B:良好。C:外灰白5Y7/2~青 灰5B6/1~暗青灰5B3/1、内青灰5B66/1 ~暗青灰10BG4/1~淡黄2.5Y8/3。	
729	須恵器	高杯	試掘20次 9地点 試掘20次 8地点 試掘9地点 上方検出時	①(10.9)②14.1 裾部径(10.5)	回転ナデ成形後、杯底部内面 を不定方向ナデ。杯部外面1/5 を回転ヘラケズリ。脚部下位 に1条沈線あり。	A:2mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:内外共灰5Y6/1。	脚部内面へラ記号。
730	須恵器	虺	試掘20次 6地点	26. 3+ α ⑤7. 9	回転ナデ成形。外面1/3を手持 ちヘラケズリ。外面中位に沈 線と連続刺突文あり。	A:2mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外灰10Y5/1〜暗灰N3/が混じる(マーブル状)。	底部外面へラ 記号。穿孔時の 粘土が内側に残 る。
731	須恵器	酿	試掘20次 中央斜面表採	②7. 3+ α	回転ナデ成形。外面3/5回転へ ラケズリ。外面中位に沈線と 連続刺突文。頸部内面にシボ リ痕あり。	A:4mm以下の白色砂粒をやや多量含む。 B:良好。C:外暗青灰5B4/1~青灰 5B5/1、内灰白10Y7/1。	底部外面へラ記号。
732	須恵器	杯蓋	試掘20次 12地点	②1.8+α つまみ径2.6	回転ナデ成形後、天井部内面 不定方向ナデ。外面2/3を回転 ヘラケズリ。つまみ貼付。	A:5mm以下の白色砂粒を微量、微細な黒 色粒を多量含む。B:良好。C:外灰白 10Y8/1〜灰白10Y7/1、内灰白10Y8/1。	
733	須恵器	短頸壺	試掘20次 13地点	①5. 6②6. 7+ α ⑤11. 0	回転ナデ成形後、外面2/5を回 転ヘラケズリ。体部上位に2条 沈線あり。	A:粗砂を少量含む。B:良好。C:外青黒 5PB2/1~明青灰5PB7/1、内青灰 5PB6/1。	
734	須恵器	壺 か 平瓶	試掘20次 11地点	②10. 2+ α ③11. 1	回転ナデ成形後、底部内面不 定方向ナデ。外面上半にカキ メ、沈線、刺突文の順に施 文。底部外面は手持ちヘラケ ズリ。	A:0.5~2mmの白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外オリーブ黒5Y3/2~黒 N2/、内灰N4/。	底部外面へラ 記号。底部、 体部外面別個体 片釉着。
735	須恵器	壺	試掘20次 7地点	①9. 5②9. 0+ α	四転ナデ成形。外面1/3を手持 ちヘラケズリ。上半にカキ メ。内面下半は降灰のため不 明。	A:4mm以下の白色砂粒を多量、微細な黒 色粒をやや多量含む。B:良好。 C:外青灰5PB5/1〜暗オリーブ灰 2.5073/1〜明青灰587/1、内灰N4/〜暗 灰N3/。	底部外面へラ 記号。内面 降灰。底部内面 1~14mmほどの 釉着物あり。
736	須恵器	壺	試掘20次 12地点	①(8.1)②9.1	回転ナデ成形。外面1/3を手持ちヘラケズリ後不定方向ナデ。	A:2mm以下の白色砂粒を多量、0.5~1mm の黒色粒を少量含む。B:やや不良。C: 内外共灰10Y6/1。	底面外部へラ 記号。
737	須恵器	雜	表採	①16. 6②9. 2+ α	口縁ヨコナデ。外面頸部タテハケ、以下を縦方向ヘラケズ リ。内面屈曲部直下に指頭 痕、以下を斜方向のヘラケズ リ。	A:2mm以下の白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外灰7.5Y5/1、内灰N5/。ロ 緑部灰白5Y7/1。	
738	須恵器	鉢	試掘20次 中央斜面表採	①(17. 5) ②13. 0+ α	体部不定方向ハケ、内面不定 方向のナデ、内面下位は工具 による不定方向ナデ。口縁ヨ コナデ。	A:2mm以下の白色砂粒を少量、1mm以下の黒色粒をやや多量含む。B:良好。 C:外暗灰N3/~灰N5/~灰白N7/、内灰白N7/。	底部外面へラ 記号。体部下位 別個体釉着。
739	須恵器	甑	表採	②2. 1+ α	底部破片。ナデ成形。4ヶ所の 穿孔が確認出来る。焼成前外 面よりの穿孔。	A:1mm以下の白色砂粒、微細な黒色粒を 少量含む。B:良好。C:内外共灰5Y5/1。	

## 表29 梅頭遺跡第2次調査出土遺物観察表29

			衣29	<b>一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一</b>	2次調宜田工退物街	1余女母	
遺物 番号	種類	器種	出土地点	法量(cm·g) ①口径②器高 ③底径④高台径 ⑤最大径()は復元	形態・技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
740	須恵器	甕	試掘20次 13地点	①20. 8②7. 6+ α	体部外面は平行タタキ後カキメ、内面は同心円文当て具。 ロ縁は回転ナデ。頸部外面カキメ。	A:0.5~2mmの白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:内外共暗灰N3/~明青灰 5PB7/1。断面明紫灰5RP7/1。	頸部外面2ヶ所 ヘラ記号。
741	須恵器	甕	試掘20次 11-1地点 検出面 表採	①20. 4②10. 5+ α	体部外面は擬格子タタキ、内面は同心円文当て具。口縁は 回転ナデ成形。	A:0.5~3mmの白色砂粒を多量含む。 B:良好。C:外灰N4/~灰7.5Y4/1、内黄灰2.5Y5/1~暗灰N3/。	頸部外面へラ 記号。内外面 降灰。
742	須恵器	甕	試掘20次 14地点	①(14. 6) ②12. 9+ α	体部外面は擬格タタキ後カキ メ。内面は同心円文当て具 後、回転ナデ。口縁は回転ナ デ。	A:粗砂を微量含む。B:良好。C:内外共 灰N4/~灰5Y6/1。	口縁外面へラ 記号。
743	須恵器	羝	試掘20次 13地点 試掘20次 14地点	216. 8+ α ③(16. 8)	体部外面は擬格子タタキ後部 分的にカキメ。内面は同心円 文当て具。底部内面はナデ、 外面に指頭痕あり。下位屈曲 部付近は板状工具によるナ デ。	A:0.5~2mmの白色砂粒を少量含む。 B:良好。C:外灰5Y7/1~灰5Y4/1、内灰5Y6/1。	No. 742と同一個 体と思われるが 接点なし。
744	土師器	甕	試掘20次 9地点	①(18. 6) ②11. 9+ α	体部外面は不定方向ハケ、内面はヘラケズリ。口縁ヨコナデ。	A:2mm以下の白色砂粒を多量、0.5~1mm の茶褐色粒を少量含む。B:良好。C:内 外共橙7.5YR7/6。	体部外面 煤付着。
745	土師器	甕	試掘20次 12地点	①(27. 8) ②15. 65+ α	体部外面タテハケ、内面縦方 向ヘラケズリ。口縁内面ヨコ ハケ。	A:0.5〜2mmの白色砂粒を多量、微細な 茶色粒を少量含む。B:良好。C:外黄灰 2.5Y5/1〜黒褐2.5Y3/1、内榁7.5YR7/6 〜灰黄褐10YR5/2。	
746	土師器	甑	試掘20次 11-3地点 検出面 表採	①(29. 3) ②19. 9+ α	体部外面はタテハケ、内面は 上位を斜方向ハケ後、体部全 面を不定方向ヘラケズリ。ロ 縁内面はヨコハケ。把手は指 頭痕を残すナデ成形。	A:3mm以下の白色砂粒をやや多量含む。 B:良好。C:内外共橙7.5YR6/6。	
747	土師器	甕	試掘20次 中央斜面表採	①9. 6②12. 0 ③6. 4	体部外面はタテハケ、内面タ テナデ。口縁ヨコナデ。底部 外面は工具によるナデ。	A:5mm以下の白色砂粒をやや多量含む。 B:やや良好。C:外黒褐10VR3/1〜褐灰 10YR4/1〜黄橙10YR8/6、内灰黄褐 10YR4/2〜灰黄褐10VR6/2〜黄橙 A:4mm以下の白色砂粒、微細な赤褐色粒	底部木葉痕か?
748	土師質 土製品		試掘20次 12地点	②11. 6+ α	ナデ成形。ヘラ状工具を刺し た痕跡あり。	A:4m以下の日色砂粒、微細な赤褐色粒を微量含む。B:良好。C:橙5YR7/8~明	底部へラ記号。
749	瓦	丸瓦	試掘20次 12地点	長31. 5幅16. 3 高10. 9	凹面弓切り痕・模骨痕・布目 痕・タテハケ、凹面は上位を 平行タタキ、他は縦方向へラ ケズリ。	A.4mm以下の白色砂粒をやや多量含む。 B:不良。C:凹にぶい赤褐5YR5/4~黄 2.5Y8/6(マーブル状)。凸黄橙7.5YR7/8 ~にぶい橙5YR6/4~浅黄橙 10YR8/4(マーブル状)。	
750	瓦	丸瓦	試掘20次 12地点	長36. 7+ α 幅8. 7+ α 厚0. 9~1. 6	凹面は布目痕・模骨痕。凸面 は平行タタキ。	A:0.5~3mmの砂粒を少量含む。B:やや 不良。C:凹凸共橙7.5YR6/6~明褐 7.5YR5/8。	
751	瓦	丸瓦	試掘20次 12地点	長33. 4+ α 幅15. 1+ α 厚1. 2		A:5mm以下の白色砂粒を少量含む。 B:不良。C:凹黄橙7.5YR7/8~明黄褐 10YR7/6~橙5YR7/6。凸にぶい黄橙 10YR7/4~浅黄橙10YR8/4~橙5YR6/6。	
752	瓦	丸瓦	試掘20次 12地点	長33. 6+ α 幅9. 9+ α 厚1. 1~1. 6	凹面は布目痕・模骨痕。凸面 は平行タタキ。	A:0.5~1mmの白色砂粒を少量含む。 B:やや不良。C:凹橙7.5YR6/6。凸橙 5YR6/8。	
753	瓦	平瓦	試掘20次 12地点	長32. 9+ α 幅32. 9+ α 厚1. 5~2. 25	凹面は弓切り痕・布目痕・模 骨痕。凸面は平行タタキ。	A:0.5~2mmの白色砂粒をやや多量 含む。B:やや不良。C:凹橙5YR6/8~に ぶい黄褐10YR5/4。凸明赤褐5YR5/6。	
754	瓦	平瓦	試掘20次 12地点	長31. 0+ α 幅29. 5+ α 厚1. 6~2. 3	凹面は弓切り痕・布目痕・模 骨痕。凸面は平行タタキ。	A:0.5~2mmの白色砂粒を少量含む。 B:やや不良。C:凹橙7.5YR6/6~浅黄 2.5Y7/4。凸にぶい黄橙10YR7/4~橙 7.5YR6/6、断面中心褐灰7.5YR4/6。	
755	瓦	平瓦	試掘20次 12地点 SX17 床面上(写真あり)	長29. 2+ α 幅19. 5+ α 厚1. 0~2. 0	凹面は弓切り痕・模骨痕。上 位を不定方向ヘラケズリ。凸 面は平行タタキ。	A:0.5~2mmの白色砂粒をやや多量 含む。B:やや不良。C:凹橙7.5YR6/6~ 灰褐7.5YR4/2。凸にぶい橙7.5YR6/4~ 灰褐7.5YR4/2。	
756	瓦	平瓦	試掘20次 12地点	長31. 0+ α 幅24. 9+ α 厚1. 3~2. 1	凹面は弓切り、同心円文当て 具あり。凸面擬格子タタキ。	A:3mm以下の白色砂粒をやや多量含む。 B:やや不良。C:凹にぶい黄橙10YR6/4。 凸にぶい黄2.5Y6/3。	
757	瓦	平瓦	試掘20次 12地点	長24. 7+ α 幅19. 9+ α 厚2. 0	凹面は弓切り痕か?凸面は平 行タタキ。	A:0.5〜4mmの白色砂粒を多量含む。 B:不良。C:凹にぶい黄橙10YR7/3〜橙 5YR6/6。凸にぶい黄橙10YR6/4〜明褐 7.5YR5/6(マーブル状)。	焼台付着。
758	瓦	平瓦	試掘20次 12地点	長14. 5+ α 幅14. 75+ α 厚1. 6	凹面弓切り痕・布目痕あり。 凸面平行タタキ。	A:0.5~2mmの白色砂粒をやや多量含む。B:良好。C:凹灰白N7/~灰N5/~ 黒N2/。凸灰N6/~灰白7.5Y7/1。	上面焼き台釉 着。破損後焼き 台として転用。
759	石製品	砥石	試掘20次 4地点	縦17.35横9.7 厚4.6~5.7 重1155	3面を使用。		
760	ガラス 製品	小玉	試掘20次 12地点下	直径0.7高0.5 孔径0.15		質:細かい気泡が入る。C:明緑色。ややくすんだ透明。	
761	石製品	スクレ イパー	表採	長3. 2+ α 幅6. 9+ α 厚0. 9重17. 4			サヌカイト。

# Ⅲ. まとめ

#### 1. 遺構の時期

梅頭遺跡 2 次調査では、丘陵斜面に窯跡・掘立柱建物・竪穴住居跡・土坑など様々な遺構が確認された。以下では、各遺構の時期について、時代ごとに変遷をみてゆきたい。

#### 旧石器~弥生時代

この時期の遺構・遺物は非常に少ない。SX02から石匙、SB02から安山岩製石鏃が出土しており、表土剥ぎ時にはスクレーパーが出土するなど、縄文時代の活動の痕跡がうかがえる。しかし、弥生時代の遺構・遺物についてはまったく明らかではなく、調査地周辺はこの時期まで森の深い丘陵部にあたり、本格的な開発はおこなわれていないようである。

#### 古墳~飛鳥時代

調査地内の遺構は、6世紀末~7世紀中頃の遺構が大半を占め、大きくは2つの時期に分けることができる。まず確認できる遺構は、1号窯跡は灰原を失うものの貼床・最終床面から6世紀末~7世紀初頭の遺物が出土しており、この時期にあたると考えられる。最終床面上からは、須恵器の他に耳環・鉄鏃が出土しており、梅頭1次1号窯跡とあわせると窯を墳墓に転用した可能性が高いと考えるが、その時期は須恵器の年代から見ると7世紀初頭~前半頃にあたり、梅頭1次例よりも後出する。SC01はカマドを備え、窯の操業と同時期に位置づけられる。窯工人の住居と考えられるが、ロクロピット・粘土貯留土坑は確認できなかった。その他同時期の遺構としてSX03・06・29・38があるが、いずれも不整形の土坑で、性格は明らかにできない。また、斜面上半を削平されているため全体的な遺構配置が明らかではない。

続く7世紀前半~中頃になると、遺構の数は急増し、 $SX07\cdot08\cdot09\cdot13\cdot16\cdot17\cdot18\cdot19\cdot21\cdot22\cdot23\cdot27\cdot28\cdot31\cdot34$ がこの時期にあたる。遺構は斜面に平行して長くL字状に掘り込まれるもの( $SX07\cdot08\cdot09\cdot17\cdot21$ )、三日月状に掘り込まれるもの(SX28)、土坑状に掘り込まれるもの( $SX22\cdot31$ )があるが、掘方は不整である。これらの内、 $SX07\cdot08\cdot21$ では焼土を検出しており、袖部の確認はできなかったが、カマドが存在したものと考えられる。うまく復元できないが、住居跡と考えられる。

7世紀中頃以降の遺構はほとんど確認できず、S X 25は杯 B 身を含み新しい時期が考えられるが全形が不明なため時期を確定できない。

遺物では、土坑からは須恵器が主に出土しており、土師器甕・甑も多く出土している。また、一部図化していないが、SX07・08・13・16・17・21・25・27と2・3区間谷部、表土剥ぎ中に瓦が出土している。種類は丸瓦・平瓦のみで、軒瓦はまったく認められない。量としてはSX07が最も多く、ほぼ完形に近いものを含むなど残存状況は良好であり、全体的に見ても一遺跡で出土する瓦としては多い。これらの瓦は1号窯跡で焼成された可能性もあるが、窯体内からの出土遺物に杯Gを含まないことから他の窯での焼成を想定した方が妥当と思われる。

その他注目される遺物を列挙すると、甕製作時に余分な粘土を切り落とした須恵器切削物がS  $X04\cdot07\cdot08\cdot13\cdot17$ 、鉄製品では鉄鎌がS  $X16\cdot26$ 、鉄滓がS  $X21\cdot25\cdot27$ 、 $2\cdot3$  区間谷部、土製品では土製模造鏡がS  $X07\cdot08$ 、土玉がS X21、石製品では紡錘車がS X07、ガラス

玉が表土剥ぎ中に出土している。また須恵器・土師器のミニチュア土器がSX07・13・17・21、中空硯が2・3区間谷部から出土している。

#### 奈良時代

調査地内の遺構はほぼ7世紀中頃までで、それ以降のものは認められない。ただし、2・3区間谷部などで8世紀後半の遺物が散見され、おそらく須恵器生産にかかわる活動が想定される。

#### 2. 1号窯跡出土耳環・鉄鏃について

1号窯跡からは、耳環・鉄鏃各2点が出土した。このうち、耳環は焼成部上位で出土が確認され、鉄鏃は耳環出土位置周辺の埋土をふるった結果出土したものである。耳環のうち1点(1)は焼成部中位右側から出土、1点はさらにそのやや上方から出土が確認された。その意義について、以下でまとめておく。

窯体内から須恵器以外の遺物が出土する事例として、管見の限りでは以下のとおりである。まず梅頭1次1号窯跡(註1)と静岡県清水市東山田2号窯跡(註2)を挙げることができる。梅頭1次1号窯跡は焼成部下位左側に石・焼台を持ち込み、銀象嵌鉄刀・鉄鏃・須恵器を配置している。6世紀末~7世紀初頭に位置づけられる。東山田2号窯跡は、図の掲載がないが、「燃焼室の奥よりには径20~30cmほどの粘土塊(還元焔によって焼けくずれた窯壁のブロック)が径約1mの範囲に数10個かき集めて積み上げたような状態」であり、「下部から一対の金環が出土した」とのことである。窯跡の時期は白鳳期と報告され、7世紀後半代に位置づけられよう。これらの2例の他、小田浦37-I号窯跡からは鉄鏃が1点、浦ノ原3号窯跡からは耳環が1点、窯内の埋土上層から出土している(註3)。

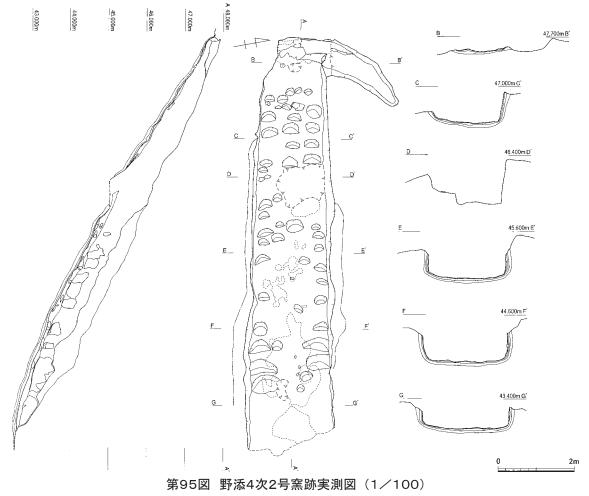
このように、窯内から須恵器以外の遺物が出土する事例は少量ながら確認することができる。このうち、小田浦・浦ノ原のように埋土上層から単発的に鉄鏃・耳環の出土があった場合は遺失もしくは何らかの祭祀を考えた方が妥当であろう。一方、梅頭1・2次の事例は焼成部床面直上から遺物の出土があった。しかし梅頭1次は焼成部下位にあって傾斜角度があり、梅頭2次は1次調査例よりさらに焼成部奥側から耳環が出土しており、傾斜角度はさらに強く、普通にまっすぐ立つことも困難な状況であった。梅頭1次1号窯跡内出土遺物は後期古墳の副葬品と共通することから遺体を埋葬したものと判断したが、埋葬施設として不適な印象はぬぐえない。このことは梅頭2次1号窯跡においても同様であり、遺構の項で触れたように、遺体を入れるのが焼成部中位にあったとしても、傾斜角度の急さは埋葬施設としての不適さをいっそう際立たせる。しかし、耳環・鉄鏃がそれぞれ2点ずつ出土していることは、単に須恵器工人が遺失したものとは考えにくい。また、耳環・鉄鏃の組み合わせも祭祀に関わるとするより埋葬に関わるものと考えたほうが妥当と思われる。したがって、梅頭1・2次調査の事例は埋葬に関わるものと考え、埋葬施設として須恵器窯の転用は確実なものと考えておきたい(註3)。

#### 3. 初期瓦の焼成について

牛頸窯跡群では、IVA期にあたる神ノ前2号窯跡からV期にいたるまで瓦の生産がおこなわれて

いる。今回報告した2次調査では、窯跡からではないが斜面上の集落から多量の瓦が出土した。その中には、焼成時に付着したと考えられる粘土塊が認められる。以下では、初期瓦を焼成した窯の構造と瓦に付着した粘土塊の痕跡から、瓦の窯詰め状況を復元し生産量の推定を試みたい。

まず、初期瓦を生産した窯跡で全体の窯構造を知ることができるものは少ない。窯体全体が削平されるか(小田浦28地点・月ノ浦 I 号窯跡・野添13号窯跡)、もしくは窯尻を失う(神ノ前 2 号窯跡・浦ノ原 4 号窯跡・大浦 2 号窯跡)ものが多い。窯構造が明らかにできるのは、全掘された窯跡では野添 4 次 2 号窯跡があり、検出のみに止まるが小田浦79地点を挙げることができる。これらから見ると初期瓦が焼成されたのは牛頸窯跡群特有の多孔式煙道窯であり、床面は浅く楕円形状に掘りくぼめた置台の痕跡は確認できるものの、通有の須恵器窯と同じく無階無段構造であったことが分かる。焼成部の傾斜角度は20°~35°程度を有し、特に焼成部上半では直立することもままならない状況である。こうした構造の窯で、初期瓦はどのように窯詰めされたのであろうか。



以下では梅頭 2 次調査出土瓦の観察から、初期瓦の窯詰め方法について検討したい。瓦は丸瓦・平瓦が出土しているが、いずれにも共通することは須恵器と重ね焼きをしたと考えられる釉着資料や明確な痕跡がないことである。もちろんこれは窯跡からの出土資料ではないため、そうした遺物はすでに廃棄されている可能性もあるが、他の遺跡から出土した瓦の観察からも須恵器と重ね焼きをした痕跡を見出すことは難しい。

次に具体的な重ね焼き痕跡の観察について検討する。134は平瓦の凸面に焼きムラが認められ

る。小片のため全体は分からないが凸面を上にした窯詰めが考えられ、焼けムラがほぼまっすぐに通ることから平瓦の上に他の瓦を一部重ねたものと考えられる。136は焼成時の天地の別をつけることは難しいが、凸面に焼きムラが見られることは窯内での火回りの違いを表す可能性があり興味深い。757・758は凹面に粘土塊焼台の付着が認められる。焼台はいずれも凹面でも狭端部の側縁に近い所に付着している。758の凸面には降灰も認められる。以上のように、重ね焼き痕跡が認められる資料からすると、平瓦は一部を重ねることはあるが凸面を上にして平置きにした窯詰め方法が考えられる。ただし、残念ながら狭端部・広端部・側縁のいずれを焚口部に向けるかは分からない。丸瓦については確言できる資料に欠けるが、同様に平置きされたものと考えられる。このことと窯構造の在り方を合わせると、牛頸窯跡群で初期瓦を焼成した多孔式煙道窯では瓦を立てて焼くことは一般的ではないと考えられる。



第96図 初期瓦の重ね焼き状況写真

では、多孔式煙道窯において1回の操業あたりの初期瓦生産量はどの程度であったのだろうか。 野添 4次2号窯跡を例にとると、焼成部の長さは斜距離で約11m、幅は1.54~2.16mである。この窯で、137と同じサイズの平瓦(全長42cm、狭端部幅29cm、広端部幅31cm)を重ねることなく全面に窯詰めして焼成したとすると、タテ向きに置くと5~7枚26列(130~182枚)、ヨコ向きに置くと3~5枚36列(108~180枚)となる。この量は推定であり単純計算の結果であるが、最大でも1回の焼成で180枚程度の生産量しかなく、窯の規模の割に非効率的に感じられる。

牛頸窯跡群周辺の瓦窯の事例として、ウトグチ1号窯跡は多孔式煙道窯を有階有段構造に改築して瓦窯として使用され、焼成部の規模は長さが斜距離で3.4m、幅1.7~1.8mを有する。窯内からは最終操業時のものと考えられる平瓦・丸瓦合わせて190枚余りが出土しているが、窯の規模から見て量が少ないものとされている(註4)。ウトグチ1号窯跡は稚拙ながらも床面に階段状の掘

り込みを持ち、有段構造に改造していることから、瓦は立てて焼かれたものと思料される。こうした構造を持たない多孔式煙道窯で瓦を立てて焼いた場合、特に焼成部中位~上位では転倒する可能性が高い。また実際の焼成時に瓦・須恵器を別に焼くのか、一緒に焼くのかを判断する材料はないが、瓦単独で焼く場合、窯内の窯詰め状況は高さ10cm程度と非常に低く、窯焚きの効率としては悪いように思える。一方で瓦と須恵器を一緒に焼いた場合、1回の操業あたりの瓦の生産量はさらに少なくなる。

これらのことからすると、牛頸窯跡群の瓦陶兼業窯において生産される初期瓦は大量生産を目指し、寺院などの大規模な建築物の屋根を全面葺くような量を積極的に焼成したとは考えられない。現在知られる初期瓦の主たる供給先である那珂遺跡群においても、出土量からすると今のところ大型の建物を全面瓦葺にした状況を推測することは難しい(註5)。あるいは瓦を葺く建物が1×1間程度の小型のものであるのか、その性格が仏教寺院であるのか外交向けの施設であるのかは今後調査の進展に伴い明らかにされようが、この種の瓦が那珂遺跡群や牛頸窯跡群の須恵器工人集落と考えられる遺跡だけではなく、春日市トバセ遺跡・原ノ口遺跡での出土が指摘され(註6)、那珂川町安徳台遺跡群でも存在が確認できる(註7)ことは重要である。

筑前において瓦生産をおこなうのは牛頸窯跡群のみである。その牛頸窯跡群において初期瓦を焼成するのは春日・上大利・佐野・月ノ浦支群の窯であり、同時期であっても全てが瓦生産をおこなうことはなく、数も全体としては多くない。また、生産量も先の想定のとおり小規模なものである。このように、牛頸窯跡群における初期瓦生産は決して規模の大きいものではない。主たる供給先としては那珂遺跡群が挙げられるが、春日市・那珂川町など牛頸窯跡群周辺の遺跡で少量ながら出土例が認められることは、那津官家以外への供給もおこなわれていることを示す。このことは、初期瓦を使用する建物の性格が先の2つの想定以外も存在することを示している。具体的には初期瓦出土遺跡の検討を経なければならないが、那津官家に関係する地域豪族層への供給がおこなわれたことを推定したい。その背景には、畿内のような寺院への大規模供給・建物の荘厳化といった瓦使用とはまったく異なり、有力者の居宅の一部を飾るといったような九州的な瓦使用の在り方が存在するように思えてならない。今後、初期瓦を出土する遺跡の検討が課題である。

- 註1 石木秀啓2007『牛頸梅頭遺跡群I』大野城市文化財調査報告書第60集
- 註2 市原寿文1968「清水市東山田第1号・第2号窯址発掘調査概報」『東名高速道路(静岡県内工事)関係 埋蔵文化財発掘調査報告書』静岡県教育委員会

なお、本事例については静岡大学准教授篠原和大氏から教示を得た。記して感謝申し上げたい。

- 註3 石木秀啓2005「第3章第5節 須恵器工人の墳墓」『大野城市史 上巻』
- 註4 中村昇平・森井千賀子2004『ウトグチ遺跡B地点』春日市文化財調査報告書第39集
- 註5 久住猛雄氏(福岡市教育委員会)のご好意により、実見させていただく機会を得た。記して感謝申し上げたい。
- 註6 比嘉えりか2008「初期瓦研究の現状と課題」『七隈史学』第9号
- 註7 茂和敏2006『安徳台遺跡群』那珂川町文化座調査報告書第67集 なお、遺物の実見にあたっては茂和敏・佐藤昭則・吉岡賢生の各氏のご好意を頂いた。記して感謝申し上げたい。

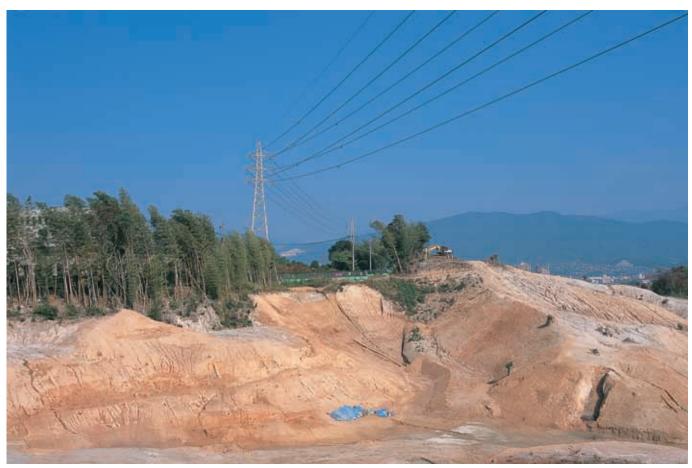
# 図 版



(1) 1区全景(北から)



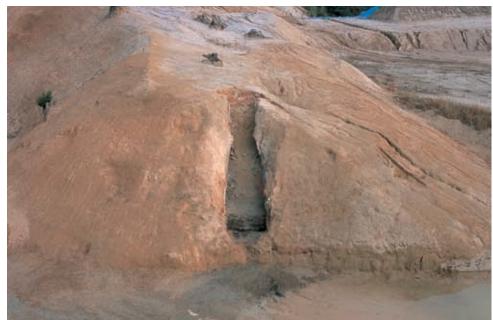
(2) 2区全景(南から)



(1) 2・3区全景(南西から)



(2) 3区1号窯跡全景(西から)



(1) 1号窯跡全景(西から)



(2) 1号窯跡検出状況 (西から)



(3) 1号窯跡窯尻〜煙道部 検出状況(北東から)



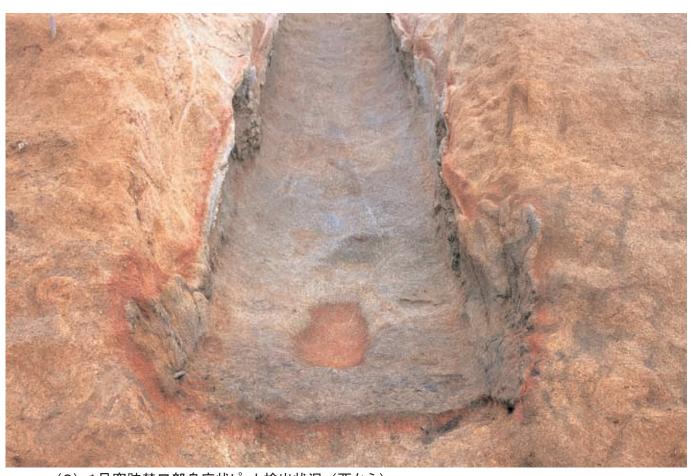
1号窯跡天井部残存状況(西から)



1号窯跡当初床面検出状況(西から)



(1) 1号窯跡両側壁検出状況(西から)



(2) 1号窯跡焚口部舟底状ピット検出状況(西から)



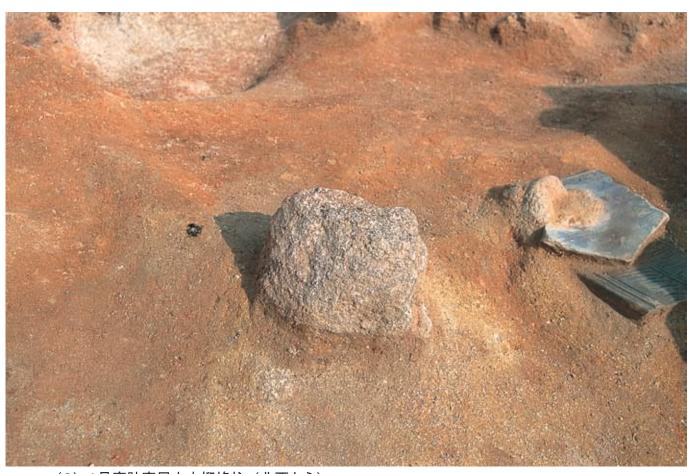
(1) 1号窯跡焚口部左側壁被熱状況(南から)



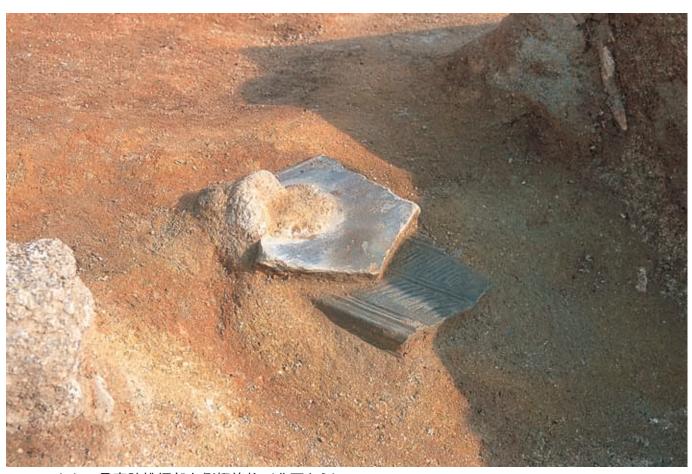
(2) 1号窯跡焚口部右側壁被熱状況(北から)



(1) 1号窯跡排煙部抑焔柱検出状況(南西から)



(2) 1号窯跡窯尻中央抑焔柱(北西から)



(1) 1号窯跡排煙部右側抑焔柱(北西から)



(2) 1号窯跡排煙部左側抑焔柱(西から)



(1) 1号窯跡作業路全景(北東から)



(2) 1号窯跡作業路窯壁集積状況(南から)



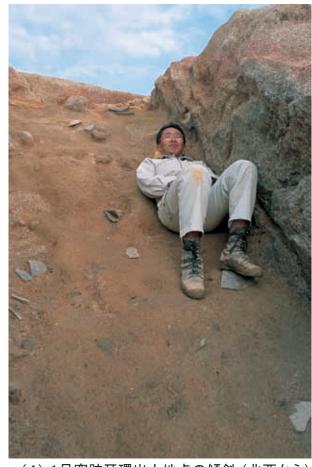
(1) 1号窯跡焼成部耳環出土状況①(北西から)



(2) 1号窯跡焼成部耳環出土状況②(西から)



(3) 1号窯跡焼成部耳環出土状況③



(4) 1号窯跡耳環出土地点の傾斜(北西から)



(1) 1号窯跡焚口部最終操業灰層(南から)



(2) 1号窯跡焚口部横断面土層(西から)

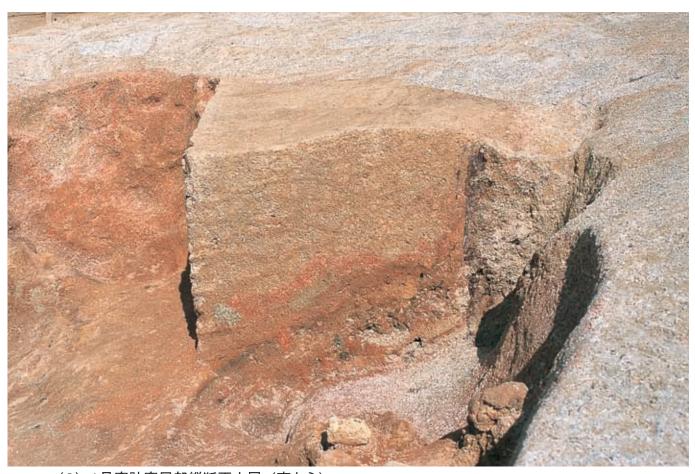


(1) 1号窯跡焚口部縦断面土層(南から)





(1) 1号窯跡窯尻f-f'面横断面土層(北西から)



(2) 1号窯跡窯尻部縦断面土層(南から)



(1) 1号窯跡焼成部i-i'面横断面土層(西から)



(2) 1号窯跡窯尻部横断面土層(西から)



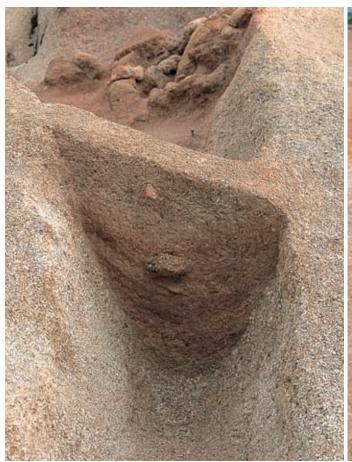
(1) 1号窯跡焚口部貼床 断割縦断面(南西から)



(2) 1号窯跡焼成部貼床 断割縦断面(南西から)



(3) 1号窯跡窯尻部貼床 断割縦断面(南から)





(1) 1号窯跡作業路 | - | 1 面土層(南西から)

(2) 1号窯跡作業路全景(南西から)



(3) 1号窯跡作業路完掘状況(南西から)



(1) SC01全景(南西から)



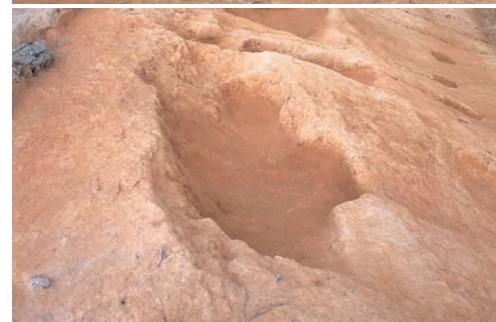
(2) SC01カマド検出状況 (南西から)



(3) SCO1カマドd - d'面土層(西から)



(1) SC01土層(南東から)



(2) SX01全景 (東から)



(3) SX01土層(西から)



(1) SX02全景 (南東から)



(2) SX03全景 (東から)



(3) SX03土層・ 遺物出土状況(西から)



(1) SX04全景 (西から)



(2) SX05全景 (西から)



(3) SX05土層(東から)



(1) SX06全景(北西から)



(2) SX07全景 (西から)



(3) SX07c-c'面土層 (東から)



(1) SX07紡錘車出土状況 (西から)



(2) SX08全景 (南西から)



(3) SX08h - h' 面土層 (南東から)



(1) SX08遺物出土状況 (南東から)



(2) SX08遺物出土状況 (南西から)



(3) SX09土層 (南東から)



(1) SX09焼土層(西から)



(2) SX10全景 (南東から)



(3) SX10土層(南東から)



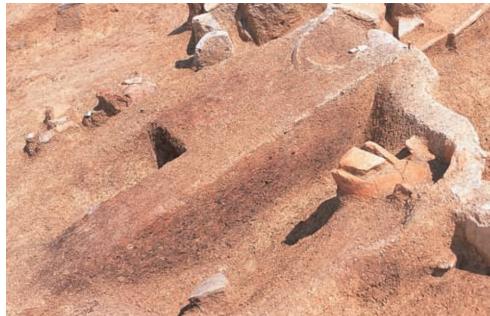
(1) SX11全景 (南東から)



(2) SX11土層 (東から)



(3) SX12全景 (南東から)



(1) SX12土層(南東から)



(2) SX13全景 (南西から)



(3) SX13遺物出土状況 (南西から)



(1) SX13遺物出土状況 (南東から)



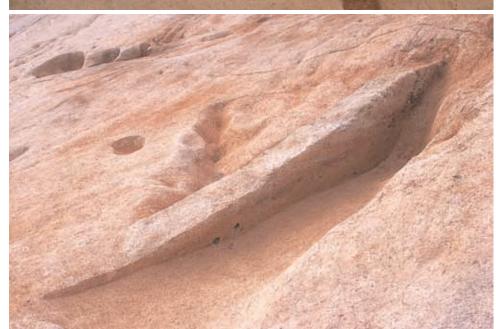
(2) SX14全景 (南東から)



(3) SX14土層(東から)



(1) SX15全景 (北西から)



(2) SX15土層 (南東から)



(3) SX16遺物出土状況 (南東から)



(1) SX16土層(南西から)



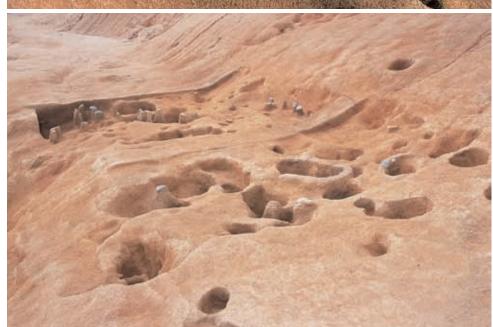
(2) SX16カマド痕跡(南西から)



(3) SX17遺物出土状況 (南西から)



(1) SX17c-c' 面土層 (西から)



(2) SX17遺物出土状況 (南東から)



(3) SX18遺物出土状況 (南西から)



(1) SX18土層(北東から)



(2) SX19焼土検出状況 (東から)



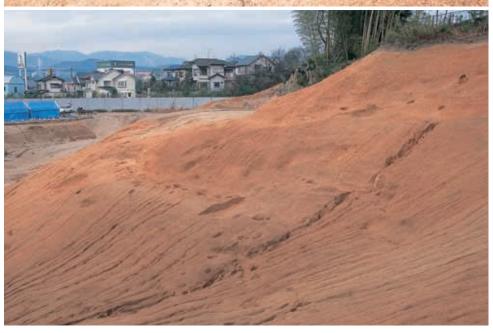
(3) SX19下層焼土 検出状況(南から)



(1) SX19縦断面2層 (東から)



(2) SX20土層 (東から)



(3) SX21他 全景(東から)

図版 34



(1) SX21全景(北東から)



(2) SX21遺物出土状況 (南から)



(3) SX21-2 遺物出土状況 (南東から)



(1) SX21-3 遺物出土状況 (南東から)



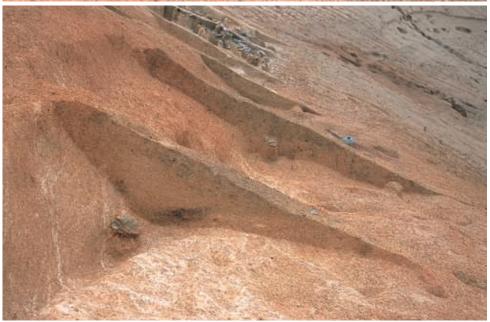
(2) SX21-4 遺物出土状況 (南西から)



(3) SX21-6・7 遺物出土状況 (南西から)



(1) SX21-3内 焼土断割(西から)



(2) SX21a-a' 面土層 (南西から)



(3) SX21d - d'面土層 (南西から)



(1) SX21f-f' 面土層 (南西から)



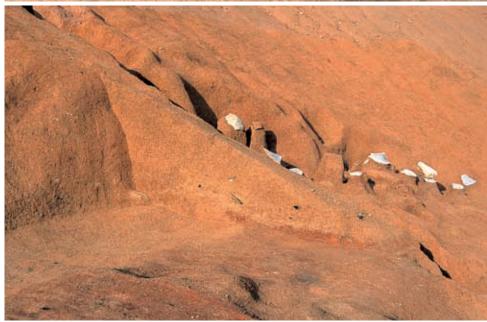
(2) SX21i-i' 面土層 (南西から)



(3) SX21I-I' 面土層 (南西から)



(1) SX21p-p' 面土層 (南西から)



(2) SX21s-s' 面土層 (南西から)



(3) SX22土層(南東から)



(1) SX23全景 (南東から)



(2) SX24土層(北東から)



(3) SX25土層(北東から)



(1) SX25遺物出土状況 (南西から)



(2) SX26土層(北東から)



(3) SX27a - a'面土層 (南西から)



(1) SX27-2鉄鎌出土状況 (南東から)



(2) SX28遺物出土状況 (南東から)



(3) SX28a - a'面土層 (南東から)



(1) SX29全景 (南東から)



(2) SX29土層(西から)



(3) SX31全景 (南から)



(1) SX31土層(南西から)



(2) SX32土層(南西から)



(3) SX33全景 (南東から)

## 図版 44



(1) SX33土層(南西から)



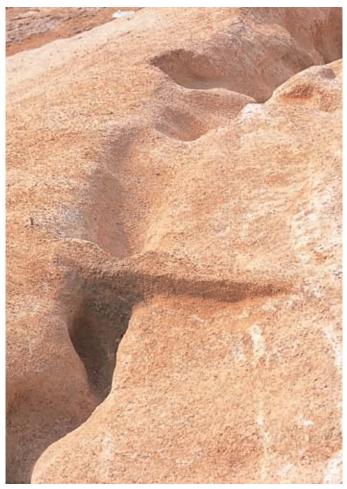
(2) SB01·02全景(北から)



(1) SB01 (SP01) 柱痕検出状況(北から)



(2) SD01全景(南西から)





(1) SD02土層(南西から)

(2) 2・3区間谷部包含層検出状況(南西から)



(3)調査風景(SX21付近)(南から)



出土遺物①



出土遺物②



出土遺物③



出土遺物④



出土遺物⑤



出土遺物⑥



出土遺物⑦



出土遺物⑧



出土遺物⑨



出土遺物⑩



出土遺物⑪



出土遺物⑫



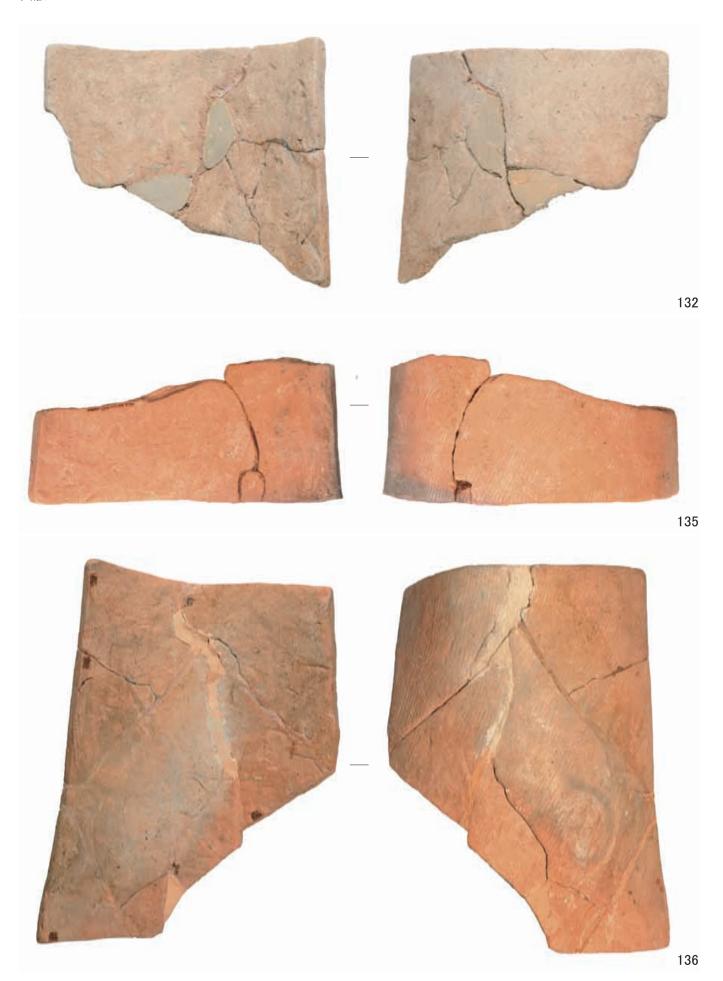
出土遺物⑬



出土遺物14



出土遺物⑮



出土遺物⑯





138



出土遺物18



出土遺物19



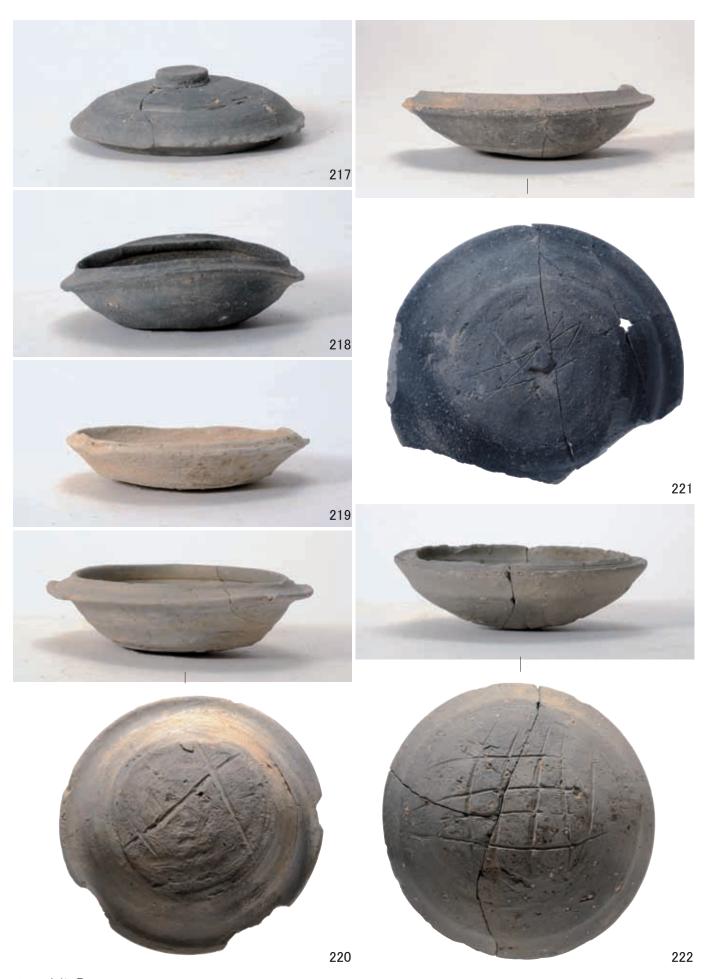
出土遺物②



出土遺物②



出土遺物②



出土遺物②



出土遺物24

240



238

出土遺物②5



出土遺物26



出土遺物②



出土遺物28



出土遺物②



出土遺物30





623



出土遺物③



出土遺物③



出土遺物34



出土遺物③5



出土遺物36



出土遺物③



出土遺物38



出土遺物③



出土遺物40



出土遺物④





754



出土遺物④





## 報告書抄録

ふりがな	うしくびうめがしらいせきぐん に							
書名	牛頸梅頭遺跡群Ⅱ							
副書名	上大利北土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次	X I							
シリーズ名	大野城市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第84集							
編著者名	平島義孝·石木秀啓							
編集機関	大野城市教育委員会							
所在地	〒816-8510 福岡県大野城市曙町二丁目2番1号 電話092(501)2211							
発行年月日	2008年9月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地		コード	北緯。/ "	東経。, "	調査期間	調査面積	調査原因
うめがしらいせき 梅頭遺跡 第2次調査	ふくおかけんおおのじょうしおおあざかみおおり 福岡県大野城市大字上大利593他			33° 30′ 55″	130° 28′ 30″	2002.6.3 ~ 2003.2.28	9,000	区画整理
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な	遺物	特記事項		
梅頭遺跡 第2次調査	生産遺跡集落	古墳~飛鳥	窯跡·掘立柱建物·竪穴住居跡· 土坑·溝		土師器・ ・ガラス玉			
要約	調査地は、大野城市の南に位置する牛頸山から北方へ派生する狭長な丘陵に位置し、現在三兼池となる谷部から入り込む小谷に面する。遺構は斜面上に立地し、窯跡・掘立柱建物・竪穴住居跡・土坑などがある。住居跡は緩傾斜面に位置し、方形で、内部にカマドを備える。斜面上の土坑からはたくさんの土器が出土したほか、床面が焼けた痕跡があり、カマドを備えていたものと見られる。このことは、斜面上の土坑群が住居として利用された可能性を想起させる。また、大量の須恵器の出土からこれらの遺構が須恵器工人に関わるものとの想定が可能である。 窯跡は全長10mを越す大型のもので、牛頸窯跡群特有の多孔式煙道窯である。排煙部は粘土もしくは石で作った抑焔柱がよく残っていた。また、焼成部上位からは耳環が出土し、窯内の土をふるったところさらに鉄鏃が出土した。これらは通常窯体内から出土することはない遺物であり、平成13年度に調査をおこなった梅頭遺跡1次1号窯跡の成果を合わせると窯を墳墓に転用した可能性が高いと考えられる。							

大野城市文化財調査報告書 第84集

牛頸梅頭遺跡群Ⅱ

平成20年9月30日

発行 大野城市教育委員会 福岡県大野城市曙町2-2-1

印刷

大同印刷株式会社 佐賀市久保泉町大字上和泉1848-20